

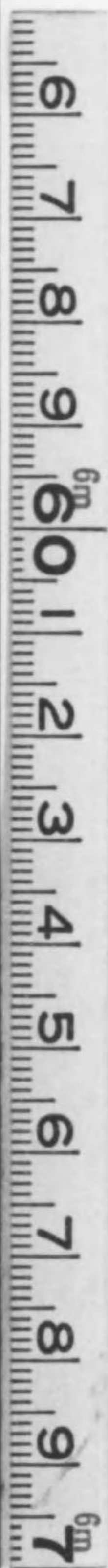
50-41+



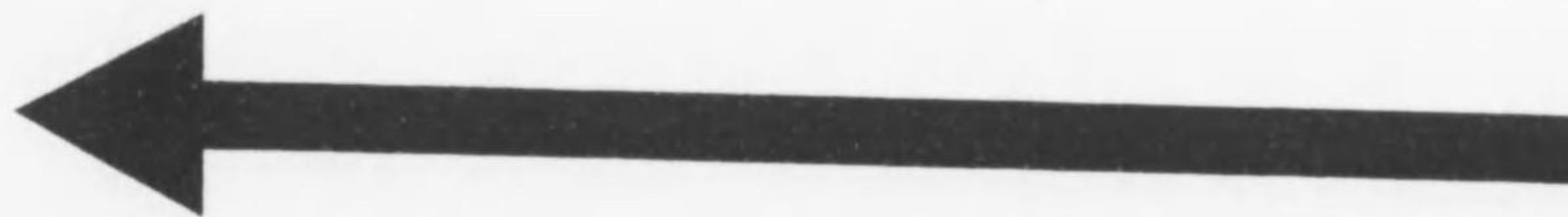
1200501263042

0

41+



始





1-96

50-41

別庫

醫學博士 林春雄 著

增訂十版

# 藥理學

下卷

東京 吐鳳堂書店 發售

明治  
45. 3. 23  
東京



# 下卷目次

## 第二類 局所ノ榮養變調ヲ喚起スル有機

### 化合體

第一	粘漿劑	.....	二
第二	矯味劑	.....	九
第三	茶劑	.....	三
第四	汚臭神經劑	.....	一五
第五	嗅劑	.....	一七
第六	健胃劑	.....	一八
甲	芳香性健胃劑	.....	二〇
乙	苛味性健胃劑	.....	二
丙	苦味性健胃劑	.....	二九
第七	泌尿器消毒劑	.....	三七



第八 膏劑……………四四

皮膚刺戟劑……………五〇

第九 「テレピン」油屬……………五五

第一〇 芥子油屬……………六四

第一一 「カンタリヂン」及「オイフォルピン」屬……………六七

植物性下劑……………七九

第一二 巴豆油並ニ蓖麻子油屬……………八六

第一三 「ヤラピン」並ニ「エラテリン」屬……………九〇

第一四 「トリゾファン」酸及「カタルチン」酸屬……………九七

第一五 驅蟲劑……………一二七

第一六 鞣酸屬……………一三三

第三類 無機化合物……………一四五

第一部 水及中性「アルカリ」鹽類……………一五二

第一 水屬……………一五一

第二 食鹽屬……………一五六

甲 「カリウム」鹽……………一六四

乙 「リチウム」鹽……………一六七

丙 「マグネシウム」鹽……………一六七

丁 「カルシウム」鹽……………一六八

戊 「ヨード」鹽……………一六九

己 「ブローム」鹽……………一七一

庚 「クロール」酸鹽……………一七五

辛 硼酸及硼砂……………一七七

第三 芒硝屬……………一八四

第二部 腐蝕劑……………一九六

第四 「アルカリ」屬……………二〇〇

第五 硫化「アルカリ」屬……………二二八

第六 酸類屬……………二三四

第七 造鹽素屬……………二四二



第八 酸化劑屬……………二五〇

第三部 重金屬及礬土ノ化合物……………二五六

第九 砒素屬……………二六六

第一〇 「アンチモン」屬……………二七六

第一一 水銀屬……………二八二

第一二 鐵屬……………二九九

第一三 銀屬……………三〇三

第一四 銅及亞鉛屬……………三〇二

第一五 鉛屬……………三〇八

第一六 銻屬……………三三五

第一七 「アルミニウム」屬……………三四〇

第一八 磷……………三四五

**第四類 消化醱酵素及滋養品……………三五二**

第一 脂肪及消化醱酵素類……………三五二

第二 含水炭素類……………三五四

第三 蛋白質類……………三五六

第四 複合滋養製劑……………三五九

**第五類 器械的作用ヲ有スル藥劑……………三六〇**

第一 諸種ノ器械的藥劑糊帶品……………三六〇

第二 硬膏及硬膏成分……………三六二

甲 硬膏成分……………三六三

乙 硬膏……………三六五

**臟器療法……………三六八**

**總論……………三六八**

第一 甲狀腺……………三七〇

第二 副甲狀腺……………三七六



第三	副腎	三七九
第四	睾丸	三八九
第五	卵巢	三九二
第六	脾	三九三
第七	大腦垂體	三九四
第八	腎	三九七
第九	肝臟	三九八
第一〇	脾臟	三九九
血清療法及微菌療法		
總論		
第一	免疫質	四〇〇
第二	抗毒素	四〇一
第三	溶菌素	四〇二
血清療法		
		四一〇

第一	「チフテリア」治療血清	四一五
第二	破傷風治療血清	四一八
第三	結核血清	四二三
第四	「ベスト」血清	四二三
第五	「コレラ」血清	四二四
第六	「チフス」血清	四二四
第七	赤痢血清	四二五
第八	肉中毒血清	四二六
第九	硬鎖菌血清	四二六
第一〇	肺炎菌血清	四二七
第一一	葡萄狀菌血清	四二八
第一二	蛇毒血清	四二八
微菌療法		
		四二九
滅殺微菌接種法		
		四三〇



第一 「ベスト」接種素……………四三二

第二 「コレラ」接種素……………四三三

第三 「チフス」接種素……………四三四

    微菌エキス「接種法」……………四三五

第一 「ツベルクリン」……………四三六

第二 「ツベルクリン」残基……………四三七

第三 新「ツベルクリン」……………四三七

目次終

増訂 藥理學 下卷

林 春 雄 著

第二類 局所ノ榮養變調ヲ喚起スル有機化合物

Locale nutritive Veränderung verursachende organische Verbindungen.



一般ノ作用

此部類ニ於テ論スル藥物ハ、凡テ其觸レタル身體部分ニ、榮養變調ヲ喚起スル作用アルモノナリ。即チ或ハ其部分ヲ刺戟シ、或ハ炎症ヲ起サシメ、或ハ反對ニ刺戟ヲ緩和シ、若クハ炎症ヲ輕快ス。斯ノ如キ作用ハ、吸收セラレタル後ニ起ルニ非ズシテ、直接ニ觸レタル局處ニ起ルモノナリ。故ニ其作用ハ、第一類ノ物質ト異ナリ、化學的ニ非ズシテ分子的ナリ。但其中ノ或者ハ吸收セラ

作用ハ化學的ニ非ズ分子的ナリ

局所ノ榮養變調ヲ喚起スル有機化合物

50-4



レザルニアラズト雖、吸收後、體中ニ於テ變化シテ無效ノモノトナリ、或ハ血中ニテ甚シク稀釋セラル、ヲ以テ、別ニ作用ヲ爲サズ。唯排泄セラル、ニ當リテ、其排泄臟器、即チ腎臟及尿路或ハ腸粘膜等ニ於テ、再ビ局所ノ榮養變調ヲ起シ得ベキ有效ノ濃度ニ達シ、從テ其目的ニテ藥用ニ供セラル、コトアリ。

### 第一 粘漿劑

Schleimige Mittel. Muclaginososa.

所在

此屬ニ屬スルモノハ、水ニ溶解シ、若クハ膨和スル膠様ノ物質ニシテ、例ヘバ護膜質、植物粘液質、澱粉糊、デキストリン、植物膠質、動物膠質、蛋白質ノ如キモノナリ。

一般作用

是等ノ藥物ハ、其理學的ノ性質ニ由リ、動物膜ヲ通過シテ深部ニ竄透スルコトヲ得ズ。從テ粘膜ヨリ吸收セラレズシテ、永ク腸胃中ニ存シ、而シテ粘膜ヨリ吸收セラレ易キ物質ニテモ、之ト共ニ溶液中ニ存スルトキハ、之ガ爲ニ保庇セラレテ、其竄透ヲ妨ゲラル、ニ至ルベシ。

一般應用

矯味劑

被覆劑

他ノ物質ノ吸  
收ヲ遅クスル  
目的  
保庇劑

此作用ハ即チ此屬ノ應用セラル、所以ニシテ、第一、苛烈ノ味アルモノ、殊ニ酸味アルモノ、矯味劑 *Geschmackscorrigens* トシテ應用セラル、凡テ苛烈ノ味アルモノハ、味神經ノ末梢ヲ烈シク刺戟シテ、患者ニ不快ノ感覺ヲ與フルモノナルヲ以テ、之ヲ防グ爲ニ、此屬ノ藥物ヲ添加ス。第二、諸種ノ粘膜ノ炎症狀態ニ於テ被覆劑 *Deckendes Mittel* トシテ用ヒラル。其中殊ニ屢用ヒラル、ハ、消化器ノ炎症狀態ナリ。是此際腸胃ニ於テ、生理的ニ存在セル物質、即チ食物並ニ糞便等ニ由リテ、粘膜ヲ刺戟セラル、爲ニ、患者ハ不快ヲ覺エ、且炎症ノ治癒ヲ妨ゲラル、モノニシテ、之ニ粘漿劑ヲ用フルトキハ、能ク其刺戟ヲ防ギ、從ヒテ炎症ノ自然治癒ヲ速カナラシムルコトヲ得ベシ。呼吸器ノ炎症ニモ、亦粘漿劑ヲ用フルコトアリ。此場合ニハ、素ヨリ粘漿劑ハ呼吸道ニ入ルニアラスト雖、此藥物ノ咽頭並ニ喉頭ノ上部ノ粘膜ニ汎布スル時ハ、其部ノ刺戟、即チ咳嗽等ヲ除キ、間接ニ深部呼吸道炎症ノ治癒ヲ促シ得ベシ。以上ノ如キ場合ニ應用スルニハ、凡テ吸收ノ甚ダ遅キ物質、若クハ全ク吸收セラレザル物質ヲ用フルヲ要ス。此目的ニ特ニ適當シタルモノハ、植物粘液質及護膜質等ナリ。第三、容易ニ吸收セラルベキ他ノ物質ノ吸收ヲ遅クスル爲、即チ保庇



他ノ藥物ノ刺  
戟ヲ緩和ナラ  
シムル目的  
緩和劑

膠様物質ヨリ  
起ル害

劑 Einhüllendes Mittel トシテ用フ。故ニ實際ニ於テハ、藥物ヲ直接ニ腸ニ働カシ  
メントスルトキ、其藥物ノ胃中ニ於テ吸收セラル、ヲ防グ爲ニ用フ。例ヘバ  
腸加答兒ニハ、モルヒチ「ヨリモ阿片ノ奏效著ク、其他「アトロピン」ヨリモ「ペラ  
ドンナ、エキス」ストリキニーチ「ヨリモ番木鱈、エキス」ノ、腸ニ對シテ能ク效ヲ  
奏シ、從テ實際ニ用ヒラル、ハ、其「エキス」中ニ膠様物質ヲ含ミ、胃ニ於テ吸收  
セラル、コト少ク、直接ニ腸ニ至リテ其作用ヲ現ス爲ナリトス。此外凡テ腸  
管、殊ニ其末端ノ部分ニ藥物ノ作用センコトヲ望ム場合ニハ、常ニ人工的粘  
漿劑ヲ添加スルヲ可トス。第四緩和劑 Reizmildendes Mittel トシテ刺戟性ヲ有  
スル藥物ニ伍シテ刺戟ヲ緩和スル爲ニ用フ。其應用ハ主ニ内用ニ供スル藥  
物ノ場合ニシテ、殊ニ胃ヲ甚シク刺戟スル物質、例ヘバ「クロラール」<sup>ユ</sup>「バラアル  
デヒード」ノ如キハ、其水溶液ニ粘漿劑ヲ加フレバ、刺戟ヲ防グコトヲ得ベシ。  
其他粘漿劑ハ、調劑ニ當リテ、賦形劑トシテ、錠劑、丸劑、乳劑等ヲ製スル爲ニ用  
ヒラル。  
是等ノ膠様物質ハ、上ニ云ヒシ如キ作用アル爲ニ使用セラルレドモ、其物質  
ノ、天然ノ食品等ニ混ジタル場合ニハ、此作用ニ由リテ屢健康ヲ害スルコト

澱粉

品名、製劑

澱粉 Amylum.

アリ、即チ膠様ノ物質ハ、自己ノ吸收惡シキ爲ニ、同時ニ消化器系内ニ存スル  
物質、殊ニ食物ノ消化產物ノ吸收ヲ妨ゲ、之ガ爲ニ間接ニ榮養ヲ害シ、而シテ  
吸收セラレザル食物ハ、消化器内ニ於テ異常醱酵ヲ起シ、其刺戟ノ爲ニ腸胃  
加答兒ヲ發スルコトアリ。通常ノ天然產物中ニテ、殊ニ膠様ノ物質ニ富メル  
ハ、果實及蔬菜ナリ。柿實ヲ喫シテ下痢ヲ來スコトアルハ、此理由ニ原ヅクモ  
ノニシテ、吾人ノ日常目覩スルトコロナリ。其他人工品中ニテハ、疎惡ナル葡  
萄酒、麥酒等ノ中ニ、調味ノ目的ニテ護膜質ヲ添加シタルモノアリテ、殊ニ其  
多量ヲ飲用スルトキハ、腸胃ヲ害スルコトアリ。

日本藥局方ノ澱粉ハ、かたくり、葛澱ニ馬鈴薯ヨリ製シタルモノナリ。歐洲  
ニ於テハ、小麥ヨリ製ス。通常其一分ヲ熱湯十五分ニ加ヘ、澱粉糊トシテ使  
用ス。其他澱粉ハ無力ニシテ冷水ニ溶解セザルヲ以テ、撒布劑ノ賦形藥ト  
シテ用ヒラル。



「サレップ」根

「サレップ」根 Radix Salep.

「サレップ」根ハ、蘭科植物ノ球根ニシテ、(日本藥局方ニテハ、本邦産さいはひら  
んノ球根ヲ主トス)其中ニハ澱粉ノ他ニ、多クノ植物粘液ヲ含有ス。獨逸藥  
局方ニテハ、「サレップ」根粉末一〇〇ヲ、熱湯一〇〇〇ニ混ジ、「サレップ」粘漿 Mucila-  
go Salepトシテ使用ス。

「アラビアゴ  
ム」

「アラビアゴム」 Gummi arabicum.

「アラビアゴム」ハ、諸種ノ「アカツィア」Acacia 屬ノ植物ヨリ採取シタルモノニ  
シテ、其主成分ハ「アラビン」酸ノ石灰化合物ナリ、日本藥局方ニテハ、「アラビ  
アゴム」一ヲ、熱湯二ニ加ヘ、「アラビアゴム」漿 Mucilago Gummi arabiciトシテ使  
用ス。

「アルテア」根

「アルテア」根 Radix Althaeae.

「アルテア」根ハ、「アルテア、オフィツィナールリス」Althaea officinalis (蜀葵ノ類)ノ根

「アルテア」舍  
利別

「アルテア」舍利別 Sirupus Althaeae.

ニシテ、多クノ植物性粘液及澱粉、並ニ少量ノ糖分ヲ含ム。一〇〇乃至一五  
〇ヲ、水二〇〇〇ニ加ヘテ煎劑トシ、殊ニ氣管竝ニ咽喉ノ加答兒ニ内服又  
ハ含嗽劑トシテ使用ス。

「トラガカン  
タ」

「トラガカンタ」 Tragacantha.

「アルテア」舍利別ハ、日本藥局方ニ依レバ、舍利別百分中ニ、二分ノ「アルテア」  
根ノ浸出成分ヲ含有ス。主ニ内服ノ目的ニ用フ。

「トラガカンタ」ハ、「アストラガルス」Astragalus 屬ノ植物ヨリ採取シタル護謨  
質ニシテ、此物質一〇ヲ、熱湯五〇〇ニ加ヘテ粘漿ヲ製ス。

「カラゲーン」(「イルランデ」苔) Carragen.  
(Irländisches Moos.)

「カラゲーン」ハ、紅藻科ノ海草ヲ乾燥シタルモノニシテ、多量ノ粘液性物質

「カラゲーン」  
「イルランデ」  
苔



寒天  
石花菜  
角叉

「イスラランド」  
苦

ヲ含有ス。五十倍乃至二百倍ノ熱湯ヲ加ヘテ粘漿ヲ製ス。  
「カラゲーン」ト殆ド同一ノ物質ヲ含ミ、其代用トナスコトヲ得ルモノハ、寒  
天藻若クハ寒天藻ヨリ製シタル寒天 Agaragar ナリ。石花菜(ごころてんぐ  
さ)角叉(つのまた)モ亦「カラゲーン」ニ代用シ得ベシ。

「イスラランド」苦 Lichen islandicus.

「ツェトラリ  
ン」

「イスラランド」苦ハ「ツェトリカリア、イスラランド」Cetraria islandica ト稱スル地  
衣ノ葉狀ノ聚胞體ニシテ、其中ニ澱粉ニ酷似シタル含水炭素ヲ含ム。其他  
「ツェトラリン」Cetrarin ト稱スル苦味質ヲモ有ス。十倍乃至十五倍ノ水ヲ加へ、  
煎劑トシテ通常ノ粘漿劑ト同一ノ目的ニ使用ス。殊ニ苦味ヲ有スル爲ニ、  
同時ニ矯味ノ目的ニ用フルコトヲ得ベシ。

第二ヨリ第五ニ至ル屬ハ、鼻粘膜若クハ口腔ノ粘膜ニ局所ノ作用ヲ現ハシ、  
而シテ味神經若クハ嗅神經ノ刺戟ニ由リテ、反射的ニ全身ノ作用ヲ起スモ  
ノナリ。

第二 矯味藥

Geschmackscorrigentien.

所在  
效用

矯味藥ハ、天然ニ存スルモノアリ、人工ニ製シタルモノアリ。凡テ藥物、栄養品  
竝ニ飲料ニ、一種ノ佳味ヲ與へ、若クハ惡シキ味ヲ矯正シテ、ソヲ攝取シ易カ  
ラシム。療病上ニハ別ニ必要ナキガ如キモ、實際ニ於テハ、小兒又ハ神經質ノ  
婦人等ヲシテ、藥物若クハ栄養品ヲ容易ニ用ヒシムル爲ニ、醫士ノ心得置ク  
ベキ要アリ。此目的トシテ用ヒラル、ハ、獨リ甘味ノモノノミナラズシテ、或  
ハ酸味ノモノアリ、或ハ芳香性ノモノアリ、或ハ苦味ノモノアリ。其中ニ就テ  
適當ノ物質ヲ配合シテ使用ス。其他揮發性ノ物質ヲ含メル物、例ヘバ橙類ノ  
如キモノ、肉「エキス」、天然葡萄酒、茶、咖啡等ニ含マレタル香味モ、亦矯味ノ目的  
トシテ使用セラル。

品名、製劑

「サッカリン」 Saccharinum.

「サッカリン」

矯味藥 品名、製劑 「サッカリン」



「サッカリン」  
ノ害

「サッカリン」ハ、無水「オルトズルファミン」安息香酸ニシテ、化學的製品ナリ。甚シキ甘味アリ。水ニハ多ク溶解セザレドモ、「アルカリ」ト化合スレバ、甚ダ溶解シ易クナル。之ヲ内用スレバ、少シモ變化セズシテ尿ヨリ排泄セラル、ガ故ニ、糖分ヲ用フルコトヲ禁ジタル糖尿病患者ノ飲食物ニ、甘味ヲ附スルニ適ス。サレド實驗上永ク之ヲ使用シタル爲ニ、消化障礙ヲ起シ、コト少カラズ。加之斯ノ如キ體內ニ於テ變化セザル芳香化合物ノ、絶エズ腎臟ヨリ排泄セラル、トキハ、腎臟ノ慢性疾患ヲ起シ、若クハ既ニ存スル疾患ヲ増悪スル恐アレバ、「サッカリン」ヲ斷エズ攝取スルハ、假令少量ト雖、全ク無害ナリト云フベカラズ。

白糖 Saccharum.

白糖ハ甘蔗若クハ甘菜ヨリ製シタルモノニシテ、日常ノ砂糖ナリ。

油糖 Eiaeosacchara.

日本藥局方ニ據レバ、油糖ハ白糖ノ粉末五十分ニ、揮發油一分ヲ加ヘタル

白糖  
油糖

モノナリ。

乳糖 Saccharum Lactis.

乳糖ハ、通常ノ白糖ヨリモ、水ニ溶解シ難シ。故ニ散藥ニ添加スル矯味藥トナスニ適ス。

單舍利別 Sirupus simplex.

單舍利別ハ、日本藥局方ニ據レバ、百分中ニ、六十五分ノ白糖ヲ含ム。

薄荷油 Oleum Menthae piperitae.

薄荷油ハ、薄荷葉ヨリ製シタル揮發性ノ油ニシテ、一種ノ揮發油ト「メントール」上卷三〇七頁ニ出ヅトヲ含ム。香氣アルヲ以テ、矯味ノ他、矯臭ニモ用ヒラル。

薄荷精 Spiritus Menthae.

薄荷精ハ、日本藥局方ニ據レバ、薄荷油一ニ酒精九ヲ加ヘテ製ス。

薄荷精  
薄荷油  
單舍利別  
乳糖



薄荷水

薄荷水 *Aqua Menthae.*

薄荷水ハ、日本藥局方ニ據レバ、三十分中ニ、薄荷葉一分ノ揮發分ヲ含有ス。

薔薇油

薔薇油 *Oleum Rosae.*

薔薇油ハ、薔薇花ヨリ採取シタル佳香ノ揮發油ナリ。

薔薇水

薔薇水 *Aqua Rosae.*

薔薇水ハ、日本藥局方ニ據レバ、水一リールニ、四滴ノ薔薇油ヲ加ヘタルモノニシテ、矯味ヨリモ、寧ロ矯臭ノ目的ニ使用ス。

蜂蜜

蜂蜜 *Mel.*

内用ニハ、精製蜂蜜 *Mel depuratum* ヲ使用ス。

甘草根

甘草根 *Radix Liquiritiae.*

甘草根ハ、甘草 *Glycyrrhiza glabra* ノ根ニシテ、グリツイルリツイン酸 *Glycyrrhizin-säure* ト名クル甘味ノ配糖質ヲ含有ス。大量ヲ用フレバ下痢ヲ起ス。

甘草羹 *Succus Liquiritiae.*

甘草羹ハ、甘草根ノ浸出液ヲ蒸發セシメテ製ス。非常ノ甘味アリ。甘味ヲ附スル目的又ハ賦形藥トシテ使用ス。

### 第三 茶劑

*Theespecies*

芳香性ノ揮發油ヲ含有スル植物ハ、歐洲ニ於テ古ヨリ民間藥トシテ用ヒラレタリ。今日ニ於テモ、其中ノ或物質ハ、所謂茶劑トシテ醫藥ニ供セラレ、コトアリ。即チ其植物ヲ以テ、熱キ煎出液ヲ製シ、ソヲ發汗ヲ助クル爲、若クハ痙攣ノ状態、殊ニ子宮其他ノ下腹部ニ於ケル臟器ノ痙攣ヲ除ク爲ニ用フ。其奏效ハ、單ニ純粹ノ溫湯ノ作用ニ他ナラザレドモ、若シ純粹ノ溫湯ノミヲ用フルトキハ、嘔氣ヲ發シ、甚シキハ嘔吐ヲ來ス如キコトアリ。然ルニ此屬ノ植物

效用

茶劑

甘草羹



ノ浸出液ヲ用フレバ、其芳香性揮發油ヲ含メル爲ニ、味神經及嗅神經ヲ刺戟シテ、快感ヲ起シ、之ガ爲ニ嘔氣ヲ防ギ、且一方ニ於テハ、消化器ニ輕度ノ刺戟ヲ與ヘテ、溫湯ノ吸收ヲ速カナラシムルコトヲ得ベシ。

品名、用量

薄荷葉 *Folia Menthae.*

薄荷葉ハ、薄荷 *Mentha piperita* ノ葉ナリ。一種ノ揮發油及「メントール」ヲ含ム。四〇乃至一二〇ヲ、二〇〇〇ノ水ニ煎出シテ一回ニ使用ス。

接骨木花 *Flores Sambuci.*

接骨木花ハ、*Sambucus nigra* (接骨木ノ類)ノ花ニシテ、一回五〇乃至一五〇ヲ水二〇〇〇ニ煎出シテ使用ス。

菩提樹花 *Flores Tiliae.*

菩提樹花ハ、*Tilia grandifolia* 及 *T. parvifolia* (共ニ漢種菩提樹ノ類)ノ花ナリ。用

薄荷葉

接骨木花

菩提樹花

「サルヴィア」葉

量接骨木花ニ同ジ。

「サルヴィア」葉 *Folia Salviae.*

「サルヴィア」葉ハ、「サルヴィア、オフィツィナリス」*Salvia officinalis* ノ葉ニシテ、一回四〇乃至一二〇ヲ、二〇〇〇ノ水ニ浸出シテ使用ス。「サルヴィア」葉ハ、鞣酸ヲ含有セルヲ以テ、收斂含嗽劑ニ、矯味矯臭ノ目的ニテ加フルコトアリ。

「カミルレ」花 *Flores chamomillae.*

「カミルレ」花ハ、「カミルレ」*Matricaria Chamomilla* ノ花ナリ。一回四〇乃至八〇ヲ、水二〇〇〇ニ煎出ス。

第四 汚臭神經劑

*Uebelriechende Nervennittel.*

神經系ノ知覺竝ニ運動感受性ノ異常ニ亢進セル場合ニ、嗅神經ヲ刺戟シテ、反射的ニ神經系ヲ安靜ナラシムル爲ニ、惡臭ヲ有スル諸種ノ植物製劑ヲ用

效用

汚臭神經劑

「カミルレ」花

「サルヴィア」葉 「カミルレ」花 汚臭神經劑



フルコトアリ。殊ニ屢用ヒラル、ハ「ヒステリー」性ノ患者ナリトス。其奏效ハ嗅神經ノ刺戟ニ由リテ反射的ニ起ルモノニシテ、吸收ニ由リテ起ルニアラズ。

品名、用量

阿魏 *Asa foetida.*

阿魏ハ、諸種ノ阿魏 *Ferula* ヨリ採取シタル樹脂ニシテ、一種不快ノ臭氣アリ。其臭氣ハ二種ノ揮發油ヨリ發スルモノナリ。阿魏一、酒精五ノ比例ニテ製シタル阿魏丁幾 *Tinctura Asae foetidæ* ヲ一回一〇乃至二〇宛、一日數回内用セシム。

纈草根 *Radix Valerianæ.*

纈草根ハ纈草(かの、草) *Valeriana officinalis* ノ根ニシテ、一種ノ揮發油ト「バルドリアン」酸 *Baldriansäure* 龍腦<sup>ボクサール</sup>並ニ其「エステル」ヲ含有ス。其效力ハ揮發油ト「バルドリアン」酸トノ惡臭ニアリ。龍腦<sup>ボクサール</sup>ハ反射興奮性ヲ減ズル作用アレド

纈草丁幾

纈草丁幾 *Tinctura Valerianæ.*

モ、通常ノ纈草ノ用量中ニ含マル、量ニテハ、其作用ヲ現スニ至ラズ。

纈草丁幾ハ、日本藥局方ニ據レバ、纈草根一分、稀酒精十分ヲ取リテ製ス。用量一回一〇乃至二〇、一日數回服用セシム。

「エーテル」性  
纈草丁幾

「エーテル」性纈草丁幾 *Tinctura Valerianæ*  
*aetherea.*

「エーテル」性纈草丁幾ハ、日本藥局方ニ據レバ、纈草根一分ト「エーテル」精五分トヨリ製ス。用量一回一〇乃至二〇。

第五 嗅劑

*Riechmittel.*

一般作用

種々ノ揮發性ノ物質ハ、鼻粘膜ニ於ケル嗅神經ノ末梢、若クハ知覺神經(三叉神經)ノ末梢ヲ刺戟シ、其刺戟ニ由リテ、中樞神經系殊ニ延髓ニ、反射作用ヲ起



失神假死虚脱ニ用フ

嗅劑トシテ用ヒラルルハ藥物

サシムルモノナリ。即チ鼻粘膜ニ烈シキ刺戟性ノ瓦斯若クハ蒸氣ヲ働カシムルトキハ、反射的ニ呼吸中樞ヲ刺戟シテ、聲門ヲ閉鎖セシムルト同時ニ、痙攣性ノ呼氣ヲ催サシメ、且迷走神經ノ心臟制止絲ノ中樞及血管運動中樞ヲ興奮セシムルヲ以テ、心動ノ緩徐、血壓ノ亢進ヲ來スベシ。嗅劑ハ斯ノ如キ作用アルヲ以テ、凡テ失神、假死、虚脱等ノ状態ニ應用スルコトヲ得ベシ。之ニ應用セラルルハ、揮發性ニシテ殊ニ刺戟性ヲ有スルアラユル物質ナリ。就中屢用ヒラルルハ、モノヲ「アムモニア」蟻酸、醋酸、エーテル、芥子油ナリトス。獨逸ノ民間ニ於テハ、羽毛ヲ燒キテ發スル煙若クハ蠟燭ノ殘炎ヨリ發スル煙ヲ、嗅劑トシテ用フ。「羽毛ヲ燒ケバ」「アムモニア」ヲ發シ、蠟燭ノ殘炎ハ「アクロレイン」ヲ發ス。

### 第六 健胃劑

Magenmittel, Stomachica.

民間藥若クハ醫藥トシテ甚ダ古クヨリ用ヒラレタル芳香性若クハ苦味性ノ植物數多アリ。是等ノ物質ノ作用ハ、口腔ニ於テハ、味神經若クハ知覺神經

一般作用

健胃劑

消化液ノ分泌ヲ亢進セシム

腸胃ノ吸收ヲ其クス

白血球ノ數ヲ増ス  
腸胃ノ蠕動ヲ亢進セシム

醫治效用  
消化不其ヲ除ク

制酵作用

ヲ刺戟シテ、特異ノ味ヲ感ゼシメ、反射的ニ唾液ノ分泌ヲ盛ニシ、胃ニ於テハ直接ニ其粘膜ヲ刺戟シ、且味覺ノ方ヨリモ反射的ニ胃液ノ分泌ヲ亢進シ、腸ニ於テモ亦腸壁ヲ刺戟シテ、反射的ニ腸液並ニ膵液ノ分泌ヲ盛ナラシムベシ。即チ唾液ノ分泌亢進ハ、澱粉質ノ消化ヲ進メ、胃液ノ分泌亢進ハ、蛋白質ノ消化ヲ増シ、膵液ノ分泌亢進ハ、澱粉、蛋白及脂肪ノ消化ヲ促ス。故ニ是等ノ物質ヲ適量ニ用フルトキハ、食慾亢進シテ饑餓ノ感ヲ起シ、且腸胃ニ輕度ノ充血ヲ發シテ、榮養品ノ吸收ヲ進メ、殊ニ消化器粘、膜下ノ血液並ニ、淋巴腔中ノ白血球ノ數ヲ増シ、吸收セラレタル蛋白、ペプトン等ノ運搬ヲ迅速ナラシメ、尙腸胃ノ直接ノ刺戟ノ爲ニ、其蠕動ヲ亢進セシムベシ。斯ノ如キ作用アルヲ以テ、此屬ノ藥物ハ、消化機能ノ完全ニ行ハレタル健康状態ニハ、別ニ著キ奏效ナキモ、過食ノ場合、若クハ急性病ノ恢復期ニ於テ、食慾亢進スルニ過ギ、之ガ爲ニ消化障礙ヲ喚起シ易キ場合、及腸胃ノ慢性加答兒等ニハ、消化機能ヲ圓滑ニ行ヒ得セシムル效アリ、殊ニ胃ノ無力、擴張等ニハ、其收縮及運動ヲ起サシムル利益アルベシ。

其他、此屬ノ藥物ハ、輕度ノ制酵作用アリテ、蛋白ノ消化ヲ妨グルニ至ラズシ



驅風劑

揮發油ヲ含有  
スルモノハ驅  
風ノ效アリ

下劑ノ效ヲ助  
ク

芳香性健胃劑

テ、腸胃ノ内容物ノ異常、酸、酵ヲ制止シ得ベシ。又此屬ノ藥物中、殊ニ多クノ揮  
發油ヲ含メル物質ハ、下痢ヲ來スニ至ラザル程ニ、腸ノ蠕動ヲ少シク亢進セ  
シメ、腸内ノ瓦斯ヲ排泄セシムル作用アリ。故ニ驅風劑 *Carmiativa* トシテ用  
ヒラル。

此屬ノ藥物ヲ、他ノ種々ナル藥物ニ佐藥トシテ加フレバ、其藥物ノ吸收ヲ促  
スコトヲ得ベク、又下劑、殊ニ鹽類下劑ニ加フレバ、腸ヲ刺戟シテ、其效ヲ補助  
スルコトヲ得ベシ。

### 品名、用量及處方

#### 甲 芳香性健胃劑 *Aromatische Magenmittel.*

*Aromatica.*

芳香性健胃劑ハ、揮發油ヲ含有シ、其名ノ如ク芳香アルヲ以テ、嗅覺ヨリシテ、  
消化機ノ機能ヲ促進スルノミナラズ、其揮發油ハ、直接ニ消化機粘膜ヲ刺戟  
シテ、消化液ノ分泌ヲ進メ、且蠕動ヲ盛ナラシムルヲ以テ、驅風ノ效アリ。

橙皮

#### 橙皮 *Cortex Aurantii Fructus.*

橙皮ハ、熟シタル橙 *Citrus bigaradia* 實ノ皮ニシテ、其中ニハ揮發油ノ他ニ、芳  
香苦味性ノ物質、即チ「アウランチイン」*Aurantin* ヲ含ム。香味料トシテ用フ。

橙皮油

#### 橙皮油 *Oleum Aurantii Corticis.*

橙皮油ハ、橙皮ヲ壓搾シテ得タル揮發油ナリ。油糖劑トシテ、其一二滴ヲ健  
胃ノ目的ニ使用シ、其他矯臭劑トシテ他藥ニ附加ス。

橙皮丁幾

#### 橙皮丁幾 *Tinctura Aurantii Corticis.*

橙皮丁幾ハ、日本藥局方ニ據レバ、橙皮一分、稀酒精五分ヨリ製シタルモノ  
ニシテ、一回一〇乃至三〇宛、一日二三回健胃ノ目的ニテ使用ス。

橙皮舍利別

#### 橙皮舍利別 *Sirupus Aurantii Corticis.*

橙皮舍利別ハ、日本藥局方ニ據レバ、橙皮丁幾十五分、單舍利別八十五分ヲ

橙皮 橙皮油 橙皮丁幾 橙皮舍利別



含ム。用量一回五〇乃至一〇〇宛、一日二三回使用ス。

枸櫞皮 *Cortex Citri fructus.*

枸櫞皮ハ、れもん(里木子) *Citrus Limonum* ノ實ノ皮ニシテ、橙皮ニ酷似シ、揮發油ノ他ニ、芳香苦味質ナル「リモニン」 *Limonicin* ヲ含ム。

枸櫞油 *Oleum Citri.*

枸櫞油ハ、枸櫞皮ヲ壓搾シテ得タル揮發油ナリ。

枸櫞精 *Spiritus Citri.*

枸櫞精ハ、日本藥局方ニ據レバ、枸櫞油十分、酒精九十分ヲ含ム。健胃矯臭劑トシテ使用ス。

桂皮 *Cortex Cinnamomi.*

桂皮ハ、桂 *Cinnamomum Cassis* ノ樹皮ニシテ、揮發油ヲ含ム。其主成分ハ、「ツイン

枸櫞皮

枸櫞油

枸櫞精

桂皮

桂皮油

ムトアルデヒード」 *Zimmetaldehyd* ニシテ、特異ノ香味ヲ有ス。

桂皮油 *Oleum Cinnamomi.*

桂皮油ハ、桂皮ヲ水ト共ニ蒸餾シテ得タル揮發油ニシテ、一種ノ芳香ト灼熱様ノ味トヲ有ス。

桂皮水 *Aqua Cinnamomi.*

桂皮水ハ、日本藥局方ニ據レバ、桂皮一分ニ、酒精一分、常水適宜ヲ加ヘ、其十分ヲ餾取シタルモノナリ、矯臭劑トシテ用フ。

桂皮精 *Spiritus Cinnamomi.*

桂皮精ハ、日本藥局方ニ據レバ、桂皮油二分、酒精九十八分ヨリ製シ、同ジク矯臭劑トシテ用フ。

茴香 (小茴香) *Fructus Foeniculi.*

茴香ハ、茴香(うゐきやう) *Foeniculum capillaceum.* ノ實ニシテ、揮發油ヲ含ム。茴

茴香

桂皮精

桂皮水



香竝ニ其製劑ハ、驅風、健胃、祛痰、催乳ノ目的ニテ用ヒラル。茴香ノ用量ハ、一回〇・五乃至三〇宛、一日數回用フ。

茴香ヲ水ト共ニ蒸餾シテ茴香油 Oleum Foeniculiヲ得。

茴香精 Spiritus Foeniculi.

茴香精ハ、日本藥局方ニ據レバ、茴香油五分、酒精九十五分ヨリ製ス。

茴香水 Aqua Foeniculi.

茴香水ハ、日本藥局方ニ據レバ、茴香一分ニ、常水適宜ヲ加ヘ、其三十分ヲ餾取シタルモノナリ。

「アニス」子 Fructus Anisi.

「アニス」子ハ、「ピムピチルラ、アニスム」Pimpinella Anisum.ノ實ナリ。

「アニス」油 Oleum Anisi.

「アニス」油

11A

茴香油

茴香精

茴香水

「アニス」子

「アニス」油

丁香

「アニス」油ハ、「アニス」子ヨリ採取シタルモノニシテ、揮發油及「アネチオール」Anetholヲ含ム。效用ハ茴香ニ同シ。

丁香 Caryophilli

丁香ハ、「オイゲニア、カリオフィルラタ」Eugenia caryophyllataノ未開ノ花ナリ。

丁香油 Oleum caryophyllorum.

丁香油ハ、丁香中ニ含マレ、揮發油及「オイゲノール」Eugenolヨリ成ル。多クハ矯臭劑トシテ用フ。又他藥ニ混ジテ健胃驅風ノ效ヲ助クル目的ニテ用フルコトアリ。

肉豆蔻 Semen Myristicae.

肉豆蔻ハ、肉豆蔻 Myristica fragransノ實ニシテ、揮發油及「ミリスチオール」Myristicolヲ含ム。

肉豆蔻子衣油 Oleum Macidis.

肉豆蔻子衣油

肉豆蔻

丁香油



肉豆蔻子衣油ハ、肉豆蔻ノ子衣ヨリ得タル揮發油ニシテ、其芳香ヲ有スル爲ニ、矯臭劑トシテ用ヒ、其他健胃驅風劑ニ伍シテ用フ。

菖蒲根 *Rhizoma Calami.*

菖蒲根ハ、白菖(しやうぶ) *Acorus Calamus* ノ根ニシテ、揮發油ノ他ニ、芳香苦味ヲ有スル樹脂様ノ配糖質、即チ「アコリン」 *Acorin* ヲ含ム。健胃性矯臭劑トシテ用ヒラル、他、其刺戟性アル爲ニ、皮膚ヲ輕度ニ刺戟スル目的ニテ、温湯中ニ投ジ、佝僂病、腺病等ノ小兒ヲ入浴セシム。

菖蒲丁幾 *Tinctura Calami.*

菖蒲丁幾ハ、獨逸藥局方ニ據レバ、菖蒲根一分、酒精五分ノ割合ニテ製ス。健胃性矯臭劑トシテ用フ。用量一回一〇乃至二〇。

菘蓮 *Radix Zedoariae.*

「タルクマ、ツェドアリア」 *Curcuma zedoaria* ノ根莖ヲ菘蓮ト云フ。芳香苦味ヲ有ス。

苛味性健胃劑

乙 苛味性健胃劑 *Scharf schmeckende Magenmittel.*

*Acrida.*

苛味性健胃劑ハ、刺戟性物質ヲ含有シ、消化器粘膜ニ局所刺戟ヲ與ヘ、局所ニ充血ヲ起シ、分泌ヲ高メ、運動ヲ盛ニシ、且吸收ヲ速カナラシム。而シテ其局所刺戟ハ、反射的ニ遠隔セル消化器ノ部位ニモ、同ジク機能亢進ヲ促ガス作用アリ。

小豆蔻 *Fructus Cardamomi.*

小豆蔻ハ、小豆蔻 *Eleteria Cardamomum.* ノ實ニシテ、灼熱様ノ味アル揮發油ヲ含ム。概テ他ノ健胃劑ニ加ヘテ藥用ニ供ス。

薑根 *Radix Zingiberis.*

薑根ハ、生薑 *Zingiber officinale* ノ根ニシテ、揮發油及苛烈ノ苦味ヲ有スル「ギングロール」 *Gingerol* ヲ含ム。此モノハ、管ニ粘膜ノミナラズ、皮膚ニ觸ル、モ、亦之ヲ刺戟スル作用アリ。

薑根

小豆蔻



薑根丁幾

薑根丁幾 *Tinctura Zingiberis.*

薑根丁幾ハ、日本藥局方ニ據レバ、薑根末一分、稀酒精五分ヨリ製ス。一回十五乃至三十滴宛、健胃驅風ノ目的ヲ以テ用フ。

薑根舍利別

薑根舍利別 *Sirupus Zingiberis.*

薑根舍利別ハ、日本藥局方ニ據レバ、薑根丁幾十分、單舍利別九十分ヨリ製ス。用量一回五〇乃至一〇〇。

高良薑根

高良薑根 *Rhizoma Galangae.*

高良薑根ハ、高良薑 *Alpinia officinarum* ノ根ニシテ、苛烈ノ味アル刺戟性ノ揮發油ヲ含ム。

芳香丁幾

芳香丁幾 *Tinctura aromatica.*

芳香丁幾ハ、日本藥局方ニ據レバ、丁香末二分、桂皮末十分、小豆蔻末二分、薑

芳香精

根五分ヲ、百分ノ稀酒精ニ浸出シ、其浸出液ニ五分ノ枸櫞精ヲ加ヘテ製ス。一回一〇乃至三〇宛、健胃驅風劑ノ矯味矯臭藥トシテ使用ス。

芳香精 *Spiritus aromaticus.*

芳香精ハ、其千分中ニ、丁香十五、桂皮十、肉豆蔻三十、小肉豆蔻三十ノ浸出成分ト、枸櫞油一、薄荷油二、酒精八百トヲ含ム。應用ハ芳香丁幾ニ同ジ。

苦味性健胃劑

丙 苦味性健胃劑 *Bittere Magenmittel. Amara.*

苦味性健胃劑ハ、凡テ苦味ヲ有シ、其少量ヲ用フルモ毒性ヲ呈セズ、且揮發性ナラザル物質ヲ含有シ、唾液ノ分泌ヲ亢進セシム。而シテ動物試驗ニヨレバ、胃液ノ分泌ヲ反射的刺戟ト局所刺戟トニヨリテ増加シ、腸胃ノ運動ヲ進メ、從ヒテ消化產物ノ吸收ヲ佳良ナラシム。腺液、膽汁ノ分泌モマタ増進スルモノトス。

龍膽

龍膽 *Radix Gentianae scabrae.*



龍膽ハ、龍膽(りんどう) *Gentiana scabra* ノ根ニシテ、「ゲンチオピクリン」 *Gentio-*  
*pien* ト名ヅタル苦味質ヲ含ム。其他甚ダ少量ノ揮發油ヲ含有ス。健胃ノ目  
的ニテ、主ニ其製劑ヲ用フ。

「ゲンチアナ」根 *Radix Gentianae.*

「ゲンチアナ」根ハ、諸種ノ「ゲンチアナ」屬ノ根及根莖ナリ。凡テ龍膽ニ同ジ。

龍膽越幾斯 *Extractum Gentianae.*

龍膽越幾斯ハ、丸劑トナシ、或ハ溶液トシテ、一回〇・五乃至二〇宛、一日數回  
健胃ノ目的ニテ使用ス。

龍膽丁幾 *Tinctura Gentianae scabrae.*

龍膽丁幾ハ、龍膽一分ヲ稀酒精五分ニ浸出シタルモノニシテ、一回一〇乃  
至二〇宛、一日二三回用フ。

せんぶり(とうやく) *Ophelia diluta* ノ全草ハ、龍膽ニ代用シ得ルモノナリ。

「ゲンチアナ」  
根

龍膽越幾斯

龍膽丁幾

せんぶり

「コロムボ」根

「コロムボ」根 *Radix Colombo.*

「コルムビン」  
「ベルペリン」

「コロムボ」根ハ「ヤトロロール」 *Jatropha Calumba* ノ根ニシテ、其中  
ニ「コルムビン」 *Columbin* ト名クル苦味質及「コルムボ」酸 *Columbosäure* 竝ニ「ヤ  
ルペリン」 *Berberin* (上卷一八〇頁參照)ヲ含ム。何レモ甚シキ苦味アリ。其他  
「コロムボ」根中ニハ、澱粉竝ニ粘液質ヲモ含有シ、之ガ爲ニ刺戟ヲ緩和スル  
作用、竝ニ其有效成分ヲ吸收セシメズシテ、腸ニ迄送り得ル作用アリ。

「コロムボ」根ハ、腸ニ輕度ノ充血ヲ起シ、從ヒテ循環ヲ佳良ナラシムル爲ニ、  
慢性ノ加答兒ヲ治癒スル作用アリ。故ニ健胃劑トシテ用フル他、慢性腸加  
答兒、殊ニ赤痢ノ末期、結核患者ノ慢性下痢等ニ用フ。「コロムボ」根ハ、其一〇・  
〇ヲ、水一五〇〇ニ煎出シ、一日數回ニ分服セシム。稀ニハ丸藥或ハ散藥ト  
シテ用フルコトアリ。

「コロムボ」越幾斯 *Extractum Colombo.*

一回〇・五乃至一〇宛、一日數回使用ス。

「コロムボ」越  
幾斯



黄連

黄連 Radix Coptidis.

黄連ハ、きくばわうれん Coptis anemonaefolia 竝ニ其他ノ黄連 Coptis 屬ノ根莖ニシテ、多量ノ「ベルベリン」(前出)ヲ含有ス。苦味薬トシテ「コロムボ」根ト同一ノ目的ニ用フ。用量一回〇・二乃至〇・五丸薬或ハ煎劑トシテ使用ス。

黄連越幾斯 Extractum Coptidis.

一回〇・〇五乃至〇・二ヲ用フ。

「クワツシア」木

「クワツシア」木 Lignum Quassiae.

「クワツシア」木ハ「クワツシア」アマラ Quassia amara 竝ニ「ビクレナ」エキスツェルザ Pterocarya excelsa ノ木質竝ニ樹皮ヲ細碎シタルモノニシテ「クワツシイン」(Quassinin)ト名クル苦味質ヲ含ム。二〇乃至五〇ヲ、水一五〇〇乃至二〇〇〇ニ加ヘテ、冷浸煎劑トナシ、一日若クハ二日間ニ健胃ノ目的ニテ使用ス。

「クワツシア」丁幾 Tinctura Quassiae.

「クワツシア」丁幾

睡菜葉

「クワツシア」ハ、日本薬局方ニ據レバ「クワツシア」木一分ヲ、稀酒精五分ニ浸出シテ製ス。用量一回一〇乃至一・五。

睡菜葉 Folia Trifolii fibrini.

睡菜葉ハ、睡菜(みづかし) Menyanthes trifoliata ノ葉ニシテ「メニアンチン」Menyanthin ナル苦味質ヲ含ム。一〇乃至四〇ヲ煎劑トシ、一日數回ニ分服セシム。獨逸薬局方ノ苦味丁幾中ニハ、睡菜葉ヲ含ム。

苦艾(アブシント草) Herba Absinthii.

苦艾

苦艾ハ、にがよもぎ Artemisia Absinthium ノ葉竝ニ其帶花草本ニシテ「アブシンチン」Absinthin ナル苦味質竝ニ揮發油ヲ含ム。内服ニハ主ニ其製劑ヲ用フ。

苦艾越幾斯 Extractum Absinthii.

〇・五乃至一〇ヲ一日數回使用ス。

苦艾越幾斯



苦艾丁幾

苦艾丁幾 Tinctura Absinthii.

苦艾丁幾ハ、獨逸藥局方ニ據レバ、苦艾一分ヲ、稀酒精五分ニ浸出シテ製ス。一回二三十滴宛用フ。

「ツェンタウリウム」草

「ツェンタウリウム」草 Herba Centaurii.

「ツェンタウリウム」草ハ、エリトレア、「ツェンタウリウム」Erythraea Centauriumノ全草ニシテ、苦味質、ゲンチオ、ピククリンヲ含ム。獨逸藥局方ノ苦味丁幾ノ成分ナリ。

「カスカリラ」皮

「カスカリラ」皮 Cortex Cascariillae.

「カスカリラ」皮ハ、「クロットン、エルーテリア」Croton Euteriaノ皮ニシテ、「カスカリルリン」Cascariillinト名ヅタル苦味質ノ他ニ、揮發油並ニ鞣酸ヲ含ム。故ニ芳香苦味劑ニシテ、且收斂ノ效ヲ兼ス。健胃ノ目的ニテ殊ニ下痢アルモノニ好ンデ用ヒラル。一日五〇乃至一五〇ヲ煎劑トシテ數回ニ用フ。

「カスカリラ」越幾斯

「カスカリラ」越幾斯 Extractum Cascariillae.

一回〇三乃至一〇ヲ、一日二三回用フ。

「カスカリラ」丁幾

「カスカリラ」丁幾 Tinctura Cascariillae.

「カスカリラ」丁幾ハ、日本藥局方ニ據レバ、「カスカリラ」皮一分ヲ、稀酒精五分ニ浸出シテ製ス。一回一〇乃至二〇宛一日數回用フ。

苦味丁幾

苦味丁幾 Tinctura amara.

苦味丁幾ハ、日本藥局方ニ據レバ、龍膽五分、橙皮五分、莪朮二分ヲ、稀酒精百分ニ浸出シテ製ス。芳香ト苦味トヲ有ス。用量一回二十乃至六十滴。

「コンヂュランゴ」皮

「コンヂュランゴ」皮 Cortex Condurango.

「コンヂュランゴ」皮ハ、「ゴノロブス、コンヂュランゴ」Gonolobus Condurangoノ樹皮ニシテ、「コンヂュランギン」Conduranginト名クル配糖質並ニ鞣酸ノ他ニ、



甚ダ少量ノ「ストリキニーチ」ニ似タル類鹽基ヲ含有ス。芳香性ニシテ、僅ニ苦味アルニ過ギザレドモ、其作用ハ苦味健胃劑ニ似タルヲ以テ、茲ニ掲ゲタリ。往時ハ特ニ胃痛ニ應用シタレドモ、之ニ對シテ別ニ特異ノ作用アルニアラズ、現時ハ單ニ健胃ノ目的ニ用ヒラル。用量一日一〇〇乃至一五〇ヲ煎劑トシテ數回ニ分服セシム。

「コンヂュランゴ」流動越幾斯 Extractum  
Condurango Auidum.

「コンヂュランゴ」流動越幾斯ハ、日本藥局方ニ據レバ、百ノ「コンヂュランゴ」皮ヨリ、百ノ流動「エキス」ヲ製ス。用量一回一〇乃至二〇ヲ、一日數回用フ。

「コンヂュランゴ」酒 Vinum Condurango.

「コンヂュランゴ」酒ハ、日本藥局方ニ據レバ、「コンヂュランゴ」皮一ヲ「セリ」酒十ニ浸出シテ製ス。一回三〇乃至五〇ヲ、一日數回服用セシム。

(處方例)

「コンヂュランゴ」流動越幾斯

「コンヂュランゴ」酒

(一) 桂皮末 小豆蔻末 薑根末 各一〇〇

右混和散劑トナス。一回半茶匙(約二〇)宛食事前服用(健胃劑)

(二) 薄荷葉 「カミルレ」花 各一〇〇

右茶劑。一回一茶匙ニ一椀ノ熱水ヲ注ギ服用(驅風劑)

(三) 「コロムボ」根煎(一〇〇)一三〇〇 橙皮舍利別二〇〇

右半酒杯宛、一日數回内服(慢性腸加答兒)

(四) 「コンヂュランゴ」皮煎(一〇〇) 一八〇〇 橙皮舍利別

二〇〇

右半酒杯宛、一日數回内用(健胃劑)

第七 泌尿器消毒劑

Desinfectionsmittel für die Harnorgane,  
Antiblennorrhoea.

諸種ノ植物ハ、揮發油ヲ含有シ、其揮發油ハ血中ニ吸收セラレタル後、著シキ變化ヲ受ケズシテ、腎臟ヨリ排泄セラレ、其際泌尿器ノ或疾病ニ對シテ治癒



主成分ハ揮發油ナリ

揮發油ノ複合物ハ尿中ニ排泄セラル

醫治效用

治癒ノ效ハ局所作用ナリ

ノ效ヲ現スモノアリ。其主ナルモノハ「コバイヴ」ハ、華澄茄及白檀油ニシテ、何レモ揮發性ナルガ故ニ、容易ニ體內ニ吸收セラル。其吸收セラル、ヤ、一部ハ、グリクロン酸ト複合シ、一部ハ、硫酸ト複合シ、腎臟ヨリシテ尿中ニ排泄セラル。是等ノ複合物ハ、尿ニ防腐性ヲ附與スルガ故ニ、放尿後モ、尿ハ腐敗セズシテ、久シク其透明ヲ保ツベシ。斯ノ如ク尿ニ防腐性ヲ附與スル作用ヲ應用シテ、泌尿器系ノ疾病、就中膀胱炎、尿道炎、特ニ其麻毒性ノモノニ奏效セシメ得ベシ。即チ此場合ニハ、一方ニ於テハ、此複合物ヲ含メル尿ニ由リテ、直接ニ麻毒菌ノ發育ヲ妨ゲ、他方ニ於テハ、放尿後、膀胱竝ニ尿道ニ殘留シタル少量ノ尿ノ、通常ノ場合ナラバ、其所ニ於テ分解ヲ始メ、之ガ爲ニ其粘膜ヲ刺戟シテ炎症ノ治癒ヲ妨グル弊アルベキヲ、此藥物ニテ尿ニ防腐性ヲ與フルニ由リテ、其弊ヲ除キ得ベシ。

此屬ノ藥物ノ治癒ノ效ノ、全ク局所作用ナルコトハ、尿道ニ瘻管アリテ、之ヨリ全ク尿ノ漏レ出ヅル場合ニ於テハ、此藥物ヲ使用スルモ、其瘻管ヨリ末端部ニ存スル尿道部分ノ麻毒性尿道炎ノ治癒セザルコト及婦人ノ麻疾ノ場合ニ、尿道炎ハ治スルモ、腔炎ノ治癒セザルニ由リテ、之ヲ證明シ得ベシ。

尿道ニ注射スルトキハ其效少シ

注意

消化障礙ヲ起ス

腎臟ヲ刺戟ス

皮膚ニ疹ヲ生ズ

「コバイヴ」ハ、乳劑トナシテ直接ニ尿道中ニ注射スルモ、其效力甚ダ少ナシ。是外方ヨリ注射スルモ、防腐力ヲ有スル尿ノ、尿道中ニ汎布スル如クニ、其藥物ノ汎布シ得ザルト、體內ニ於テ變化ヲ受ケタル揮發油ハ、變化セザルモノヨリモ、其效力強キトニ由ルナルベシ。

此屬ノ藥物ヲ用フルニ當リテ、注意スベキハ、之ヲ内服セシムル場合ニ、胃腸ヲ刺戟シテ、消化機能ヲ害スルコト、及腎臟ヲ刺戟シテ、腎臟炎ヲ起シ、血尿又ハ蛋白尿ヲ漏ラサシムルコトナリ。其他此屬ノ藥物ノ内服ニ由リテ、皮膚ニ疹ヲ發スルコトアリ。殊ニ「コバイヴ」ハ、内服時ニハ、濕疹、蕁麻疹、紅斑、紫斑ヲ發スルコト少カラズ。故ニ若シ消化不良ヲ來シタル場合ニハ、速ニ内服ヲ止ムベク、又尿ヲ絶エズ検査シ、若シ其中ニ蛋白ノ痕跡ヲダモ證明シタルトキハ、同ジク直ニ其使用ヲ廢セザルベカラズ。但「コバイヴ」ハ、内服時ニ當リテ、其中ニ含マル、樹脂ノ變性物ノ、尿中ニ混入シ、其物質ノ硝酸ニヨリテ沈澱シ、蛋白ト誤ラル、コトアレドモ、此沈澱ハ、蛋白ノ沈澱ト異ナリ、アルコホルニ可溶性ナルヲ以テ、之ト區別スルコトヲ得ベシ。

麻毒性ノ膀胱炎竝ニ尿道炎ニハ、急性慢性共ニ效アレドモ、殊ニ慢性ニハ、其



奏效著シ、麻毒性ナラザル膀胱炎ニモ、亦使用セラル。

品名、用量及處方

「コバイヅア、バルサム」 Balsamum Copaivae.

「コバイヅア、バルサム」ハ「コバイフェラ、オフィツィナリス」Copaifera officinalis 並ニ  
其他ノ「コバイフェラ」屬ノ樹木ヨリ採取シタル樹脂汁ナリ、揮發性ノ「コバイ  
ヅア」油、樹脂様ノ「コバイヅア」酸及中性ノ樹脂ヲ含ム、用量一回〇・五乃至二・〇、  
一日三四回宛、或ハ膠囊ニ入レ、或ハ乳劑若クハ丸劑トシテ使用ス。

(處方例)

「コバイヅア、バルサム」一五〇 卵黄一個

右薄荷水ヲ以テ乳劑一五〇〇トナシ、一日三回半酒杯宛内用。

華澄茄(クベバ子) Cubebae.

華澄茄ハ華遊茄(ひつちようか) Cubeba officinalis ノ未熟ノ實ニシテ、揮發性  
ノ「クベバ」油ノ他ニ「クベビン」及樹脂様ノ「クベバ」酸ヲ含有ス、用量一回一・〇

華澄茄  
クベバ子

「コバイヅア、  
バルサム」

華澄茄越幾斯

ヨリ始メ、漸次増量シテ一〇〇ニ至リ、ソヲ一日三回宛用フ、時トシテハ、一  
日ノ用量ヲ五〇〇迄ニ達セシムルコトアリ、其用法ハ或ハ粉末トシテ「オ  
ブラート」ニ包ミ、或ハ丸劑、砥劑トス。

(處方例)

「クベバ」子末五〇〇

右一日三回、半茶匙(約二〇)宛「オブラート」ニ包ミ内用。

華澄茄越幾斯 Extractum Cubebae.

華澄茄越幾斯ハ、華澄茄ヲ、酒精及「エーテル」ニ浸出シテ製ス、用量一回〇・五  
乃至二・〇宛、一日數回膠囊ニ入レ、或ハ丸劑、砥劑トシテ用フ。

白檀油 Oleum Santali.

白檀油ハ、檀香樹(びやくだん) Santalum album ヨリ採取シタル油ニシテ、芳香  
直透性ノ香氣アリ、一回二十滴以下ヲ、一日數回膠囊ニ入レテ内服セシム。

(處方例)

白檀油

華澄茄越幾斯 白檀油



白椗油十滴

右膠囊一個ニ入ル。其二十個ヲ與ヘテ、一回一個宛一日數回服用セシム。

「ウヅウルジ」葉

「ウヅ、ウルジー」葉 *Folia uva ursi.*

「ウヅ、ウルジー」葉ハ、鞣酸及「アルブチン」ヲ含有シ、尿ニ收斂性ト防腐性トヲ附與ス。故ニ尿路ニ傳染性加答兒アル場合ニ内用ス。委シクハ後章鞣酸屬ヲ參照スベシ。

近來泌尿器消毒劑トシテ、種々ノ化學的製品ヲ應用ス。就中主ナルモノハ、「ウロトロピン」及其誘導體ニシテ、之ヲ内服スレバ、尿中ニ排泄セラレ、尿中ニ於テ、徐々ニ「フォルムアルデヒド」ヲ遊離シ、從テ尿ニ殺菌性ヲ與フル働アルヲ以テ、泌尿器ノ痲毒性其他ノ疾患ニ應用セラル。

「ウロトロピン」

「ウロトロピン」 *Urotropinum. (CH<sub>2</sub>)<sub>6</sub>(NH<sub>2</sub>)<sub>4</sub>*

「ウロトロピン」ハ、化學的製品ニシテ、「ヘキサメチレン」テトラミンナリ。無色無臭ノ結晶ニシテ、水ニ溶ケ易ク、中性ニシテ毫モ刺戟性ヲ有セズ、併モ

「ザリフォルミン」

防腐殺菌ノ效アリ。内用スレバ腸、胃、腎臟等ヲ刺戟スルコトナクシテ、尿中ニ排泄セラレ、尿ノ反應ノ「アルカリ」性ナル場合ニハ、徐々ニ「フォルムアルデヒド」ヲ遊離シテ、尿ニ殺菌性ヲ附與ス。  
「ウロトロピン」ハ、尿量ヲ増加スルノミナラズ、之ヨリ遊離スル「フォルムアルデヒド」ハ、尿酸ト結合シテ、ソヲ溶解スル作用アルヲ以テ、尿酸結石竝ニ其他尿酸素質ヨリ起ル痛風等ノ疾患ニ内用ス。

「ザリフォルミン」 *Saliforminum.*

「ザリフォルミン」ハ、「ザリツィール」酸「ウロトロピン」ニシテ、「ウロトロピン」ト「ザリツィール」酸(上卷三百二十頁)ノ效用ヲ併有シ、諸種ノ膀胱加答兒ニ效アリ。用量一日一〇乃至一五。

「ヘルミトール」(新「ウロトロピン」) *Helmitolum.*

(*Urotropinum novum.*)

「ヘルミトール」又ハ新「ウロトロピン」(*Neu-Urotropin*)ハ、「メチレーン」枸橼酸「ウ

「ヘルミトール」

「ザリフォルミン」 「ヘルミトール」(新「ウロトロピン」)



ロトロビン」ニシテ、アルカリ性尿中ニ於テハ勿論、酸性尿中ニ於テモ、徐々ニ「フォルムアルデヒード」ヲ遊離ス。效用ハ「ウロトロビン」ニ同ジ。用量一日二〇乃至三〇ナリ。

「ボロエルチン」Borovertinum.

「ボロエルチン」ハ「メタ」硼酸「ウロトロビン」ニシテ、「ウロトロビン」ノ效用ノ外ニ、尿中ニ於テ硼酸ヲ遊離シ、尿ノ防腐性ヲ増進スル働アリ。效用ハ「ウロトロビン」ニ同ジ。用量一日二〇乃至三〇。

其他「ツイストブリン」Cystapurin(醋酸曹達「ウロトロビン」)「ヘトラリン」Hetrain「フォルミツイン」Formicin等ノ製劑アレドモ、何レモ大同小異ナレバ、茲ニ詳記セズ。

第八 膏劑

Hautsalben.

膏劑トハ、脂肪、脂油、流動竝ニ固形「パラフィン」石鹼、鉛石鹼、樹脂「グリセリン」等ヲ、

「ボロエルチン」

適宜ニ混和シ、其使用ノ目的ニ從ヒテ、或ハ硬、或ハ軟、時トシテハ液狀ノ稠度ヲ有セシメタルモノヲ云フ。

膏劑ヲ用フル目的  
皮膚ヲ柔軟ニス  
皮膚ヲ包被ス  
皮膚ニ藥物ヲ固著ス

膏劑ノ目的ハ、或ハ單ニ皮膚ニ塗布シ、或ハ塗擦シテ脂肪ヲ浸潤セシメ、之ガ爲ニ、皮膚ヲ軟カニシテ、外部ノ刺戟ニ對スル抵抗力ヲ増サシメ、或ハ傷ツキタル皮膚殊ニ表皮脱落ノ場合ニ、ソヲ覆ヒテ外來ノ刺戟ヲ避クルヲ得セシメ、或ハ皮膚ニ一定ノ藥物ヲ固著セシム。揮發性ナラザル物質ハ、水溶液ニテハ、脂肪ノ爲ニ皮膚ニ浸潤スルコトヲ得ザレドモ、脂肪中ニ溶解若クハ混合セシムルトキハ、脂肪ト共ニ皮膚中ニ浸潤ス。而シテ膏劑ニ混ジテ用フル藥物ハ、直接ニ皮膚ニ働クベキ物質、即チ皮膚ノ收斂、刺戟、防腐等ノ效アルモノヲ主トスレドモ、或場合ニハ、體內ニ吸收セシムベキ藥物ヲ、膏劑ニ加ヘテ用フルコトアリ。例ヘバ灰白軟膏ノ如シ。

糊膏

第一、糊膏 Linimenta 非常ニ柔軟ナルカ、若クハ液狀ノ膏藥ニシテ「アラビアゴム」ト「ラガカント」澱粉等ノ粘漿劑ニ「グリセリン」亞鉛華等ヲ混ジタルモノヲ基礎トシ、之ニ適宜ノ藥物ヲ加ヘタルモノナリ。



軟膏

第二、軟膏 Unguenta 體溫ニテ融解シ得ル軟キ稠度ヲ有スル膏藥ニシテ、脂肪及蠟ヲ適度ニ混淆シテ製ス。既ニ此軟膏自己ニテ其學理的性質ニ由リテ皮膚ヲ被フ作用アリ。其他種々ノ藥物ヲ混ジテ、ソヲ一定ノ場所ニ固著セシムル目的ニ使用ス。

泥膏

第三、泥膏 (バスタ) Pastae ハ油脂ト粉劑トヲ混和シテ泥狀トナシタルモノナリ。其質鬆粗ナルヲ以テ、能ク皮膚ノ分泌物ヲ吸收シテソヲ乾燥セシムル作用アリ。此點ニ於テハ軟膏ニ優ルモ、粘著シ難キ短所アリ。

硬膏

第四、硬膏 Emplasta 濃厚ナル稠度ヲ有シ、體溫ニテ始テ軟化ス。故ニ多少固ク皮膚ニ粘著スル性アリ。樹脂、樹蠟、鉛石鹼、鉛白、護謨質、脂肪、脂油等ヲ適當ニ混ジテ製ス。

「バツプ」劑

第五、「バツプ」劑 Cataplasmata 脂肪ヲ含メル種子ヲ碎キテ、水ヲ加ヘ、一種粥狀ノ塊ヲ製ス。之ヲ溫メテ炎症アル皮膚ニ貼スレバ、皮膚ヲ乾燥セシメズ、且滲潤セシメズシテ、長ク溫暖ノ狀ニアラシメ、其炎症產物ノ破壊及吸收ヲ促ガシ得ベシ。

品名、製劑

單軟膏 Unguentum simplex.

單軟膏

單軟膏ハ、日本藥局方ニ據レバ、黃蠟一分、胡麻油二分ヲ、混和溶解シテ製ス。

「パラフィン」軟膏 Unguentum Paraffini.

「パラフィン」軟膏

「パラフィン」軟膏ハ、日本藥局方ニ據レバ、固形「パラフィン」一分、流動「パラフィン」四分ヲ混和シテ製ス。

豚脂 Adeps suillus.

豚脂

豚脂ハ、熔融點三十八度乃至四十度ノ動物性ノ脂肪ニシテ、容易ニ上皮中ニ浸潤ス。故ニ塗擦ノ目的ニ適ス。唯分解シテ惡臭ヲ放チ易キ短所アルヲ以テ、通常「プロセント」ノ安息香酸、若クハ四「プロセント」ノ安息香ヲ加ヘ、安息香酸脂 Adeps benzoatus トナシテ用フ。日本藥局方ノ安息香酸脂ハ、「プロセント」ノ安息香酸ヲ加ヘタルモノナリ。

安息香酸脂



「ラノリン」

「ラノリン」(抱水「ラノリン」) Lanolinum.  
(Adeps Lanae hydrosus.)

「ラノリン」ハ、綿羊脂ヲ精製シタルモノニシテ、凡四十度ニテ融解ス、分解シ易カラザル長所アリ。

「ワゼリン」

「ワゼリン」 Vaselinum.

日本薬局方ニ記載セラレタル「ワゼリン」ハ、流動「パラフィン」ト固形「パラフィン」トノ混合物ニシテ、「パラフィン」軟膏ト略同シ之ニ就テ注意スベキハ、販賣上ノ「ワゼリン」ハ、其精製ニ當リテ用ヒラレタル硫酸ノ殘遺セル爲ニ、酸性ヲ呈シ、皮膚ヲ刺戟スルコトアルコト是ナリ、日本薬局方ニ擧ゲタル「ワゼリン」ハ、六十度以下ニテ融解スルモノトス。

「ワッゲーン」  
「ワッソール」

「ワッゲーン」及「ワッソール」 Vasogenum  
et Vasolum.

「ワッゲーン」及「ワッソール」ハ、共ニ「ワゼリン」ヲ酸化セシメタルモノナリ、種々ノ物質ヲ溶解スル作用アリ、且容易ニ吸收セララル、ト、水ニ和シテ乳劑トナシ易キトヲ以テ、膏劑ノ賦形藥トナスニ適シ、殊ニ沃度「ワッゲーン」、水銀「ワッゲーン」ノ如ク、吸收ヲ望ムモノニ良シ。

「オレーフ」油

「オレーフ」油 Oleum Olivarum.

「オレーフ」油ハ、Olea europaea(はるごのき)ノ果實ヨリ得タル脂油ニシテ、淡黄色ヲ呈シ、特異ノ微臭アリ。

「グリセリン」

「グリセリン」 Glycerinum.

「グリセリン」ハ、無臭、無色ノ澄明舍利別様ノ液ニシテ、味甘ク、水及酒精ニ能ク混和ス。

扁桃油

扁桃油 Oleum Amygdalarum.

扁桃油ハ、扁桃(あめんどろ) Prunus Amygdalus. ノ種子ヨリ得タル脂油ニシ

「オレーフ」油、「グリセリン」 扁桃油



テ、殆ド無色、無臭ナリ。

亞麻仁

亞麻仁 Semen Lini.

亞麻仁ハ、亞麻(あま) *Linum usitatissimum* ノ種子ナリ。碎キテ水ニ混ジテ粥狀トナシ、バツプ<sup>レ</sup>ヲ製ス。

亞麻仁油

亞麻仁油 Oleum Lini.

亞麻仁油ハ、亞麻仁ヨリ取リタル黃色ノ脂油ニシテ、特異ノ微臭ヲ有ス。

一般作用

皮膚刺戟劑

*Hautreizmittel. Dermerehistica.*

皮膚ニ働キテ、知覺興奮ヲ發セシムルト共ニ、皮膚ノ充血若クハ炎症ヲ喚起スル物質ヲ、凡テ皮膚刺戟劑ト稱ス。理學的刺戟即チ器械的ノ刺戟、冷熱ノ刺

戟、電氣ノ刺戟ノ如キモ、理學的皮膚刺戟劑ナレドモ、ソハ茲ニ說クベキモノニ非ズ。茲ニ說カントスルハ、藥理的作用ニヨリテ、皮膚ニ刺戟ヲ與フル物質ナリ。

引赤劑

皮膚刺戟劑中ニテ、皮膚ノ輕度ノ知覺刺戟ト共ニ、皮膚ノ引赤ヲ來スモノヲ引赤劑 *Rubefacientia* ト云ヒ、皮膚ニ炎症ヲ起シテ、之ガ爲ニ水疱ヲ生ズルモノヲ

發疱劑

ノヲ發疱劑 *Vesicantia* ト云ヒ、更ニ進ンデ膿疱ヲ生ズルニ至ラシムルモノ

打膿劑

ヲ、打膿劑 *Pustulantia* ト云フ。サレド此三作用ハ、刺戟ノ強弱及時間ノ長短ノ

差ニ由リテ生ズルモノニシテ、明ニ區別シ難シ。

刺戟劑ノ爲ニ炎症ヲ起シテ水疱ヲ生ズルニ至リタルニ關セズ、尙其使用ヲ持續シ、表皮剝落スルニ至ルトキハ、遂ニハ化膿ヲ起ス。此化膿ハ、多クノ場合ニハ、其中ニ膿菌ヲ認ムレドモ、タトヒ膿菌ナキモ、尙化膿スルコトヲ得ルモノトス。

永ク持續シテ皮膚ニ輕度ノ刺戟ヲ與フルトキハ、其附近ニ存スル組織ハ、直接ニ刺戟ヲ受クルト、血管ノ擴張ノ爲ニ充血ヲ起シ、血液循環ヲ増進スルトニ依リテ、其榮養狀態ヲ變ジ、從ヒテ其部分ニ存スル炎症滲出物、若クハ異常

病的產物ヲ吸  
收セシム



ビールの鬱血療法ハ皮膚刺戟ト同一ノ理ニ基ク

炎症「ロイマチス」神經痛ニ奏效ス

失神虚脱等ニ興奮ノ目的ニ用フ

血管系ニ起ル變化

ニ増殖セル組織及其他ノ病的產物ノ破壊、吸收ヲ催進スベシ。加之血液ハ病原體ヲ撲殺スル物質「オブソニン」、「アレキシン」ノ如キヲ含有スルヲ以テ、充血ハ諸種ノ傳染性炎症殊ニ慢性ノ炎症ニ對シテ治療ノ效ヲ奏ス。近時盛ニ行ハル、ビールの鬱血療法ハ、此理ニ基キタルモノナリ。

刺戟性强キ物質ヲ、比較的短時間内皮膚ニ働カシムルトキハ、烈シキ疼痛竝ニ皮膚ノ引赤ヲ起シ、之ニ由リテ種々ノ炎症状態「ロイマチス」性疾患、竝ニ神經痛等ヲ輕快セシムルコトヲ得ベシ。其奏效スル所以ハ、劇甚ナル皮膚ノ知覺刺戟ニ由リテ、疼痛ヲ忘レシムルト同時ニ、刺戟セル場所ヨリ多少隔リタル臟器ニモ、反射的ニ作用ヲ及ボシ、其機能ヲ變ゼシムルニ由ルナリ。

其他皮膚ノ烈シキ知覺刺戟ヲ、失神虚脱、嗜眠等ノ状態ニ加フルトキハ、反射的ニ腦ノ機能ヲ恢復シ、既ニ消失シタル意識ヲシテ、再ビ醒覺セシムルコトヲ得ベシ。殊ニ虚脱等ニハ、同時ニ呼吸竝ニ心動ヲ反射的ニ興奮セシムル作用アリ。而シテ呼吸數ハ、皮膚ノ知覺刺戟ノ比較的ニ弱キ場合ニハ増加シ、強キ場合ニハ減少スベシ。

血管中樞モ亦皮膚ノ知覺刺戟ニ由リテ、反射的ニ影響ヲ享ケ、之ガ爲ニ血管

體温ノ變化

新陳代謝機

ノ擴張又ハ收縮ヲ來ス。皮膚ノ血管ハ、多クノ場合ニハ、容易ニ擴張スレドモ、内臟ノ血管ハ、之ニ反シテ輕度ノ刺戟ニ由リテハ、一般ニ先ヅ收縮ヲ起ス。殊ニ炎症等ノ爲ニ充血シタル臟器ハ、尙更著シク血管ノ收縮ヲ起シ、之ガ爲ニ血壓亢進シ、心臟ノ搏動數ヲ増スベシ。而シテ此際ニハ、既ニ皮膚ノ血管擴張スルヲ以テ、其血流ヲ増シ、皮膚ノ温度加ハルト同時ニ、體内部ノ温度ハ、却テ多少沈降スベシ。内臟ノ血管ハ、最初ノ收縮ニ次デ擴張ス。殊ニ皮膚刺戟強キトキハ、速ニ擴張ヲ來ス。斯ノ如ク皮膚刺戟劑ハ、循環系ニ種々ノ變化ヲ起シ、之ガ爲ニ諸種ノ臟器ニ於ケル血液ノ配布ヲ變化セシムルモノナルヲ以テ、之ヲ諸種ノ内臟病ノ治療ニ應用シ得ベシ。

體温ハ、皮膚ノ知覺刺戟ニ由リテ變化ス。即チ内臟ノ血管收縮シ、皮膚ノ血管擴張スルトキハ、體表ノ温度ハ上昇スレドモ、體内ノ温度ハ低下セザルヲ得ズ。故ニ強キ皮膚ノ刺戟ハ、人類ニ於テモ、動物ニ於テモ、必ズ體温ノ沈降ヲ來スヲ見ル。

新陳代謝機モ亦、皮膚刺戟ノ爲ニ變化ス。即チ輕度ノ刺戟ノ爲ニ、呼吸ノ増加、血壓亢進ヲ來シ、從テ酸素ノ攝取、炭酸ノ排泄ノ増加ヲ現ハス。



腐蝕劑モ亦皮膚ヲ刺戟ス

揮發性物質モ亦然リ

應用ノ一般法

凡テ皮膚ニ對スル化學的親和力強キ物質、即チ腐蝕劑ハ、ソヲ一定度ニ稀釋シテ、皮膚ニ働カシムル時ハ、皮膚ニ於テ最モ鋭敏ニ刺戟ヲ感ズル機關、即チ神經末梢及血管ヲ刺戟シテ、疼痛及引赤ヲ起ス。例ヘバ造鹽素殊ニ沃度、凡テ有機酸並ニ磺酸、アルカリ、重金屬鹽類等ノ如シ。其他有機化合物體中ノ揮發性ノ物質、例ヘバ「アルコール」、「エーテル」、「グロロフォルム」等モ亦皮膚ニ竄透シテ、知覺刺戟及引赤ヲ發スベシ（上卷七十七頁ヲ見ヨ）サレド今茲ニ皮膚ノ刺戟劑トシテ、特ニ列舉セントスルハ、是等ノ物質ニアラズシテ、其作用中、皮膚ノ刺戟ヲ以テ最モ特異トセル藥物、即チ「テレピン油」、「芥子油」、「カンタリヂン」並ニ是等ノ屬ニ列スル者ナリトス。

皮膚刺戟劑ノ應用ニ對スル規定、適應症、禁忌等ノ細密ナルコトハ、茲ニ記載セズト雖、今其應用ノ一般ノ法則ヲ舉ゲンニ、先ヅ全體表ニ輕度ノ刺戟ヲ加ヘントスル場合ニハ、刺戟劑ヲ用ヒテ、全身浴、若クハ塗擦、洗滌等ヲ行フベシ。之ニ用ヒラル、ハ、酸類、アルカリ及鹽類ノ稀薄溶液、アルコール性液體、揮發油、造鹽素、殊ニ沃度及其他ノ揮發性物質ナリ。アマリ廣カラザル限局シタル部分ニ、強キ知覺刺戟及引赤ヲ起サシムルニハ、芥子油ヲ適當ナリトス。若シ

又皮膚ニ劇烈ノ滲出性ノ炎症ヲ起サシメテ、水疱ヲ發スルコトヲ望マバ、カシタリヂンヲ用フベシ。但皮膚ノ刺戟劑ノ奏效スル所以ハ、刺戟其モノニ存シ、一モ藥物ニ固有ナル作用アルニアラズシテ、其奏效スルト否トハ、唯皮膚ニ對スル刺戟ノ強弱、使用時間ノ長短、使用ノ場所ノ廣狹ニ因ルノミ。故ニ夫等ノ適當ナル選擇ハ、實地家ノ臨牀上ノ實驗ニ依ルベキモノトス。

皮膚刺戟劑ハ、皮膚ノミナラズ、諸種ノ粘膜炎ニ觸ル、モ、亦其處ニ炎症ヲ發ス。而シテ之ヲ内用スレバ、嘔吐、下痢其他急性腸胃炎ノ症狀ヲ起ス。然レドモ、或モノハ之ヲ少量ニ内用スルトキハ、輕度ノ刺戟ヲ呈シ、食欲、消化ヲ進メ、所謂香料トナル。

### 第九 「テレピン」油屬

Gruppe des Terpentinsöls.

所在

此屬ニ屬スルモノハ、松樅科 Abietinaceaeノ植物、殊ニ松屬 Pinusノ樹木ニ含マルル「テレピン」油、並ニ其他諸種ノ揮發油ナリ。

凡テ常溫ニ於テ揮發シ、殊ニ脂油ニ溶解スル性質アルモノハ、之ヲ局所ニ觸



レシムルトキハ、必ズ多少其部分ヲ刺戟スベシ。是畢、其揮發性ノ物質ノ容易ニ組織中ニ竄透シ、分子状態ニ於ケル異物トシテ、其部分ノ組織ヲ刺戟スル爲ニシテ、(上卷第七十七頁參照)此屬ノ物質ノ他、凡テ揮發性ヲ有スルモノ、即チ「クロロフォルム」、「エーテル」、「ペンツイン」等ハ、何レモ皆此作用ヲ有ス。

### 生理的作用

局所作用  
局所刺戟ハ其揮發性ナルニ由ル

「テレピン」油及其他此屬ニ屬スル揮發油ノ局所ヲ刺戟スル原因ハ、何レモ其揮發性アル爲ニシテ、別ニ他ニ特異ナル局所刺戟作用アルニ非ズ。之ヲ觸ルレバ、皮膚ニ於テモ、粘膜ニ於テモ、初メニ充血、引赤ヲ來シ、後ニ炎症ヲ發ス。而シテ其揮發性アル爲ニ、容易ニ健康ナル皮膚若クハ粘膜ヲ竄透シテ、體內ニ侵入スルコトヲ得ベシ。

吸收作用

大量ハ中樞神經系ヲ犯ス

吸收作用トシテハ、少量ニ吸收セラレタル場合ニハ、唯其排泄セララル、場所ニ於テノミ、一定ノ濃度ニ達シテ、其部ニ刺戟作用ヲ現ハス。即チ之ガ爲ニ尿及氣管支粘液ノ分泌ヲ増加スベシ。若シ其大量ノ血液中ニ吸收セラレタル場合ニハ、全身組織中、最モ其感受性强キ組織、即チ中樞神經系ニ働キテ、之ガ爲ニ脊髄竝ニ血管中樞、呼吸中樞ヲ興奮シ、血壓ノ亢進、呼吸ノ促進、反射興奮

急性腎臟炎ヲ發スルコトアリ

性ノ亢進ヲ來ス。而シテ之ニ次デ、一般ノ麻痺ヲ來シ、殊ニ大腦ハ、早クヨリシテ麻酔ノ状態ニ陥ルベシ。斯ノ如キ大量ノ「テレピン」油ノ尿ニ排泄セララル、ニ當リテハ、腎臟ハ劇シク刺戟セラレテ、屢急性炎症ヲ發シ、蛋白尿、血尿ヲ漏スコトアリ。

少量ノ「テレピン」油ハ、血中ニ入りテ白血球ヲ増加セシメ、且其血管外遊走ヲ制止スル作用アリ。此作用ハ消炎作用ト關係ヲ有スベキコト勿論ナレドモ、未ダ精細ナル研究ヲ經ズ。

排泄経路

「テレピン」油ハ、一部分ハ「グリクロン」酸ト複合シテ、尿中ニ排泄セララル。「テレピン」油ヲ用ヒタル場合ニ、尿ノ董ニ似タル一種ノ佳香ヲ放ツハ、此複合物ノ爲ナリトス。其他小部分ノ「テレピン」油ハ、肺竝ニ氣管支ヨリ、變化セズシテ排泄シ、呼吸ハ其固有ノ香氣ヲ帶ブ。尙一部ハ皮膚ヨリ排泄セラレ、之ガ爲ニ發疹ヲ生スルコトアリ。

### 醫治效用

第一、皮膚刺戟ノ目的ニ用フ「テレピン」油屬ニ屬スルモノハ、皮膚ヲ刺戟スルコト比較的ニ弱キヲ以テ、通常引赤劑中ニ編入セラル。神經痛、「ロイマチス」、

皮膚刺戟ニ用フ



呼吸器病ニ用

抱水「テルペン」  
ハ少量ニ  
テハ氣管分  
泌ナ増シ大  
量ハ之ヲ減ズ

祛痰ノ效アリ

痛風等ニハ「テレピン」油一ニ、脂肪二ヲ加ヘテ、擦劑トシテ用ヒ、或ハ卵黃ヲ加ヘ、二倍ノ水ニ和シテ乳劑ヲ製シテ用フ。膿腫ヲ熱膿セシムル爲若クハ凍瘡、褥瘡竝ニ其他ノ治療ノ緩慢ナル弛緩性潰瘍ヲ刺戟シテ、其治療ヲ促ス爲ニハ、基礎軟膏或ハ「テレピン」チーナ軟膏ヲ製シ、刺戟性繃帶藥トシテ用フ。

第二、種々ノ呼吸器ノ疾患ニ用フ。即チ化膿性氣管支炎、肺壞疽、肺結核殊ニ其混合傳染ヲ來シタルモノニハ「テレピン」油ヲ水ト共ニ蒸發シテ、其蒸氣ヲ吸入セシム。斯ノ如クスレバ、白血球ノ遊走ヲ妨ゲテ化膿ヲ制シ、之ト同時ニ一方ニハ防腐ノ效ヲ奏シ、他方ニハ病的ノ組織ニ一定ノ刺戟ヲ與ヘテ、其部ノ循環及榮養ヲ佳良ナラシメ、其治療ヲ促シ、之ガ爲ニ分泌ヲ減少シ、竝ニ分泌液ヲ清澄ナラシムルコトヲ得ベシ。又慢性氣管支加答兒殊ニ其結核、喘息、百日咳ニ因スルモノニハ、祛痰劑トシテ内服セシム。此場合ニハ「テレピン」油ヨリモ、局所刺戟少キ抱水「テルペン」ヲ用フルヲ可トス。分泌少クシテ咯出困難ナル乾性氣管支加答兒ニ、抱水「テルペン」ノ少量〇・二乃至〇・六宛一日三回ヲ用フルトキハ、氣管支ノ分泌液ヲ増加シ、其少量ニシテ粘稠ナリシ痰液ヲ稀薄トナシテ咯出シ易カラシメ、分泌多キ濕性氣管支加答兒ニ、大量一回〇・

磷解毒劑トシテ用フ

新鮮ナルモノ  
ハ却テ中毒ヲ  
助リ「注意ス  
ベシ」

膽石痛痛ニ用

利尿劑

六乃至一〇宛一日三回ヲ用フルトキハ、其分泌ヲ減ズルコトヲ得ベシ。

第三、黃磷中毒ニ、解毒劑トシテ用フ。之ニ用フルニハ、久シク空氣ニ觸レタル古キ「テレピン」油ヲ可トス。斯ノ如キ「テレピン」油ハ、漸次酸素ヲ吸收シテ、過酸化物ヲ作り、他ノ酸化シ易キモノニ觸ル、トキハ、容易ニ之ヲ酸化セシムルコトヲ得ベキヲ以テ、之ヲ磷中毒ニ用フレバ、胃中ニ於テ尙吸收セラレズシテ存スル磷ハ、酸化セラレテ亞磷酸トナリ、其毒性ヲ失フベシ。新鮮ナル「テレピン」油、殊ニ其精製シタルモノハ、過酸化物ヲ含有セザルガ故ニ、此目的ニハ不適當ナルノミナラズ、却テ磷ヲ溶解シ、其吸收ヲ促スヲ以テ禁忌トス。故ニ實用ニ當リテハ「テレピン」油ノ、果シテ過酸化物ヲ含有スルヤ否ヤヲ確メザルベカラズ。

第四、膽石痛痛ニ、膽汁ノ分泌ヲ亢進シ、膽石ヲ排出セシムル目的ニテ内服セシム。「テレピン」油ハ、大量ニテハ、膽汁ノ分泌ヲ増加スルコト、動物試驗ニテ明カナレドモ、通常藥用ニ供セラル、少量、即チ中毒ヲ來サザル程ノ量ニテハ、果シテ膽汁ノ分泌ヲ増加シ得ベキヤ疑ハシ。

第五、利尿劑トシテ用フ。此場合ニ主ニ應用セラル、ハ、抱水「テルペン」ナリ。



サレド其利尿ノ效ハ腎臟ノ刺戟ニ在ルヲ以テ腎臟ノ疾患アル者ニ用フベカラザルハ勿論、其他ノ場合ニモ、十分注意シテ用フルカ、或ハ寧口他ノ利尿劑ヲ擇ブヲ可トス。

注意  
急性腎臟炎

「サビナ」油  
墮胎ヲ來スコトアリ

終ニ、凡テ「テレピン」油屬ノ藥物ヲ用フルニ當リテ、最モ注意スベキハ、腎臟ヲ刺戟シテ、急性腎臟炎ヲ起スコトナリ。内服ハ勿論、外用ニ當リテモ、健康ナル皮膚ヨリシテ、比較的容易ニ吸收セラル、ヲ以テ、常ニ尿ノ蛋白ニ注意セザルベカラズ。往々又尿中ニ血液ヲ混ズルヲ見ルコトアリ。其他「テレピン」油、殊ニ「サビナ」油ハ、炎症刺戟ヲ起ス作用強キヲ以テ、ソヲ内用スレバ、劇シキ腸胃炎ヲ起シ、之ガ爲ニ骨盤腔ノ充血ヲ喚起シ、妊婦ハ墮胎ヲ來スコトアリ。歐米ノ民間ニ於テ「サビナ」油ヲ含有スル植物ヲ、墮胎ノ目的ニテ用フルハ、之ガ爲ナリ。サレド之ト同時ニ、劇シキ腎臟ノ刺戟並ニ他ノ危險ナル中毒症狀ヲ來スヲ以テ、素ヨリ墮胎ヲ目的トスル醫藥トシテハ、應用セラルベキモノニ非ズ。

品名、用量及處方

「テレピンチーナ」 Terebinthina.

「テレピンチーナ」

松屬ノ樹脂ニシテ、中性樹脂(即チ「コロフォニウム」)ト「テレピン」油トヲ含有ス。

「テレピン」油 Oleum Terebinthina.

「テレピン」油

「テレピンチーナ」中ニ含マル、揮發油ニシテ、日本藥局方ニ據レバ、大約百六十度ニ於テ沸騰ス。燐解毒劑トシテ用フルニハ、古キ「テレピン」油五〇乃至一〇〇ニ、粘漿劑ヲ加ヘテ乳劑トナシ、三四回ニ分服セシム。但此場合ニハ、成ルベク速ニ再ビソヲ吐出セシムベシ。膽石疝痛患者ノ、膽汁ノ分泌ヲ促スニハ、所謂「ユランド劑」即チ「テレピン」油一、エーテル三ヲ混和シタルモノヲ、一回五乃至二十滴宛膠囊ニ入レ、或ハ其儘ニテ、一日數回服用セシム。サレド内服ニハ、寧口精製「テレピン」油ヲ可トス。

(處方例)

「テレピン」油一〇〇〇 亞麻仁油一〇〇 卵黃一個  
水適宜ヲ加ヘ、二〇〇〇トナシ、擦劑トシテ外用ス。(引赤用)

精製「テレピン」油 Oleum Terebinthinae  
rectificatum.

精製「テレピン」油

「ユランド劑」



「テレピン」油ニ、石灰水ヲ加ヘ、蒸餾シテ製ス。主ニ内用ニ供ス。用量一回五乃至二十滴。

抱水「テルペン」

抱水「テルペン」 Terpinum hydratum.

「テレピン」油ヲ、水ト共ニ久シク放置スルトキハ、化合シテ抱水「テルペン」ヲ形成ス。無色無臭ノ結晶ニシテ、少シク刺戟性ノ苦味アリ。冷水ニハ僅ニ溶ケ、温水及酒精ニハ溶ケ易シ。局所ヲ刺戟スルコト少ナキヲ以テ、慢性氣管支加答兒ニ、祛痰劑トシテ内用シ、或ハ利尿劑トシテ用フ。

(處方例)

(一) 抱水「テルペン」末二・〇

右十包ニ分チ、散劑トナス。一日數回一包宛内用(祛痰劑)

(二) 抱水「テルペン」五・〇 甘草末一・五 甘草羹三・〇

右法ニ依リ五十九丸ニ作ル。一回二粒宛、一日三回内用(祛痰劑)

「テレピンチーナ」軟膏

「テレピンチーナ」軟膏 Unguentum Terebinthinae.

獨逸藥局方ニ據レバ、「テレピンチーナ」黄蠟、「テレピン」油各等分ヨリ製ス。皮膚刺戟ノ目的ニテ外用ス。

基礎軟膏

基礎軟膏(王軟膏) Unguentum basilicum (Königssalbe.)

獨逸藥局方ニ據レバ、「オレーフ」油九、黄蠟三、「コロフォニウム」三、牛脂三、「テレピンチーナ」二ヨリ製ス。「テレピンチーナ」軟膏ヨリモ、皮膚ノ刺戟性弱シ、使用ノ目的ハ之ニ同ジ。

「コロフォニウム」 Colophonium.

「テレピンチーナ」ヨリ「テルペンチナ」油ヲ採取シタル殘餘ノ中性樹脂ナリ。膏劑ノ賦形藥トシテ用フ。

「コロフォニウム」

「テレピンチーナ」軟膏 基礎軟膏 「コロフォニウム」



### 第一〇 芥子油屬

Gruppe des Senföls.

芥子中ニハ「ミロン」酸「カリウム」Myronsaures Kalium ト「ミロジン」Myrosin ト名クル酸酵素トヲ含ム。今芥子ニ水ヲ加フルトキハ「ミロン」酸加里ハ「ミロジン」ノ爲ニ分解シテ、一種ノ揮發油、即チ芥子油ヲ遊離スベシ。芥子油ハ又化學的ニモ之ヲ製スルコトヲ得ベシ。

#### 生理的作用

芥子油ハ揮發性ヲ有シ、脂油ニ溶解スル性アルガ故ニ、容易ニ組織中ニ竄透シテ、異物的刺戟作用ヲ呈スルノミナラズ、別ニ特異ノ刺戟性ヲ有ス。故ニ凡テ觸レタル局所ニ烈シキ炎症性刺戟ヲ起シ、皮膚ノ引赤、疼痛、尙進ミテハ水疱ヲ發シ、更ニ進メバ化膿ヲ來スニ至ル。而シテ其皮膚中ニ竄透スルヤ、能ク深部ニ迄達シテ、其部ニ炎症ヲ起スヲ以テ、生ジタル水疱ハ、容易ニ治癒セス、且治癒後ニ、甚シキ癢痕ヲ結ブベシ。芥子油ハ斯ノ如ク其刺戟性强キヲ以テ、引赤劑トシテ短時間烈シク皮膚ニ働カシムルニハ適スレドモ、發疱劑トシテ

引赤劑トシテ用フルニ適シテ發疱劑トシテハ適セズ

用フルニハ、カンタリヂン等ニ若カズ。

芥子油ハ刺戟ノ他ニ、尙防腐ノ作用アリ。

#### 醫治效用

芥子ハ、少量ニテハ、香味料トシテ苛味性健胃劑ト同一ノ目的ニテ食品ニ加ヘテ用フ。其他往時吐劑トシテ内服セシメタルコトアレドモ、今ハ用ヒズ。外用ニハ、其刺戟性强キ爲ニ、凡テ知覺神經ヲ刺戟シテ、反射的ニ中樞神經系ヲ興奮セシムル目的ヲ以テ、假死、失神、虛脱、昏睡等ニ用フ。其他尙ホ炎症性疼痛、ロイマチス、神經痛等ニ當リテ、反射的ニ其疼痛ヲ輕快セシムル爲ニ外用セラ

#### 品名、製劑、用量

芥子 Semen Sinapis.

日本藥局方ニ舉ゲラレタルハ、芥(からしな) sinapis ceruna ノ種子及歐洲ニ産スル「ブラシカ、ニグラ」(黑芥子) Brassica nigra ノ種子ナリ。外用ニハ種々ノ方法ヲ以テ用ヒラル。身體ノ廣キ部分ニ刺戟ヲ與ヘテ、中

香味料ニ用フ

興奮劑トシテ皮膚ニ貼ス

芥子

芥子油屬 醫治效用、品名、製劑等 芥子

壹



芥子浴

樞神經系ヲ興奮セシメ、或ハ皮膚ノ血液循環ヲ盛ナラシメントスルニハ、芥子浴ヲ用フ之ニ全身浴ト脚踏トアリ、全身浴ヲ行フニハ、水二百五十乃至三百リートル、一石二斗乃至一石五斗ニ、芥子一〇〇〇乃至二五〇〇ヲ加ヘ、脚踏ニハ、全身浴ノ三分ノ一乃至二分ノ一ノ水ニ、五〇〇乃至一〇〇〇ノ芥子ヲ加フ、アマリ廣カラザル身體部分ニハ、芥子泥ノ形ニテ使用ス。此場合ニハ、芥子ヲ細碎シテ微温湯ヲ加フルトキハ、酸酵素ハ早ク其作用ヲ現ハシテ、芥子油ヲ分離スルヲ以テ、其奏效速カナルベシ。但熱湯ハ酸酵素ヲ破壊シ、從ヒテ芥子油ヲ分離シ得ザラシムベキヲ以テ、用フベカラズ。

芥子泥

芥子紙

芥子紙 *Charta sinapisata.*

脫脂シタル芥子粉ヲ紙ニ糊著セシメタルモノニシテ、之ヲ用フル場合ニハ、水ニ濕ウシテ皮膚ニ貼ス。其刺戟性弱キヲ以テ、通常神經痛及炎性疼痛ニ用フルニ適ス。

芥子精

芥子精 *Spiritus Sinapis.*

日本藥局方ニ據レバ、芥子油一分ヲ酒精四十九分ニ加ヘテ製ス。濾過紙或ハ布片ニ浸シテ、皮膚ニ貼シ、芥子紙ト同一ノ目的ニ使用ス。

芥子油

芥子油 (揮發芥子油) *Oleum Sinapis aetherium.*

芥子ヨリ採取シタル揮發油ニシテ、其刺戟性强キ爲ニ、其儘ニテハ藥用ニ供シ難シ。

第一一 「カンタリヂン」及「オイフォルビン」屬

*Gruppe des Cantharidins und Euphorbins.*

一般性質

此屬ニ屬スル物質ハ「テレピン」油屬及芥子油屬ノモノト異ナリ、常温ニ於テ揮發セズ。サレド之ヲ脂肪「エーテル」<sup>「アルコホル」</sup>等ニ和シテ皮膚中ニ竄透シ得ベキ形トナシテ皮膚ニ用フルトキハ、特異ノ刺戟性ヲ呈シ、烈シキ炎症ヲ喚起スベシ。此屬ノ最モ顯著ナル作用ハ、此炎症ヲ喚起スル性質ニシテ、其他ノ作用ハ、之ニ比スレバ極テ僅微ナリトス。

芥子油 「カンタリヂン」及「オイフォルビン」屬



所在  
「カンタリゲン」  
豆斑猫  
莢菁

「オイフォルビン」

「カプザイティン」  
「メツレイ」  
「アチモニン」  
「カルドール」

此屬ノ主ナルモノハ「カンタリゲン」Cantharidin ニシテ、日本ニ於ケル豆斑猫(まめはんめう) Epicauta Gorhami 歐洲ニ於ケル莢菁 Lytta vesicatoria 中ニ含マルル一種ノ無水酸ナリ。「カンタリゲン」ヲ「アルカリ」ニ溶解セシメテ生ジタル鹽モ、亦「カンタリゲン」ト同一ノ作用ヲ有ス。

「オイフォルビン」Euphorbin ハ「オイフォルビア」レジニフ「ラ」Euphorbia resinifera ノ樹脂中ニ含マル、無水酸ナリ。

其他此屬ニ屬スルハ「番椒(たうがらし) Fructus capsici 中ニ含マル、結晶性ノ「カプザイティン」Capsaicin「ダフチ」メツ「レウム」おにし「ばり」ノ類) Daphne Mezereum 中ニ含マル、「メツ「レイン」Mezerein「アチモ」チ「いちげ」ノ類) Anemone 並ニ「ラ」スンクルス屬(毛蕒ノ類) Ranunculus ノ植物中ニ含マル、「アチモ」ニ「Anemonin 野葛(つたうるし) Rhus Toxicodendron 價如樹(かじよじ) Anacardium occidentale 並ニ其他ノ漆樹科ノ植物中ニ含マル、「カルドール」Cardol 等ニシテ「巴豆」中ニ含マル、「クロトノール」酸、蓖麻子油中ニ含マル、「リツイノール」酸モ亦同様ノ作用アリ。但後ノ二者ニ就テハ、後章下劑ノ部ニ述ブベシ。

### 生理的作用

局所作用

「カンタリゲン」ハ「深部」ヲ「犯」サズ

吸收作用

「排」泄「セ」ラル、  
「刺」戟「ス」腎臟ヲ  
「之」ガ「爲」ニ「蛋白」  
「尿」血「尿」等「ヲ」發「ス」

此屬ノ物質、殊ニ「カンタリゲン」ハ、揮發性ヲ有セザレドモ、脂油溶解性ニシテ、之ヲ脂肪若クハ其他ノ皮脂ヲ溶解シ得ベキ物質ニ混ジテ皮膚ニ貼スレバ、徐々ニ皮膚ニ浸潤シ、其特異ノ刺戟作用ニ由リテ、滲出性炎症ヲ起シ、水泡ヲ生ゼシムベシ。サレド「カンタリゲン」ハ、揮發性ナラザルヲ以テ、芥子油ノ如クニ深ク組織中ニ竄透セズ、從ヒテ之ガ爲ニ生ジタル炎症ハ、適當ニ處置スレバ、速ニ治癒シ得ベシ。

「カンタリゲン」ハ、單ニ皮膚ニ於テ其作用ヲ現ハスノミナラズ、之ヲ内服セシムレバ、腸胃ノ粘膜ニ炎症ヲ起シ、其排泄セラル、ニ當リテハ、尿路ニモ亦炎症刺戟ヲ起ス。

「カンタリゲン」ハ、皮膚ヨリモ、消化器粘膜ヨリモ吸收セラレテ、中樞神経系ニ其作用ヲ現ハシ、初メニハ、刺戟症狀、即チ頭痛、眩暈、呼吸困難、痙攣等ヲ起シ、次デ麻痺症狀、即チ昏睡、呼吸停止、麻痺等ヲ起ス。體內ニ吸收セラレタル「カンタリゲン」ハ、其再ビ排泄セラル、ニ當リテ濃厚トナリ、其部分ニ炎症刺戟ヲ現ハスベシ。而シテ其最モ主ニ排泄セラル、場所ハ、腎臟ナルヲ以テ、容易ニ急性腎臟炎ヲ發シ、膀胱、尿道ノ粘膜モ亦炎症ヲ發スベシ。斯ノ如ク尿路ノ炎症

「カンタリゲン」及「オイフォルビン」の生理的作用



胃ノ粘膜炎ヨリ  
モ排泄セラレ  
其刺戟症状ヲ  
現ス

皮膚刺戟劑ト  
シテ疼痛炎症  
ニ用フ

脱毛症ニ時  
シテハ效アリ

假死虚脱ノ亢  
奮ノ目的ニハ  
用フルニ適セ  
ズ  
内用ニハ今日  
ハ殆凡テ用ヒ  
ズ只往古用ヒ  
タルコトアル  
ト當今一二ノ

人ノ種ニ稱用  
スルコトアル  
トノ故ヲ以テ  
茲ニ掲ゲ

之ヲ稱用セル  
ハリイブライ  
ヒナリ

外用ニ際スル  
注意

「カンタリス」

「日本藥局方  
「カンタリス」

ヲ發スルトキハ、尿中ニ蛋白質ヲ混ジ、或ハ往々血液ヲ混ズ、其他吸收セラレタル「カンタリヂン」ノ一部分ハ、胃ノ粘膜炎ヨリモ排泄セラレ、ヲ以テ、其刺戟ニ由リテ、烈シキ嘔吐ヲ發シ、血液ヲ混ジタル粘液ヲ吐出スルニ至ル。

### 醫治效用

外用ニハ、皮膚刺戟ノ目的ヲ以テ、「カンタリス」ヲ軟膏若クハ硬膏トシテ、「ロイマチス」性疾患、神經痛等ノ疼痛ヲ緩解セシムル爲ニ用ヒ、或ハ肋膜炎、心囊炎、腦膜炎、腹膜炎等ノ炎症ヲ、皮膚ニ誘導シ、竝ニ滲出液アル場合ニハ、其吸收ヲ促ス目的ニテ用フ。尙ホ禿頭病及其他ノ脱毛症ニ、皮膚ニ輕度ノ刺戟ヲ與ヘテ、血液ノ循環ヲ佳良ナラシメ、從テ毛根ノ榮養ヲ盛ナラシムル目的ニテ應用シ、時トシテハ效ヲ奏スルコトアリ。

「カンタリス」ハ、知覺刺戟ヲ起スコト緩慢ナルヲ以テ、反射的ニ中樞神經系ヲ鼓舞スル目的ニテ、假死、虚脱等ニ用フルニハ不適當ナリ。

内用ニハ、往時水腫ニ利尿劑トシテ用ヒシコトアレドモ、腎臟ニ炎症ヲ發セシムル恐アルヲ以テ、今ハ殆ド用ヒラル、コト無シ。其他生殖器官、殊ニ陰莖等ニ催姪劑トシテ用ヒラレタルコトアレド、ソハ「カンタリヂン」ノ尿ト共ニ

排泄セラレ、ニ當リ、尿道若クハ外陰部ノ粘膜炎ヲ刺戟シテ、反射的ニ色慾ノ亢盛ヲ來スヲ認メタルヨリ誤レルモノニシテ、之ヲ用フルモ害アリテ效ナシ。

肺結核、喉頭結核、狼瘡等ニ、「カンタリヂン」酸加里ヲ注射シテ、其治療ヲ企テタルコトアレド、コモ亦效少ナク、害多キヲ以テ、今ハ用ヒラレズ。其他往時癩病、象皮病、狂水病等ニ用ヒラレタルコトアレドモ、素ヨリ效驗ナキコト明ナリ。「カンタリヂン」竝ニ其製劑ヲ内用スル場合ハ勿論、外用ニ於テモ亦注意スベキハ、容易ニ血液中ニ吸收セラレテ、排泄臟器、即チ腎臟ニ炎症（糸毬腎臟炎）ヲ起スコトアルコトナリ。殊ニ外用ニ當リテモ、其用フル場所ノ廣キ場合ニハ、絶エズ尿ニ注意スルヲ要ス。皮膚ノ軟弱ナル者、殊ニ小兒ニ於テハ、容易ニ吸收セラレベシ。

### 品名、用量

「カンタリス」 Cantharides.

日本藥局方ノ「カンタリス」ハ、豆斑猫（まめはんめう）ト名ヅクル一種ノ甲翅

「カンタリゲン」及「オイフォルピン」類 品名、用量 「カンタリス」



其極量  
獨逸藥局方ノ  
「カンタリス」

其極量

強發疱膏

弱發疱膏

蟲ヲ乾燥セシメタルモノニシテ、其規定ニ據レバ、一「プロセント」以上ノ「カンタリヂン」ヲ含ム。内用ノ極量ハ、一回〇・〇一五、一日〇・〇五ナリ。獨逸藥局方ノ「カンタリス」ハ、豆斑猫ト同種類ナル芫菁ヲ乾燥シタルモノニシテ、其規定ニ據レバ、〇・四「プロセント」以上ノ「カンタリヂン」ヲ含有スルヲ要ス。斯ノ如ク、芫菁ハ、豆斑猫ヨリモ「カンタリヂン」ノ含有量著ク少ク、其極量ハ一回〇・〇五、一日〇・一五ナリ。

強發疱膏 Unguentum vesicans fortius.

日本藥局方ニ據レバ、「カンタリス」四十分、「オレーフ」油九十分、黃蠟七十分、「レピンチーナ」三十分ヲ含有セル軟膏ナリ。

弱發疱膏 Unguentum vesicans mitius.

日本藥局方ニ據レバ、「カンタリス」五分、「オレーフ」油七十分、黃蠟百二十五分ヲ混和シタル軟膏ナリ。

引赤紙

引赤紙 Charta rubefaciens.

日本藥局方ニ據レバ、黃蠟八分、鯨蠟三分、「オレーフ」油四分、「レピンチーナ」一分、「カンタリス」一分、水十分ヲ加ヘタルモノヲ混和煮沸シ、紙ニ塗布シテ製ス。弱キ刺激性ヲ有シ、「ロイマチス」性ノ疾患、神經痛等ニ、輕キ皮膚刺戟ヲ與フル目的ニテ用フルニ適ス。

發疱「コロヂウム」 Collodium epispasticum

日本藥局方ニ據レバ、「カンタリス」末一分ヲ「エーテル」適宜ニテ浸出シ、ソヲ蒸發セシメ、之ニ「コロヂウム」ヲ混ジ一分トナシタルモノニシテ、皮膚誘導ノ目的ニ使用ス。

「カンタリス」丁幾 Tinctura Cantharidum

「カンタリス」末一ヲ、酒精十ニ浸出シテ製ス。往時ハ内用ニ供シタレドモ、今ハ廢セリ。外用ニハ、他ノ脂肪等ニ混ジテ、皮膚刺戟ノ目的ニテ、脫毛症等ニ

發疱「コロヂウム」

「カンタリス」丁幾



尋常芫菁硬膏

尋常芫菁硬膏 *Emplastrum Cantharidum ordinarium.*

使用ス。

獨逸藥局方中ニ記載セラレ、二十五「プロセント」ノ芫菁ヲ含有シ、日本藥局方ノ強發疱膏ニ相當ス。

瀧久芫菁軟膏

瀧久芫菁軟膏 *Emplastrum Cantharidum perpetuum.*

獨逸藥局方ニ據レバ、十「プロセント」ノ芫菁及二五「プロセント」ノ「オイフォルビウム」脂ヲ含有シ、日本藥局方ノ弱發疱膏ニ相當ス。

番椒丁幾

番椒丁幾 *Tinctura Capsici.*

日本藥局方ニ據レバ、番椒(たうがらし)一分ヲ酒精十分ニ浸出シテ製ス。皮膚ニ持續シタル刺戟ヲ與フル爲ニ、他ノ賦形藥ニ混ジテ外用ス。

「クリザロビン」  
「ゴア」粉

所在

「クリザロビン」及「イヒチオール」ハ、真正ナル皮膚刺戟劑ニ非ルモ、其作用之ニ類似スルヲ以テ、茲ニ附記ス。

「クリザロビン」(「ゴア」粉) *Chrysarobinum.*  
(Goapulver.)

「アンデラ、アラロバ」Andira Araroba ト名クル樹ノ髓洞中ニ生ズル結晶性粉末ヲ「ゴア」粉ト呼ブ。其大部分ハ「クリザロビン」ヨリ成レルモノニシテ、即チ之ヨリ「クリザロビン」ヲ採取ス。

生理的作用

「クリザロビン」ハ、水ニ溶解セザレドモ、之ヲ油若クハ脂肪ニ混ジテ、皮膚ニ貼スルトキハ、皮膚中ニ竄入シテ、劇シク局所ヲ刺戟シ、其部ニ炎症ヲ起ス作用アリ。

吸収セラレタル「クリザロビン」ハ、再ビ腎臟ヨリ排泄セラレ、而シテ其刺戟ニ由リテ、往々腎臟炎ヲ起スコトアリ。之ヲ含メル尿ニ「アルカリ」ヲ加フレバ、赤色ヲ呈ス。是「クリザロビン」ノ體中ニ於テ「クリゾファン」酸ニ變化シテ、尿中ニ排

排泄ニ際シ腎臟ヲ刺戟スルコトアリ

皮膚ヲ刺戟ス



「クリゾファ  
ン」酸

寄生性皮膚病  
ニ效アリ

泄セラル、爲ナリ。

「クリザロビン」ヲ酸化スレバ、クリゾファン「酸」ヲ生ズ、此物質ニ就テハ、次ノ植物性下劑ノ條下ニ於テ説クベシ。

醫治效用

「クリザロビン」ハ、五倍乃至十倍ノ「ワゼリン」ニ混ジテ軟膏ヲ製シ、諸種ノ皮膚病殊ニ寄生性ノ皮膚病ニ使用ス、其主ニ用ヒラル、ハ、寄生性<sup>ヘルペスト</sup>匍行疹、頑癬、<sup>トラン</sup>糠疹、<sup>トラン</sup>鱗屑疹等ニシテ、殆ド特效藥ト看做サル。

「クリザロビン」ヲ外用スルニ當リテ注意スベキハ、之ヲ局所ニ貼スルニ當リテ、其附近ニ迄炎症ノ波及スルコト、及前ニ云ヘルガ如ク、吸收ニ由リテ腎臟ヲ刺戟スルコトナリ。

〔附〕 鐵刀木粉

鐵刀木(たがやさん)ハ其原植物明ナラズ、近時三好理學博士ノ説ニヨレバ、カツシア、ジアメア「Cassia Siamca」ナリト云フ、我國ニテ日常使用セラル、鐵刀木々質ノ罅裂中ニ、黄色、褐色若クハ黑色ノ粉末アリ、此粉末ハ刺戟性ヲ有ス。

「アントラ  
ロ  
ビン」

「ズル  
フ  
オ  
イ  
ヒ  
チ  
オ  
ー  
ル」  
酸  
「ア  
ム  
モ  
ニ  
ウ  
ム」  
「イ  
ヒ  
チ  
オ  
ー  
ル」

所在

岩川醫學士ノ研究ニヨレバ、其大部分ハ「クリゾファンヒドラントロン」(Chry-sophanhydratron)ナリ、「クリゾファンヒドラントロン」ハ「クリザロビン」ノ同分體ニシテ、其效力モ亦相同ジキヲ以テ、將來「クリザロビン」ニ代用スルコトヲ得ベシ。

「アントラロビン」 Anthrarobinum.

あかね(茜草)ノ根中ニ存スル、赤キ色素、即チ「アリツァリン」ノ還元產物ニシテ、水ニ溶解セザル粉末ナリ、軟膏ニ製シテ、「クリザロビン」ニ代用スルコトヲ得ベシ、但彼ヨリモ皮膚竝ニ腎臟ノ刺戟作用弱シ。

「ズルフオイヒチオール」酸「アムモニウム」

(「イヒチオール」) Ammonium sulfoichthyolicum  
(Ichthyolum)

埃國チロールニ産スル土脂質ノ盤石中ニ、魚ノ殘骸ヲ含メルモノアリ、之ヲ乾留スレバ、一種油狀ノ有機性混合物、即チ所謂「イヒチオール」油ヲ得ベク、此

「アントラロビン」 「ズルフオイヒチオール」酸 「アムモニウム」 「イヒチオール」



生理的作用  
醫療的應用

混合物ニ濃硫酸ヲ作用セシムレバ、一種ノ硫基酸ヲ生ズ、「イヒチオール」トハ此硫基酸ノ「アルカリ」鹽類、殊ニ「アムモニウム」鹽ノ名稱ナリ(日本藥局方ニ舉ゲラレタル「イヒチオール」ハ「アムモニウム」鹽ナリ)。

「イヒチオール」ハ、局所ニ輕度ノ刺戟ヲ與ヘ、血管ヲ收縮セシメテ炎症ヲ去リ、其產物ノ吸收ヲ促シ、且殺菌ノ效ヲ有ス。之ヲ諸種ノ病原菌、殊ニ丹毒菌ニ試ムルニ、三乃至四「プロセント」ノ溶液ニテ、能ク其發育ヲ防止スルヲ以テ、汎ク皮膚ノ疾患、殊ニ寄生性ノモノニ應用セラル、即チ慢性濕疹、鱗屑疹、黃癬、瘰癧、凍瘡等ニ塗布シ、子宮ノ諸種ノ炎症疾患ノ炎症產物ヲ吸收セシムル爲ニ、子宮腔或ハ腔ニ應用シ、ソノ他鎮痛ノ效アリトシテ、「ロイマチス」性疾患、神經痛、炎症等ニモ外用ス。又丹毒ニハ所謂「イヒチオール」療法トシテ汎ク應用セラ、ル。内用ニハ腸胃ノ酸酵ヲ制スルタメニ用ヒ、慢性氣管枝加答兒、「ロイマチス」、痛風等ニモ用ヒラル。其ノ他諸種ノ皮膚疾患ニモ内用セラル、コトアリ、「イヒチオール」ノ内用量ハ、一回〇・一乃至一〇ヲ一日數回丸劑トナシ、若クハ膠囊ニ入レテ服セシム。外用ニハ十乃至二十「プロセント」ノ「ラノリン」若クハ「グゼリン」軟膏トシテ用フ。腔ノ栓塞等ニハ、十倍ノ「グゼリン」溶液トナスヲ可

外用

内用

用量

「チオール」Thiolum.

「チオール」  
「イヒチオール」ハ  
「チオール」ハ  
ナルノ代用品  
ナリ

トス。  
「チオール」ハ、瓦斯油ニ硫黃ヲ加ヘ、濃硫酸ヲ作用セシメテ製シ、「イヒチオール」ニ類似シタル物質ニシテ、「イヒチオール」ニ代ヘテ外用スルコトヲ得ベシ。

植物性下劑

Vegetabilische Abführmittel.

Cathartica vegetabilia.

植物性下劑

種々ノ植物生藥ハ、ソヲ内用スレバ、腸ノ粘膜ヲ刺戟シテ、蠕動ヲ高メ、其内容物ヲ排泄セシムル作用アリ。今其作用ノ強弱ニ從ヒテ、之ヲ三種ニ區別スルコトヲ得ベシ。即チ其第一ハ軟下劑 Aperiiva ニシテ、糞便ノ稠度ニハ別ニ變化ヲ起ササルモ、唯其排泄ノ度數ヲ増スモノ、第二ハ緩下劑 Laxantia ニシテ、糞便ノ稠度粥狀トナリ、度々排泄セラル、モノ、第三ハ峻下劑 Drastica ニシ

峻下劑

緩下劑

軟下劑



テ、糞便ノ稠度全ク液狀トナリ、多少疝痛、腹鳴、裏急後重等ヲ伴フモノナリ。サレド個々ノ藥物ハ、其量ノ多少ニ依リテ、峻下劑モ緩下劑トナリ、緩下劑モ峻下劑トナリ得ベキヲ以テ、明ニ此區別ヲ立テ難シ。

### 生理的作用

植物性下劑ノ生理的作用ヲ論ズルニ先チテ、生理的腸蠕動ニ就テ一言セントス。小腸ハ平素其蠕動甚ダ活潑ニシテ、食糜ノ胃ヨリ入り來リテ結腸ニ移行スルハ、僅ニ三乃至五時間ヲ費スニ過キズ。其間ニハ、胆汁、膽汁、腸液等ノ分泌アリテ、シカモ水分ノ吸收セラル、コト少キヲ以テ、食糜ハ全ク流動性ナリ。而シテ食糜ノ結腸ニ入ルヤ、其始部ニ逆蠕動アルヲ以テ、流動性食糜ハ茲ニ停滯シテ其間ニ水分ヲ吸收セラレ、漸次便塊ヲ形成シ、然後ニ正蠕動ニヨリテ結腸ノ末端ニ移行シ、直腸ニ到レバ其粘膜ノ知覺刺激ニヨリテ、反射的ニ排便運動ヲ起ス。斯ノ如クシテ便塊ノ大腸ニ存スルハ、實ニ十二時間若シクハ其以上ナリトス。

植物性下劑ノ一般ニ通ジタル作用、即チ下劑ヲ起スハ、主トシテ小腸ヲ刺激シテ、其蠕動ヲ盛ニシ、或ハ大腸ノ蠕動ヲ盛ニシ、其逆蠕動ヲ制止スル爲ナリ。

腸ニ至リテ始テ刺激性ヲ呈ス

刺激性ハ別ニ特異ニアラズ

而シテ其結果トシテ、腸内容物ヲ速ニ體外ニ向ヒテ推移セシムルヲ以テ、其水分ハ吸收セラル、暇ナク、之ガ爲ニ糞便ハ多少軟クナリテ排泄セラル、ニ原ヅクモノニシテ、若シ其蠕動ヲ促スコト劇シキニ過グルトキハ、腹鳴、痛等ヲ伴フベシ。斯ノ如ク腸ノ蠕動ヲ促進スルハ、植物性下劑ノ成分ニ、腸粘膜ノ局所刺激ヲ起ス作用アル爲ナリトス。

植物性下劑中ニ含有セラル、主成分中、蓖麻子油及巴豆油ノ如キモノハ、アルカリ性ノ腸液、殊ニ胆汁ノ爲ニ化學的分解ヲ起シ、其分解シタル產物ノ、始テ刺激性ヲ現ハスモノナルガ故ニ、食道及ビ胃ノ粘膜ニハ、少シモ刺激ヲ與ヘズ、腸ニ到リテ始テ之ヲ刺激ス。又、ヤラッパ、脂ノ主成分ナル「ヤラビン」ノ如キハ水ニ溶解セズ、胆汁ニ遇ヒテ始テ溶解スルヲ以テ、同ジク食道竝ニ胃ヲ刺激セズシテ、腸ニ到リテ始テ其刺激ヲ現ハスコトヲ得ベシ。故ニ植物性下劑ノ、特ニ下劑トシテ用ヒラル、ハ、敢テ其主成分ノ腸ニ對シテ特異ノ刺激作用ヲ有スル爲ニアラズ、腸ニ來リテ始テ其刺激ヲ現ハシ得ル状態ニ變ズル爲ニシテ、其刺激作用ハ、少シモ他ノ皮膚刺激劑ト異ナルコトナシ。此事ハ植物性下劑ナラザル他ノ刺激性物質ニテモ、膠様ノ物質ニ混ジテ吸收シ難キ



植物性下劑ハ  
局所作用ニテハ  
下痢ヲ起ストテ  
明コトノストテ

糞便ニ水分多  
キハ腸分泌増  
加及滲漏液ノ  
爲ニアラズ

状態トナシテ用フレバ、同ジク下痢ヲ起シ得ルヲ以テ、之ヲ證スルニ足ルベシ。

理想的ノ下劑ハ、胃ヲ刺戟セズシテ、腸ニ局所刺戟ヲ與へ、且全ク吸收セラレザルカ或ハ吸收セラレ、モ全ク無害ナルモノナリトス。

植物性下劑ノ下痢ヲ起スハ、其吸收作用ニアラズシテ、局所作用ナリ、而シテ或植物性下劑ノ主成分ハ、之ヲ皮下ニ注射スルモ、同ジク下痢ヲ起シ得レドモ、其下痢ヲ起スハ、一旦血液中ニ吸收セラレタル藥物ノ、再ビ腸ヨリ分泌セラレテ腸ヲ刺戟スル爲ナルヲ以テ、内用ヨリモ頗ル多量ニ用フルニアラザレバ、其效ヲ奏セズ、且比較的長時間後ニアラザレバ下痢ヲ來サズ。

往時ハ植物性下劑ニ由リテ軟便ヲ排泄スルハ、腸ノ刺戟セラレテ、其分泌ヲ増加シ、且血液分ノ滲漏ニ由リテ、腸内容物ノ液量ノ著ク増加スル爲ナリトシタリ、サレド種々ノ動物試験竝ニ糞便ノ化學的検査ノ結果ニ依レバ、植物性下劑ヲ用ヒタル腸内容中ニ於テモ、別ニ多量ノ滲漏液<sup>トランスジグ</sup>ノ含マル、ヲ認メ得ズ、又腸ノ分泌ハ、下劑ノ刺戟ノ爲ニ多少増加スルコト勿論ナレドモ、糞便ノ稠度ヲ變ズルハ、主トシテ飲食物ト共ニ入來リタル水分ノ、腸ノ蠕動ノ劇

便中ノ多量ノ  
水分ハ飲食物  
ト共ニ入り來  
レト共ニ水分  
收セラズシ  
テ排泄セラレ  
タルモノナリ

習慣性便秘

下劑ハ唯止ム  
コトヲ得ザル  
時ニノミ用フ

シキ爲ニ、吸收セラレ、暇ナクシテ排泄セラレ、從テ糞便中ニ多量ノ液體ヲ有スルモノト認メザルベカラズ、實際腸ノ蠕動ノ増劇シタル爲ニ、糞便ノ推移ノ非常ニ早クナルト云フコトハ、水ヲ充タシタル護謨球ヲ、動物ノ腸内ニ入レ、然ル後ニ下劑ヲ與フレバ、其護謨球ノ、通常ヨリモ數倍早ク排泄セラレルニ由リテ、之ヲ證明シ得ベシ。

### 醫治效用

植物性下劑一般ノ醫治效用ヲ舉グレバ、左ノ如シ。

第一 習慣性便秘ニ用フ。習慣性便秘ハ、毎ニ腸ノ蠕動機ノ緩慢ナルニ由リテ發スルモノニシテ、概テ食物選擇ノ不良竝ニ運動不足、精神ノ過勞等ノ不適當ナル生活法、又ハ衰弱狀態、慢性衰弱等ニ原ヅクモノナリ、故ニ斯ノ如キ場合ニ於テハ、通常先ヅ下劑ヲ試ムルコトナク、新鮮ナル野菜、果實等ヲ加ヘタル適當ノ食物ヲ與へ、腹部按摩ヲ施シ、若クハ適當ノ運動ヲ行ハシメナドシテ、ヒタスラ便通ヲ促スコトヲ務メ、下劑ハ唯止ムコトヲ得ザル場合ニノミ用ヒ、且成ルベクソノ作用弱キモノヲ選ブベシ、而シテ同一ノ下劑ヲ永ク持續スレバ、習慣ニ依リテソノ效力ヲ減ズルヲ以テ、種々ノ下劑ヲ取換へ



腸内容掃除

テ用フルヲ可トス。  
第二 腸内容ノ掃除ノ目的ヲ以テ用フ。即チ有毒物ヲ食シタル場合若クハ腸内容物ノ異常酸酵ヲ起シタル場合ニハ、下劑ヲ與ヘテ、速ニ其有害内容物ヲ排泄セシム。

血液誘導

第三 誘導ノ目的ニテ用フ。即チ腦出血又ハ腦脊髄竝ニ其被膜ノ炎症若クハ充血状態、眼内ノ炎症等ニ、下劑ヲ與フルトキハ、腸ノ蠕動機ヲ亢進セシメ、腹腔臓器ニ充血ヲ起シ、之ガ爲ニ遠隔セル身體ノ部分殊ニ病ニ罹レル場所ノ血量ヲ減ズルコトヲ得ベシ。

水腫  
炎性滲出液

第四 身體ノ水分ヲ減少シテ水腫ヲ去リ、又ハ炎性滲出液ヲ吸收セシムル目的ニテ用フ。前ニモ云ヒシ如ク、往時ハ下劑ニ由リテ、腸ノ分泌ヲ高メ、且水分滲漏ヲ生ジテ、多量ノ水分ヲ腸ヨリ排泄セシメ得ベシト信ジタレドモ、今日ニ於テハ、其誤謬ナルコトヲ認メラレタリ。唯飲食物ト共ニ腸ニ入りタル水分ハ、吸收セラル、暇ナクシテ排泄セラル、ヲ以テ、間接ニ身體ノ水分ヲ減少セシムルハ事實ナレドモ、斯ル場合ニ於テ下劑ヲ持長スレバ、獨リ水分ノミナラズ、榮養品モ亦其吸收ヲ妨ゲラル、ヲ以テ、遂ニ榮養障得ヲ來ス

注意

催經劑

コトアリ。醫家タルモノ心シテ用ヒザルベカラズ。  
第五 植物性下劑中、其刺激性強キモノハ、一般ノ腹腔、殊ニ骨盤腔ニモ亦充血ヲ起スヲ以テ、月經不調ノ場合ニ、催經劑トシテ用ヒラル、コトアリ。

禁忌

妊娠、月經  
貧血等  
熱性病

以上ノ如キ種々ノ場合ニ應用スレドモ、時トシテハ之ヲ禁忌スルヲ要スルコトアリ。即チ植物性下劑、殊ニ所謂峻下劑ニ屬スル刺激性強キモノハ、腸竝ニ腹膜ノ炎症アルトキニハ、之ヲ増劇スル恐アリ。妊娠竝ニ月經時ニモ骨盤腔ノ充血ヲ起ス爲ニ、月經過多若クハ墮胎ヲ起スコトアリ。其他痔疾アルモノハ、其出血ヲ増劇スルコトアリ。故ニ其ニ禁忌トス。貧血、高老、虛弱竝ニ其他ノ衰弱状態ニ用フルトキハ、腹腔ノ血量ヲ増シ、之ガ爲ニ腦貧血ヲ來ス恐アルノミナラズ、榮養品ノ吸收ヲ妨ゲテ、益榮養ヲ害スベシ。  
熱性病ノ或場合ニハ、好ンデ下劑ヲ用フレドモ、腸ヲ劇シク刺激スルモノハ、却テ之ガ爲ニ熱度ヲ増ス危險アリ。注意セザルベカラズ。  
サレド、軟緩下劑ニ屬スルモノハ、以上ノ諸種ノ場合ニモ、危險ナクシテ用フルコトヲ得ベシ。



植物性下劑ノ分類

植物性下劑ニ屬スルモノハ、巴豆油及蓖麻子油屬、ヤラビン<sup>〔カ〕</sup>及、エラテリン<sup>〔カ〕</sup>屬、<sup>〔カ〕</sup>トリゾファン<sup>〔カ〕</sup>酸及<sup>〔カ〕</sup>カタルチン<sup>〔カ〕</sup>酸屬ノ三者ニ分類セラル。

### 第一二 巴豆油並ニ蓖麻子油屬

Gruppe des Crotonöls und Ricinusöls.

所在  
巴豆油  
蓖麻子油

巴豆油ハ、巴豆 *Croton Tiglium*. ノ實ヨリ榨取シタル中性ノ油、即チ「クロトノール」酸 *Crotonolsäure* ノ「グリセリン」化合物、蓖麻子油ハ蓖麻(たうごま) *Ricinus communis* ノ實ヨリ榨取シタル中性油ニシテ、「リツイノール」酸 *Ricinoisäure* ノ「グリセリン」化合物ナリ。

#### 生理的作用

「クロトノール」酸及「リツイノール」酸ノ「グリセリン」化合物ハ、中性ノ脂肪ト同ジク、少シモ刺激作用ナシト雖、腸ニ至リテ胆汁ニ遇フトキハ、之ガ爲ニ分解セラレテ、「クロトノール」酸若クハ「リツイノール」酸ヲ遊離シ、始メテ刺激作用ヲ生ズ。其作用ハ、「クロトノール」酸強ク、「リツイノール」酸弱シ。但通常ノ巴豆油ハ、幾分カ遊離シタル「クロトノール」酸ヲ含メルヲ以テ、之ニ觸ルレバ、局所ヲ刺激スル性アリ。

胆汁ニ由リテ分解シ刺激作用ヲ生ズ

「クロトノール」酸及「リツイノール」酸ハ、主トシテ小腸ヲ刺激シ、其蠕動ヲ亢盛シ、大腸ニ於テハ、結腸始部ノ逆蠕動ヲ制止ス。サレド排便反射ハ亢進セズ。

#### 醫治效用

巴豆油ハ、非常ニ峻烈ナル下劑ニシテ、甚ダ僅微ノ量ヲ用フルモ、烈シキ下痢ヲ來ス。即チ使用後、早キハ半時間以内、遅キモ二時間ヲ越エズシテ下痢ヲ發スベシ。斯ノ如キ峻烈ノ作用アルヲ以テ、容易ニ腸ノ炎症ヲ起シ、且腸ノ蠕動ヲ亢盛ナラシムルコト餘リニ強ク、爲ニ腸嵌頓ヲ發スルコトアリ。故ニ他ノ凡テノ下劑ノ奏效セズシテ止ムコトヲ得ザル時ノ他ハ、用ヒラル、コトナシ。

巴豆油ハ種ニ用フルノミ

蓖麻子油ハ其作用緩ニシテ始下禁忌ナシ

蓖麻子油ハ、巴豆油ニ反シテ、之ヨリ遊離スル「リツイノール」酸ハ、刺激性甚ダ弱キヲ以テ、腸ハ僅ニ刺激セラレ、殆ド痙攣等ヲ起スコトナクシテ、軟便ヲ通ジ得ベシ。其下痢ヲ起ス作用ハ、「リツイノール」酸ノ刺激ノ他、一部分ハ蓖麻子油ノ理學的性質ニ由リテ、便ノ通路ヲ滑カニシテ、其移行ヲ助クルニアルモノトス。蓖麻子油ハ斯ノ如キ作用アルヲ以テ、甚ダ多クノ場合ニ於テ應用セラレ、



嘔氣嘔吐ヲ起ス  
消化障礙ヲ起ス

巴豆油ハ皮膚  
刺戟ニ用ヒラ

蓖麻子及巴豆  
中ニハ毒性物  
質アリ故ニ蓖  
麻子油又ハ巴  
豆油ニ代用ス  
ルコトヲ得ズ  
注意スベシ

巴豆煎劑ハ亞  
細亞「コレラ」  
ニ用ヒラル

腸ノ炎症アル場合ニヌラ、殆ド禁忌スルノ必要ナク、妊婦、虛弱ナル患者等ニモ、亦危險ナク用フルコトヲ得ベシ。唯蓖麻子油ノ短所トスベキハ、其味ノ不快ナル爲ニ、人ニ由リテハ、嘔氣、嘔吐ヲ來スコトアルト、永ク持續シテ用フルトキハ、食慾減退、消化障礙ヲ起スコト、ナリ。  
其他巴豆油ハ、幾分カ遊離ノ「クロトノール」酸ヲ含メル爲ニ、同量ノ「オレーフ」油ヲ混ジ、皮膚刺戟劑トシテ、誘導ノ目的ニ用フルコトアリ、「クロトノール」酸ノ皮膚刺戟ノ作用ハ、「カンタリヂン」ニ同ジ（前章參照）。  
蓖麻子ヨリ蓖麻子油ヲ榨取シ、巴豆ヨリ巴豆油ヲ榨取シタル殘滓中ニハ、毒素若クハ之ニ類シタル一種ノ毒性物質ヲ含有ス。蓖麻子中ニアルモノヲ「リツイン」Ricintト云ヒ、巴豆ニ含マル、モノヲ「クロチン」Crointト云フ。故ニ蓖麻子若クハ巴豆ハ、之ヨリ榨取シタル蓖麻子油若クハ巴豆油ノ代用トシテ、藥用ニ供スルコトヲ得ズ。醫家ハ之ヲ記憶セザルベカラズ。  
巴豆二三粒ヲ煎出シテ、其液ヲ服用セシムルトキハ、亞細亞虎列刺患者ノ胸部苦悶ヲ除ク效アリト稱セラル。此際「クロチン」ハ、煮沸ニ由リテ分解シテ毒性ヲ失フコト勿論ナリ。

品名、用量及處方

蓖麻子油 (「カストル」油) Oleum Ricini...

...Oleum Castoris

用量、一回二〇〇乃至三〇〇、膠囊ニ入レ、若クハ麥酒ノ泡沫、咖啡等ニ加ヘテ用フ。

(處方例)

- (一) 蓖麻子油 三〇〇 「アラビアゴム」 八〇
  - 薄荷水 一五〇 餡水 六〇〇
  - 單舍利別 三〇〇
- 右混和シテ乳劑ヲ作り、朝起時ニ空腹ニ乗ジテ頓服セシム。
- (二) 蓖麻子油 五〇〇
- 右半酒杯宛、一時間毎ニ内服シテ瀉ヲ得ルニ至ラシム。

巴豆油 Oleum Crotonis.

巴豆油

蓖麻子油 (「カ  
ストル」油)







膠様物質ト共ニ服ニ到ル

大量ハ腸胃炎ヲ起ス

「ボドフィロトキシシン」及「ピクロボドフィリン」

膽汁ニ關係ナク働ク  
「ボドフィロトキシシン」ハ皮下注射ニテモ下痢ヲ起ス

局所刺戟  
絲絨腎臟炎ヲ起ス  
「ボドフィロトキシシン」脂ノ下劑トシテノ長所

ント「實若クハ其「エキス」ハ「コロツインチン」ヲ其膠様物質中ニ包被スルヲ以テ、「コロツインチン」ハ其吸收ヲ妨ゲラレ、能ク腸ニ達シテ、ソヲ刺戟シ、下痢ヲ起サシムルコトヲ得ベシ、「コロツインチン」ハ、斯ノ如ク水ニ溶解スル性アルヲ以テ、其用フル量多キニ過グレバ、腸ノミナラズ、胃ヲモ刺戟シテ、之ガ爲ニ腸胃炎ヲ起スコトアルベシ。

「ボドフィロトキシシン」ハ、下痢ノ作用強ク、「ピクロボドフィリン」ハ弱シ、其作用ハ「コンヂルグリン」ニ酷似ス、唯之ト異ナル點ハ、特異ノ下痢作用ヲ現ハスニ就テ、膽汁ノ關係ナキコト、及皮下ニ用フルモ下痢ヲ起ス作用アルコトナリ、但「ピクロボドフィリン」ハ、皮下注射ニテハ下痢ヲ起サズ、此皮下ニ用ヒテ著效ヲ奏スル理由ハ、動物、殊ニ犬若クハ猫ニ就テ試験スルニ、「ボドフィロトキシシン」ハ、腸胃ヨリ排泄セラレ、其局所ヲ刺戟シ、之ガ爲ニ劇シキ腸胃ノ炎症ヲ起シ、盛ニ嘔吐及下痢ヲ來シ、加之中樞神經系ノ麻痺ノ状態ヲ現ハスヲ見ル、而シテ注射シタル局所ニハ炎症刺戟ヲ起ス、又尿ヨリ排泄セラル、ニ當リテハ、腎臟ヲ刺戟シテ、炎症、殊ニ絲絨腎臟炎ヲ發スルコトアルベシ。

「ボドフィロトキシシン」脂ノ他ノ下劑ニ優レル點ハ、其奏效遅ク、内服後十時乃至十二時ノ後ニ至リテ、始テ緩和ナル下痢ヲ來タシ、而シテ其效ノ永ク持續スルコトナリ、故ニ慢性便秘ニ用フルニ適ス。

品名、醫治效用、用量、極量及處方

「ヤラッパ」脂 Resina Jalapae.

「イボモエア、ブルガ」Ipomoea Purgaノ球根ノ酒精「エキス」ニシテ、其大部分ハ「コンヂルグリン」ヨリ成レル有力ナル峻下劑ナリ、故ニ峻下劑ニ通有セル一般ノ醫治效用及禁忌ニ從フベシ、用量一回〇〇三乃至〇二、極量日本藥局方一回一〇、一日三〇。

(處方例)

「ヤラッパ」脂 「ヤラッパ」末 藥用石鹼 各一〇  
右丸劑トシテ三十九子ヲ作り、一回二乃至五丸子ヲ用フ。

「ヤラッパ」石鹼 Sapo jalapinus.

日本藥局方ニ據レバ、「ヤラッパ」脂、藥用石鹼各四分ヲ、稀酒精八分ニ溶解シ、之

「ヤラッパ」脂

「ヤラッパ」石鹼



ヲ九分ニ蒸發シテ製ス。用量凡「ヤラッパ」脂ノ二倍。

「コロシント」實

「コロシント」實 Fructus Colocynthis.

「ツイトルルス、コロツインチス」Citullus Colocynthisト稱スル瓜ノ實ニシテ、一回〇・〇一乃至〇・一、或ハ其以上ヲ用フ。峻下劑ニ屬シ、一般ノ效用及禁忌ヲ有ス。極量獨逸藥局方一回〇・三、一日一・〇。

「コロシント」越幾斯

「コロシント」越幾斯 Extractum Colocynthis.

「コロシント」實ヲ、酒精及水ニ浸出シテ製ス。用量一回〇・〇一乃至〇・〇五。極量日本藥局方一回〇・〇五、一日〇・一五。峻下劑一般ノ法則ニ從フベシ。

(處方例)

「コロシント」越幾斯 〇・一 藥用石鹼 一・五

右十五丸子ヲ作り、一回一乃至三丸子ヲ内用セシム。

「コロシント」丁幾

「コロシント」丁幾 Tinctura Colocynthis.

「コロシント」實一分ヲ、酒精十分ニテ浸出ス。用量一回五乃至十滴。極量日本藥局方一回一・〇、一日三・〇。

「コロシント」ヒヨス丸

「コロシント」ヒヨス丸 Pilulae Colocynthis et Hyoscyami.

日本藥局方ニ據レバ、「コロシント」末十分、蘆薈末、「ヤラッパ」末各二十分、「ヒヨス」越幾斯二十五分、硫酸加里三分、丁香油一分ヲ用ヒテ製シ、一丸大約〇・一五ノ重量ヲ有ス。峻下劑ナレドモ、「ヒヨス」越幾斯ノ加ハリタル爲ニ、腹痛ヲ來サズシテ下痢ノ效ヲ收メ得ベシ。用量一回一乃至三丸。極量一回〇・五、一日一・五。

「ポドフィルム」脂

「ポドフィルム」脂 (「ポドフィルム」) Resina Podophylli. . . . Podophyllum.

「ポドフィルム、ベルタツーム」Podophyllum Pelatum. ノ根ノ酒精「エキス」中ニ、水ヲ加ヘテ得タル樹脂様ノ沈澱ニシテ、緩下劑トシテ其少量、即チ一回〇・〇



一乃至〇・〇五ヲ用ヒ、奏效ノ遅キト、永ク效力ノ持續スルトノ二點ヨリシテ、習慣性便秘ニ稱用セラル。其大量ハ、痲痛ノ他ニ種々ノ副作用アルヲ以テ用ヒラレズ。極量日本藥局方一回〇・一、一日〇・三。

(處方例)

「ポドフィルム」脂 〇・五 甘草末 甘草羹 各適宜

右法ニ依リテ三十九子ヲ作り、一回一乃至二九子宛内用。

英方「エラテリウム」(白色「エラテリウム」)

*Elaeterium anglicum.*

「モモルヂカ、エラテリウム」*Momordica Elaeterium*ノ瓜實ノ榨汁ヲ乾燥シタルモノニシテ、主成分ハ「エラテリン」ナリ。其含量ハ製品ニ依リテ、十五乃至五十「プロセント」ノ間ヲ上下ス。最モ強キ峻下劑ニシテ、大ニ注意ヲ要スルト、「エラテリン」含量ノ不同トニ由リテ、實地應用ノ區域狭シ。少量即チ〇・〇〇五乃至〇・〇三ニテ既ニ劇シキ下痢ヲ起ス。

英方「エラテリウム」

第一四 「クリゾファン」酸及「カタルチン」酸屬

Gruppe der Chrysophansäure und Cathartinsäure.

此屬ニ屬スル植物性下劑ハ、何レモ「アントラツェーン」ノ誘導體ヲ含有シ、其中ノ或物ハ、配糖質ノ形態ニテ存ス。

「センナ」葉ノ主成分ハ「カタルチン」酸或ハ單ニ「カタルチン」トモ云フト稱スル水ニ溶ケ易キ膠様ノ物質ナリ。此モノハ臍液ノ働ニヨリテ、「クリゾファン」酸ト「エモヂン」*Emodin*トニ分解ス。兩者共ニ「アントラツェーン」誘導體ニシテ、下痢ヲ促ス效アリ。又「クリゾファン」酸ノ還元體ナル「クリザロピン」ヲモ含ム。尙其他ニ「センナ」葉中ニハ、粘液質及「カタルチン」酸ノ「マグネシウム」及石灰化合物アリテ兩者共ニ下痢ノ效ヲ助クベシ。

大黃根ノ主成分モ亦「カタルチン」酸若クハ之ニ酷似シタル膠様物質ナリ。其他一種ノ苦味質及鞣酸ヲ含有シ、ソモ亦醫療的ノ意味ヲ有ス。

「フラングラー皮」ノ主成分ハ「フラングリン」*Frangulin*ニシテ、結晶性ノ配糖質ナ

「センナ」葉  
「カタルチン」  
酸  
「クリゾファン」  
酸

大黃根  
「フラングラー」  
皮  
「フラングリン」

「クリゾファン」酸及「カタルチン」酸屬



「エモゲン」  
「ラムノール」  
「カスカラ、サ  
グラダ」皮  
其主成分ハ未  
ダ研究ナズ  
故ニ不明ナリ

「蘆薈」  
「アロイーチ」

諸種ノ「アロ  
イン」  
「バルブアロ  
イン」  
「ナトアロイ  
ン」

「藤黄」  
「ガンボキア」  
酸

リ。其外ニ尙「カタルチン」酸(若クハ之ニ酷似シタルモノ)ヲモ含有ス。フラング  
リン」ハ酸ノ働ニヨリテ「エモゲン」ト「ラムノール」(一種ノ糖類)トニ分解ス。  
「カスカラ、サグラダ」皮ハ「フラングラ」皮ノ原植物ト同種類ノ植物ノ皮ニシテ、  
其主成分ハ、恐クハ「フラングラ」皮ノ主成分ト同一。若クハ類似シタルモノナ  
ラン。

蘆薈ノ有効性分ハ、其種類ノ異ナルニ從ヒテ、性状ヲ異ニス。之ヲ總稱シテ「ア  
ロイーチ」Aloineト云フ。即チ「バルバトス」肝狀蘆薈中ニ存スルモノハ、水ニ溶  
解シ易キ結晶體ニシテ、單ニ「アロイン」若クハ「バルブアロイン」Barbaloinト稱シ、  
ナタル肝狀蘆薈中ニ存スルモノハ、水ニ溶解セザル結晶體ニシテ、「ナトアロイ  
ン」Nataloinト稱ス。透明蘆薈中ニハ、無定形ニシテ水ニ溶ケ易キ「アロイン」ヲ  
含ム。

藤黄ノ主成分ヲ「ガンボキア」酸 Gambogiacic acidト云フ(無水酸ノ形態ニテ其中  
ニ含マル、ガ如シ)此物ハ「アントラツェーン」ノ誘導體ニ非ザルガ如シト雖、其  
作用ハ、他ノ此屬ノモノニ類セルヲ以テ、茲ニ編入シタリ。

### 生理的作用

「フランゲリ  
ン」  
「カタルチン」  
酸  
「クワンソファ  
ン」酸

此屬ノ植物性下劑中ニ含マル、主成分ハ、小腸ヲ刺戟セズ、主トシテ大腸ニ  
働キテソヲ刺戟シ、大腸ノ蠕動ヲ亢進シテ、逆蠕動ヲ制止シ、且排便反射機ヲ  
亢進セシムルヲ以テ、便秘ノ結腸ニ入ルヤ、直ニ排便運動ヲ起ス。而シテ此際  
痙痛、裡急後重ヲ伴フ。斯ノ如ク此屬ノ下劑ハ、大腸ニ働クガ故ニ效力ノ現ル  
ルコト遅ク、通常八時間以上ヲ要ス。「フラングリン」並ニ「カタルチン」酸ハ、膠様  
ノ物質ナルガ故ニ、胃ニ於テハ吸收セラレズシテ、腸ニ働キ、從テ下痢ノ效確  
カナレドモ、「クワンソファン」酸ハ、直ニ胃中ニ於テ吸收セラレ、ヲ以テ、其純粹ノ  
モノヲ用ヒタル場合ニハ、必シモ下痢ヲ起サズ。唯之ヲ含有スル生藥若クハ  
其「エキ」ヲ内用スルトキハ、之ト共ニ胃中ニ入りタル粘液質及護膜質ノ爲  
ニ吸收ヲ妨ダラレ、腸ニ到リテ之ヲ刺戟シ、多少下痢ノ效ヲ奏スルコトヲ得  
ルモノトス。

大黃若クハ「センナ」葉ヲ内用セシメタル後、其排出シタル尿ノ著ク黄色トナ  
ルハ、「クワンソファン」酸及「エモゲン」ノ爲ナリ。而シテ之ニ「アルカリ」ヲ加ヘテ赤色  
ヲ呈スルハ、「クワンソファン」酸ノ尿中ニ存在セル爲ナリトス。此尿ヲ採リテ、之ヲ  
酸性ニシ、「エーテル」ニテ振盪スレバ、「クワンソファン」酸ハ之ニ溶解ス。



「センナ」煎劑  
ハ血中注射ニ  
テモ下痢ヲ起  
ス

「アロイン」  
「バルブアロ  
イン」ハ效少  
シ  
「ナトアロイ  
ン」モ亦然リ  
無定形ノ「ア  
ロイン」最強  
ク效ヲ奏ス  
「アロイン」ハ  
糞汁ノ存在ヲ  
要ス

「センナ」葉ハ、カタルチン「酸」グリソファン「酸」、エモチンノ他ニ、尙粘液質並ニ「マグ  
ネシウム」及石灰化合物ヲ含メルヲ以テ、他ノ有效成分ノ胃中ニテ吸収セラ  
ル、ヲ妨ゲテ、腸ノ遠キ部分ニ迄達セシムルノミナラズ、腸内ニ於ケル水分  
ノ吸収ヲ妨ゲ、下痢ノ效ヲ助クルコトヲ得ベシ。

「センナ」葉ノ有效成分ハ、腸ノ運動神經節ニ對シテ、特異ノ刺激作用アリ。故ニ  
「センナ」ノ煎劑ヲ、動物ノ血液ニ注射スルモ、同ジク下痢ヲ起ス作用アリ。本  
劑ヲ内服シテ下痢ヲ起ス際ニモ、腸ニ炎症刺激ヲ起ササルハ之ガ爲ナリ。  
「アロイ」子中結晶性ノモノハ其效力少シ。是等ハ腸内ニ於テ、無定形ノ「アロ  
イン」ニ變ジタル後ニ、始メテ其作用ヲ現ハスモノ、如シ。無定形ノ「アロイン」  
ハ最モ下痢ノ效アリ。「アロイン」ノ其效ヲ現ハスニハ、三種共ニ「膽汁」ノ存在ヲ  
要ス。其理由ハ不明ナレドモ、「アロイン」ヲ單ニ水ニ溶解シテ、直腸内ニ注射ス  
ルモ、別ニ下痢ノ效ヲ現ハサズ。之ニ反シテ其溶液中ニ「膽汁」ヲ加ヘテ灌腸ス  
レバ、直腸並ニ結腸ヲ烈シク刺激シテ下痢ヲ來スニ由リテ、之ヲ證スルコト  
ヲ得ベシ。「アロイ」子ハ内服セシムルモ亦主トシテ大腸ヲ刺激シ、其蠕動ヲ  
亢盛ス。而シテ此際骨盤腔ニ充血ヲ起シ、生殖器殊ニ女性ノ生殖器ニ充血ヲ

「ガンボギア」  
酸

此圖ノ物質ハ  
吸収後腎臟ヨ  
リ出ヅルニ當  
リテ之ヲ刺激  
ス  
下劑トシテ内  
用スルニ危険  
ナシ

「センナ」葉

來ス。

「ガンボギア」酸ハ、純粹ノ形ニテハ、其效少ナケレドモ、藤黃ノ儘ニテ用フレバ、  
能ク效ヲ奏ス。是藤黃中ニハ、大約四分ノ一ノ護謨質アリテ、「ガンボギア」酸ノ  
吸収ヲ妨ゲ、其全量ヲシテ腸ニ働クコトヲ得セシムルヲ以テナリ。此者ハ小  
腸ヲモ、大腸ヲモ刺激ス。

植物性下劑ノ有效成分ハ、吸収セラルレバ、腎臟ヨリ排泄セラレテ、多少之ヲ  
刺激スル性質アリ。殊ニ「アロイン」ハ容易ニ腎臟炎ヲ起シ、腎臟ノ曲細尿管ノ  
上皮細胞ノ壊死ヲ來ス。サレド通常下劑トシテ用フル量ニテハ、吸収セラル  
ルコト少ナク、從テ別ニ中毒ヲ來スコトナクシテ、大部分ハ糞便ト共ニ排泄  
セラルベシ。

### 醫治效用

「センナ」葉ハ、所謂峻下劑中ニ加フベキモノニシテ、二〇乃至四〇ヲ用フレバ、  
三四時間ノ後ニ、必ズ多少ノ痙痛及腹鳴ヲ伴ヒテ、流動形ノ糞便ヲ排泄ス。然  
レドモ、「センナ」葉ハ其效ノ峻烈ナル割合ニ、刺激少ナクシテ、腸並ニ骨盤腔ノ  
充血、其他一般峻下劑ノ副作用ヲ呈スルコト稀ナルヲ以テ、多クノ場合ニ下



長所

劑トシテ用ヒ得ルノ利アリ。尙、センナ葉ノ下劑トシテノ長所ハ、下痢ヲ起シタル後ニ、便秘ヲ來サバルコト、及加答兒性黃疸ノ如キ膽汁ノ流出ナキ場合ニモ、奏效スルコトナリ。

大黃根

少量ニテハ健胃止瀉ノ效アリ

大黃根ハ、前ニ云ヒシ如ク、下痢ヲ來ス有效成分ノ他ニ、苦味質並ニ鞣酸ヲ含ムヲ以テ、其少量即チ〇・〇五乃至〇・二五許ヲ用フルトキハ、下痢ノ有效成分ヨリモ、此成分ノ作用ヲ呈シ、却テ止瀉並ニ健胃ノ效アリ。鞣酸ノ止瀉ノ作用ニ就テハ、後章鞣酸ノ部ヲ見ヨ。其用量一〇乃至二〇ニ至レバ、下痢ノ作用ヲ

中量ハ軟下劑ナリ

便秘ヲ殘ス弊アリ

現ハシ、服用後八乃至十時間ニテ、別ニ副作用ナクシテ粥狀ノ糞便ヲ通ズ。故ニ大黃ハ所謂軟下劑トシテ、貧血或ハ恢復期、其他衰弱狀態ノ患者ニ用フルニ適シ、妊婦及腸ノ炎症等、峻下劑ノ禁忌ノ場合ニモ亦危險ナク用フルコトヲ得ベシ。サレド大黃ハ鞣酸ヲ含有シ、下痢ヲ起シタル後ニ便秘ヲ來ス弊アルヲ以テ、習慣性便秘ニ用フルニハ不適當ナリトス。大量ノ大黃ハ、峻下劑ト同ジク烈シキ下痢ヲ發スベシ。

蘆薈

少量ハ健胃ニ用フ

蘆薈ハ、其少量即チ〇・〇五乃至〇・一ハ、苦味健胃劑トシテ用ヒラレ、〇・二乃至〇・三許ニテハ、唯大腸ノ蠕動ヲ高ムルノミニテ、八乃至十二時間後ニ別ニ副

中量ハ軟下劑トナル

便秘ヲ殘サズ

大量ハ峻下劑ノ效ヲ有シ、殊ニ骨盤ニ充血ヲ來ス

催經ニ用フ

蘆薈ハ峻下劑ナリ

作用ナクシテ緩和ノ便通ヲ起ス。而シテ後ニ便秘ヲ來スコトナキヲ以テ、習慣性便秘ニ用フルニ適ス。大量ノ蘆薈ハ、峻烈ノ瀉下作用ヲ現ハシ、殊ニ下腹並ニ骨盤腔ノ充血ヲ起ス。作用強キヲ以テ、一般峻下劑ノ副作用アリ。故ニ其禁忌ニ從ハザルベカラズ。但月經不調ノ場合ニハ、骨盤腔ノ充血ヲ來ス作用ヲ應用シテ、催經ノ目的ニ用フルニ適ス。

「フラングラー」皮  
「カスカラサ」皮

「フラングラー」皮ノ新鮮ノモノハ嘔氣嘔吐ヲ起ス

軟下劑トシテ習慣性便秘ニ用ユ

「フラングラー」皮並ニ「カスカラサ」皮ハ、適量ニ用フルトキハ、疝痛等ノ副作用ナクシテ、緩和ノ下痢ヲ起ス。故ニ一般ノ禁忌ナクシテ之ヲ用フルコトヲ得ベシ。サレド大量ニ用フルトキハ、劇シキ下痢ヲ起スベシ。此兩者ノ作用ハ、センナ葉ニ類シ、後ニ便秘ヲ來スコトナシ。フラングラー皮ハ其新鮮ナルモノヲ用フルトキハ、嘔氣嘔吐ヲ來スヲ以テ、獨逸藥局方ニテハ、採取後一年以上ヲ經タルモノヲ用フベキコトヲ規定セリ。「カスカラサ」皮ハ、斯ノ如キ嘔吐ノ作用ナシ。此藥物ハ殊ニ近來習慣性便秘ニ稱用セララル。

品名、製劑、用量及處方



「センナ」葉

「センナ」葉 Folia Sennae.

「センナ」葉ハ、「カッシア」アングスチフォリア Casia angustifolia 及「カッシア」アクチ  
フォリア C. acutifolia ノ葉ニシテ、其「一〇乃至二〇」ヲ用フレバ、緩下劑ノ作用  
ヲ呈シ、「二〇乃至五〇」ヲ用フレバ、峻下劑ノ作用ヲ呈ス。通常煎劑トシテ使  
用スレドモ、稀ニハ散劑若クハ砥劑トナス。「センナ」葉ハ、其中ニ含メル樹脂  
ノ爲ニ、不快ノ味ヲ呈シ、大量ニ用フルトキハ、嘔氣、嘔吐ヲ起スコトアリ、ア  
ルコホルヲ以テ浸出シテ、樹脂ヲ除クトキハ、此副作用ヲ去ルコトヲ得ベ  
シ之ヲ酒精浸出「センナ」葉 Folia Sennae spiritus extracta ト稱ス。

(處方例)

「センナ」葉浸(五〇) 五〇〇 橙皮舍利別 一五〇

一回半酒杯宛内用。

複方「センナ」浸 Infusum Sennae compositum.

日本藥局方ニ據レバ、百分中ニ「センナ」葉十分ノ主成分、酒石酸「カリウム」ナ

酒精浸出「セ  
ンナ」葉

複方「センナ」  
浸

トリウム「十分」、炭酸「ナトリウム」〇二分、「マンナ」二十分ヲ含ム。用量一回五〇  
乃至一〇〇ニテ、緩下劑ノ作用ヲ呈シ、強キ下劑ノ效ヲ望ムトキハ、一回一  
五〇宛一日數回内服セシム。

「センナ」舍利別 Sirupus Sennae.

日本藥局方ニ據レバ、舍利別百分中ニ「センナ」葉十分ノ主成分ヲ含ム。他ノ  
下劑ニ加ヘテ用ヒ、或ハ小兒等ニ用フ。

複方「センナ」砥劑 Electuarium sennae com-  
positum.

日本藥局方ニ據レバ、「タマリンド」十分、「甘草」越幾斯一分、「白糖」五十五分、「セン  
ナ」葉末七分、「橙皮末」三分、「茴香末」一分、「沈降硫黃」三十五分、「重酒石酸「カリウム」  
十分」、「橙皮舍利別」三十五分ヲ混ジ、其製造ノ操作中ニ、水ヲ加ヘテ全量ヲ百  
七十トナス。暗褐色ノ軟塊ニシテ、香味共ニ佳良ナル爲ニ、小兒等ニ用フル  
ニ適ス。一回五〇宛、一日二三次軟下劑トシテ用フ。

「センナ」舍利  
別

複方「センナ」  
砥劑



大黃根

大黃根 Radix Rhei.

「レウム、オフィツィナール」Rheum officinale 及其他ノ「レウム」屬ノ根莖ヲ乾カシタルモノニシテ、其少量即チ〇・〇五乃至〇・五ヲ用フレバ、健胃止瀉ノ效アリ。一〇乃至二〇許ニテハ、甚ダ緩ナル下痢ヲ起ス。通常ハ丸劑トシテ用ヒ、稀ニハ粉末若クハ煎劑トシテ用フ。大黃ハ劇シキ下痢ヲ起サシムル爲ニ、大量ヲ用フルガ如キコトナシ。若シ之ヲ望ム場合ニハ、通常他ノ峻下劑ニ伍シテ使用ス。

(處方例)

大黃根末 大黃越幾斯 各三〇

右法ニ依リテ三十九丸子ヲ作ル。一回五六丸子宛内用(瀉下劑)

大黃越幾斯 Extractum Rhei.

日本藥局方ニ據レバ、大黃ニ酒精及水ヲ加ヘテ製シタルモノニシテ、其效力ヤ大黃ニ倍ス。健胃止瀉ノ目的ニハ、其〇・〇二乃至〇・二下痢ノ目的ニハ

複方大黃浸

(處方例)

〇・五乃至一〇ヲ、通常丸劑トシテ用フ。

大黃越幾斯 「コロムボ」越幾斯 各二〇 「コロムボ」根末適宜

右法ニ依リ四十九丸子ヲ作り、一日三回一回三乃至四丸宛内用(健胃止瀉)

複方大黃浸 Infusum Rhei compositum.

百分中ニ大黃十分ノ主成分、炭酸ナトリウム三分、酒精十分、桂皮水十五分ヲ含ム。健胃ノ目的ニハ、一回一〇乃至五〇宛一日二三回用ヒ、下痢ノ目的ニハ、一回一五〇乃至三〇〇宛、其目的ヲ達スル迄用フ。

大黃舍利別 Sirupus Rhei.

百分中ニ大黃十分ノ主成分ヲ含ム。主ニ小兒ノ下劑トシテ用フ。用量ハ複方大黃浸ニ同ジ。

大黃丁幾 Tinctura Rhei.

大黃舍利別

大黃丁幾

複方大黃浸 大黃舍利別 大黃丁幾



複方大黃丸

日本藥局方ニ據レバ、百分中ニ大黃十分、桂皮一分、小豆蔻一分ノ各可溶成分、酒精五十分ヲ含ム。健胃劑竝ニ下劑トシテ用フ。用量複方大黃浸ニ同ジトシテ用フ。

複方大黃丸 *Pilulae Rhei compositae*

小兒散(苦土大黃散)

小兒散(苦土大黃散)

*Pulvis infantum... Pulvis magnesia cum Rho.*

日本藥局方ニ據レバ、炭酸「マグネシア」十分、大黃末三分、茴香油糖七分ヲ混和シテ製ス。其中ノ炭酸「マグネシア」ハ、酸ヲ中和シ、同時ニ輕キ下劑ヲ起ス作用アリ。大黃ハ少量ニテハ健胃止瀉、大量ニテハ下劑ノ效アリ。茴香ハ驅風及多少下劑ノ效アリ。故ニ之ヲ用フレバ、小兒ノ消化不良、殊ニ胃酸分泌ノ過剩及下痢、便秘共ニ良效アリ。用量一回〇・五乃至二・〇。

蘆薈

蘆薈 *Aloë*

透明蘆薈  
肝狀蘆薈

蘆薈ハ、熱帶地方ニ存スル蘆薈「*Aloë*」屬ノ植物ノ葉ヨリ採取シタル液汁ヲ乾カシタルモノニシテ、之ニ無定形ノ「アロイン」ヲ含メル透明蘆薈「*Aloë lucida*」ト、結晶性ノ「アロイン」ヲ含メル肝狀蘆薈「*Aloë hepatica*」トアリ。日本藥局方ニ記載セラレタルハ、透明蘆薈ナリ。苦味強壯劑トシテハ、一回〇・〇五乃至〇・一ヲ用ヒ、緩下劑及催經劑トシテハ、〇・一乃至〇・三ヲ用ヒ、強キ下劑ヲ望ム場合ニハ、〇・五乃至一・〇ヲ用フ。通常ハ丸劑トナス。

(處方例)

蘆薈四・〇 藥用石鹼二・〇

右法ニ依リ六十九子トナシ、每晚二三九子宛内用(緩下若クハ催經ノ目的)

蘆薈越幾斯 *Extractum Aloës*

蘆薈ノ水製「エキス」ニシテ、效力ハ蘆薈ニ倍ス。故ニ其用量ハ蘆薈ノ半量ナリ。

蘆薈越幾斯



蘆薈丸

蘆薈丸 *Pilulae Aloës.*

日本藥局方ニ據レバ、蘆薈末及藥用石鹼等分ニテ製ス。其一丸ノ量ハ、約〇・一ニシテ、用量ハ蘆薈ノ二倍ナリ。

(處方例)

蘆薈丸三十個

右一回五乃至十九宛内用(瀉下)

蘆薈「ヤラッパ」丸

蘆薈「ヤラッパ」丸 *Pilulae Aloës et Jalapae.*

日本藥局方ニ據レバ、蘆薈末「ヤラッパ」石鹼、甘草末各等分ニテ製ス。一丸ノ量約〇・一五、一回二乃至五丸ヲ下劑トシテ用フ。

蘆薈鐵丸

蘆薈鐵丸 *Pilulae Aloës et Ferr.*

日本藥局方ニ據レバ、乾燥セル硫酸鐵及蘆薈末各等分ヲ丸劑トス。一丸ノ量約〇・一ニシテ其半量ハ蘆薈ナリ。一回一乃至三丸宛一日數回、貧血ノ人

ノ消化不良、便秘等ニ用フ。サレド別ニ特殊ノ效アルニアラズ。

蘆薈丁幾 *Tinctura Aloës.*

日本藥局方ニ據レバ、蘆薈末一分ヲ酒精五分ニ浸出ス。通常健胃ノ目的ニ用ヒ、下劑トシテ用フルコト少シ。

「フラングラー」皮 *Cortex Frangulae.*

「ラムヌス、フラングラー」 *Rhamnus Frangula* ノ皮ニシテ、頗ル多量ノ鞣酸ヲ含ム。其新ラシキモノハ、嘔吐刺戟ヲ有スルヲ以テ、獨逸藥局方ノ如キハ、一年以上經過シタルモノヲ使用スベキコトヲ規定セリ。其效力緩和ナルヲ以テ、妊婦等ノ便秘ニ用フルニ適ス。其八〇乃至三〇〇ヲ、一五〇〇乃至一八〇〇ノ煎劑トシ、一回一五〇乃至三〇〇宛一日數回用フ。價ノ廉ナル爲ニ汎ク用ヒラル。

(處方例)

「フラングラー」皮五〇〇

蘆薈丁幾

「フラングラー」皮



右茶劑半酒杯(約一〇〇)ヲ採リ、三椀ノ水ヲ以テ煎出シテ二椀トナルニ至ラシメ、ソヲ二分シテ朝夕二回ニ分服セシム。

「フラングラー」  
流動越幾斯

「フラングラー」流動越幾斯 *Extractum Frangulae fluidum.*

獨逸藥局方ニ據レバ、百ノ「フラングラー」皮ヨリ、百ノ流動「エキス」ヲ製ス、習慣性便秘等ニハ、一回〇五乃至一〇ヲ用ヒ、烈シキ一回ノ下痢ヲ望ム場合ニハ、其五〇乃至一〇〇ヲ頓服セシム。

「カスカラ、サ  
グラダ」

「カスカラ、サグラダ」 *Cascara sagrada.*

「ラムヌス、ブルシアナ」 *Rhamnus Purshiana* ノ皮ニシテ、通常其流動「エキス」ヲ下劑トシテ用フ。

「カスカラ、サ  
グラダ」流動  
越幾斯

「カスカラ、サグラダ」流動越幾斯  
*Extractum Cascarae sagradae fluidum.*

日本藥局方ニ據レバ、百ノ「カスカラ、サグラダ」ヨリ百ノ「カスカラ、サグラダ」流動越幾斯ヲ製ス、緩下劑トシテハ、一回三乃至十五滴ヲ、一日數回用ヒ、頑固ノ便秘ニハ、一回一〇乃至二〇ヲ、一日二三回用フ。

(處方例)

「カスカラ、サグラダ」流動越幾斯 一〇〇 橙皮舍利別 一五〇  
水ヲ加ヘテ全量二〇〇〇トシ、半酒杯宛、一日三回服用。

藤黃

藤黃 (グッチー) 護謨 *Gutti... Gummi Guttae.*

「ガルツイニア、モレルラ」 *Garcinia Morella* ノ護謨様樹脂ナリ、其中ノ大約四分ノ三ハ「ガンボギア」酸、其他ノ三分ノ一ハ護謨質ナリ、毒性強キ爲ニ、今日ニテハ、アマリ下劑トシテ用ヒラレズ、用量一回〇〇一乃至〇二ヲ、丸劑或ハ乳劑トシテ用フ、極量日本藥局方一回〇三、一日一〇。

「ブルガチン」

「ブルガチン」 *Purgatinum.*

「ブルガチン」ハ「アントラツェーン」ノ誘導體ニシテ、化學的ニ合成セラレタル



モノナリ。水ニ不溶性ノ粉末ニシテ、一回一〇乃至一五ヲ内用セシムレバ、凡ソ十二時間ノ後ニ下痢ヲ來ス。尿ヲ甚シク紫赤色ナラシムルヲ以テ、豫メ患者ニ注意シテ、吃驚スルコトナカラシムベシ。  
「ブルガトール」Purgatorノ名ニテ販賣セラル、モノアリ、ブルガチント異名同一ノ物質ナリ。

「ブルゲン」Purgenum.

「ブルゲン」ノ名ヲ以テ販賣セラル、ハ、アルカリ試薬トシテ古クヨリ用ヒラル、フェノールフタレインナリ。緩下ノ效アルヲ以テ、下劑トシテ内用ス。用量一回〇・五糞便ヲ赤ク著色ス。尿モ亦アルカリ性ナルトキハ、本劑ニ由リテ赤色ヲ呈スベキヲ以テ、豫メ患者ニ注意シテ驚怖セザラシムルヲ要ス。

〔附〕「マンナ」及「タマリンド」

Manna und Tamarindenmus.

「マンナ」  
「タマリンド」

「マンニツト」

「マンナ」ノ主成分ハ「マンニツト」ナリ其作用ハ鹽類下劑ニ同ジ

「タマリンド」ノ主成分ハ有機酸及重石酸加里ナリ

「マンナ」及「タマリンド」ハ、其ニ植物性ノモノニシテ、下痢ヲ起ス作用アレドモ、其作用ハ全ク植物性下劑ト異ナリ、後ニ述ブベキ鹽類下劑ニ同ジ。即チ「マンナ」中ニ含マル、「マンニツト」Mannitハ、容易ニ水ニ溶解スレドモ、恰モ鹽類下劑ノ如ク、動物膜ヲ竄透スル性極テ少クシテ、腸管内ニ於ケル水分ト理學的抱合ヲナシ、其水分ノ腸壁ヨリ吸收セラル、コトヲ妨グルヲ以テ、糞便ハ液狀ヲ保チテ排泄セラル、モノトス。其他「マンナ」中ニ含マル、護膜質モ、亦下痢ノ效ヲ助クベシ。「タマリンド」ハ、枸橼酸、酒石酸、林檎酸ノ他ニ、鹽類下劑ニ屬スル重石酸、カリウムヲ含ミ、「マンニツト」ト同ジク、腸ノ内容ノ水分ト抱合シテ、其吸收ヲ妨グルノミナラズ、是等ノ有機酸ハ、「タマリンド」中ニ存スル膠樣物質ノ爲ニ、胃中ニ於テ吸收セラル、コト少クシテ、腸ニ至リ、腸ヲ刺戟スルニ由リテモ、亦下痢ノ效ヲ助ク、緩和ノ通利ヲ起サシム。

品名、用量

「マンナ」 Mana.

「フラキシヌス、オルヌス」Fraxinus ornus. ト名クル植物ノ幹ヨリ採取シタル

「マンナ」及「タマリンド」 品名、用量 「マンナ」



液汁ヲ乾燥シテ製ス。「マンナ」中ニハ、六十乃至八十「プロセント」ノ「マンニット」ヲ含ミ、其他護謨質及少量ノ葡萄糖ヲ含ム。甘味アリテ甚ダ服用シ易ク、且其作用緩和ナルヲ以テ、老人、妊婦、小兒等ニ下劑トシテ用フルニ適ス。用量小兒ニハ一回三〇乃至五〇、大人ニハ三〇〇或ハ其以上。

別「マンナ」舍利

「マンナ」舍利別 Sirupus Mannac.

獨逸藥局方ニ據レバ、舍利別十ノ中ニ「マンナ」一ノ可溶成分ヲ含ム。小兒下劑トシテ、毎半時乃至一時間ニ五〇許ヲ用フ。

「タマリンド」

「タマリンド」 Pulpa Tamarindorum.

「タマリンド」ハ、羅望子(てうせんもだま) Tamarindus indica ノ莢果ノ果泥ナリ。前ニ擧ゲタル如キ諸種ノ植物酸及其酸性鹽竝ニ膠様物質ヲ含ミ、其味酸シ。一回一五〇乃至三〇〇ヲ與フレバ、甚ダ緩和ナル下痢ヲ起ス。或ハ他ノ下劑ニ加ヘテ所謂佐藥トシテ用フルコトアリ。

精製「タマリンド」

精製「タマリンド」 Pulpa Tamarindorum depurata.

獨逸藥局方ニ據レバ、熱湯ヲ以テ「タマリンド」ヲ軟ゲ、ソヲ磨碎シテ濾過シ、其濾液ニ二十「プロセント」ノ砂糖ヲ混ジタルモノニシテ、五〇乃至一五〇ヲ、小兒ノ下劑トシテ用フ。

第一五 驅蟲劑

Anthelminthica. Wurmmittel.

腸内寄生蟲

人類ノ腸内ニハ、微菌ノ他ニ、種々ノ寄生蟲アリテ、其中ノ或者ハ健康ヲ妨ゲ、一定ノ病ヲ喚起セシムベシ。其寄生蟲ノ中、殊ニ注意ヲ要スルハ、絛蟲、十二指腸蟲、蛔蟲、蟯蟲、鞭蟲等ナリトス。

寄生蟲ノ或者ハ、單ニ下劑ヲ服用セシメタルノミニテ、糞便ト共ニ排泄セラレ、コト無キニアラテド、多クハ寄生蟲ノ腸内容流動ノ方向ニ反對シテ運動スルト、吸盤若クハ鈎ニテ腸壁ニ附著スルトノ爲ニ、唯下劑ノミニテハ排

寄生蟲ハ腸壁ニ固著スルモノアリ

精製「タマリンド」 驅蟲劑



理想的驅蟲劑

現今使用セラ  
ルル驅蟲劑ハ  
全ク理想的ニ  
非ズ

驅除法

糞蟲驅除ノ時  
期  
糞蟲驅除ノ準  
備  
驅蟲劑ヲ内服  
セシム

泄セラレ難シ。故ニ往古ヨリシテ種々ノ驅蟲劑ヲ用ヒテ、其排出ヲ圖レリ。驅蟲劑トシテ最モ適當ナルハ、腸ノ寄生蟲ヲ殺シ、若クハ少ナクトモ一時ノ中毒状態ニ陥ラシメ、併モ患者ノ身體ニ對シテハ、少シモ毒性ヲ有セザルカ、或ハ少ナクトモ、唯腸内ニ於テ寄生蟲ニ害ヲ與フルニ止マリ、成ベク吸收セラレズシテ、再ビ體外ニ排出セラル、モノナラザルベカラズ。サレド現今ニ至ル迄、經驗上使用セラル、驅蟲劑ニハ、斯ノ如キ理想的ノモノ無ク、或場合ニハ、劇シキ中毒ヲ起シ、甚シキハ患者ノ生命ヲ奪フニ至リシコアリ。寄生蟲、殊ニ糞蟲ノ如キハ、唯驅蟲劑ヲ用ヒタルノミニテハ、其目的ヲ達セザルコト多シ。故ニ是等ノ寄生蟲ニ對シテハ、一定ノ驅除法ヲ行フヲ要ス。而シテ驅蟲劑ノ最モ能ク其效ヲ奏スルハ、寄生蟲ノ病的状態ニ在ル場合ナリトス。

糞蟲ハ、成熟シタル片節ノ糞便中ニ現ハル、際ヲ以テ、最モ驅蟲劑ヲ使用スルニ適セリトス。其驅除法ハ此時期ニ於テ、先ヅ腸ノ内容ヲ減ゼシムル爲ニ、一二日間患者ヲシテ肉食ヲ取ラシメ、傍ラ緩和ノ下劑ヲ與ヘ、殊ニ驅蟲劑ヲ與フル前晚ニハ、鹽藏ノ肉類、大蒜、酸味アル果實、莓ナドヲ食セシメテ、糞蟲ニ

緩和ナル下劑  
ヲ與フ

糞蟲ハ頭節ノ  
排泄ヲ要ス

「チモール」  
「クロロフォルム」

化學的及理學的ノ刺戟ヲ與ヘテ、ソヲ病的状態ニ類セシメ、而シテ其翌朝空腹時ニ乘ジテ、驅蟲劑ヲ服用セシム。此場合ニ、患者ハ多クハ嘔氣ヲ發スルモノナルヲ以テ、成ルベク横臥セシメ、且冰片ヲ與ヘナドシテ、其嘔吐ヲ防ギ、一定ノ時間ヲ經テ、糞蟲ノ死スルカ、若クハ中毒状態ニ陥ル頃ヲ測リテ、下劑ヲ與ヘ、ソヲ糞便ト共ニ體外ニ排出セシムベシ。但此場合ニ用フル下劑ハ、アマリ劇シカラザルヲ要ス。ソハ糞便ノ一定ノ稠度ヲ有スルハ、糞蟲ヲ器械的ニ排出セシムルニ便宜ナレバナリ。排出セラレタル糞蟲ハ、必ズ其頭節ヲ具ヘザルベカラズ。然ラザレバ糞蟲ハ、其殘留シタル頭節ヨリシテ、再ビ體内ニ於テ發育スベシ。

糞蟲ハ其種類ニ由リテ、藥物ノ選擇、投藥ノ時期、驅除法等ヲ異ニセザルベカラズ。是等ノ事ハ醫士ノ知識ト實驗上ノ熟練トニ依リテ定ムルヲ要ス。故ニ歐洲ニ於テハ、糞蟲療法ヲ專門トセル醫士アリ。

「チモール」(上卷三百一頁及三百七頁參照)、「クロロフォルム」(上卷百〇一頁參照)モ亦或場合ニ驅蟲劑トシテ用ヒラル、コトアルハ、其各條下ニ於テ既ニ之ヲ述ベタリ。



消化作用劑 Verdaulich wirkende Mittel.

腸寄生蟲中、縲蟲及十二指腸蟲ハ、ヒチン外皮比較的薄ク、蛋白消化酸酵素ノ作用ヲ受ケ易キヲ以テ、此作用ヲ應用シテ、是等ノ寄生蟲ノ撲殺ヲ圖レルモノアリ。而シテ「トリブシン」ハ、生理的多量ニ腸内ニ分泌セラル、ガ故ニ、寄生蟲ハ、此酸酵素ノ消化力ニ對スル防護的作用即チ免毒性ヲ有シ、其生活中ハ決シテ消化セラル、コトナシ。然レドモ生理的腸内ニ存在セザル蛋白消化酸酵素ヲ用フルトキハ、驅蟲ノ效ヲ奏スルコトアリ。

「ババイン」Papainum (後章參照)ヲ内用シテ、偶マ驅蟲ノ效ヲ奏スルコトアリ。是縲蟲、十二指腸蟲ハ、「ババイン」ニ對シテ免毒性ヲ有セザレバナリ。其用量ハ一回一〇ナリ。

「ババイン」ノ代リニ「カリカ、クエルツィフォリア」Carica quercifolia 樹ノ綠果ノ乳樣汁ヲ内服セシメ、又ハ椰子 Cocos nucifera ノ不熟果ノ乳樣汁ヲ内服セシム。サレド是等新鮮ノ果汁ハ、熱帶地方ニアラザレバ得ルコト能ハザルヲ遺憾トス。此新鮮果汁ハ、「ババイン」又ハ「ババイン」樣ノ酸酵素ヲ含有シ、能ク驅蟲ノ

效ヲ奏スト云フ。

消化作用劑ハ、別ニ患者ノ身體ニ害毒ヲ及ボスコトナキヲ以テ、其適當ノ製劑ニテ驅蟲スルコトヲ得バ、實ニ理想的驅蟲劑ナリト云フベシ。

綿馬根 Rhizoma Filicis.

綿馬根

十二指腸蟲製頭縲蟲ニ用フ

「アスピチン」

綿馬根ハ、十二指腸蟲、縲蟲、殊ニ裂頭縲蟲ニ用ヒテ、能ク其效ヲ奏ス。其主成分「フィリックス」酸 Filixsäure ハ、無定形ニシテ、水ニ溶解セズ、アルカリ及脂油ニハ容易ニ溶解ス。「フィリックス」酸ハ、時ヲ經レバ、其水分ヲ失ヒテ、結晶性ノ「フィリツイン」Filicin ニ變化シ、全ク其效力ヲ失フベシ。其他綿馬根ハ、揮發油「アスピチン」Aspidin 及「一二三」ノ有毒質ヲ含ム。「フィリックス」酸ハ、縲蟲ニ働キテ、ソヲ硬變セシメ、從テソヲ驅除スルコトヲ得ベシ。

綿馬根竝ニ其製劑ノ使用ニ當リテ、副作用トシテ現ハル、ハ、第一腸胃ノ炎症狀態ニシテ、嘔吐、腹痛、下痢等ヲ起ス。殊ニ嘔吐刺戟ハ、每常見ルトコロノ局所刺戟作用ナリ。其吸收後ノ中毒症狀トシテハ、發熱、痙攣、中樞神經系ノ麻痺、

綿馬根ノ副作用  
腸胃炎  
中樞神經系ノ  
麻痺心臓衰弱

綿馬根



等アリ  
黒内障ヲ起ス  
コトアリ大ニ  
注意ヲ要ス

黄疸、腎臟炎  
ヲ起スコトアリ

綿馬ト共ニ蓖  
麻子油ヲ用フ  
ベカラズ

心臓ノ衰弱等ヲ起シテ(虚脱)ノ爲ニ患者ノ生命ヲ奪フニ至ルコトアリ。其中毒中、最モ注意スベキハ、綿馬竝ニ其製劑ニ由リテ、一、眼又ハ兩眼ニ黒内障若クハ弱視ヲ起スコトニシテ、其症狀ハ唯一回大量ヲ用ヒタルニ由リテ起リ、或ハ比較的少量ヲ持續シテ用フルニ當リテ、恰モ蓄積作用ノ如ク、忽然トシテ起ル。此症狀ハ場合ニ依リテハ、再ビ恢復シ、或ハ多少輕快シ、或ハ全ク失明スルコトアリ。

其他尙綿馬根ノ中毒ニ當リテハ、赤血球ノ崩壊ニ由リテ、黄疽ヲ起シ、腎臟ノ刺戟ニ由リテ、其炎症ヲ起シ、蛋白尿ヲ現ハシ、或ハ肝臟ノ退行變性、胃粘膜炎ノ退行性炎症等ヲ起スコトアリ。

綿馬ヲ内服セシメタル後ニ與フル下劑トシテハ、蓖麻子油ヲ用ヒザルヲ可トス。ソハ「フィリキス」酸ハ、油ノ中ニ溶解シテ吸收セラレ、中毒ヲ起スコトアルベキヲ以テナリ。

「フィリキス」酸ハ吸收後、体内ニ於テ分解セラレ易キヲ以テ、其中毒ハ比較的稀ナリ。

柘榴根皮

柘榴根皮 Cortex Radicis Granati.

柘榴根皮ハ有  
鉤織蟲ニ用フ  
「ペレチエリ  
ン」  
「プニツイン」  
「ペレチエリ  
ン」ハ織蟲ニ  
對シテ猛毒ナ  
リ

人類ニ對シテ  
モ亦毒性ヲ有  
ス

柘榴根皮中ノ  
「ペレチエリ  
ン」ハ鞣酸化  
合物トナリテ  
存ス故ニ体内

柘榴根皮ハ、殊ニ有鉤織蟲ニ效アリ。稀ニハ十二指腸蟲ニモ亦用ヒラル。之ヲ用フルニハ、新鮮ナルモノヲ可トス。其有效成分ハ「ペレチエリン」(Pelletierin) 名「プニツイン」(Punicin)ト稱スル「アルカロイド」ナリ。其他柘榴根皮中ニハ、「二十」ブロセント「許ノ鞣酸及、イゾペレチエリン」竝ニ二三ノ類鹽基ヲ含ム。「ペレチエリン」ハ織蟲ニ對シテ非常ノ毒性ヲ有ス。「シロ」テル Schöder ノ實驗ニ依レバ、一萬倍ノ生理食鹽水中ニ、「ペレチエリン」ヲ溶カシ、其中ニ織蟲ヲ投ズルトキハ、直ニ運動ヲ失ヒテ死スト云フ。「ペレチエリン」ハ、亦人體ニ對シテ毒性アリ。故ニ吸收セララルトキハ、眩暈、昏曠、霧視、發熱、蟻走ノ感、嘔心、嘔吐、疝痛、下痢等ヲ發シ、稀ニハ腓腸痙攣、全身搖擗、虚脱等ノ中樞神經系ノ刺戟ニ次グニ、麻痺状態ヲ以テシ、尙時トシテ弱視、黒内障ヲモ發スルコトアリ。而シテ純粹ノ「ペレチエリン」ハ、吸收セラレ易ク、中毒ヲ起スヲ以テ、藥用ニ供スルコトヲ得ズト雖、柘榴根皮中ニ於テハ、鞣酸化合物トナリテ存シ、吸收セラレ難キヲ以テ、腸ニ至リテ織蟲ニ働クコトヲ得ベシ。販賣ノ硫酸「ペレチエリン」ノ如キモノ



ニ吸収セラレ

糖酸ニ由リテ  
起ル副作用

「コソ」花

「コソ」花ハ糞  
蟲ニ用フ

「コソ」花ハ下  
痢ヲ起ス

「カマラ」

モ、之ニ鞣酸ヲ加へ、鞣酸鹽トナセバ、同ジク驅蟲劑トナスコトヲ得ベシ。  
「ベレチエリン」及其化合物ハ、脂油ニ溶解スルヲ以テ、柘榴根皮又ハ「ベレチエ  
リン」ヲ内用シタルトキハ、下劑トシテ、蓖麻子油ヲ與ヘザルヲ可トス。是、ベレ  
チエリン」ノ吸収ヲ促シ、中毒ヲ來ス虞アレバナリ。  
柘榴根皮中ニハ、鞣酸ノ多量ヲ含ミ、之ガ爲ニ内用ニ當リテ、嘔心、嘔吐、腹痛、下  
痢等ヲ起ス。此副作用ハ柘榴根皮使用ノ際ニ每常見ルトコロナリ。

「コソ」花 Flores Koso.

「コソ」花ハ、「コソトキシシ」Kosotoxinト名クル樹脂様ノ物質ヲ含ム。此物ハ化學  
的ニ前ニ述べタル「フィリキス」酸ニ類似シ、何レノ種類ノ糞蟲ニモ效アリ。「コ  
ソトキシシ」ハ、吸収セラレレバ、毒性ヲ呈シ、心臟麻痺、虚脱、稀ニ視力障礙等ヲ  
起セドモ、通常驅蟲劑トシテ、「コソ」花ヲ用フルモ、中毒作用ヲ起スコトナシ。殊  
ニ、「コソ」花ハ同時ニ下痢ヲ起ス作用アルヲ以テ、其使用後ニ下劑ヲ用フルニ  
及バザル便宜アリ。

「カマラ」 Kamala.

「カマラ」ハ糞  
蟲ニ用フ

「アレコリン」

「サントニン」

「サントニン」  
ハ糞蟲ニ多ク  
用フ  
中毒症状  
五臓器  
痙攣、昏睡

「カマラ」モ亦糞蟲ニ效アリ。其主成分ハ「カマリ」Kamalinナリ。副作用ナキ驅  
蟲劑トシテ稱用セラレ、且自ラ下痢ヲ來タス便アリ。效力緩ニシテ小兒、女子  
ニ用フルニ適ス。

「サントニン」 Santoninum.

「サントニン」ハ、殊ニ蛔蟲ニ多ク使用セラレドモ、蟻蟲、鞭蟲ニモ亦用ヒラル。  
吸収セラレレバ、一種ノ中毒ヲ起ス。其中殊ニ屢現ハル、症狀ハ、五臓器ノ障  
碍ニシテ、既ニ藥用量ニ於テ黃色視、桔梗色視、幻嗅、幻味等ヲ起スコトアリ。其  
多量ヲ用フレバ、體温ノ沈降、意識朦朧、顔面筋咀嚼筋ノ痙攣、甚シキハ一般ノ  
痙攣ヲ起シ、遂ニ昏睡ニ陥リ、呼吸遏止ニ依リテ斃ル。或ハ「サントニン」ニ由リ

「アレコリン」 Arcocolin

「アレコリン」ハ「ベレチエリン」及「ピロカルピン」ニ類似シタル「アレコリン」Arcocolinト  
名ヅクル「アルカロイド」ヲ含ム。主ニ獸醫ノ、犬ニ使用スル驅蟲劑ナレドモ、稀  
ニハ人類ニモ用ヒラル、コトアリ。腸胃ノ刺激、便秘等ノ副作用アリ。



腎臟炎  
慢性中毒

テ腎臟炎ヲ起シ、蛋白尿並ニ血尿ヲ漏ラスコトアリ、急性中毒ノ他、尙「サントニ」ヲ持續シテ内服セシムルトキハ、幻視、黃視、失語等ノ慢性中毒ヲ起スコトアリ、是等ノ症狀ハ、藥用ヲ中止スルモ容易ニ消失セズ、「サントニン」ヲ内服シタルトキノ尿ハ、著ク黃色ニシテ、之ニ「アルカリ」ヲ加フレバ赤色ヲ呈ス、此反應ハ「クリゾファン」酸ヲ含メル尿ノ場合ニ酷似ス（下卷九十九頁參照）サレド「サントニン」ヨリ生ズル色素ハ、尿ヲ酸性ニシ、之ニ「エーテル」ヲ加ヘテ震盪スルモ、「エーテル」ニ溶解セズ、後者ノ色素ハ、斯クスレバ「エーテル」ニ溶解シ、之ニ「アルカリ」ヲ加フレバ、美麗ナル紅色ニ變ズルヲ異ナリトス。

南瓜種子

蕃南瓜(どうなす) *Cucurbita maxima* 南瓜(きくぎ) どうなす) *Cucurbita pepo* 等ノ種子ハ、歐洲ニテ、民間驅蟲劑トシテ、繼蟲ニ用ヒラレ、一回ニ六十乃至八十粒ノ種子ヲ、水中ニ碎キテ内用ス。

品名、製劑、用量、極量及處方

綿馬根

綿馬根 *Rhizoma Filicis.*

綿馬 *Aspidium Filix mas* ノ根ニシテ、乾燥シテ粉末トナシテ、其儘用ヒ、或ハ

丸劑、紙劑トシテ用フ、用量、小兒ニハ四〇乃至五〇、大人ニハ二〇〇乃至二五〇

綿馬越幾斯

綿馬越幾斯 *Extractum Filicis.*

綿馬根ヲ「エーテル」ニテ浸出シタルモノニシテ、綿馬ノ使用セラル、ハ、通常此製劑ナリ、綿馬根末ト共ニ丸劑トナシ、或ハ紙劑トシテ用フ、其用量ハ八〇乃至一〇〇ヲ、二三回ニ分チテ與フ、(一〇〇以上ニ越エザルヲ可トス) 綿馬製劑ヲ用ヒタル後ニ與フル下劑トシテハ、蓖麻子油ヲ用ヒザルヲ可トス。

(處方例)

綿馬越幾斯 綿馬根末 各六〇

右法ニ由リテ大丸子二十四個ヲ作り、早朝空腹時ニ一時間内ニ悉ク服用セシメ、後チ二時間ヲ經テ、複方「センナ」浸半乃至一酒杯ヲ内用セシム。

柘榴根皮

柘榴根皮 *Cortex Radicis Granati.*

綿馬越幾斯 柘榴根皮



柘榴 *Punica Granatum* ノ根皮ナリ其幹ノ皮モ亦效アレドモ根皮ニハ劣レ  
リ。日本薬局方ニテハ、幹皮ヲ採用セズ。柘榴根皮ハ新シキモノホド其效力  
強シ。用量、新シキモノハ三〇〇乃至五〇〇、古キモノハ五〇〇乃至一〇〇。  
○ヲ冷浸煎劑トシテ、二三回ニ分服セシム。

(處方例)

柘榴根皮五〇〇 水三二〇〇  
十二時間冷浸シタル後チ、煎出シテ濾液二五〇〇トナシ、之ニ  
橙皮舍利別三〇〇

ヲ加ヘ、早朝空腹ニ際シ、一時間半内ニ内服セシメタル後チ、二三時間ヲ經  
テ、甘朮〇・三ヲ内用セシム。

硫酸「ペレチエリン」及鞣酸「ペレチエリン」

*Pelletierinum sulfuricum et tannicum.*

「ペレチエリン」ハ、柘榴根皮ノ有效成分ニシテ、硫酸鹽或ハ鞣酸鹽トシテ販  
賣セラル。鞣酸鹽ハ其儘用フルコトヲ得ベキモ、硫酸鹽ニハ鞣酸ヲ加ヘ、ソ

硫酸「ペレチ  
エリン」  
鞣酸「ペレチ  
エリン」

ヲ鞣酸鹽ニ變ゼシメテ用ヒザルベカラズ。用量ハ通常〇・三乃至〇・四許ナ  
レドモ、其製品ニ由リテ效力ヲ異ニシ、從テ其用量一定セザルヲ以テ、實用  
ニ供シ難シ。

「コソ」花 *Flores Koso.*

「ハゲニア、ア、パ、ッ、シ、ヒ、カ」*Hagenia abessinica* ノ雌性ノ梗穂花ヲ乾燥セシメタル  
モノニシテ、其「五〇乃至一〇〇」ヲ振盪合劑トナシ、或ハ舐劑トシ、或ハ「オ  
ブラート」ニ包ミ、又ハ壓迫錠劑トシテ、二三回ニ分服セシム。自ラ下痢ヲ來  
ス作用アルヲ以テ、次デ下劑ヲ用フル必要ナシ。

「カマラ」 *Kamala.*

「マルローツス、フィリッピンヅ」*Mallotus philippinensis* (琉球ノくすのはがし  
は)ノ果實ノ皮腺ヲ剝落セシメタルモノナリ。五歳乃至十歳ノ小兒ニハ、一  
回二〇乃至五〇、大人ニハ一回一〇〇乃至一五〇ヲ振盪合劑、舐劑或ハ大  
丸子トシテ用フ。自ラ下痢ヲ起ス作用アリ。

「コソ」花

「カマラ」

「コソ」花 「カマラ」



檳榔子

檳榔子 Semen Arecae.

檳榔樹 *Areca Catechu* ノ實ニシテ、獸醫ニハ汎ク糞蟲劑トシテ用ヒラルレドモ、人類ニハ用ヒラル、コト少ナシ用量一回四〇乃至六〇。

臭化水素酸「アレコリン」

臭化水素酸「アレコリン」 *Arcolinum*

*hydrobromicum.*

「アレコリン」ハ、檳榔子ノ有效成分ナリ。日本藥局方ニハ舉ゲラレズ。獨逸藥局方ニハ、臭化水素酸「アレコリン」トシテ記載セラレタレドモ、人類ニ用ヒラレタルコト少ナキ爲、其極量ヲ示サズ。用量一回〇〇〇四乃至〇〇〇六。

「シナ」花

「シナ」花 *Flores Cinac.*

「アルテミジア、マリチマ」 *Artemisia maritima* ノ未開ノ小花頭ニシテ、一五乃至二「プロセント」ノ「サントニン」ヲ含ム。紙劑、振盪合劑等トシテ用ヒタレドモ、現今ハ「サントニン」ヲ用フルヲ以テ、之ヲ用フルコトナシ。用量一回〇五乃至五〇。

「サントニン」

「サントニン」 *Santoninum.*

「シナ」花ノ有效成分ニシテ、水ニ溶ケ難キ結晶ナリ。永ク光線ニ觸ルレバ、黃色ニ變ズ。用量小兒ニハ〇〇二、大人ニハ〇〇五乃至〇一極量日本藥局方一回〇一、一日〇三。

(處方例)

「サントニン」 〇一 甘朮 〇二 白糖 五〇

右散藥トシテ十包ニ分チ、午前空腹時ニ、一時間毎ニ、一包ヲ内用シ、三時間内ニ三包ヲ服用セシム。

「サントニン」錠劑

「サントニン」錠劑 *Trochisci Santonini.*

「サントニン」錠ハ、日本藥局方ノモノハ、一箇ノ中ニ、〇〇二ノ「サントニン」ヲ含ム。小兒等ニ用フルニ適ス。



### 第一六 鞣酸屬

#### Gruppe der Gerbsäuren.

所在

通有性

植物界ニハ、鞣酸 Gerbsäure 或ハ鞣質 Gerbstoffト名クル物質ヲ含有スルモノ甚ダ多シ。其通有ノ性質ハ、組織殊ニ結締織ノ産膠質ト化合シテ、一種ノ硬キ物質、即チ所謂鞣皮ヲ生ズルニアリ。其他鞣酸ハ蛋白質、蛋白様質、膠質ト化合シテ、硬キ物質ヲ形成スル作用アリテ、是等ノ溶液ヨリシテ、沈澱ヲ生ゼシムルアルカロイド、及之ニ類似シタル物質、並ニ重金屬モ亦鞣酸ニ遇ヒテ不溶解性ノ化合物ヲ形成スベシ。鞣酸並ニ之ヲ含メル物質ノ醫療ニ應用セラル、ハ、如上ノ化學的性質アルニ由ル。

鞣酸ハ植物ノ種類ノ異ナルニ從ヒテ、多少其化學的性質ヲ異ニス。其中最モ汎ク用ヒラル、ハ、タンニン酸即チ没食子鞣酸ナリ。故ニ茲ニハ、之ヲ鞣酸屬ノ代表者トシテ、其生理的作用ヲ説クベシ。

#### 生理的作用

鞣酸ハ局部所ニ

鞣酸ハ、粘膜又ハ表皮ノ剝離シタル皮膚ニ觸ル、トキハ、其組織ノ含窒素物

收斂作用

止血作用

ト化合シテ、水ニ不溶解性ノ化合物ヲ生ジ、而シテ其化合物ハ、一種ノ被膜トナリテ、其部分ヲ被覆スベシ。殊ニ粘膜ニ炎症等アリテ、其分泌ノ盛ナル場合ニハ、被膜ヲ生ジ易ク、而シテ此被膜ハ、微菌ノ發育ニ不適當ナルノミナラズ、其炎症ヲ發シタル部分ハ、之ニ依リテ外來ノ刺戟ヲ免ル。加之鞣酸ハ病原タル微菌ヲ殺シ、發炎症細胞崩壊性酸酵素及細胞壞死ノ際ニ生ズル發炎症物質ヲ破壞スルヲ以テ、炎症ハ速ニ治癒シ得ベシ。而シテ之ト同時ニ、其部ノ毛細管ノ内皮細胞間質ハ、鞣酸ト化合シテ鞣皮様トナルヲ以テ、分泌及白血球ノ遊走ヲ減ジ、之ガ爲ニ組織ハ其充血ヲ去リ、乾燥シテ硬固トナリ、知覺鈍麻ス。是即チ所謂收斂作用ニシテ、鞣酸ハ、斯ノ如キ場合ニ、植物性收斂劑トシテ、汎ク應用セラル。然レドモ其度強キニ過グルトキハ、局部ヲ腐蝕シ、却テ炎症反應ヲ起ス。

出血部ニ、鞣酸ヲ用フルトキハ、血液ノ蛋白質ト化合シテ、不溶解性ノ物質ヲ生ジ、其物質ヲ以テ出血口ヲ被ヒ、止血セシムルコトヲ得ベシ。

鞣酸ヲ内用スレバ、胃ノ粘膜ニ收斂ヲ起ス。サレド之ヲ大量ニ用フレバ、組織ノ蛋白ヲ沈澱セシムルコト多キニ過ギ、之ガ爲ニ、其附近ニ炎症反應ヲ起シ



純粋ノ鞣酸ハ  
腸ニ達セズ途  
中ニテ變化ス  
植物「エキス」  
中ノ鞣酸ハ腸  
ニ達スルコト  
ヲ得、及其理  
由

鞣酸ノ吸收

吸收後ノ鞣酸  
ニハ收斂作用  
ナシ

多少腐蝕ノ作用ヲ呈シ、嘔氣、嘔吐、胃痛等ヲ起ス。通常内服シタル鞣酸ハ、胃ノ内容物若クハ其粘液ト化合シ、鞣酸ノ儘ニテハ腸ニ達スルコト無シ、而シテ胃ニ於テ化生シタル鞣酸ノ蛋白化合物ハ、腸ニ至レバ、其「アルカリ」ニ遇ヒテ鞣酸「アルカリ」ト蛋白質トニ分解ス。鞣酸「アルカリ」ハ、收斂ノ作用ヲ有セズ、故ニ鞣酸ハ通常純粹ノモノヲ用フルニ、腸ニ收斂ノ作用ヲ呈スルコトナシ。サレド多クノ鞣酸ヲ含有スル植物ノ「エキス」ノ如キモノハ、膠様物質、護膜質若クハ粘液質ト共ニ存スルヲ以テ、其鞣酸ノ胃中ニ於テ、他ノ物質ト化合スルコトヲ妨グ、從ヒテ遊離ノ鞣酸ヲ腸ニ達セシメテ、收斂作用ヲ呈スルコトヲ得ベシ。

鞣酸ノ蛋白化合物ハ、「アルカリ」ニ溶解シ、鞣酸「ペプトーシ」及「アルブモーゼ」ハ過剰ノ鞣酸ニ溶解シ、鞣酸「アルカリ」ハ水ニ溶解ス。故ニ内服シタル鞣酸ノ一部分ハ、此形ニテ血液中ニ吸收セラルベシ。サレド鞣酸ノ收斂作用ハ、組織ノ物質ト化合シテ、不溶性ノ物質ヲ形成スルニアルヲ以テ、此吸收セラレタル鞣酸ハ、種々ノ臓器ニ對シテ、收斂作用ヲ呈セザルコト勿論ナリトス。但吸收セラレタル鞣酸ノ、腎臟ヨリ排泄セラル、ヤ、其大部分ハ變化シテ、沒食子

鞣酸ハ一部分  
ハ尿中ニ排泄  
セラル

腎臟ニ對スル  
收斂作用

尿路ニ於ケル  
收斂作用

鞣酸ハ「アル  
カリ」ト共ニ  
内用スレバ多  
量ニ吸收セラ  
ル

粘膜ノ炎症皮  
膚ノ損傷ニ用  
フ

止血ノ目的

酸 *Callussäure* 及焦性沒食子酸 *Pyrogallussäure* トナリテ尿中ニ來ルモ、尿ハ通常酸性ナルヲ以テ、少クトモ鞣酸ノ一部分ハ遊離ノ形ニテ尿中ニ存スベシ。鞣酸ハ、其排泄臓器、即チ腎臟ニ對シテ、收斂ノ效ヲ奏スルヤ、否ヤハ、未ダ確ニ實驗的ノ證明ヲ經ズト雖、理論ヨリ云ヘバ、多少其作用アルベキハズナリ、而シテ尿路、殊ニ膀胱ニ於テ、鞣酸含有ノ尿ノ、收斂作用ヲ呈スルコトハ、臨牀上明ニ之ヲ證明シ得ベシ。

### 醫治效用

鞣酸ハ「アルカリ」ト化合スレバ、吸收セラレ易キヲ以テ、成ルベク多量ノ鞣酸ノ吸收セラレンコトヲ望ム場合ニハ、「アルカリ」ト共ニ用フルヲ可トス。

**醫治效用**

粘膜ノ炎症、竝ニ皮膚ノ損傷ニテ、直接ニ適用スルコトヲ得ベキ場合ニハ、他ノ無力ノ物質ニ加ヘテ、其粉末ヲ撒布シ、慢性鼻加答兒、慢性喉頭加答兒等ニハ、器械ヲ用ヒテ其部分ニ吹入ス。其他褥瘡等ニハ軟膏トシテ用ヒ、白帶下、慢性尿道炎等ニハ、坐藥トシテ用ヒ、又ハ水溶液ヲ注入ス。慢性ノ氣管若クハ氣管支加答兒ニハ、水溶液ヲ吸入セシムルコトアリ。

血管ヲ結紮スルコトヲ得ザル實質性出血ノ如キ場合ニ於テ、直接ニ應用シ



止血ハ局所ニ  
ノミ起ル  
腸胃ノ出血ニ  
用フ  
吸収後ハ止血  
作用ナシ

腸胃加答兒ニ  
内用ス

膀胱加答兒ニ  
内用ス

解毒薬トシテ  
或種ノ中毒ニ  
用フ

得ラル、部分ニハ、止血劑トシテ外用シ、腸胃ノ如キ外方ヨリ達シ難キ部分  
ノ出血ニハ内服セシム、肺殊ニ氣管ノ出血ニハ吸入セシムルコトアリ、サレ  
ド吸収後ノ遠達作用トシテ止血セシムルコトハ、到底望ムベカラズ、但シ腎  
臟ヨリ排泄セラル、ヲ以テ、腎竝ニ尿路ノ出血ニ鞣酸ヲ内服セシムルコト  
アリ、

鞣酸ハ腸胃ノ加答兒ニ内服セシムルコトアリ、胃ニハ其單味ノモノヲ用ヒ  
得ベキモ、腸ニハ鞣酸ヲ含有シタル植物ノ「エキス」ニ非ザレバ、其效ヲ奏セザ  
ルベシ、赤痢、コレラ等ニ、鞣酸溶液ヲ直腸ヨリ注入シテ、其收斂作用ヲ望ミシ  
コトアレドモ、今ハ殆ド用ヒラレズ、

尿中ニ排泄セラル、鞣酸ノ收斂作用ヲ應用シテ、膀胱加答兒ニソヲ内服セ  
シムルコトアリ、通常此目的ニ應用セラル、ハ、ウヅ、ウルジ、葉ナリ、但此藥物  
ハ、單ニ鞣酸ニ由リテ、收斂作用ヲ呈スルノミニアラズシテ、他ノ有效成分ヲ  
モ含有セリ(後ニ詳ナリ)

其他鞣酸ハ、諸種ノ「アルカロイド」性毒物竝ニ重金屬鹽類ノ中毒ニ當リテ、解  
毒薬トシテ用ヒラル、即チ過失又ハ故意ニ、是等ノ毒物ヲ内服シタルトキ、其

其理由

重炭酸曹達ニ  
テ胃酸ヲ中和  
スベシ

「タンニン」酸

未ダ吸収セラレズシテ、消化器内ニ存スル間ニ、鞣酸ヲ服用セシメ、ソヲ不溶  
解性ノ鞣酸鹽類トナシテ、其吸収ヲ妨グルニアリ、但是等ノ鞣酸化合物ハ、久  
シク消化器内ニ留マルトキハ、漸次再ビ分解シ、若クハ蛋白質中ニ溶解シテ  
吸収セラレ、中毒作用ヲ呈スルガ故ニ、速ニ吐劑若クハ下劑ヲ與へ、或ハ器械  
ヲ以テ胃ヲ洗滌シテ、之ヲ排出セシメザルベカラズ、鞣酸ヲ解毒薬トシテ用  
フルニハ、之ニ重炭酸曹達ヲ加フベシ、是胃中ノ鹽酸ハ、鞣酸化合物ヲ溶解ス  
ル作用アルヲ以テ、重炭酸曹達ニテ鹽酸ヲ中和セシムル爲ナリ、解毒薬ノ使  
用ハ、通常急ヲ要スルモノナルガ故ニ、一般ノ家庭ニ於テハ、此場合ニ、多ク鞣  
酸ヲ含有スル物質、即チ茶、樹皮(即チ薪材ノ皮ノ如キモノ)ノ煎汁等ヲ代用ス  
ルヲ可トス、

品名、用量及處方

「タンニン」酸(沒食子鞣酸) Acidum tannicum.....

Acidum Gallotannicum.

外用ニハ、撒布藥、軟膏若クハ坐藥トシテ、凡二十「プロセント」ノ「タンニン」酸

鞣酸類 品名、用量等 「タンニン」酸(沒食子鞣酸)



ヲ加ヘタルモノヲ用フルヲ可トス。吸入、注射等ニハ、一乃至二「プロセント」ノ溶液ヲ使用ス。消化器收斂ノ目的、即チ内用ニハ、一回〇・一乃至〇・三ヲ用フ。赤葡萄酒一「リートル」中ニハ、〇・五乃至四・〇ノ鞣酸ヲ含メルガ故ニ、其百立方「センチメートル」即チ凡五勺内外ヲ用フルトキハ、恰モ鞣酸ノ藥用量ヲ内服セシメタル割合トナルベシ。鞣酸ヲ解毒藥トナスニハ、其大量ヲ與ヘ、而シテ直ニソヲ排出セシムベキモノナルヲ以テ量ノ制限ナシ。

(處方例)

「タンニン」酸三・〇 「アラビアゴム」適宜

右法ニ依リ三十九子ヲ作り、一日數回一丸宛内用(胃加答兒)

五倍子(沒食子) Gallae.

日本藥局方ニ舉ゲタルハ、呀蟲ノ刺シタル爲ニ生ジタル鹽膚木(ふしのき) *Rhus semialata* ノ囊狀ノ贅生物、即チ五倍子ニシテ、獨逸藥局方ニ舉ゲタルハ、沒食子蛇ノ刺シタル爲ニ生ジタル櫟樹 *Quercus lusitanica* ノ球狀ノ贅生物、即チ沒食子ナリ。五倍子中ニハ六十五乃至七十五「プロセント」沒食子中

五倍子

沒食子

五倍子丁幾

ニハ、六十乃至七十「プロセント」ノ鞣酸ヲ含ム。現今ニ於テハ、此儘ニテ藥用ニ供セラル、コトナシ。

五倍子丁幾 Tinctura Gallarum.

日本藥局方ニ據レバ、五倍子一分ニ稀酒精五分ヲ加ヘテ製ス。凍瘡等ニ外用スルニ適ス。内用ニハ、下痢等ニ一回〇・五乃至二・〇ヲ用フ。

「ウヅ、ウルジ」葉 Folia Uvae ursi.

「ウヅ、ウルジ」葉  
「アルブチン」  
「ウルゾン」  
「ウヅ、ウルジ」葉ノ、尿ニ  
制酵防腐ノ力  
ヲ與フル所以

「アルクトスタフィロス、ウヅ、ウルジ」 *Arctostaphylos Uvae ursi.* (くまこけも)ノ葉ニシテ、鞣酸ノ他ニ「アルブチン」 *Arbutin* 並ニ「ウルゾン」 *Ursol* ヲ含ム。「アルブチン」ハ、一種ノ配糖質ニシテ、體內ニ於テハ分解シテ葡萄糖並ニ「ヒドロヒノーン」及「メチール、ヒドロヒノーン」トナル。後ノ二者ハ、石炭酸ニ類似シ、體內ニ於テ硫酸ト複合シテ、一種ノ「エーテル」硫酸ヲ形成シ、尿中ニ排泄セラレテ、防腐及制酵ノ作用ヲ呈ス。「ウルゾン」ハ、多少利尿ノ作用アリ。故ニ「ウヅ、ウルジ」葉ハ收斂作用ノ他ニ、防腐並ニ利尿ノ作用ヲ兼テ、凡テ尿路、殊ニ

五倍子丁幾 「ウヅ、ウルジ」葉



ノ外防瀉利尿  
ノ效アリ

膀胱ノ加答兒性疾患ニ與ヘテ、粘液ノ分泌過剩竝ニ化膿ヲ制スル作用アリ、用量一日一〇〇乃至二〇〇ヲ、多量ノ水ニテ煎出シ、茶劑トシテ用フ。

(處方例)

「ウヅ、ウルジ」煎 (二〇〇)一八〇〇 橙皮舍利別 二〇〇  
右半酒杯宛、二時間毎ニ内用(膀胱加答兒)

阿仙藥

阿仙藥 Catechu.

日本藥局方ノ阿仙藥ハ、「アカツィア、カタヒュー」Acacia Catechu及「ウンカリア、ガムビール」Uncaria Gambirヨリ採取シタル水製「エキス」ヲ乾燥シタルモノナリ、前者ヲ「ベグ」阿仙藥ト云ヒ、後者ヲ「ガムビール」ト名ヅク、凡ソ六十五「プロセント」ノ阿仙藥糝酸ヲ含ミ、殊ニ腸ノ收斂ノ目的ニ適ス。一回〇三乃至一〇ヲ粉末トシ、或ハ他ノ粘液性ノ物質ニ加ヘテ内用ス。

(處方例)

阿仙藥 一〇〇 白糖 四〇〇 「アラビアゴム」適宜  
右錠劑五十個ヲ作り、一日四五個宛内用。

阿仙藥丁幾

阿仙藥丁幾 Tinctura Catechu.

日本藥局方ニ據レバ、阿仙藥一分、稀酒精五分ヨリ製ス、内用ニ供セラル。

「キノ」

「キノ」Kino.

「プテロカルプス、マルズビウム」Pterocarpus Marsupiumノ皮ヨリ滲出シタル液汁ヲ乾固セシメタルモノナリ、内用殊ニ腸ノ收斂ニ適ス、用量ハ阿仙藥ニ同ジ、外用ニハ、止血、收斂性ノ含嗽、注射等ニ用フ。

「ラタニア」根

「ラタニア」根 Radix Ratanhiae.

「クラメリア、トリアンドラ」Krameria triandra 樹ノ根皮ニシテ、約二十乃至四十五「プロセント」ノ「ラタニア」糝酸ヲ含ム、用量一回〇五乃至一五ヲ、十乃至二十倍ノ水ニ煎出シ、粘液性ノ物質ニ混ジテ使用ス、其「エキス」及「丁幾」モ亦内用ニ供スルニ便ナリ。

「サルギア」葉

「サルギア」葉 Folia Salviae.



「サルビア、オフィツィナリウス」Salvia officinalisノ葉ヲ乾燥シタルモノニシテ、鞣酸及揮發油ヲ含ミ、局所ニ收斂竝ニ輕キ刺激作用ヲ呈ス。口腔、喉頭、齒齦等ノ加答兒性疾患ニハ、十倍ノ水ニ浸出シ、含嗽劑トシテ屢、使用セラル。齒磨粉ノ中ニ入ル、コトアリ。往時ハ、瀉下、止汁、催乳等ノ目的ニ用ヒタレドモ、今ハ殆ド用ヒズ。用量一回〇・五乃至一・〇。

麒麟血脂  
胡桃葉  
トルメレンチ  
ルラ根  
カンベシ  
カンベシ  
木

其他鞣酸ヲ含メル植物生藥ハ、麒麟血脂 Resina Draconis 檫皮 Cortex Quercus 胡桃葉 Folia Juglandis 「トルメレンチルラ」根 Radix Tormentillae 「カンベシ」木 Lignum campechianum 等ナリ。

鞣酸ヲ含有セル化學的製劑ニシテ、鞣酸ニ代用シテ、之ヨリモ其效力多シト稱セラル、モノアリ。今其主ナルモノヲ列舉スレバ、次ノ如シ。

「タンニン」酸「アルブミン」(「タンナルビン」)

Albuminum tannicum. (Tannalbumin)

「タンニン」酸ト蛋白質トノ化合物ニシテ、五十「プロセント」ノ「タンニン」酸ヲ含ミ、凡テノ下痢ニ稱用セラル。胃ニ於テ變化セズ、腸ニ到リテ初メテ鞣酸

「タンニン」酸  
「アルブミン」  
「タンナルビン」

ヲ遊離ス。胃ヲ刺激セザル長所アリ。用量一回一・〇乃至二・〇宛、一日數回用フ。

「タンニン」(「タンノビン」) Tanninum. (Tannopinum.)

「タンニン」酸ト「ウロトロピン」トノ結合物ニシテ、「タンナルビン」ト同一ノ目的ニテ内用ニ供ス。

「タンノフォルム」 Tannoformum.

「タンニン」酸ト「フォルムアルデヒド」トノ結合物ニシテ、外用ニハ撒布劑若クハ軟膏(五乃至十倍)トシテ收斂ノ目的ニ用フ。殊ニ限局性發汗過多ニハ特效アリト云フ。内用ニハ收斂及防腐ノ目的ニテ、一回〇・五許ヲ用フ。

「カプトール」 Captolum.

「タンニン」酸ト「クロラール」トノ結合物ニシテ、一乃至二「プロセント」ノ酒精溶液トナシテ、脱毛症ヲ伴ヘル頭部ノ脂漏症ニ用ヒ、其效著シト云フ。

「タンノーン」

「タンノフォルム」

「カプトール」



「タンノザール」

「タンノザール」 Tannosalum.

「タンノザール」ハ鞣酸「クレオソート」ニシテ、收斂、防腐、制酵ノ作用アリ。吸收セラレタル後ハ、「クレオソート」ト同一ノ作用アルヲ以テ、其代用ニ供スルコトヲ得ベシ。

「アセチールタンニン」(「タンニゲーン」)

Tanninum acethylicum. (Tannigenum.)

「アセチールタンニン」

「アセチールタンニン」ハ、水ニ溶解セズ。收斂ノ效アリ。腸ノ收斂ノ目的ニ、「タンニン」酸ニ代用セラル。

其他「デルマトール」 Dermatol (鹽基性没食子酸蒼鉛)「タンナール」 Tannal (鹽基性鞣酸「アルミニウム」)「ビスマール」 Bismal (「メチレン」重没食子酸蒼鉛)「クターール」 Cural (鞣酸及硼酸「アルミニウム」)等ハ、鞣酸ヲ含ミ、何レモ皆收斂劑トシテ用ヒラル。是等ノ藥物ノ收斂作用ハ、一部分鞣酸ニアルコト勿論ナレドモ、主ナル作用ハ、其金屬ニアルヲ以テ、後章其部類ニ於テ細説スベシ。

### 第三類 無機化合物

Unorganische Verbindungen.

無機化合物ニ  
諸種ノ作用アリ

無機物質、即チ酸、鹽基、造鹽素、鹽類等ハ、或ハ神經、筋肉ノ機能ヲ變化シ、或ハ物質交換ニ變化ヲ來シ、或ハ局部ノ營養ヲ障礙スル作用アリ。今茲ニ其作用ヲ説明セントスルニ當リテ、先ヅ無機化合物ハ、如何ナル状態トナリテ水中ニ溶解セルカト云フコト、及其水溶液ハ、如何ナル理學的性質ヲ有スルカト云フコトヲ、概説シ置クベキ要アリ。

解離 Dissociation.

解離

解離産物

無機化合物ノ酸類、鹽基、並ニ鹽類等ノ水溶液ハ、少クトモ其分子ノ一部分ハ原子若クハ原子叢ニ解離スルモノニシテ、其解離シタルモノヲ稱シテ、解離産物 Dissociationsprodukte 即チ「イオン」 Ionen ト云フ。若シ其水溶液極テ稀薄ナルトキハ、溶液中ノ凡テノ分子ハ十分完全ニ解離シテ、全ク「イオン」トナルニ至ルベシ。今此水溶液ニ電氣ヲ通ズルトキハ、「イオン」ハ、其性質ニ由リテ



「アニオン」  
「カチオン」

或ハ積極ニ、或ハ消極ニ遊離スルモノニシテ、其積極ニ集マルモノヲ「アニオン」、Anionト稱シ、消極ニ集マルモノヲ「カチオン」、Kationト稱ス。斯ノ如ク酸類、鹽基及鹽類ノ分子ノ、水溶液中ニテ二種ノ「イオン」ニ解離スト云フコトハ、原子交換ノ行ハル、原因ニシテ、獨リ化學上ノミナラズ、生理學上ニモ將タ藥理學上ニモ、重要ナル關係ヲ有スルモノトス。有機化合物ニテモ、其中ノ或物ハ、水溶液中ニテ解離スレドモ、多クハ解離ヲ起スコトナシ。

竄透

竄透 Diffusion.

膜溶液ト稀溶液トハ理學的  
液孔ヲ有スル  
氣孔ヲ有スル  
中隔ヲ透シテ  
相平均シ其際  
流動ヲ起ス

無機化合物及有機化合物ノ何レヲ問ハズ、一定ノ物質ヲ以テ、濃度ヲ殊ニスル二種ノ水溶液ヲ製シ、ソヲ動物膜、羊皮紙若クハ其他ノ理學的氣孔ヲ有スル中隔ヲ以テ區分スルトキハ、其濃溶液ニ溶解シタル物質ハ、中隔ヲ透シテ次第ニ稀溶液ノ方ニ流出シ、之ト同時ニ稀溶液中ノ水分ハ、反對ニ濃溶液ノ方ニ流入シ、而シテ彼我ノ溶液ノ濃度ノ、全ク同一トナルニ至リテ止ムヲ見ルベシ。又若シ茲ニ異種ノ二溶液アリテ、動物膜ノ如キ中隔ヲ隔テ、相接ス

等竄壓  
等竄壓溶液  
非等竄壓溶液  
劣竄壓溶液  
優竄壓溶液

竄透作用ハ凡  
テ生活體ノ生  
存ニ必要ナリ  
細胞被膜ノ竄  
透性

細胞ノ劣竄透  
壓溶液中ニア  
ルトキ

ルトキニ、其各溶液ニ於ケル分子(物質ノ解離シタルトキハ「イオン」)ノ濃度ニ差異アルトキハ、其分子ノ同濃度ニ達スル迄、同ジク此流動ヲ起スベシ。斯ノ如クシテ二液ノ平均ノ状態ヲ保ツトキハ、之ヲ等竄壓 Isotonicト稱シ、其溶液ヲ稱シテ等竄壓溶液 Die isotonischen Lösungenト云フ。之ニ反シテ平均ノ状態ニアラザル溶液ヲ非等竄壓溶液 Die anisotonischen Lösungenト云ヒ、就中其分子ノ濃度少ナキヲ劣竄壓溶液 Die hypotonischen Lösungenト云ヒ、多キヲ優竄壓溶液 Die hypertotonischen Lösungenト云フ。

竄透作用ハ、有機體中ニ於テハ、其ダ汎ク行ハル、モノニシテ、其生存上非常ニ必要ナル作用ナリトス。而シテ生體ヲ構成スル各細胞ノ被膜ハ、水ニ對シテハ、殆ド完全ナル竄透性ヲ有スレドモ、鹽類其他組織液中ニ溶解セル物質ニ對シテハ、細胞ノ種類ニ從ヒテ、竄透ニ難易アリ。即チ各種ノ細胞ハ、諸種ノ物質ノ竄透ニ對シテ、特異ノ性質ヲ現スモノトス。生體ノ細胞ノ竄透壓ヨリモ、其周圍ニ存スル液體ノ竄透壓ノ低キ場合、即チ細胞ノ劣竄透壓溶液中ニ存スル場合ニハ、其周圍ノ水分ノ細胞ニ竄入スル爲ニ、細胞ハ膨脹ス、之ニ反シテ細胞ノ周圍ノ竄透壓ノ高キ場合、即チ優竄透



優竇透壓溶液中ニアルトキ

動物體細胞ノ竇透壓

細胞ニ對スル生理學的ノ等竇透壓ハ直ニ生理的ノ等竇透壓トナスベカラズ

生理食鹽水

壓溶液中ニ在ル場合ニハ、細胞ノ水分ハ、周圍ニ流出シテ、其細胞萎縮スベシ此事ハ、赤血球ヲ顯微鏡下ニ置キテ、之ヲ水ヲ加へ、或ハ食鹽ノ濃溶液ヲ加フルニ由リテ、明カニ目撃シ得ベシ。

人類竇ニ高等溫血動物體中ニ存スル細胞ノ生理學的竇透壓ハ、凡〇九、プロセントノ食鹽溶液ト略同等ナリ、(從來〇六乃至〇七五、プロセントノ食鹽水ヲ生理的ト稱シ、之ヲ細胞ノ竇透壓ト同一ナリトセシモ、近來ノ實驗ニ由リテ、細胞竇透壓ノ〇九、プロセントノ食鹽水ニ等シキヲ知リ得ルニ至レリ)サレド茲ニ注意スベキハ、溶液ト細胞ノ内容ト、分子ノ濃度ノ同一ナリト云フコトハ、單ニ生理學的ノ等竇透壓ヲ有スルヲ意味スルノミニシテ、直ニ之ヲ生理的等竇透壓ト看做スベカラザルコトナリ。細胞ノ内溶液ト其周圍ノ溶液トノ、タトヒ生理學的等竇透壓ヲ有スル場合ニ於テモ、溶解セル物質ノ相違セル場合ニハ、細胞内外ノ物質ノ交換行ハレテ、細胞中ヨリ生理的成分流出シ、之ニ代リテ周圍ヨリ生理的ナラザル物質竇入シ、其生活狀態及機能ノ變化ヲ來スベシ。但前記ノ〇九、プロセントノ食鹽水、即チ所謂生理食鹽水 Diep hysiologische Kochsalzlösung ハ、細胞内溶液ト生理學的ニ等竇透壓ナルノミナラズ、動物ノ組織

生理食鹽水モ完全ニ生理的ニアラズ

局所腐蝕

鹽類作用

液中ノ鹽類ノ大部分ハ、食鹽ヨリ成レルヲ以テ、生理的ニモ殆ド等竇透壓ナリ。サレド此食鹽水ト雖、尙全ク生理的ナラザルコトハ、種々ノ試驗ニ依リテ之ヲ了解シ得ベク、從テ細胞ハ、此中ニ於テハ、永ク生活スルコトヲ得ザルモノトス。

無機化合物ノ動物體ニ對スル作用ハ、之ヲ三種ニ區別スルコトヲ得ベシ。

第一化學的作用 Chemische Wirkung 無機化合物ノ多數ハ、其化學

的親和力強キヲ以テ、之ヲ動物體ノ組織ニ觸ル、トキハ、組織ノ成分ト化學的結合ヲ營ミ、其部分ニ於テ所謂腐蝕ヲ來スベシ。

第二理學的作用 Physikalische Wirkung 種々ノ無機化合物體ノ水溶

液ハ、其含マレタル分子及解離產物ノ數ニ依リテ、種々ノ竇透壓ヲ有スルモノニシテ、之ヲ動物體ノ組織ニ觸ル、時、若シ細胞内容ヨリモ、其竇透壓高ケレバ、組織ノ細胞ヨリシテ水ヲ竇出セシメ、從テ機能ノ障礙ヲ來スニ至ルベシ。組織ニ對シテ直接ニ化學的變化ヲ起サル中性、アルカリ、鹽類ニ由テ起ル局所ノ刺激ハ、此理學的作用ニ原クモノニシテ、之ヲ鹽類作用 Salzwirkungト稱ス。此作用ハ、必シモ無機化合物體ニノミ特有ナルニアラズ、有機化合物體ニ



鹽類作用ハ敢  
テ無機化合物  
ニノミ特有ナ  
ルニアラズ有  
機化合物ニモ  
存ス有機化合  
物ニ於テ鹽類  
於テ認識セラ  
ザル理由

テモ、水ニ溶解シ得ベキ物質ニシテ、其溶液ノ竄透壓高キモノハ、同ジク此作  
用ヲ起スベシサレド上章ニ説キタル「アルカロイド」ノ如キ強キ毒物ハ、極テ  
少量ニテ有機體ニ劇シキ作用ヲ呈スルモノニシテ、斯ル量ニ於テ起ル鹽類  
作用ハ、之ヲ認識スルコトヲ得ズ、又糖分、蛋白質ノ如キモノハ、吸收セラレ  
バ直ニ燃燒シ果ツルヲ以テ、同ジク其理學的作用ヲ認メ難シ、殊ニ蛋白質ノ  
如キ膠様物質ハ、其分子量非常ニ大ナルヲ以テ、其溶液ハ甚ダ濃厚ナルモノ  
ト雖、竄透壓ハ細胞ノ内容ヨリモ甚シク勝ルコトヲ得ズ、從テ認メ得ベキ鹽  
類作用ヲ起サズ。

第二特異作用 *Spezifische Wirkung* 無機化合物ノ解離產物、即チ「イオ

「イオン」ハ  
各自ニ固有ノ  
作用アリ  
解離セザル化  
合物ハ固有ノ  
「イオン」作  
用ナシ

ン」ハ、神經系、筋肉若クハ諸種ノ臟器ニ對シテ、各自固有ノ特異作用ヲ現ハ  
ス。例ヘバ「プロウム、カリウム」ハ解離スレバ「プロウム、イオン」ト「カリウム、イ  
オン」トノ特異作用ヲ現ハスガ如シ。金屬ノ有機化合物中ノ或物ハ、水溶液  
中ニ於テ解離セズ、從テ其金屬ノ特異ナル「イオン」作用ヲ起スコトナシ。例  
ヘバ水銀ノ諸種ノ有機化合物ハ、水銀ノ無機化合物ト異ナリ、少シモ水銀ノ  
作用ヲ現ハササルガ如シ。

### 第一部 水及中性「アルカリ」鹽類

*Wasser und neutrale Alkalisalze.*

#### 第一 水屬

*Gruppe des Wassers.*

#### 生理的作用及醫治效用

局所作用 純粹ノ水ハ、生理的ニ無力ノモノニ非ズシテ、凡テ有機體ノ細

純粹ノ水ハ生  
理的無力ニア  
ラズ

純粹ノ水中ニ  
ハ體素ヲ含有  
セシムルモ魚  
類ハ生活シ得  
ズ

胞ニ觸ル、トキハ、其中ニ存スル鹽類及其他凡テ水ニ溶解セル物質ヲ竄出  
セシメ、水ハ細胞中ニ竄入シテ、プロトプラスマ原形質ヲ膨大セシメ (*Plasmolyse*)、甚シキハ之ガ  
爲ニ、全ク細胞ヲシテ其生活力ヲ失フニ至ラシムルコトアリ。故ニ純粹ナル  
水中ニ於テハ、假令其中ニ空氣ヲ通ゼシムルモ、淡水魚スラ生活ヲ保ツコト  
ヲ得ズ、之ヲ人類ニ飲用セシムルモ、胃ノ粘膜炎ヲ刺戟シテ嘔氣ヲ催シ、甚シキ  
ハ嘔吐ヲ發シ、腸ニ於テハ下痢ヲ來スヲ見ル。又若シ水ヲ甚ダ輕度ニ組織ニ  
働カシムルトキハ、其組織ノ機能並ニ榮養ノ障礙ヲ起スヲ見ル。此作用ハ或

水ハ胃粘膜炎  
刺戟ス  
水ノ作用ヲ治  
療ニ應用ス

水及中性「アルカリ」鹽類 水屬 生理的作用及醫治效用



溫浴冷浴ハ生理的作用ニ基キ水ノ生理的作用ニアラズ

浴ヲ持續スルトキハ皮膚ノ刺戟ヲニシテ其應用

水ノ内服

場合ニ於テハ、治療ニ應用スルコトヲ得ベシ。身體ノ外表、即チ皮膚ニハ、水ハ所謂溫浴或ハ冷浴トシテ應用セラル。サレド健康ナル皮膚ハ、其表皮竝ニ皮脂ノ爲ニ、水ヲ竄透セザルヲ以テ、治療上ニ浴ノ應用セラル。ハ、唯水ノ溫度ノ理學的作用ニ原ヅクモノニシテ、水ノ生理的作用ニ非ズ。斯ノ如ク、浴ハ理學的作用ニ屬スルヲ以テ、茲ニハ説カザルベシ。サレド若シ浴ヲ非常ニ久シク持續スルトキハ、水ハ表皮ノ上層ニ浸潤シテ、ソノ柔軟ナラシメ、從ヒテ皮膚ニ甚ダ輕度ノ刺戟ヲ與ヘ、若シ皮膚ニ病アル場合ニハ、其病的組織ノ剝離ヲ促スコトヲ得ベシ。此他表皮ノ剝離、創傷、潰瘍等ニ浴ヲ行フトキハ、輕ク其部分ヲ刺戟シテ、組織ノ新生ヲ促シ、且一方ニ於テハ、局部ヲ清潔ナラシメテ、微菌ノ發生ヲ防グコトヲ得ベシ。巴布劑、濕布、繃帶、蒸氣浴、蒸氣吸入等ハ、何レモ水ヲ應用シタル療法ナレドモ、是等モ亦水ノ理學的作用ニ屬スルヲ以テ、茲ニ説カズ。水ヲ内服セシメタル場合ニモ、亦局部作用ヲ呈ス。即チ其場合ニハ、胃ノ上層ニ存スル上皮細胞ハ、水ノ爲ニ生活力ヲ失ヒテ剝離シ、甚シキハ前ニ述べタル如ク、嘔氣、嘔吐ヲ發シ、稀ニハ胃ノ加答兒ヲ起スニ至ル。サレド胃粘膜ノ一

慢性胃加答兒ニ於ケル水ノ效用及其理

飲治法

單純泉

水ノ吸收ハ腸ヨリ行ハレ、胃及皮膚ヨリハ少シ

腸ニ於ケル水ノ吸收ハ其上部細胞ノ特異作用ナリ

血中ニ入り、組織ニ沈著ス

定ノ病的狀態、即チ慢性加答兒ノ場合ニ、適當ニ純粹ノ水ヲ與フレバ、病的ノ變化ヲ呈セル胃ノ上皮細胞ハ、脫離シ、健康ナル組織ノ新生ヲ促スノミナラズ、同時ニ水ノ刺戟ニ由リテ、胃ノ蠕動竝ニ胃腺ノ分泌ヲ亢進スル作用アルベシ。實際ニ應用セラル、單純泉ノ飲治法、Tinkturモ亦純粹ノ水ノ作用ヲ應用セルニ外ナラズ。(日本衛生局編纂ノ日本礦泉誌ニテハ、水一萬分中ニ五分以下ノ固形分ヲ含ムモノヲ單純泉ト稱ス。獨逸浴泉誌ニテハ、水一「キログラム」中ニ一「グラム」以下ノ固形分竝ニ一「グラム」以下ノ炭酸ヲ含ムモノヲ單純泉ト云フ)

吸收作用

水ハ皮膚ヨリハ殆ド吸收セラル、コトナシ。消化器中ニ於テモ、胃ヨリ吸收セラル、量ハ甚ダ僅微ニシテ、主ニ腸ヨリ吸收セラル。其腸ヨリ吸收セラル、ハ、單ニ竄透ニ由リテ組織中ニ入ルニアラズシテ、腸ノ上皮細胞ノ特異作用ニ由ルモノトス。而シテ吸收セラレシ水ハ、一部分ハ直ニ血液ニ入り、一部分ハ淋巴管ヲ經テ、血液中ニ入ルベシ。

血液中ニ入りタル水ハ、直ニ組織間ニ沈著スルガ故ニ、タトヒ多量ノ水ヲ飲用スルモ、血液中ノ水分ハ著ク増加セズ、而シテ一旦組織ニ沈著シタル水ハ、



水ノ排泄

水ハ消化産物ヲ溶解シ其吸收ヲ其クス

其應用ノ一  
其應用ノ二

過剰ノ水分ハ直ニ排泄セラ

水ニ由ル發汗

水ノ吸收ニ四

漸次再ビ血液中ニ入り、其大部分ハ腎臟ヨリ、一部分ハ肺臟、皮膚及諸種ノ分泌腺ヨリ排泄セラル。

水ノ消化器内ニテ吸收セラル、ヤ、同時ニ消化器内ノ内容物、即チ食物ノ消化産物ヲ溶解シテ、其ニ吸收セシムルガ故ニ、食物ノ攝取ニ當リテ、適量ノ水ヲ飲用スルハ、消化産物ノ吸收ノ爲ニ必要ナルコトナリトス。食物攝取ノ際、水ヲ飲用スルコト少ナキ習慣アル人ニ、適當ノ水ヲ用ヒシムルトキハ、其榮養佳良トナルベシ之ニ反シテ脂肪過多症即チ肥胖病者ノ食時ニ、液體ノ攝取量ヲ減ジテ、脂肪ノ減少ヲ圖ルハ、一部分ハ、含水炭素ノ燃燒ヲ促進スルニ由ルト雖、一部分ハ榮養品ノ吸收ヲ妨グル爲ニ效ヲ奏スルモノトス。

吸收セラレタル水ノ大部分ハ、腎臟ノ糸絨ヨリ排泄セラル、モノトス。組織ニ必要ナルダケノ量ノ水分ハ、容易ニ排泄セラル、コトナシト雖、過剰ノ水分ハ、主ニ腎臟ヨリ速ニ排泄セラルベシ。水ノ一部分ハ皮膚竝ニ肺臟ヨリモ亦排泄セラル、モノニシテ、殊ニ水ヲ飲ムト同時ニ、皮膚ヲ溫暖ニ保ツトキハ、汗腺ノ分泌非常ニ亢進シ、發汗ヲ來スベシ。

吸收セラレタル水ノ再ビ排泄セラル、ニ當リテハ、生體內ノ新陳代謝ニ變

スル新陳代謝ノ變化  
尿中窒素量ノ増加

水分ノ増加ハ細胞ノ生活機能ヲ亢進ス

其應用ノ一

其應用ノ二

所謂組織洗滌

水ノ分泌亢進作用

化ヲ起シ、若シ多量ノ水ヲ攝取シタル場合ニハ、尿中ノ固形分、殊ニ含窒素物ノ量増加スベシ。其理由ハ、一部分ハ多量ノ水ノ排泄セラル、ニ當リテ、組織中ニ貯溜スル新陳代謝産物ヲ洗ヒ出スニアルベシト雖、其主ナル原因ハ、生體內ノ水分ノ増加ニ由リテ、細胞内外ノ循環旺盛シ、其生活機能ノ亢進シタル爲ナリトス。

斯ノ如ク、生體ノ新陳代謝ノ亢進シタル場合ニ當リテ、若シ體內ニ一定ノ病的産物、即チ炎性産物、組織ノ病的増殖等アルトキハ、其産物ハ健康ノ組織ヨリモ、早ク破壊吸收セラルベシ。斯ノ如キ場合ニ飲治法ノ效ノ奏スルハ、此作用ニ原ヅクモノトス。

其他體內ニ毒物若クハ疾病毒素(微菌毒素ノ如キモノ)ノ存在セル場合ニ、多クノ水ヲ與フルトキハ、是等ノ毒物ノ、組織ヨリ洗ヒ出サル、ト、新陳代謝ノ亢進ニ由リテ細胞ヨリ驅逐セラル、トノ爲ニ、早ク之ヲ體外ニ排泄セシムルコトヲ得ベシ。故ニ水ハ所謂組織洗滌ノ目的ニテ使用セラル。

水ハ汗腺ノ他、諸種ノ分泌腺、即チ唾液、胃液、膽汁等ノ分泌ヲ亢進スル作用アリ。此事ハ一部分ハ水ノ局所作用ニ原ヅクモノナレドモ、其主ナル原因ハ、水



ノ吸收後、組織ノ新陳代謝亢進シ、從テ分泌腺ノ機能ノ亢進スル爲ナリトス。前ニ茶劑ノ條下ニ於テ述ベタル如ク、凡テ痙攣状態ニ多量ノ温水ヲ内服セシメテ效アルハ、水ノ運ビ行キタル熱ノ理學的作用ニ原ヅクモノニシテ、水自己ノ作用ニアラズ。

### 第二 食鹽屬

Gruppe des Kochsalzes.

此屬ニ屬スルモノハ、水ニ溶ケ易ク、且竝透性强キ中性アルカリ鹽ニシテ、其通有ノ性質ハ、組織ニ對シテ無力ナルコト、即チ組織ノ水分ニ對スル化學的親和力殆ド無キコト、及鹽類作用竝ニ其鹽類ノ解離ニ由リテ生ジタル「イオン」作用ヲ有スルコト是ナリ。

#### (一) 鹽類作用

鹽類作用トハ、前ニモ述ベタル如ク、鹽類溶液ノ組織ト竝透壓ヲ異ニスル爲ニ、種々ノ局所作用竝ニ吸收作用ヲ、生體ニ現ハスヲ云フ。鹽類中單純ナル鹽類作用ノミヲ呈スルハ食鹽ニシテ、是食鹽ノ「イオン」作用ハ生理的多量ニ

鹽類作用

通有性

竝透力ハ鹽類  
アニ由リテ強弱

鹽類ニ由リテ  
起ル局所ノ榮  
養竝ニ機能障  
碍

存在スルモノナレバナリ。其他ノ鹽類ハ、鹽類作用ノ他ニ、特異ナル「イオン」作用ヲ呈スベシ。タトヘバ「クロールカリウム」ハ「カリウム」ノ「イオン」作用ヲ現ハシ、「ヨードカリウム」ハ「ヨード」ト「カリウム」トノ「イオン」作用ヲ現ハスガ如シ。

鹽類ハ、其竝透力ノ大小ニ由リテ、鹽類作用ノ強弱ヲ異ニス。之ヲ鹽基ノ方ヨリ云ヘバ、組織中ニ竝入スル力ノ最モ大ナルモノハ「カリウム」鹽ニシテ、ナトリウム鹽之ニ次ギ、酸ノ方ヨリ云ヘバ、硝酸鹽最モ強ク、其次ハ「クロール」鹽、其次ハ「ブローム」鹽、之ヨリモ尙弱キハ「ヨード」鹽ナリ。故ニ「カリウム」ト「硝酸」トノ化合物、即チ硝酸「カリウム」ハ、鹽類中ニ於テ其竝透力最モ大ナリ。食鹽ノ竝透カハ、殆ド「ヨードカリウム」ニ同ジ。

#### 局所作用及醫治效用

鹽類、殊ニ其濃溶液ハ、組織ト竝透壓ヲ異ニスル爲ニ、組織ヨリシテ水分ヲ攝取シ、同時ニ鹽類ノ一部分ハ組織内ニ竝入スベシ。即チ組織ハ其水分ヲ減ジテ鹽類ヲ増シ、之ガ爲ニ組織ノ榮養竝ニ機能ノ障碍ヲ來タシ、甚シキハ細胞ノ機能ヲ廢絶スルニ至ル。斯ノ如ク鹽類ハ局所ヲ刺戟スル作用アルヲ以テ、



皮膚刺戟ノ目的ニ用フ海水浴  
食鹽泉

鹽類若クハ其濃溶液ハ、往時皮膚刺戟劑トシテ汎ク用ヒラレタリ。現今最モ屢應用セラル、ハ、食鹽浴ニシテ、或ハ海水ヲ用ヒ、或ハ食鹽ヲ含メル鏽泉ヲ用フ之ニ溶スルトキハ、管ニ食鹽ノ局所作用ノミナラズ、溫度ノ差モ亦皮膚ノ刺戟ヲ補クベシ。而シテ海水浴ニ於テハ、波濤ノ運動モ亦皮膚ヲ器械的ニ刺戟ス。

海水ノ食鹽含量  
鹽類浴ノ醫治效用

海水ハ、内海ニ在リテハ約二、プロセント、外海ニ在リテハ三乃至四、プロセント許ノ鹽類ヲ含ム。海水浴及其他ノ浴ノ醫治效用ハ、浴治法ニ於テ説クベキモノナレドモ、茲ニ其效用ヲ約説スレバ、皮膚ノ薄弱、皮疹、慢性貧血、慢性、ロイマチス、腺病質、神經性疾患、婦人病等ニハ、食鹽浴ハ能ク其效ヲ奏ス。サレド鹽類ハ殆ド皮膚ヨリ吸收セラル、コトナキヲ以テ、皮膚刺戟ノ目的ニハ、食鹽ナラザル他ノ鹽類ヲ用フルモ可ナリ。

皮膚ノ刺戟ノ目的ニハ何レモ同一ノ效ヲ有ス。結膜ニ於ケル鹽類ノ局所作  
胃腸ノ刺戟ノ應用

粘膜、殊ニ腸胃ノ粘膜ハ、皮膚ヨリモ鹽類ノ刺戟ヲ受クルコト強キヲ以テ、多量ノ鹽類ハ、急性ノ腸胃炎ヲ喚起セシムルニ足ルベシ。サレド輕度ノ鹽類ノ刺戟ハ、胃ノ分泌ヲ亢進シ、其蠕動ヲ促ガシ、之ガ爲ニ消化ヲ増スノミナラズ、局所作用ニ由リテ病的組織ヲ脫離シテ、健全ナル組織ノ再生ヲ促ガシ、胃ノ

宿醉ノ際ニ鹽類ノ此理ニ由ルハ此物ニ

機能的竝ニ解剖的ノ變化ヲ除クコトヲ得ベシ。故ニ鹽類ノ輕度ノ刺戟ハ、胃ノ種々ナル病的狀態、即チ急性及慢性加答兒、無力、分泌ノ不足及其他ノ種々ノ機能障礙ニ應用セラル。是等ノ場合ニハ適量ノ食鹽若クハ食鹽ノ水溶液ヲ與ヘ、或ハ食物中ニ通常ヨリモ多クノ食鹽ヲ加ヘテ與フ、鹽類泉ノ飲治法ハ、全ク食鹽ノ作用ニ在リ。

食鹽ノ胃ニ對スル刺戟ハ香味料ト異レリ

胃ニ對スル食鹽ノ刺戟ハ、香味料ノ如キモノ、刺戟ト其趣ヲ異ニシ、管ニ胃粘膜ノ表面ヲ刺戟スルノミナラズ、組織中ニ竄透シテ深部ニ達シ、胃ノ全體ニ適當ナル榮養刺戟ヲ與フルモノトス。

腸胃ノ刺戟ニハ食鹽外ノ鹽類ヲ用フルコトヲ得ズ

腸胃ノ粘膜ヲ刺戟スル目的ニテ鹽類ヲ用フル場合ニハ、同時ニ鹽類ノ吸收ヲ起スヲ以テ、此目的ニハ食鹽ノ他、用フルコトヲ得ズ。ソハ他ノ鹽類ヲ用フルトキハ、期待セザル他ノ吸收作用ヲ起スヲ以テナリ。

食鹽ヲ略血ニ用フル理由

食鹽ヲ略血ニ用フルコトアリ。即チ略血ニ、食鹽一茶匙乃至二茶匙ヲ水ニ溶カシテ内服セシムレバ、止血ノ效ヲ奏スルコトアリ。是胃粘膜ノ知覺神經ヲ刺戟スル爲ニ、反射的ニ血管ノ縮小スルト、嘔氣ヲ催シテ血壓ノ沈降スルトニ原ヅクモノトス。



糞蟲驅除法ニ  
食鹽ヲ用フ

防腐ノ目的ニ  
ハ食鹽ヲ用フ

糞蟲驅除法ノ場合ニ、多ク鹽類ヲ含メル食物ヲ攝ラシムルハ、鹽類ノ刺激ニ由リテ糞蟲ヲ衰弱セシムル目的ナリ。  
其他尙創傷等ニ、食鹽ヲ防腐ノ目的ニテ使用シタルコトアリ、是食鹽ハ組織ヨリシテ水分ヲ奪ヒ、微菌ノ發育ニ不適當トナラシムル作用アルヲ以テナリ。サレド此目的ニハ、食鹽ヨリモ他ノ吸收セラレ難キ鹽類ヲ用フルヲ可トス。砂糖ヲ防腐ノ目的ニ使用スルモ、亦之ト同ジク其組織ノ水分ヲ奪フ作用アル爲ナリ。

### 吸收作用及醫治效用

吸收セラレタル鹽類ハ、血液中ニ於テモ、イオン状態ニテ存在シ、食鹽ヨリ解離シタル「イオン」、即チ「クロール」及「ナトリウム」ノ「イオン」ハ、生理的ニ存在スルモノナルガ故ニ、無力ニシテ特異ナル「イオン」作用ヲ呈スルコトナシト雖、他ノ鹽類ハ各自固有ノ特異ナル「イオン」作用ヲ呈スベシ故ニ鹽類トシテノ單純ナル吸收作用ハ、唯食鹽ニ於テ之ヲ見得ベキノミ。

渴ヲ起ス原因

鹽類ノ吸收作用トシテハ、先ヅ始メニ多少ノ渴ヲ起ス。是血液或ハ組織液中ノ鹽類含量ヲ増シ、從ヒテ細胞ハ其含メル水ノ一部分ヲ奪ハル、ヲ以テナ

鹽類ノ利尿作用

鹽類ヲ内用スレバ尿中ノ他モノノ鹽類ノ量ヲモ増ス

其理由

リ即チ組織ノ水分減却スレバ、渴感ヲ起ス。血液竝ニ組織液ノ過剩ノ鹽分ハ、生理的ノ異物ナルヲ以テ、腎臟ヨリシテ漸次排泄セラレ、而シテ其排泄セラレ、ニ當リテハ、多量ノ水分ヲ伴フ、即チ鹽類ハ利尿作用ヲ有ス。一定ノ鹽類ヲ服用シタル場合ニ、其鹽類ノ多ク尿中ニ現ハル、ハ當然ノ事ナレドモ、獨リ其鹽類ノミナラズ、他ノ服用セザリシ鹽類モマタ同時ニ尿中ニ増加シ、尿ハ多クノ場合ニ於テ、アルカリ性ヲ呈スルヲ見ルベシ。即チ「ナトリウム」鹽類ヲ服用スレバ、尿ニ於ケル「カリウム」鹽類ヲ増シ、「カリウム」鹽類ヲ服用スレバ、「ナトリウム」鹽類ヲ増シ、「アムモニウム」鹽類ヲ服用スレバ、「カリウム」竝ニ「ナトリウム」鹽類ノ排泄ヲ増シ、「ブローム」鹽類、硝酸鹽類若クハ磷酸鹽類ヲ服用スレバ、「クロール」鹽類ヲ増ス。其理由ハ、タトヘバ「クロトルカリウム」ヲ服用スレバ、吸收後、血中ニテ解離セル分子ハ、血液中ノ炭酸「ナトリウム」竝ニ磷酸「ナトリウム」ト原子ノ交換ヲ行ヒテ、磷酸「カリウム」又ハ炭酸「カリウム」ヲ生ジ、一方ニ於テハ、「クロール」ナトリウム「即チ食鹽」ヲ生ズ。而シテ此炭酸「カリウム」若クハ磷酸「カリウム」ハ、生理的の血中ニ存在スルモノニアラザルヲ以テ、直ニ尿中ニ排泄セラレ、而シテ新タニ生ジタル食鹽モ亦生理的過剩ナルヲ以テ、同ジ



營養障礙ヨリ起レル水腫ニ鹽類ヲ應用ス

尿量増加ノ目的ニテ鹽類ヲ應用ス

ク腎臟ヨリ排泄セラル、ナリ。故ニ利尿作用ハ、ナトリウム「鹽類ヨリモ、カリウム、鹽類ノ方強ク、鹽酸ヨリモ他ノ酸、タトヘバ硝酸、醋酸ノ鹽類ノ方強シ、鹽類、殊ニ、カリウム、鹽類ノ如キモノハ、種々ノ水腫ニ利尿劑トシテ用ヒラル。今組織ノ營養狀態ノ變化ヨリシテ起ル水腫、タトヘバ貧血時ノ水腫ニ食鹽ヲ用フルトキハ、其水腫ヲ除キ得ルノミナラズ、水ノ過剰ノ爲ニ營養ヲ妨ゲラレタル組織ハ、之ガ爲ニ其營養ヲ恢復スルコトヲ得ベシ。サレド鹽類ノ利尿作用タルヤ、組織ヨリ水ヲ奪ヒ、其排泄ニ當リテ之ヲ伴ヒ去ルモノナルヲ以テ、循環系ノ障礙、若クハ腎臟ノ障礙ノ爲ニ起リタル水腫ニハ、之ヲ用フルモ、唯水腫ヲ減ズルノミニテ、其效力ハ對症のナリトス。

膀胱竝ニ腎臟ノ結石及其他凡テ身體ノ尿酸鹽ノ過剰ノ沈著ノ場合ニ、尿量ノ増加ヲ企圖スルコトアリ。斯ノ如キ場合ニハ、單ニ水ヲ用フルヨリモ、鹽類液ヲ用フルヲ可トス。是純粹ノ水ハ肺臟及皮膚ヨリシテ盛ニ蒸發スレドモ、鹽類液ハ、其鹽類ノ水ト理學的抱合ヲナスヲ以テ、容易ニ蒸發セズ、從ヒテ非常ニ尿量ヲ増サシムルコトヲ得ベケレバナリ。

腎臟竝ニ尿路ニ炎症ノ存スル場合ニ於テ、濃厚ナル尿ノ、ソヲ刺戟スルコト

ヲ避クル爲ニ、尿量ヲ増加セシムル目的ニテ、適當ナル鹽類溶液ヲ用フルコトアリ。

其他種々ナル毒物、毒素ノ排泄ヲ圖ル場合、殊ニ身體ニ沈著セル金屬性ノ毒物ヲ排泄セシメントスルニハ、鹽類ハ之ト原子交換ヲ行ヒテ、ソヲ排泄セシムルヲ以テ、他ノ利尿劑ヨリモ其奏效著シ。殊ニ諸種ノ中毒ニ際シ、組織洗滌ノ目的ヲ以テ、生理的食鹽水ヲ皮下ニ注射スルトキハ、其奏效尠カラズ。

最後ニ鹽類ハ、尿量ノ増加ト共ニ、組織ノ新陳代謝ヲ盛ナラシメ、之ニ由リテ病的產物ヲ吸收スルノ效アルヲ以テ、其目的ニ使用セラル。

### (二) イオン作用

既ニ前ニ説キタル如ク、水ニ溶解シタル鹽類ハ、アニオン「ト、カチオン」トニ分離スルモノニシテ、此兩イオンハ、血中ニ吸收セラレバ、各其特異ノ作用ヲ現ハスベシ。故ニ或鹽類ノ身體内ニ於ケル作用ハ、アニオンノ作用ト、カチオンノ作用トヲ併セタルモノナリ。タトヘバ、ブロームカリウムハ、「ブローム、イオン」ノ作用ト、「カリウム、イオン」ノ作用トヲ併セ有スルガ如シ。

「イオン」作用  
「アニオン」  
「カチオン」  
共ニ特異ノ作用ヲ呈ス



甲 「カリウム」鹽 Kaliumsalze.

「カリウム」鹽  
「イオン」  
作用  
「クロールカ  
リウム」ハ「カ  
リウム」作用  
ヲ代表ス  
「クロールカ  
リウム」ノ中  
毒作用

「カリウム」鹽  
ノ内服ニ當  
リ中毒作用ナ  
キ理由

「カリウム」ノ「イオン」作用ヲ代表スルモノハ「クロールカリウム」ナリ是「クロールカリウム」中「クロールイオン」ハ生理的無力ナルヲ以テ體內ニ於ケル「クロールカリウム」ハ殆ド「カリウムイオン」ノ作用ノミヲ現ハセバナリ「クロールカリウム」ハ皮下ニ注射スルカ若クハ靜脈内ニ注入スルトキハ其少量ニテハ心臟中樞神經系及横紋筋ノ輕度ノ興奮ヲ起シ殊ニ心臟ニテハ擴張ヲ顯著ニシ次デ麻痺ヲ來ス故ニ大量ヲ用フルトキハ心臟ノ擴張性靜止ニ由リテ死ニ陥ルベシサレド通常「カリウム」鹽類ヲ内服シタル場合ニハ「カリウム」ノ中毒的「イオン」作用ヲ現ハスコトナシ是内服シタル「カリウム」鹽類ノ胃及腸ヨリ吸收セラル、ヤ一部ハ肝臟ニ固著解毒セラレ殘部ハ直ニ腎臟ヨリ排泄セラレテ血液中ニハ中毒作用ヲ起シ得ル程ニ蓄積スルコトナシ但内服ニテモ非常ニ濃厚ナル「カリウム」鹽類ノ溶液ヲ製シテ殊ニ胃ノ空虚時ニ其大量ヲ用フルトキハ多量ニ吸收セラル、爲ニ排泄ノ暇ナクシテ中毒作用ヲ現ハスベシ

「カリウム」鹽類ハ「イオン」作用ノ他ニ鹽類一般ノ局所作用竝ニ吸收作用ヲ有スルコト「カリウム」鹽類ノ局所作用ハ「ナトリウム」鹽類ノ局所作用ヨリモ強キコト竝ニ「カリウム」ハ鹽類一般ノ吸收作用ノ他ニ血液中ニ於テ他ノ鹽類ト原子交換ヲ行ヒ其交換產物ノ尿ヨリ排泄セラル、ニ當リテ多量ノ水ヲ伴フコト等ハ既ニ前ニ云ヒタリ

「カリウム」鹽類ハ鹽類トシテノ利尿作用ノ他ニ腎臟ノ上皮細胞ヲ直接ニ刺激スト云フコトモ亦其利尿作用ニ加ハルモノトス

「カリウム」鹽類ハ利尿劑トシテ最モ汎ク用ヒラル既ニ前ニ述べタル如ク「カリウム」ハ組織ヨリシテ水ヲ奪フ力強キヲ以テ循環障礙ノ爲ニ起リタルニアラサル水腫殊ニ水血病ノ如キ組織ノ營養狀態ノ變化ノ爲ニ起リタル水腫ニハ偉效アリ其他肋膜炎及腹膜炎ノ如キ炎性滲出物又ハ胸水腹水ノ如キ蓄液ノ吸收ヲ促ス爲ニ尿量ノ増加ヲ企ツル場合ニハ「カリウム」鹽類ヲ用フルヲ最モ可トス腎臟ノ疾患ニ由リテ起レル水腫ニモ亦適量ノ「カリウム」鹽類ヲ用ヒテ尿量ヲ増加セシムルコトアリ此場合ニハ尿量ノ増加ノ爲ニ尿細管ヲ栓塞シタル圓柱ヲ排出スル器械的作用竝ニ尿中ニ現レタル炭酸

利尿劑トシテ  
鹽類ノ應用  
榮養障礙ニ由  
ル水腫  
肋膜炎、腹膜  
炎、胸水、腹水  
等ニ用フ  
腎臟疾患ニ由  
ル水腫



「カリウム」鹽類ハ腎臟病ニハ注意シテ用フベシ其理由

炭酸鹽ノ増加原因ハ前ニ述ベタリ

「カリウム」鹽類ハ心臓機能亢進ノ目的ニ用フルモ効ナシ下熱ノ目的ニ加リテ用フルモ素ヨリ効ナシ

「カリウム」此場合ニ通常用ヒラル、醋酸「カリウム」ハ、血中ニ於テ酸化シテ、炭酸「カリウム」トナルニ由リテ、多ク纖維素ヨリ成レルトコロノ圓柱ヲ溶解スル作用モ亦其效ヲ補クサレド大量ノ「カリウム」鹽類ハ、殊ニ持長シテ腎臟ノ疾患ニ用フルコトヲ得ズ、如何トナレバ、腎臟炎ノ場合ニハ、大量ノ尿ヲ排泄セシメテ、徒ニ病的ナル腎臟ノ上皮細胞ヲ勞シ、且「カリウム」鹽類ニ依リテ、ソヲ刺戟スルハ害アルノミナラズ、尿中ニ過量ノ炭酸鹽類ヲ含ミテ、強キ「アルカリ」性ヲ呈スルハ、病的臟器ニ對シテ其結果不良ナルベキヲ以テナリ、但此場合ニ、尿ヲシテ弱「アルカリ」性トナラシムルハ、通常ノ酸性尿ノ如クニ、腎臟ヲ刺戟セザル利アルベシ。

「カリウム」鹽類、竝ニソヲ含メル肉「エキス」ノ如キモノヲ、心臓機能ヲ亢進セシムル目的ニテ内服セシメタルコトアレドモ効ナシ。

其他熱性病ノ體溫ヲ下降セシムル目的ニテ、「カリウム」鹽類ヲ用ヒタルコトアリ、是「カリウム」鹽類ヲ多量ニ用フルトキハ、其吸收作用トシテ、初メニハ心臓機能ヲ興奮スレドモ、後ニハソヲ衰弱セシメ、從テ體溫ヲ下降ストノ理由ニ原ゾキタルモノナレドモ、實際斯ノ如キ作用ヲ望ミ難ク、若シ其作用ヲ起

シ得ラル、ナラバ、却テ危險ナルヲ以テ、現今ニ於テハ用ヒラル、コトナシ、但硝酸「カリウム」ハ、清涼ノ味ヲ有スルヲ以テ、多少熱性病者ノ渴ヲ醫スル作用アルベシ。

### 乙 「リチウム」鹽 Lithiumsalze.

「リチウム」ノ「イオオン」作用ハ、概テ「カリウム」ニ同ジク、心臓、骨節筋、中樞神經系等ヲ犯ス、其毒性ハ「カリウム」ヨリモ強シ。

「リチウム」ノ尿酸鹽ハ、他ノ尿酸鹽類ニ比スレバ、最モ水ニ溶解シ易キヲ以テ、尿酸結石ヲ生ジタル場合、若クハ痛風ニテ身體組織ニ尿酸鹽ノ沈著シタルトキニ、ソヲ尿酸「リチウム」ニ變ジテ、漸次尿ヨリ排泄セシムル目的ニテ、炭酸「リチウム」若クハ之ヲ含メル礦泉ヲ使用スルコトアリ、サレド其藥用量ハ、極テ少量ナルヲ以テ、尿酸ヲ溶解スル作用モ亦從テ甚ダ僅微ナリトス。

### 丙 「マグネシウム」鹽 Magnesiumsalze.

「マグネシウム」ハ、其「イオオン」作用トシテ、中樞神經系ヲ麻痺シ、麻醉ヲ起シ、呼

「リチウム」ノ「イオオン」作用

「リチウム」鹽ノ主治效用

「マグネシウム」鹽



吸中樞ヲ麻痺セシム。末梢神經ノ軸索ニ直接ニ觸ル、トキハ、之ヲ傳導不能トナシ、即チ運動、知覺ノ麻痺ヲ起ス。心臟ニハ特殊ノ作用ナシ。  
「マグネシウム」ノ微量(約〇・〇一「プロセント」)ハ、生理的ニ細胞及組織液中ニ存ス。

「カルシウム」鹽

丁 「カルシウム」鹽 Calciumsalze.

「カルシウム」鹽ハ、骨格中ニ多量ニ存スル外、細胞組織液中ニ「イオン」形ヲナシテ比較的少量(約〇・〇四「プロセント」)ニ含有セラレ、而シテ「カルシウム」イオンノ血液及乳汁等ノ凝固ノ爲ニ必要ナルコトハ、既ニ久シク知ラル、トコロナリ。故ニ「カルシウム」鹽ハ止血劑トシテ局所ニ用ヒラレ、或ハ内服、注射トシテ用ヒラル。

「カルシウム」イオンハ又心臟ノ收縮ヲ強クスル作用アリ。即チ「カリウム」イオンノ作用ニ相反ス。而シテ兩者相伴ヒテ心臟ノ働作ヲ強クスベシ。  
「カルシウム」イオンハ骨格筋ノ興奮性ヲ減スル作用アリ。故ニ骨格筋ノ痙攣ヲ發スル病症ニ用フレバ效アリ。

「カルシウム」ハ最近ノ研究ニヨレバ、血管ノ滲透性ヲ減ジ、從テ炎症ヲ消散シ、滲出ニ伴フ搔痒ヲ緩解スル效アリ。

戊 「ヨード」鹽 Jodsalze.

「ヨード」ノ「イオン」作用  
體内ニ於テ遊離シタル「ヨード」ノ作用

「ヨード」鹽類ノ、生體ニ對シテ特異ナル「ヨード」ノ「イオン」作用ヲ呈スベキコトハ明カナレドモ、未ダ確實ナル檢索ヲ經ズ。「ヨード」鹽類ハ、有機體中ニ於テ容易ニ分解シテ「ヨード」ヲ遊離ス。彼ノ「ヨード」カリウムノ内服後ニ現ハル、コトアル咽頭加答兒、鼻加答兒及皮疹等ハ、此遊離シタル「ヨード」ニ原ヅクモノニシテ、咽頭ニ分泌セラレタル「ヨード」化物ハ、口腔内ノ腐敗ニ由リテ發生スル亞硝酸ト、炭酸瓦斯ノ質量作用 Massenwirkungトニ由リテ、「ヨード」ヲ遊離スルモノトス。又皮膚ヨリ排泄セラレタル「ヨード」化物ハ、皮脂及汗ノ爲ニ、「ヨード」水素酸ヲ生ジ、其「ヨード」水素酸ハ、容易ニ「ヨード」ヲ遊離シテ、皮疹殊ニ瘡ヲ生ズルモノナリト説明セラル。内服セラレタル「ヨード」カリウムモ亦之ト等シク、胃中ニ於テ胃酸ノ作用ヲ受ケテ、「ヨード」水素酸ヲ生ジ、更ニ「ヨード」ヲ遊離スルガ如シ。



「ヨード」ノ排  
泄

「ヨード」カリ  
ウム

「ヨード」カリ  
ウムノ作用

血液及其他ノ組織液中ニハ、亞硝酸鹽ノ存在ヲ證明シ得ルガ故ニ、之ト炭酸トノ働ニ由リテ、體中ニ於テモ「ヨード」カリウムヨリシテ「ヨード」ヲ遊離スト云フコトハ、學理上推定シ得ベキノミナラス、生活セル細胞ヲ試験管中ニ採リ、之ニ「ヨード」カリウムヲ加ヘテ、炭酸ヲ通スレバ、實際「ヨード」ヲ遊離スルヲ見ル、内用シタル「ヨード」ノ大部分ハ尿中ニ、小部分ハ唾液、汗、乳汁及ビ其他ノ分泌液中ニ排泄セラレ、而シテ血中ニ存スル「ヨード」ハ、迅速ニ體外ニ排泄セラル、ヲ以テ、尿中ニハ久シカラズシテ「ヨード」ヲ認メザルニ至ルモ、唾液中ニ於テハ、「ヨード」化物服用後一週日ヲ經ルモ、尙「ヨード」反應アリ、之ニ依リテ考フルニ、「ヨード」化物ハ、體内ニ於テ「ヨード」ヲ遊離シ、此遊離ノ「ヨード」ハ、直ニ組織中ノ蛋白質ト化合シ、而シテ此化合物ハ徐々ニ唾液ノ如キ蛋白質ヲ含メル分泌液中ニ出ヅルモノト看做スベキナリ。

「ヨード」化合物中、最モ多ク藥用ニ供セラル、ハ、「ヨード」カリウムニシテ、三期微毒ノ組織發生、滲出性炎症、痲痺質斯、甲狀腺腫、腺腫脹殊ニ癩癧、血管硬化等ニ所謂變質劑 Alkermans トシテ、應用セラル、而シテ「ヨード」カリウムノ是等ノ疾病ニ效ヲ奏スルハ、直接ノ作用ニアラズシテ、營養ノ變調ヲ來サシメ

ハ組織ノ榮養  
變調ヲ來スニ  
アリ

慢性鑛中毒ニ  
用フ

タル結果トシテ現ハル、間接ノ作用ナリトス、即チ「ヨード」化物ノ血中ニ吸收セラル、ヤ、「ヨード」ノ一部ヲ遊離シ、其「ヨード」ハ直ニ組織ノ蛋白質ト化合ス、而シテ病的組織ハ、其固定性少キヲ以テ、「ヨード」ノ爲ニ破壊セラル、ニ至ルモノトス、而シテ「ヨード」ハ甲狀腺ノ機能ヲ充進スルノ作用アリテ、之ガ爲ニモ亦新陳代謝ヲ充進セシム、殊ニ「ヨード」カリウムハ「ヨード」カリウムノ吸收作用トシテ、尿量ノ増加、新陳代謝ノ充進ヲ來シ、此諸種ノ作用相合シテ、特ニ著效ヲ奏スルコトヲ得ベシ、尙血管硬化ノ場合ニアリテハ、「ヨード」カリウムハ、血液ノ粘稠性ヲ減ズル作用アルヲ以テ、特ニ有效ナリトス、慢性鑛中毒、殊ニ水銀中毒、鉛中毒ニ「ヨード」カリウムヲ用フルハ、「ヨード」カリウムノ是等鑛毒蛋白化合物ヲ、分離溶解スル性アルト、前述ノ如ク新陳代謝ノ充進ニヨリテ、一方ニハ毒物ノ排泄ヲ速ニシ、他方ニハ榮養ヲ佳良ニスル働アルトニ由ルナリ。

慢性氣管支炎、殊ニ喘息、纖維性氣管支炎ニ「ヨード」カリウムヲ用ヒテ效アルコトアリ、是氣管粘膜炎ノ分泌ヲ増加シ、喀痰ノ排泄ヲ容易ナラシムルト、營養ノ變調ヲ來ストニ由ルナリ。



「ヨード」ナトリウム

「ヨード」ナトリウムハ「ヨード」カリウムヨリモ中毒ヲ起スコト少ナシト稱セラレ、之ニ代用スルコトアレドモ、多クノ場合ニハ「ヨード」カリウムノ效力ニ若カズ、是カリウム鹽類ノ作用ナキ爲ナリ。

「ヨード」中毒

「ヨード」カリウムノ大量ヲ持長スレバ、屢「ヨード」中毒 Jodismusヲ起シテ、皮膚瘡、瘰癧、鼻加答兒、胃障碍、嘔吐、下痢、心悸亢進、咳嗽等ヲ發シ、甚シキハ聲門水腫、發熱、瘦削、惡液質等ヲ現ハスコトアリ、殊ニ瘰癧ハ所謂「ヨード」瘰癧 Jodakneト稱シ、最モ屢見ルトコロノモノナリ、又「ヨード」化合物ヲ内用スル際ニ、結膜、喉頭等ニ甘汞ヲ外用スルトキハ、局所ニ「ヨード」汞ヲ生ジテ、壞死ヲ來スコトアリ、注意ヲ要ス。

「ヨード」劑ヲ甲狀腺腫ニ用フル場合ニ、突如トシテ甲狀腺中毒ノ症狀ヲ呈スルコト稀ナラズ、注意スベシ。

### 「ブローム」鹽 Bromsalze.

「ブローム」鹽ノ「イオン」作用

「ブローム」化合物ノ主要ナル藥物タル「ブローム」カリウムノ組織ニ對スル鹽類作用及「カリウム」ノ「イオン」作用ハ、概テ「クロール」カリウムニ等シ之ヲ内

其效力

用スレバ、胃中ニ「ブローム」化水素ヲ發生ス。

「ブローム」化物、殊ニ「ブローム」カリウムヲ連用スルトキハ、大腦皮質ノ運動中樞ノ感受性ヲ減ズルコトハ、動物試驗ヲ證明スルトコロナリ、此事實ハ臨牀上ノ經驗ニ一致ス、即チ癲癇發作ヲ防止シ、若クハ之ヲ減少シ、其他凡テ中樞神經系ノ興奮ヲ沈靜シ、甚シキニ至リテハ、倦怠、疲勞、催眠、思考力並ニ記憶力ノ減少、言語ノ澁滯、口蓋粘膜炎ノ反射知覺ノ鈍麻等ヲ起スニ至ルコトアリ、即チ「ブローム」劑ハ催眠劑ニ似タル作用アリ、サレド眞正ノ催眠劑ニハアラス、  
「ブローム」ナトリウムハ「ブローム」カリウムト同様ノ作用アリト云フト雖、其效力ハ「ブローム」カリウムニ比スレバ稍弱キガ如ク、從テ中毒ヲ起スコトモ亦稀ナリ、而シテ「ブローム」カリウムヲ用ヒタル後ニ起ルコトアル脈搏ノ緩慢ハ「ブローム」ナトリウムヲ用ヒタル後ニハ起ルコトナキニ由リテ見レバ、此作用ハ「カリウム」ニ歸セザルベカラズ。

以上述べ來リタル理ニ由リ、神經性不眠症及反射機亢進等ニ「ブローム」化合物ヲ應用スルハ適當ノ事ニシテ、「ブローム」化合物ハ「ブローム」イオンノ働トシテ、癲癇及神經興奮ノ狀態アルモノニノミ效ヲ奏スルモノトス、サレド



茲ニ尙一言注意スベキハ、ブローム「化物」ハ、是等ノ疾病ニ對シテ、唯對症的ニ效力アルノミニシテ、決シテ根治ノ效アルモノニアラズト云フコトナリ、殊ニ「ブロームカリウム」ニ由リテ癩癩ノ根治スルコトアリト云フハ、唯偶然ノ結果ニ他ナラズ。

「ブローム」化物ハ、吸收後排泄セラル、コト極メテ緩慢ニシテ、約三週間ヲ要ス。故ニ持長シテ用フルトキハ、多量ニ體內ニ蓄積ス。

「ブロームカリウム」若クハ「ブロームナトリウム」ヲ少量ニテ持長セシメ、若クハ多量ヲ一時ニ與フルトキハ、胃腸ノ刺戟狀態及神經中樞ノ麻痺狀態等ノ急性中毒ノ徵候ヲ呈スルコトアリサレド、斯ノ如キ急性中毒ヲ現ハス事ハ稀有ニシテ、多ク經驗セラル、ハ、數箇月間持續シテ服用セシメタル爲ニ發スル慢性中毒ナリトス。其徵候ハ、思考力、視力、聽力及皮膚知覺ノ減却、行步蹣跚、迷曠、昏睡等ノ腦ノ障礙、貧血、瘦削、心臟ノ衰弱等ノ消化器竝ニ物質交換作用上ノ障礙ナリトス。其他「ヨード」化合物ノ如ク、皮膚ノ發疹、瘰癧及粘膜炎ノ加答兒ヲ生ズルコトアリ。是「ヨード」化物ノ場合ト同ジク、皮膚及粘膜炎ニ於テ「ブローム」水素、殊ニ「ブローム」ヲ遊離スルニ因スルモノナリ、而シテ婦人及小兒

「ブローム」カリウム及「ブロームナトリウム」ノ中毒

中毒ノ原因

ニ「ブローム」カリウムヲ用ヒタルトキニ、屢烈シキ咳嗽ヲ伴ヘル氣道ノ粘膜炎加答兒ヲ起スコトアルハ、殊ニ注意スベキコトナリトス。腸胃ノ刺戟、殊ニ消化不良竝ニ之ニ因スル貧血及榮養不良ハ、何レモ腸胃ノ加答兒ニ由リテ起ルモノナリ。

庚 「クロール」酸鹽 (鹽酸鹽) Chloräure Salze.  
(Chlorate).

此鹽類ノ局所作用、物質交換上ニ於ケル作用及尿分泌上ニ於ケル作用ハ、概テ「クロール」鹽類(食鹽等)竝ニ硝酸鹽類ニ同ジ。

「クロール」酸「カリウム」ハ、口腔及咽頭ノ種々ナル疾病ニ、局所藥トシテ用ヒラル。其奏效ノ理由ハ、主トシテ局所ノ消毒作用ニ原ヅクモノニシテ、鹽類ノ刺戟作用モ亦之ニ與ル、而シテ「クロール」酸「カリウム」ノ局所消毒作用ハ、口腔ニ存在スル炭酸竝ニ其他口腔腐敗ニ由リテ生ズル乳酸等ノ質量作用ノ爲ニ遊離シタル「クロール」酸ニ因スルモノナリトス。

往時ハ口腔ノ疾病ニ向ヒテ「クロール」酸「カリウム」ヲ含嗽セシメタルノミナ

「クロール」酸鹽ノ「イオン」作用

「クロール」酸「カリウム」

「クロール」酸「カリウム」



「中毒」  
「クロール」酸  
ノ中毒作用

ラズ、内用セシメタルコトアレドモ、大量ヲ内用セシムルトキハ、殊ニ小兒ニ於テハ、致死ノ中毒ヲ來ス事アリ。此中毒ハ、鹽類作用及「カリウム」作用ニ關係アルコト勿論ナレドモ、是等ノ作用ヨリモ尙一層大ナル關係ヲ有スルハ、「クロール」酸ノ血液ニ對スル作用ナリトス。即チ「クロール」酸ハ、酸化「ヘモグロビン」ヲ「メトヘモグロビン」ニ變化シ、之ガ爲ニ、赤血球ハ其酸素ヲ攝取スル力ヲ失フノミナラズ、赤血球自己モ膨脹破潰シテ膠質様ノ塊トナリ、血液ハ黒褐色ヲ呈ス。而シテ是等ノ破壞セル血球及「メトヘモグロビン」ハ、脾臟、肝臟、殊ニ腎臟ニ蓄積シ、腎臟ハ之ガ爲ニ排尿作用ヲ失ヒ、極テ少量ノ血色尿ヲ漏ラスニ過ギズ。甚シキハ尿毒症ヲ起シ、昏睡ニ陥リ、終ニハ痙攣、虛脱ニ由リテ死ニ轉歸スベシ。

「クロール」酸  
「カリウム」  
ノ  
排泄

醫治效用

内用シタル「クロール」酸「カリウム」中ノ約九十「プロセント」ハ、變化セズシテ再ビ尿中ニ排泄セラル、モノトス。  
「クロール」酸「カリウム」ハ、今日ニ於テハ唯外用ニ供セラル、ノミ。即チ含嗽劑トシテ諸種ノ口腔炎、タトヘバ「鷲口瘡」Scorbut「チフテリー」Diphtherie「汞毒性」口腔炎 Stomatitis mercurialis「スコルブート」Scorbut「齒齦炎」等ニ用フ、内用スレバ唯中

毒ヲ起ス害アルノミニシテ、其效ナキヲ以テ、今ハ全ク用ヒラレズ。

辛 硼酸及硼砂 Borsäure u. Borax.

「硼酸及硼砂」  
「イオン」  
ノ  
作用

硼酸中毒

醫治效用

硼酸及硼砂ハ、其ニ硼酸「イオン」ノ働ヲ有シ、主ニ消化器ヲ侵ス。大量ヲ與フレバ、劇甚ナル吐瀉ヲ起シ、終ニ麻痺、虛脱ノ症狀ヲ呈ス。中毒久シキニ互レバ、尿中ニ蛋白ヲ現ハス。動物ヲ剖見スルニ、腸胃粘膜ニ充血アリテ、多少ノ出血ヲ認メ、且腸ノ集腺、弧腺ノ腫脹、隆起アリ。而シテ皮膚ノ血管モ亦擴張充血ノ狀ヲ呈シ、發疹ヲ生ズ。是ニ由リテ觀レバ、硼酸ハ亞砒酸(後ニ詳ナリ)ト同ジク、毛細管ヲ侵スモノニシテ、之ガ爲ニ嘔吐、下痢、皮疹等ヲ生ジ、麻痺、虛脱等ノ中樞神經系ノ症狀ハ、寧ろ循環障礙ニ續發スルモノト看做スベシ。  
硼酸竝ニ硼砂ハ、弱キ消毒ノ效アルヲ以テ、防腐劑トシテ外用セラル。其毒性モ亦強カラズト雖、大量ニ吸收セラレタルトキハ、如上ノ中毒ヲ起スヲ以テ注意ヲ要ス。

品名、製劑、用量及處方



「クロールナトリウム」

「クロールナトリウム」(食鹽) *Natrium chloratum.*

食鹽ハ、方形ノ結晶ニシテ、無色ナリ。

「ブロームカリウム」

「ブロームカリウム」(臭素加里) *Kalium bromatum.*

「ブロームカリウム」ハ、癲癩ニハ、一日三〇乃至五〇ヨリ一〇〇乃至一五〇迄ヲ數回ニ分服セシム。其他ノ場合ニハ、一〇乃至三〇ヲ一日量トス。

(處方例)

「ブロームカリウム」一〇〇 餾水一五〇〇

右一回半酒杯、一日五回、曹達水ニ加ヘテ用フ。

「ブロームナトリウム」

「ブロームナトリウム」(臭素曹達) *Natrium bromatum.*

「ブロームナトリウム」ノ用量ハ、「ブロームカリウム」ニ同ジ、「ブロームカリウム」ニ代用ス。

「ブロームアムモニウム」

「ブロームアムモニウム」(臭素アムモニウム) *Ammonium bromatum.*

「ブロームアムモニウム」ハ、用量「ブロームカリウム」ニ同ジ。

「ヨードカリウム」

「ヨードカリウム」(沃度加里) *Kalium jodatium.*

「ヨードカリウム」ハ、用量一回〇・一乃至〇・五、一日〇・五乃至二・〇ヲ、水溶液トシテ、驅微療法等ニ賞用ス。「ヨードカリウム」ハ、酸ニ遇フテ分解シ易キヲ以テ、炭酸ナトリウムヲ加ヘ、少シクアルカリ性ト爲スベク、又蔗糖等ヲ加ヘザルヲ可トス。

(處方例)

「ヨードカリウム」三〇 餾水一五〇〇

右一回半酒杯宛、一日數回内用、但服用ニ際シテ糖ヲ加フルモ可ナリ。

「ヨードナトリウム」(沃度曹達) *Natrium jodatium.*

「ヨードナトリウム」



「ヨードナトリウム」ハ、用量「ヨードカリウム」ニ同ジ之ニ代用ス。

硝酸「カリウ  
ム」

硝酸「カリウム」(硝酸) *Kalium nitricum.*

硝酸「カリウム」ハ、〇・二乃至一・〇ヲ、稀ニ利尿劑トシテ用フ。

硝酸「ナトリ  
ウム」

硝酸「ナトリウム」(智利硝石) *Natrium nitricum.*

硝酸「ナトリウム」ハ、用量及適用共ニ前者ニ同ジ。

「クロール、カ  
ルシウム」

「クロール、カルシウム」 *Calcium chloratum.*

「クロール、カルシウム」ハ出血及血友病ノ如キ出血ノ素因アルモノ、痙攣性疾患即チ「テタニー」ノ如キモノ、蕁麻疹其他ノ搔痒性疾患ニ内服、注射トシテ用ヒ、又ハ局部ニ用フ。用量ハ、内用一回〇・二乃至〇・五、一日數回、皮下又ハ靜脈内注射ニハ「プロセント」溶液一回一筒(即チ〇・〇一)ナリ。局部ニハ出血、搔痒、炎症等ニ對シ、二乃至十「プロセント」ノ水溶液ヲ用フ。「クロール、カルシウム」ハ所謂「クロール」石灰ト稱シテ、漂白、防臭等ニ用フルモノトハ、全ク

別物ナリ、名ノ似タル故ヲ以テ之ヲ混同シテ患者ニ危険ヲ起スコトナキヤウ注意スルヲ要ス)

(處方例)

「クロール、カルシウム」四〇 水九〇〇

單舍利別三〇〇

右水劑トナシ、一日數回半酒宛内用。

乳酸「カルシウム」 *Calcium lacticum.*

乳酸「カルシ  
ウム」

乳酸「カルシウム」ハ「クロールカルシウム」ト同一ノ目的ニテ同一量ヲ用フ

「クロール」酸「カリウム」(鹽酸加里) *Kalium chlo-*

*ricum.*

「クロール」酸  
「カリウム」

「クロール」酸「カリウム」ハ、二乃至五「プロセント」ノ水溶液ヲ含嗽劑トシテ多ク使用ス。内用ニハ一回〇・一乃至〇・五、一日二・〇乃至五・〇ヲ水溶液トシ、多クハ他ノ藥物ニ配合セズシテ用フ。

乳酸「カルシウム」 「クロール」酸「カリウム」



(處方例)

「クロール」酸「カリウム」一五〇 縮水五〇〇〇

右一日頻回含嗽(口腔齒齦炎)

醋酸「カリウム」(醋酸加里) Kalium aceticum.

醋酸「カリウム」ハ、一日數回〇・五乃至一〇ヲ水溶液トシテ、利尿ノ目的ニテ「ヂギタリス」ト伍用スルコト多シ。

(處方例)

「ヂギタリス」葉一・五

ヲ以テ浸劑一五〇〇ヲ作り、之ニ

醋酸「カリウム」五〇 單舍利別二〇〇

ヲ加ヘテ溶劑トナシ、一回半酒杯ヅ、四時間毎ニ内用セシム(肋膜炎性水腫)

醋酸「カリウム」液(醋酸加里液) Liquor Kali acicci.

醋酸「カリウ

ム」液

醋酸「ナトリ

ウム」

醋酸軟膏

日本藥局方ニ據レバ、約三十四「プロセント」ノ醋酸「カリウム」ヲ含有スル水溶液ナリ。

醋酸「ナトリウム」(醋酸曹達) Natrium aceticum.

醋酸「ナトリウム」ハ、用量醋酸「カリウム」ニ同ジ。

硼酸 Acidum boricum.

硼酸ハ、無色小葉狀ノ結晶ニシテ、主ニ外用ニ供シ、其三「プロセント」溶液ヲ器法劑、洗滌劑及注入劑トナシ、或ハ粉末トシテ、鼻腔、外耳道等ニ撒布シ、或ハ軟膏トシテ、諸種ノ皮膚病、外傷等ニ用フ。其他一日數回其〇・五乃至一〇ヲ慢性膀胱加答兒ニ内用スルコトアリ。

硼酸軟膏 Unguentum acidi borici.

日本藥局方ニ據レバ、硼酸一分、「バラフィン」軟膏九分ヨリ製ス。皮膚諸病及火傷ニ用フ。



硼砂

硼砂(硼酸ナトリウム) Borax. (Natrium boricum.)

硼砂ハ、無色透明ノ結晶ニシテ、弱アルカリ性ノ反應ヲ有ス。用量一日數回  
○五乃至一五ヲ散劑若クハ溶液トシテ、尿酸結石及痛風等ニ利尿ノ目的  
ニテ稀ニ用フ。外用トシテ、其「グリセリン」溶液ヲ、小兒ノ口腔加答兒及潰瘍  
性口腔炎ニ用ヒ、及其他和溶液ヲ所謂美貌劑トシテ、皮膚毛髮ヲ洗滌スル  
爲ニ用フ。

鹽類下劑

### 第三 芒硝屬(鹽類下劑)

Gruppe des Glaubersalzes (Salinische

Abführmittel)

生理的作用

### 生理的作用

此屬ニ屬スルモノハ、水ニ溶解シ易キモ、動物膜ヲ竄透スル力少ク、從テ腸管  
中ニテハ吸收セラレ難キ性質アル。アルカリ「鹽類」竝ニ「アルカリ」土類「鹽類」ニ  
シテ、其中ノ主要ナルモノハ、硫酸「ナトリウム」及硫酸「マグネシウム」ナリトス。

鹽類下劑ノ奏  
效ノ理由

之ト等シク、水ニ溶解シ易ケレドモ、腸管ヨリハ吸收セラレ難キ無毒性ノ有  
機物、タトヘバ糖類、殊ニ「マンニト」ノ如キモノニモ、亦下痢ノ作用アルコトハ  
既ニ植物性下劑ノ末條ニ於テ之ヲ述べタリ。  
此屬ノ藥物ハ、動物膜ヲ竄透スル力少ナキヲ以テ、皮膚及粘膜ノ組織内ニハ、  
唯僅ニノミ竄入シ、從テ著キ刺戟作用ヲ呈スルコトナシ。而シテ其下痢ノ作  
用ハ、消化器管内ニ於テ、是等ノ藥物自己ヲ溶解セシメタル水分ヲ保持シテ、  
ソヲ吸收セザラシムルニ由ルモノニシテ、小腸内容物ハ、其液狀ヲ變化スル  
コトナクシテ、大腸ニ達シ、排泄セラル、ニ至ルモノナルコト勿論ナリト雖、  
知覺鋭敏ナル腸ノ蠕動ハ、此僅微ナル鹽類ノ刺戟ニ由リテスラ亢奮シ、下痢  
ノ作用ヲ補助スルモノトス。  
鹽類下劑ノ濃厚ナル溶液ハ、交流作用ニ由リテ、血液中ノ水分ヲ腸管内ニ滲  
出セシムトノ說アレドモ、之ニ關スル試驗ノ成績ニ由レバ、溶液ノ濃淡ニ拘  
ラズ、血中ノ水分ハ、腸管内ニ滲出セシメラル、コトナシ。若シ此鹽類下劑ノ  
效力ノ果シテ交流作用若クハ刺戟ニ由リテ、分泌セラレタル液ノ爲ナリト  
スレバ、其溶液ノ濃厚ナルニ從ヒテ效力ヲ増シ、寧ロ固形體ノ儘ニテ用フレ

血液中之水分  
ハ、鹽類下劑ノ  
溶液ノ爲ニ腸  
管内ニ滲出ス  
ルコトナシ

其證明



鹽類下劑ノ吸  
力ハモモ吸収  
作用ニアラズ

バ、其效力最モ大ナルベキハズナルニ、事實ハ之ニ反シテ、下痢ノ強弱ハ少シ  
モ溶液ノ濃淡ニ關係ヲ有セズ、却テ液量ノ多少ニ關スルコトヲ示セリ。而シ  
テ芒硝ヲ比較的少量ノ水、例ヘバ芒硝二〇〇ヲ一〇〇〇ノ水ニ溶解シテ與  
フルトキハ、消化管内ノ液量十分ナラズ、消化液、腸液ノ分泌ヲ待ツテ、之ト抱  
合シテ初メテ下痢ヲ來ス。故ニ便通アル迄ニ、大約十時間ヲ要ス。之ニ反シテ  
同量ノ芒硝、即二〇〇ヲ水四〇〇〇ニ溶解シテ内服スルトキハ、液量十分ナ  
ルヲ以テ、二三時間ノ後ニ便通ヲ來スベシ。但芒硝ハ大約三「プロセント」ノ溶  
液トナストキハ水ニ飽和セラレ、其以上ニ水ヲ保持スルコトヲ得ザルヲ以  
テ、之ヨリモ稀薄ナル溶液ヲ用フルトキハ、却テ水分ノ體內ニ吸收セラル、  
ヲ見ルベシ。以上ノ理由ニヨリ、身體ノ水分減却ノ目的ニハ、濃厚ナル溶液、例  
ヘバ二十「プロセント」ノ溶液一〇〇〇ヲ用フルヲ要ス。若此場合ニ五「プロセ  
ント」ノ溶液四〇〇〇ヲ用フルトキハ、用ヒタル芒硝ノ量ハ同ジキモ、身體ノ  
水分ノ減却ヲ起サザルベシ。

本屬ノ藥物ハ、血中ニ吸收セラレタル後ニ、腸神經ニ對シテ一種特異ノ刺激  
作用ヲ現ハシ、之ガ爲ニ蠕動ヲ亢進セシメテ、下痢ヲ起スモノナリト云フ説

鹽類下劑ノ吸  
收

アリ、ザレド試ニ血液中心ニ芒硝溶液ヲ注入スルニ、糞便ハ軟化セザルノミナ  
ラズ、腎ヨリ排泄セラル、芒硝ト共ニ、多量ノ水分ヲ排泄スル爲ニ、血液中ノ  
水分ニ不足ヲ生ジ、腸管内ヨリ多量ノ水分ヲ吸收シテ之ヲ補フガ故ニ、糞便  
ハ却テ其硬度ヲ増スヲ見ルベシ。

炭酸「マグネシウム」及煨製「マグネシア」モ亦下痢ノ效力アリ、其效力ヲ呈スル  
所以ハ、腸管内ニ於テ重炭酸「マグネシウム」ニ變化シ、其重炭酸「マグネシウム」  
ハ溶解セラル、モ吸收セラレ難キ爲ナリトス。

硫酸「マグネシウム」ヲ内用スレバ「マグネシウム」ニ比スレバ、少量ノ硫酸ヲ糞  
便中ニ認め、之ト反對ニ、多量ノ硫酸ヲ尿中ニ認めベシ。之ニ由リテ觀レバ、硫  
酸「マグネシウム」ノ一部分ハ、腸中ニ於テ分解セラル、モノナルコトヲ、明ニ  
證明スルニ足ルベシ。

鹽類下劑ハ、血中ニ吸收セラル、コト緩慢ナルモノナレドモ、若シ「モルヒチ」  
若クハ單寧酸ヲ用ヒテ下痢ヲ防止シタル場合、又ハ少許ノ鹽類下劑ヲ、少許  
ノ水ニ溶解シテ内服セシメタル場合ニハ、吸收セラルベシ。故ニ「セニエット」鹽  
ノ少量ヲ内用セシムレバ、尿ハ「アルカリ」性ニ變ジ、大量ヲ與ヘタル場合ニモ、



下痢ヲ來サバ、ルトキハ、同一ノ結果ヲ生ズベシ。又之ト同ジ理由ニテ、長キ腸管ヲ有スルトコロノ家兎ニ、磷酸石灰及磷酸、マグネシウムヲ内用スルトキハ、其吸收量ハ短キ腸管ヲ有スル犬ニ比シテ、殆ド十倍ナルヲ認ムベシ。

醫治效用

鹽類下劑ハ稀薄ノ溶液トナスナ可トス

醫治效用

鹽類下劑ヲ應用スルニハ、生理的作用ノ條下ニ於テ述ベタル理由ニ原ヅキ宜ク稀薄ノ溶液トシテ用フベク、濃厚ナル溶液若クハ散劑トシテハ用フベカラズ。鹽類下劑ノ溶液ノ、久シク胃中ニ停滯シタル場合ニハ、胃ノ作用ヲ障礙スベキヲ以テ、横臥セル病者ニ屢々應用スルハ宜シカラズ。何トナレバ、常ニ横臥セル患者ノ胃ノ内容物ハ、直立動作セル場合ヨリモ、腸ニ移行スルコト困難ナレバナリ。故ニ場合ニ由リテハ、鹽類下劑應用後、直ニ運動ヲ命ジ、藥液ヲシテ速ニ腸ニ移行セシムルコトヲ圖ラザルベカラズ。而シテ生理的ニ存在スル腸内容物ノ酸酵及腐敗作用ノ、既ニ病的ト認メラル、迄ニ達シタル場合ニ於テ、此種ノ下劑ヲ投ズレバ、酸酵又ハ腐敗ノ尙ホ著カラザルニ先チテ、腸内容物ヲ排除スルコトヲ得ベシ。往時鹽類下劑ニ消炎作用アリト稱セラレタルハ、下痢ノ爲ニ來ル間接ノ結

鹽類下劑ノ應用

鹽類下劑ハ腸ニ炎症アル場合ニハ用ヒ難シ

果ニシテ、腸ニ循環スル血量ノ増加スル爲ニ、炎症ヲ起セル臟器ノ血量ヲ減ズルニ由ルモノ、如シ。然レドモ若シ腸自己ニ炎症アル場合ニ之ヲ用フレバ、タトヒ其刺戟ハ僅微ナリト云フトモ、尙其炎症ヲ増劇スル恐アリ。注意スベシ。

天然礦泉ニシテ、芒硝屬鹽類ノ他ニ、食鹽並ニ炭酸ヲ含有スルモノハ、下痢ノ作用アルノミナラズ、輕度ノ刺戟ヲ腸胃ニ與ヘテ、能ク慢性ノ消化不良ヲ治スルコトアリ。カル、ス、泉ノ如キハ、其著名ナルモノナリ。

鹽類下劑ヲ、腸ノ蠕動ヲ亢奮セシムル爲ニ下痢ヲ來ストコロノ他ノ下劑ト伍用スルトキハ、其奏效著カルベシ。タトヘバ、センナノ如キハ、腸神經節ヲ刺戟シテ、蠕動ヲ盛ナラシムルモノナルヲ以テ、此目的ニ用フルニ適ス。

鹽類下劑ト植物性下劑トハ、其生理的作用ヲ異ニスルヲ以テ、臨牀的應用モ亦從テ異ラザルベカラズ。實際ニ於テハ、兩者ヲ伍用スルコト多シト雖、醫士タル者ハ、須ク病症ニ由リテ、兩者ノ中何レニ重キヲ置クベキカヲ知ラザルベカラズ。故ニ今茲ニ其大略ヲ舉示スベシ。

鹽類下劑ハ、腸並ニ下腹部ニ、輕度ノ炎症若クハ充血アルモノニ用フルニ適

鹽類下劑ト植物性下劑トノ區別



シ、消炎ノ目的ニテ、腸ニ誘導セントスル場合ニハ、植物性下劑ノ效ニ若カズ又鹽類下劑ハ、腸内容ノ乾燥シテ排泄ノ困難ナル場合ニ、ソヲ軟化シテ排泄セシムルニ適スレドモ、腸蠕動ノ緩慢ナル爲ニ、排便ナキ場合ニ適セズ。植物性下劑ハ之ニ反ス。但此兩種ノ症狀ハ、能ク相伴ヘルモノナルヲ以テ、下劑モ亦兩者ヲ伍用スル場合多シ。中毒ノ如キ腸内容ヲ急ニ排泄スル必要アル場合ニハ、鹽類下劑ハ、不適當ニシテ、植物性ノ峻下劑ヲ用フルヲ可トス。水腫等ノ患者ノ、體內ヨリ水分ヲ奪ハントスルニハ、下劑ハ一般ニ其效ナシト雖、植物性下劑ハ、腸分泌ヲ亢進スルヲ以テ、多少ノ效アリ。而シテ鹽類下劑モ亦濃厚ナル溶液ヲ内用スレバ、消化管内ニ分泌セラル、消化液ト理學的抱合ヲナシテ、ソヲ體外ニ排泄シ、間接ニ身體水分ノ減少ヲ來ス效アルコトハ言ヲ待タズ。

### 品名、製劑、用量及處方

硫酸「ナトリウム」

硫酸「ナトリウム」(芒硝、硫酸曹達) Natrium sulfuricum. (Glaubersalz.)

無色透明ノ結晶ニシテ、中性ノ反應ヲ現ハシ、微シク苦味ヲ帶ビタル清涼ノ鹹味ヲ有ス。乾燥セル大氣ニ觸ルレバ風化シ、冷水三分ニ溶解ス。用量一回一五〇乃至三〇〇ヲ水劑トシテ用フ。

#### (處方例)

硫酸「ナトリウム」 一〇〇〇  
右一回半酒杯ヲ採リ、適量ノ冷水ニ溶解シテ内用ス。

硫酸「カリウム」(霸王鹽、硫酸加里) Kalium sulfuricum.

硫酸「カリウム」

白色堅硬ナル結晶、若クハ結晶層片ニシテ、十分ノ水ニ溶解ス。人工「カル、ス」泉鹽ノ一成分トシテ用ヒラル、他ニハ、應用セラル、場合稀ナリ。

人工「カル、ス」泉鹽 Sal Carolinum factitium.

人工「カル、ス」泉鹽

日本藥局方ニ據レバ、乾燥硫酸「ナトリウム」四十七分、硫酸「カリウム」二分、クロールナトリウム「十五分、重炭酸「ナトリウム」三十六分ヨリ成レル白色ノ

硫酸「カリウム」 人工「カル、ス」泉鹽



粉末ナリ其八〇乃至一五〇若クハ其以上ヲ水ニ溶解シテ下劑トナシ其  
他六〇ヲ水一〇〇〇〇〇ニ溶解シテ天然「カル、ス」泉ニ代用ス。

(處方例)

人工「カル、ス」泉鹽五〇〇

右一回一茶匙ヲ一椀ノ冷水又ハ溫湯ニ溶解シテ毎朝食前ニ内用。

重酒石酸「カリウム」(純精酒石、重酒石酸加里、酒石英)

*Kalium bitartaricum.* (*Tartarus depuratus.*)

白色堅硬ノ結晶若クハ白色ノ結晶様粉末ニシテ水ニ溶解シ難シ下劑ト  
シテ一〇乃至二五ヲ用ヒ其他尙他ノ下劑ト伍用ス。清涼ノ酸味アルヲ以  
テ熱性患者ニ與フルニ適セリ。

(處方例)

純精酒石一〇 餛水二〇〇〇

右半酒杯宛頻回内用。

酒石酸「カリ  
ウム」

酒石酸「カリウム」(中性酒石酸加里) *Kalium*

*tartaricum.*

無色透明ノ結晶若クハ結晶様粉末ニシテ水ニ溶解シ易シ用量ハ重酒石  
酸「カリウム」ニ同ジ。

酒石酸「カリウム、ナトリウム」(酒石酸加里曹達「セ

「ハト」鹽) *Natorio-Kalium tartaricum.* (*Seignettesalz.*)

無色透明ノ柱狀結晶若クハ白色ノ粉末ニシテ水ニ溶解シ易シ用量重酒  
石酸「カリウム」ニ同ジ。

緩下沸騰散 *Pulvis aërophorus laxans.*

日本藥局方ニ據レバ「セニエツト」鹽末七五重炭酸「ナトリウム」末二五ヲ混和  
シテ著色紙ニ包ミ別ニ酒石酸末二〇ヲ白紙ニ包ミ用ニ臨ミテ先ヅ其著  
色紙ノ藥物ヲ水ニ溶解シ次デ白紙ノ藥物ヲ其中ニ投入シテ振盪シ沸騰

緩下沸騰散

酒石酸「カリ  
ウム、ナトリ  
ウム」



孕礬酒石 硫酸「マグネシウム」 沸騰枸橼酸「マグネシウム」

スルニ乗ジテ飲用セシム。

孕礬酒石 Tartarus boraxatus.

下劑トシテ一回一五〇許ヲ内用シ、又利尿劑トシテ、殊ニ尿石溶解ノ目的ニ少量ヲ内用スルコトアリ。

硫酸「マグネシウム」(瀉利鹽、硫酸苦土)

Magnesium sulfuricum. (Bittersalz.)

無色ノ稜柱狀小結晶ニシテ、中性ノ反應ヲ現ハシ、少ク風化シ、等分ノ水ニ溶解ス。味ハ清涼苦鹹ナリ。用量一五〇乃至三〇〇ヲ水劑トナス。

(處方例)

硫酸苦土二〇〇 稀鹽酸一〇 餛水二〇〇〇

右一回半酒杯毎二時服用(脚氣)

沸騰枸橼酸「マグネシウム」(沸騰枸橼酸)

Magnesium citricum effervesens.

沸騰枸橼酸「マグネシウム」

日本藥局方ニ據レバ、炭酸「マグネシウム」五分、枸橼酸十五分、蒸餾水二分ヲ取リテ能ク混和シ、大約三十度ニ於テ乾燥シテ細末トナシ、之ニ重炭酸「ナトリウム」末十七分、枸橼酸中末八分、白糖中末四分ヲ混和シ、酒精ヲ滴下シツ、徐々ニ研磨シテ、乾燥後ニ篩過シテ粗末トナシタルモノナリ。用量一五〇乃至三〇〇。虛弱ナル患者ノ下劑トナスニ適ス。

沸騰枸橼酸「マグネシウム」



腐蝕劑

### 第二部 腐蝕劑 Caustica, Aetzmittel.

腐蝕劑ニ屬スベキモノハ、酸「アルカリ」、造鹽素及重金屬鹽類ナリトス。但重金屬鹽類ハ、後章ニ論ズベキヲ以テ、此章ニハ述ベズ。

一般作用

酸「アルカリ」、造鹽素及強酸化藥ノ一般ノ作用 是等ノ物質ハ、前ニ説明シタル水及中性「アルカリ」鹽ノ如キ分子の理學的作用ニ非ズシテ、組織ヲ構成スル物質ニ對スル親和力強ク、從テ其組織ニ化學的作用ヲ現ハスモノトス。醫學上ニハ此變化ヲ稱シテ腐蝕「Aetzung」ト云ヒ、是等ノ物質ヲ總稱シテ腐蝕劑「Caustica, Aetzmittel」ト云フ。腐蝕ヲ起ス原因ニ種々アリ、即チ第一、「アルカリ」鹽類、濃硫酸等ハ脫水「Wasserentziehung」ニヨリ、第二「アルカリ」及酸等ハ蛋白溶崩「Eiweissauflösung」ニヨリ、第三「重金屬鹽類」ズル「フオサリツウィール」酸、石炭酸等ハ蛋白沈澱「Eiweissfällung」ニヨリ、第四酸化藥ハ酸化「Oxydation」ニヨリ、第五造鹽素ハ置換「Substitution」ニヨリ、第六亞硫酸等ハ還元「Reduktion」ニヨリ、何レモ組織成分ヲ分解破壞シ、之ガ爲ニ腐蝕ヲ來スモノトス。而シテ其變化ノ極メテ輕微ナルモノハ、解剖上殆ド證明スルコトヲ得ズシテ、所謂官能的障礙ヲ細

腐蝕

痂皮

第一度腐蝕

第二度腐蝕

第三度ノ腐蝕

胞ノ原形質ニ及ボスニ過ギザレドモ、顯著ナルモノニ至リテハ、組織ニ解剖上ノ變化即チ器質的障礙ヲ起シ、甚シキハ細胞ヲシテ全ク破壞死滅スルニ至ラシム。而シテ後者ニ於テ、破壞セラレタル組織ノ殘物、竝ニ成形的ニ組織ヨリ分泌セラレタル物質等ト、腐蝕劑トノ相結合シテ生ジタルモノヲ、總稱シテ痂皮「Schorf」ト云フ。痂皮ハ、ソヲ生ゼシメタル藥物ノ種類ニ由リテ、硬軟乾濕ノ差違アリ。サレド組織ノ破壞ハ、必シモ腐蝕劑ノ直接ノ作用ノミニ由リテ起ルニアラス。腐蝕劑ノ爲ニ生ジタル壞疽若クハ「フストルラチー、エリスツェンシク」破壞的炎症ニ於テモ亦起ルコトアリ。輕度ノ腐蝕作用、即チ所謂第一度ノ腐蝕ニ當リテハ、恰モ分子のニ働ク藥物ヲ用ヒタル場合ノ如ク、唯局所ノ知覺刺戟ト脈管擴張トヲ現ハシ、充血ヲ來スニ止マレドモ、之ヨリモ尙其腐蝕作用強キ場合、即チ第二度ノ腐蝕ニ於テハ、種々ノ炎症狀態ヲ現ハシテ、皮膚ニ水疱ヲ生ジ、或ハ然ラズシテ分泌物ヲ發シ、漿液膜及粘膜炎ニハ、偽膜「Pseudomembranen」ヲ現ハシ、何レモ組織細胞ノ腫脹、漏濁及増殖ヲ認ムルニ至ル。而シテ此炎症ノ經過及轉歸ハ、其作用ノ強弱ニ由リテ區々一樣ナラズ、輕度ノ炎症ハ、全然復故シ得レドモ、劇度ノモノハ、組織ノ壞死、化膿及崩潰ヲ招キ、更ニ強度ノ腐蝕、即チ第三度



腐蝕劑ト皮膚  
刺戟劑トノ區  
別

腐蝕劑ノ中毒  
腐蝕劑ノ應用

ノ腐蝕ニ至リテハ、局部ノ組織ハ、高度ナル化學的ノ變化ノ爲ニ、直ニ崩潰死滅スベシ。臨牀上ニ所謂腐蝕トハ、此第三度ノ腐蝕ヲ指スモノトス。

腐蝕劑ノ輕度ナル刺戟ノ、皮膚刺戟劑ト同一ノ結果ヲ來スコトハ、五十四頁ニ於テ述ベタリ。サレド此兩劑ハ、大體ニ於テ全ク其作用ヲ異ニス。即チ腐蝕劑ハ、組織ヲ構成スル物質ト直接ニ化學的親和ヲナシテ、之ヲ破壞スルモノニシテ、炎症及引赤ノ如キハ、唯其反應トシテ現ハル、ニ過ギズ。故ニ腐蝕劑ハ死屍ニ於テモ能ク其作用ヲ現スコトヲ得ベシ（但組織ノ炎症等ノ反應ナキコト勿論ナリ）之ニ反シテ皮膚刺戟劑トシテ前章ニ於テ述ベタル藥物ハ、組織ニ對シテ直接ニ化學的變化ヲ起サザルヲ以テ、之ヲ死屍ニ用フレバ、如何ホド大量ニテモ、少シモ其作用ナク、之ヲ生體ニ用フレバ、先ヅ細胞ノ官能的變化ヲ起シテ、引赤、炎症等ヲ發シ、組織ノ壞死、化膿等ノ器質的變化ハ、唯其結果トシテ現ハル、モノトス。

腐蝕劑ヲ多量ニ内服スレバ、腸胃ヲ腐蝕シ、急性腸胃炎ヲ起ス。

腐蝕劑ハ、其刺戟作用ヲ利用シテ、肥大セル組織ニ退行變性ヲ起サシメ、或ハ滲出物ノ吸收消失ヲ希圖ス。強キ腐蝕作用ノ應用セラル、ハ、病的新生物、若

何レノ腐蝕劑  
ニテモ同一度  
ニ刺戟ヲ組織  
ノ與アレバ其  
結果ハ常ニ同  
一ナリ

クハ病的ニ變性シタル組織ヲ破壞セシメントスル場合ナリ。其他、アルカリハ角質ヲ軟化シ、粘液ヲ溶解シ、脂肪ヲ乳化シ、結締組織ヲ軟化セシムル性質アルヲ以テ、此目的ニ應用セラル。又腐蝕劑ハ創傷ニ際スル動物毒、若クハ微菌毒ヲ破壞スル爲ニ、毒蛇ノ咬傷、狂犬ノ咬傷、下疳、狼瘡、結核、傳染セル創傷等ニ用フルコトアリ。

酸化劑及遊離ノ造鹽素ハ、全ク局所作用ニ限ラレタレドモ、獨リ「ヨード」ノミハ之ト異リタル作用アリ。此事ハ後ニ説クベシ。

腐蝕劑ノ應用ニ當リテハ、其藥物ノ性質ヨリモ、寧ロ藥物ノ濃度ノ強弱及使  
用時間ノ長短ニ注意スルヲ要ス。從來ノ經驗ニ由レバ、持續シタル刺戟作用  
ヲ組織ニ與フルトキハ、其部分ニ存在セル病的產物ヲ吸收シ得ルモノトス  
故ニ藥物ノ種類ニ拘ラズ、組織ニ對シテ同一度ノ治療的刺戟ヲ與フルトキ  
ハ、其結果ハ常ニ同一ナリ。サレド刺戟ノ強弱及持續ハ、藥物ノ種類ノ異ナル  
ニ從ヒテ一様ナラザルモノナレバ、希望スル度ノ腐蝕作用ヲ得ントスルニ  
ハ、豫メ各種ノ腐蝕劑ノ性質ヲ知悉スルヲ要ス。



### 第四 「アルカリ」屬

#### Gruppe der Alkalien.

所屬物質  
水殘基「イオン」

之ニ屬スル藥物ハ、凡テ「アルカリ」性反應ヲ有ス。「アルカリ」性反應トハ、物理化學ノ説明ニ由レバ、水溶液ニ於テ、水殘基「イオン」(OH)ヲ有スルモノニシテ、「アルカリ」金屬「アルカリ」土類金屬ノ水酸化物及炭酸、硼酸、脂肪酸、磷酸等ノ弱酸トノ鹽類ハ、何レモ「アルカリ」性反應ヲ呈シ、從テ此屬ニ屬ス。但酸性弱キ有毒ナル有機酸、例ヘバ青酸ノ如キモノト「アルカリ」金屬トノ鹽類ハ、屢「アルカリ」性反應ヲ有スルモノナレドモ、酸殘基ノ非常ナル毒性アリテ、「アルカリ」性ノ爲ニ起ル作用ハ、全ク之ガ爲ニ被ハルベシ。故ニ斯ノ如キモノハ、此屬ニ編入セズ。

局所作用及醫治效用

#### 局所作用及醫治效用

「アルカリ」ノ局所作用ハ、其水殘基「イオン」ノ作用及奪水作用ニシテ、蛋白質及類蛋白質ヲ軟化膨脹シ、若クハ溶解スルニアリ。「アルカリ」金屬ノ水殘基化合物ハ、強キ腐蝕作用ヲ有スルモノニシテ、杆狀ヲナセル水酸化「カリウム」(苛

苛性「カリ」ノ作用及其長所

性「カリ」ハ腐蝕劑トシテ汎ク用ヒラル。即チ苛性「カリ」ハ、能ク水分ヲ攝取シ、且組織ヲ融解スル爲ニ、烈シキ腐蝕作用ヲ呈スルモノトス。而シテ之ニ由リテ生ジタル痲皮ハ、柔軟濕潤ニシテ、固著性少キヲ以テ、續テ來リテ作用スベキ苛性「カリ」液ノ組織ニ侵入スルヲ妨グルコトナク、從テ其腐蝕作用ハ、周圍ニ擴ガリ、深部ニ達スルコトヲ得ベシ。斯ノ如キ腐蝕作用アルヲ以テ、苛性「カリ」ノ稀薄溶液ハ、廣汎ナル皮膚病ニ、輕度ノ腐蝕ヲ與フル爲ニ用ヒラル、コトアリ。

石鹼「アルカリ」  
炭酸「アルカリ」

石鹼(即チ脂肪酸「アルカリ」)及炭酸「アルカリ」ハ、皮膚ヲ洗淨スル爲ニ供用セラレ。即チ是等ノ物質ハ、污垢中ノ脂肪ヲ乳化シ、且上皮ノ表層ヲ軟化シテ、ソヲ除去シ、且摩擦及洗滌ニ由リテ生ジタル泡沫ノ爲ニ、器械的ニ其部分ニ存スル凡テノ不潔物ヲモ共ニ除去スルコトヲ得ベシ。之ト同一ノ作用ニテ、炭酸「アルカリ」ヲ浴湯劑トシテ皮膚病ニ用ヒ、皮膚ノ病的產物及病的組織ヲ軟化溶解セシムルコトアリ。

「アルカリ」劑  
ノ消化器ニ對スル作用

消化器病ニ、「アルカリ」劑ノ固有ノ侵蝕作用ヲ現ハス迄ニ至ラザル程ノ少量ヲ内用スルトキハ、消化器内ニ存スル酸ヲ中和シ、粘液ヲ溶解シ、且増殖セル



「アルカリ」類  
消化器内ニ  
應用スルニハ  
其目的ノ異ナ  
ルニ從ヒテ其  
物質ヲ異ニス  
ルヲ要ス

「酸」中毒ニ炭酸  
「アルカリ」ヲ  
用フルハ危險  
ナリ

上皮組織ヲ弛解スル效アリ。酸ヲ中和スル作用ヲ應用シテ、胃ノ鹽酸過多及  
ビ異常發酵ノ爲ニ腸内ニ酸ヲ生ジタル場合ニ、之ヲ中和シ、酸ノ刺激ノ爲ニ  
生ズベキ胃腸ノ加答兒及其他ノ病的變化ヲ豫防スルコトヲ得ベシ。此作用  
ハ殊ニ小兒ニ向ヒテ多ク應用セラル。即チ小兒ニ於テ、殊ニ病的ニ感受性ノ  
亢進シタル胃腸粘膜ハ、酸ノ刺激ヲ受クルトキハ、恐ルベキ下痢ヲ發スルニ  
至ルモノナレドモ、此場合ニ、煨製「マグネシア」ヲ與ヘテ、酸ヲ中和スルトキハ、  
茲ニ生ジタル中性「マグネシア」鹽類ハ、緩下作用ヲ有スルヲ以テ、刺激ヲ與ヘ  
ズシテ、徐々ニ其有害物質ヲ排除スルコトヲ得ベシ。若シ緩下作用ヲ現ハサ  
ズシテ、腸管内ニ「アルカリ」作用ノ持續スルコトヲ望ム場合ニハ、磷酸石灰ヲ  
用フベク、之ニ反シテ胃ノ慢性加答兒ニ當リテ、粘膜面ニ附著セル粘液ヲ溶  
解セントスル場合ニハ、重碳酸「ナトリウム」ヲ與フベシ。重碳酸「ナトリウム」ノ  
慢性胃加答兒ニ對スル效力ハ、酸ヲ中和スル作用ニ歸スルヨリモ、粘液ヲ溶  
解シテ胃粘膜ノ作用ヲ調整スルニ由ルト爲サ、ナル可ラズ。サレド、若シ「酸」中  
毒ノ場合ニ、炭酸「アルカリ」ヲ用ヒテ、其酸ヲ中和スルトキハ、多量ノ炭酸瓦斯  
ヲ遊離シテ胃ヲ膨滿シ、而シテ酸ノ爲ニ腐蝕セラレタル胃ノ部分ニ破裂ヲ

此場合ニ於ケ  
ル適當ノ解毒  
劑

吸收作用及醫  
治效用

來ス恐アリ、或ハ斯ノ如キコトナキモ、猶著ク胃ヲ膨滿セシメテ、隣接臟器、タ  
トヘバ心臟及肺ノ作用ヲ妨グルコトアルベシ。注意ヲ要ス。酸中毒ノ解毒劑  
トシテハ、水酸化「アルカリ」ハ、其腐蝕作用強キ爲ニ用ヒ難シ。故ニ此場合ニハ、  
煨製「マグネシア」若クハ石鹼ヲ用フベシ。磷酸中毒ニ、苛性石灰ト白糖トノ化  
合物、即チ糖石灰「Zuckeralkali」ヲ用フルトキハ、不溶性ノ磷酸石灰ノ沈澱ヲ生  
ジ、砒酸、亞砒酸中毒ニ、煨製「マグネシア」ヲ用フレバ、同ジク不溶性ノ化合物  
ヲ形成スベシ。故ニ其場合ニ於ケル良好ノ解毒劑ト認ムルニ足ル。

### 吸收作用及醫治效用

「アルカリ」劑ノ吸收セラル、トキハ、其奪水作用、即チ所謂鹽類作用ヲ現ハシ、  
次デ血液及組織ノ「アルカリ」性ヲ増加シ、且金屬ノ「イオン」作用ヲ呈スルノ  
ミナラズ、其排泄セラレントスルニ當リテハ、腎臟ニ於テ其局所作用ヲ現ハ  
スベシ。

「アルカリ」劑中、「アルカリ」土類ノ化合物ハ、殆ド吸收セラル、コトナキヲ以テ  
茲ニ説カズ。唯「アルカリ」金屬化合物ノミヲ説クベシ。而シテ金屬ノ「イオン」  
作用ハ、前章食鹽屬(百五十六頁)ニ於テ述べタルヲ以テ、茲ニ再述セズ。



炭酸鹽類  
加量ト作  
用ノ差異

若シ多量ノ「アルカリ」ヲ内用スルトキハ、タトヒ其「アルカリ」ハ全ク胃液中ノ酸ノ爲ニ中和セラルトモ、尙身體中ニハ「アルカリ」性ヲ増スヲ見ルベシ。是胃液中ノ酸ニ依リテ中和セラルベキ腸内ノ「アルカリ」ノ其胃液ノ酸性ヲ失ヒタル爲ニ、中和セラレズシテ、血中ニ吸收セラル、ニ由ルモノニシテ、其血中ニ於テ過剩トナリタル「アルカリ」ハ、尿中ニ排泄セラレテ、尿ヲ「アルカリ」性ニ變ゼシムベシ。

血中ノ「アルカリ」性ハ、主ニ炭酸「ナトリウム」ニ由リテ生ズルモノニシテ、炭酸「ナトリウム」ハ、組織ノ生活上ニ特異ノ感作ヲ與フル作用アルガ如シ。今家兎ニ就テ試験ヲ施シ、先ヅ之ニ鹽酸ヲ與ヘテ、殆ド全ク血液ノ「アルカリ」性ヲ中和シテ死ニ瀕セシメ、然ル後ニ之ニ炭酸「ナトリウム」ヲ與フレバ、恢復スルコトヲ得レドモ、炭酸「カリウム」若クハ炭酸「リチウム」ヲ與フルモ、恢復セズ。是生體ハ、單ニ「アルカリ」性、即チ水酸基「イオン」ノ存在ノ必要アルノミナラズ、生理的ニ「ナトリウムイオン」ノ必要アリテ、カリウムイオン「若クハ、リチウムイオン」ヲ以テ、之ニ代用スルコトヲ得ザルヲ證スルモノナリ。

血液中ノ「アルカリ」ノ含量ヲ定ムルコトハ困難ナルガ故ニ、「アルカリ」ヲ用ヒ

血中ノ「アルカリ」  
増加ノ  
結果

タル後ニ、血液ノ「アルカリ」含量ハ、如何ナル程度ニ増加スルカト云フコトヲ、確實ニ認め得ズト雖、血液中ノ「アルカリ」ト親密ノ關係ヲ有スル炭酸ノ量ノ、炭酸「ナトリウム」服用後ニモ、比較的ニ多ク増加セザルニ由リテ觀察スレバ、「アルカリ」モ亦多量ニハ血中ニ蓄積セラレズ、迅速ニ體外ニ排泄セラル、モノナラン。然ラバ血中ニ於ケル斯ノ如キ僅微ナル炭酸「ナトリウム」ノ增量ハ、物質交換作用上ニ如何ナル感作ヲ現ハスカト云フニ、實驗上著キ物質交換ノ増加ヲ見ズ、是一方ニハ大量ノ「アルカリ」ヲ服用セシメタル爲ニ、試驗動物（若クハ人類）ノ消化器ノ「アルカリ」ノ爲ニ、障礙ヲ受ケテ、榮養品ノ消化吸収ヲ惡シクスルト、他方ニハ「アルカリ」ノ血中ニ於ケル增量ノ極テ僅微ニシテ、物質交換ノ増加ヲ促進スル程ノ感作ナキトニ由ルナリ。サレド糖尿病、尿酸病、的素質、痛風、肥胖病等、體内ノ酸化作用ノ衰退シ、血中ニ酸性代謝産物ノ蓄積セル者ニアリテハ、炭酸「ナトリウム」ヲ用フレバ、酸性物質ヲ中和シ、血中ノ「アルカリ」ヲ補フヲ以テ、物質交換上、酸化作用ノ亢進ヲ認め得ベシ。又酸中毒ノ爲ニ、血中ノ「アルカリ」ノ減少セル場合ニ、炭酸「ナトリウム」ヲ皮下ニ注入シテ、血液ノ「アルカリ」ヲ増加セシムルトキハ、頓ニ瀕死ノ症狀ヲ消失セシムルコ



痛風患者ニ對スル「アルカリ」劑ノ效力

尿酸「リチウム」炭酸

トヲ得ベシ。

「アルカリ」劑ハ、痛風及其他ノ尿酸病的素質ニ向ヒテ良效ヲ奏スト稱セラレ、屢、應用セラル之ヲ實驗ニ徵スルニ、尿酸結石ヲ有スルモノニ、「アルカリ」ヲ用フルト、キハ、其尿酸ハ消失シ、之ト同時ニ尿素ノ排泄増加スルコトアリト雖、此種ノ研究成績ハ、每常同一ナルコトヲ得ズ、「アルカリ」ハ、尿酸ノ關節及膀胱中ニ沈積セントスルヲ防グ爲ニ用ヒラレタルノミナラズ、如上ノ研究成績ニ由リテ、既ニ形成セラレタル尿酸結石ヲ溶解セントスル目的ニモ用ヒラレタリ、而シテ炭酸「リチウム」ハ、尿酸ヲ溶解スル性質、炭酸「ナトリウム」ヨリモ數層倍強キヲ以テ、此目的ニハ最モ適當ナリト稱セラル、サレド體內ニ於ケル「アルカリ」ノ作用ハ、試験管内ノ實驗ト同一ナルコト能ハズシテ、人類ニ於テハ、「アルカリ」ノ服用後、其容易ニ尿中ニ移行シ得タル場合ト雖、尿ノ反應ハ必シモ「アルカリ」性ヲ呈セズ、而シテ炭酸「アルカリ」モ亦凡テノ他ノ鹽類ノ如ク、腎臟ヨリ排泄セラル、ニ當リテハ、成ルベク酸性鹽ノ形態ヲ保タントスルヲ以テ、尿中ニ於テハ、多クハ重碳酸鹽類トシテ現ハル、モノナリ、故ニ尿酸沈積ノ場合ニ、「アルカリ」ヲ用フルモ、膀胱中ニ於テ、溶解シ難キ酸性尿酸鹽類

尿酸結石患者ニ對シテ「アルカリ」劑ノ效力

「サリツィール」酸「リチウム」  
「キナ」酸「リチウム」  
「ウロジン」  
「ピペラジン」  
「ウロトロピン」  
「シドナル」

「アルカリ」類  
尿酸結石ニ用フ

ヲ形成シテ、治療ノ目的ヲ達シ得ザルコトアルベシ、其他注意スベキハ、「アルカリ」ノ尿ニ出ヅル場合ニハ、著ク稀釋セラレタルヲ以テ、比較的小ナル表面ヲ有スル尿石ニ對シテハ、其奏效顯著ナラザルベク、サレバトテ其大量ヲ用フレバ、尿ハ著キ「アルカリ」性ヲ呈スルト同時ニ、漸ク磷酸土類ノ沈澱ヲ生ジ、其種ノ結石ヲ生ズル恐アルベシ。

其他尿酸溶解ノ目的ニテ、「リチウム」ノ有機酸化合物、即チ「サリツィール」酸「リチウム」及「キナ」酸「リチウム」(「ウロジン」)、「Urosin」ノ名ヲ以テ販賣セラル)ヲ使用ス、リチウムヲ含有セザル有機酸化合物ナル「ピペラジン」,「Piperazin」,「リジヂン」,「Lysidin」,「ウロトロピン」,「Urotropin」,「シドナル」,「Sidalal」(「キナ」酸「ピペラジン」)等モ亦同一ノ目的ニ用ヒラル、サレド是等ノ應用ハ、皆試験管中ノ實驗ニ基キタルモノニシテ、實際ニ於テハ其效少シ。

往々「アルカリ」礦泉ノ飲治法ヲ適當ニ應用シタル爲ニ、尿酸結石ノ排出ヲ見ルコトアリ、是粘液及其他ノ物質ノ媒介ニ由リテ、結合シタル多數ノ小尿石片ヲ、「アルカリ」ノ作用ニテ弛解分離シテ、個々ノ小片トナシ、排泄シ易クナラシメタル爲ナリ。







佝僂病及骨軟  
化症ニ石灰ノ  
應用

レド「アルカリ」性食鹽泉ノ飲治法ノ如キハ、物質交換ノ亢進ニ由リテ、膽汁ノ分泌ヲ増加シ、間接ニ膽石溶崩ノ效アルベシ。  
近來ニ至ル迄、佝僂病及骨軟化症ニ磷酸石灰ヲ與ヘテ、其骨成分ノ不足ヲ補フコトヲ企テタリ、サレド健人若クハ患者ニ榮養品ト共ニ與ヘタル磷酸石灰ハ、唯其一小部分ノミ吸收セラレ、而シテ血中ニ於テ過剩トナリタルトキハ、腎ヨリシテ排泄セラル、ヲ以テ、骨病ニ對シテ更ニ其效ナキモノナリ。是此種ノ骨病ハ、榮養品中ノ石灰缺乏ニ基因スルニアラズシテ、却テ一種ノ榮養變調ノ爲ニ、骨組織中ニ石灰ノ沈著スルヲ妨ゲラル、カ、若クハ骨組織ヨリシテ、石灰ノ漸次溶解排除セラル、爲ナルヲ以テ、如何ニ多量ノ石灰ヲ與フルモ、疾病ノ原因ノ治療セザル限ハ、骨質ニ於ケル石灰ノ沈著ヲ認ムルコトヲ得ザルベシ。

### 品名、製劑、用量及處方

苛性「カリ」

苛性「カリ」(腐蝕「ボッター」ス) Kalium causticum.

強キ腐蝕性ヲ有スル白色乾燥ノ塊片、若クハ小挺子ニシテ、其破折面ハ結

晶性ヲ呈ス。氣中ニ於テ潮解シ、水ニ溶解シ易シ。腐蝕及上皮溶解ノ目的ニ外用ス。

炭酸「カリウム」(炭酸加里) Kalium carbonicum.

炭酸「カリウ  
ム」

純白ナル結晶性ノ粉末ニシテ、好デ濕氣ヲ引ク。反應ハ強「アルカリ」性ニシテ、等分ノ水ニ溶解シ、澄明ノ液トナル。其滲透作用大ナル爲ニ、尿道疾患、尿酸結石及痛風等ニ、一日數回〇・一乃至〇・五宛ヲ用フ。

粗製炭酸「カリウム」 Kalium carbonicum

粗製炭酸「カ  
リウム」

crudum.

日本藥局方ニ據レバ、八十九八「プロセント」以上ノ炭酸「カリウム」ヲ含有スル強「アルカリ」性ヲ有スル白色顆粒狀ノ粉末ナリ。殆ド全ク等分ノ水ニ溶解ス。軟解ノ目的ニテ、刺激性浴湯劑トナスノ他、洗滌料、巻法料、塗擦料トナシ、其五乃至十「プロセント」ノ溶液ヲ、批癩疹、鱗屑疹、濕疹、瘡瘡、面皰等ニ用フ。



重炭酸「カリウム」

重炭酸「カリウム」(重炭酸加里) *Kalium bicarbonicum.*

無色透明ノ乾燥シタル結晶ニシテ、弱アルカリ性ノ反應ヲ微シ、四分ノ水ニ溶解シ、酒精ニモ溶解ス。應用ハ炭酸「カリウム」ニ同ジ。

炭酸「ナトリウム」

炭酸「ナトリウム」(炭酸曹達) *Natrium carbonicum.*

無色透明ノ結晶ニシテ、氣中ニ風化ス。強アルカリ性ノ反應ヲ微シ、一分ノ冷水、若クハ〇・三分ノ沸湯ニ溶解ス。一乃至二「プロセント」ノ溶液ヲ、含嗽料若クハ鼻腔洗滌料トシテ、其部ノ粘膜ノ急性加答兒ニ用フ。内用ニハ其「アルカリ」性强キ爲ニ不適當ナリトス。

粗製炭酸「ナトリウム」

粗製炭酸「ナトリウム」 *Natrium carbonicum crudum.*

大ナル無色ノ結晶若クハ結晶塊ニシテ、強アルカリ性ヲ有シ、氣中ニ於テ風化シ、水ニハ容易ニ溶解ス。洗滌料若クハ浴湯料トシテ外用セラル。

重炭酸「ナトリウム」

重炭酸「ナトリウム」(重炭酸曹達) *Natrium bicarbonicum.*

白色ノ結晶塊若クハ白色結晶性ノ粉末ニシテ、弱アルカリ性ノ反應ヲ呈シ、氣中ニ於テ變化セズ、十四分ノ水ニ溶解ス。内用量一回〇・五乃至一・五日二〇乃至一〇〇。胃加答兒、氣道加答兒、膀胱加答兒、尿石、膽石、痛風、脂肪過多、糖尿病等ニ汎ク應用セラル。殊ニ重炭酸「ナトリウム」ヲ含有スル礦泉ヲ使用スル場合多シ。

(處方例)

重炭酸「ナトリウム」五〇 番木鱈丁幾一〇 餡水一〇〇〇

右一酒杯宛、食事前ニ服用(慢性胃加答兒)

炭酸「リチウム」 *Lithium carbonicum.*

輕キ白色ノ粉末ニシテ、アルカリ性ノ反應ヲ呈シ、熱ニ遭ヘバ熔融ス。百五十分ノ水ニ溶解スレドモ、酒精ニハ溶解セズ。用量一回〇・〇五乃至〇・二

炭酸「リチウム」



五ヲ散劑トナシ、若クハ炭酸水中ニ溶解シテ、一日數回痛風及尿酸結石ニ用フ。

「サリツィール」酸「リチウム」 Lithium salicylicum.

炭酸「リチウム」ヨリモ胃ヲ刺戟スルコト少ク、從テ大量ヲ用フルコトヲ得ベシ、用量一回〇・五乃至一〇、一日二三回内用ス。

薬用石鹼 Sapo medicatus.

日本藥局方ニ據レバ、豚脂及「オレーフ」油ヲ「ナトロン」油液ト共ニ熱シテ製シタル、所謂曹達石鹼ノ一種ナリ、白色ノ粉末ニシテ、水及酒精ニハ全ク透明、或ハ殆ド透明ニ溶解ス。丸劑殊ニ蘆薈、「ヤーラッパ」等ノ丸劑ノ賦形藥トシテ用ヒ、其他洗滌料、磨齒粉料、灌腸料トシテ使用セラル。

石鹼精 Spiritus saponatus.

「オレーフ」油、「カリ」油液、酒精、水ヨリ成リ、透明黄色、「アルカリ」性反應ヲ有スル

「サリツィール」酸「リチウム」

薬用石鹼

石鹼精

「カリ」石鹼

「カリ」石鹼(軟石鹼) Sapo Kalinus.

液ニシテ、輕キ皮膚刺戟劑トシ、或ハ鱗屑疹等ノ洗滌劑トシテ使用セラル。日本藥局方ニ據レバ、亞麻仁油ヲ「カリ」油液ト共ニ熱シテ製ス。透明帶褐黄色ニシテ、全質均等ノ軟塊ナリ。不快ナラザル微臭ヲ帶ビ、水及酒精ニ溶解ス。皮膚ニ用フル種々ノ軟膏劑ニ配合シ、往時特ニ疥癬療法ニ應用シタリ。

磷酸「ナトリウム」(磷酸曹達) Natrium phosphoricum.

ricum.

無色透明ノ結晶ニシテ、乾燥ノ大氣ニ觸ルレバ風化ス。「アルカリ」性ノ反應ヲ呈シ、大約六分ノ冷水若クハ二分ノ熱湯ニ溶解シ、四十度ニ於テ熔融ス。用量二五〇乃至四〇〇ヲ水ニ溶解シ、一回若クハ二回ニ頓服セシム。厭フベキ味ナキ小兒ノ瀉下劑ナリ。

煨製「マグネシウム」(酸化「マグネシウム」) Magnesia

list.

磷酸「ナトリウム」

煨製「マグネシウム」



白色細微ノ輕キ粉末ニシテ、弱アルカリ性ノ反應ヲ微シ、水ニハ殆ド溶解セズ。用量〇・一乃至〇・五ヲ、消化器ノ加答兒ニ制酸劑トシテ用ヒ、或ハ、一〇乃至三〇ヲ、下劑トシテ用フ。酸中毒ニハ、其大量ヲ振盪合劑トシテ、中和ノ目的ニ用ヒ、又亞砒酸、水銀劑、銅鹽等ノ急性中毒ニハ、大量ノ煨製「マグネシア」ヲ用ヒテ、是等ノ毒物ヲ不溶解性ニ變ゼシム。

(處方例)

煨製「マグネシア」一〇〇 餾水二〇〇〇  
右振盪合劑トナシ、十五分時毎ニ半酒盃宛内用(亞砒酸中毒)

炭酸「マグネシウム」 Magnesium carbonicum.

純白色ナル粉碎シ易キ輕キ塊片若クハ輕鬆ノ粉末ニシテ、水ニハ僅ニ溶解シ、弱アルカリ性ノ反應ヲ微ス。其用量ハ煨製「マグネシア」ニ同ジク、制酸下劑ノ目的ニ用フ。

小兒散(苦土大黃散) Pulvis infantum. (Pulvis Magnesiae

cum Rheo.)

小兒散

炭酸「マグネシウム」

既ニ説明セリ、下卷百〇八頁ヲ見ヨ。

煨製石灰 Calcaria usta.

類白色堅實ノ塊ニシテ、白熾熱ニ遇フモ變化セズ、之ニ凡ソ半量ノ溫湯ヲ注グトキハ、之ト化合シテ、熱ヲ發シ、漸々崩潰シテ白色ノ粉末ニ變ジ、アルカリ性ノ反應ヲ呈ス。其二十倍ノ混合液(石灰乳)ヲ消毒劑トシテ使用シ、殊ニ其價ノ廉ナル爲ニ、土壤、溝渠ノ消毒ニ汎ク用ヒラル。

石灰水 Aqua Calcariae.

大約〇・一二乃至〇・一六「プロセント」ノ煨製石灰ヲ含有ス。牛乳ニ配合シテ、下劑ヲ起セル患者多クハ小兒ニ内用シ、或ハ胡麻油ニ配合シテ火傷ニ外用ス。

沈降炭酸「カルチウム」 Calcium carbonicum praecipitatum.

煨製石灰

石灰水

沈降炭酸「カルチウム」



純白色ナル細微ノ結晶性粉末ニシテ、水ニハ殆ド溶解シ難ク、酒精ニモ亦全ク溶解セズ、稀ニ其〇・五乃至一〇ヲ制酸劑トシテ消化器ノ加答兒ニ用フ。磨齒粉ニハ主要成分トシテ使用セラル。

沈降燐酸「カルチウム」 Calcium phosphoricum  
praecipitatum.

純白色ノ輕キ細微ノ粉末ニシテ、水ニハ殆ド溶解セズ、酒精ニモ亦全ク溶解セザルコト、沈降炭酸「カルチウム」ニ同ジ。其一〇乃至五〇ヲ佝僂病、腺病、骨軟化症ニ用フ。

第五 硫化「アルカリ」屬

Gruppe der Schwefelalkalien.

「アルカリ」金屬及「アルカリ」土類金屬ノ硫化物並ニ硫水化物ハ「アルカリ」性反應ヲ呈シ、從テ其局所作用ハ「アルカリ」ノ作用ニ似タル點多シト雖、其特異ナルハ、角質ノ溶解力強クシテ、毛髮及表皮ヲ侵蝕スル性質甚ダ顯著ナルニア

沈降燐酸「カルチウム」

硫化「アルカリ」屬

局所作用

脫毛劑

硫黃及其化合物ノ皮膚ニ對スル作用

硫化水素中毒

リ、故ニ其性質ヲ利用シテ、脫毛劑 Epilationsmittel トナシ、若クハ稀薄ナル「カリ」滴液ト同一ノ目的ニテ、種々ノ皮膚病ニ應用シタリ、サレド現今ニ於テハ、此兩様ノ目的ニテ用ヒラル、コト往時ノ如ク盛ナラズ。

生理的作用及醫治效用

往古ヨリノ因襲ニ依リテ、今日ニ於テモ、硫黃及其化合物ハ、皮膚病ニ對シテ著キ效力アリトナシ、浴湯劑又ハ内服劑トシテ用ヒラルト雖、是等ノ物質ハ、角質ヲ溶解スル他、別ニ特異ノ效力ヲ顯スモノニアラザルコトハ、確ナル事實ナリトス、故ニ外用トシテハ諸種ノ皮膚病ニ有效ナリト雖、内用ハ皮膚病ニ對シテ直接何等ノ效ナキコト明ナリトス。

硫化水素ハ、一種ノ神經毒ニシテ、延髓ニ存スル諸種ノ神經中樞、殊ニ呼吸中樞ノ麻痺ヲ來ス、サレドコノ場合ニ於テ、往時人ノ信ジタリシ如キ、血液中ノ血色素ヲ硫化「ヘモグロビン」ニ變ジ、酸素ヲ攝取スル能ハザラシムルヲ以テ、其死因トナスベキ理由ヲ認ムルコトヲ得ズ、是硫化水素ハ、試験管中ニ於テハ、血色素ト化合シテ硫化「ヘモグロビン」ヲ作ルト雖、生體ニ於テハ、血色素ノ變化ヲ起スニ暇ナクシテ、早ク死ニ歸スルヲ以テナリ、今家兎ニ就テ試験ス

硫化「アルカリ」屬 生理的作用及醫治效用



硫黄ノ通利作用  
其理由

ルニ、其體重一「キログラム」毎ニ、六「ミリグラム」ノ硫化「ナトリウム」ヲ、血液中心ニ注入スレバ、硫化水素ヲ與ヘタル場合ト同一ノ徵候ヲ呈シテ、死ニ歸スベシト雖、血中ニハ、硫化「ヘモグロビン」ヲ證明シ得ズ、是ニ由リテ之ヲ觀レバ、硫化水素及硫化「ナトリウム」ノ中毒ハ、青酸及青酸「カリウム」ノ中毒ト同ジク、呼吸中樞ノ麻痺ヲ來スヲ以テ死因ト看做サルベカラズ、又蛙ニ就テ試驗スルニ、硫化水素ハ、一般麻痺ヲ來ス性質アリ、今氣溫低キ室内ニ於テ、蛙ニ硫化水素ヲ與フルトキハ、一旦麻痺ヲ發シタル後、二週日ニモ渉ルベキ著キ強直ヲ發シ、加之麻痺ト痙攣トヲ交互ニ現ハシテ、月餘ノ久シキニ及ブモノナリ、硫黄ハ、或場合ニハ、下劑トシテ實用スルニ足ル、細末狀トナリテ胃ニ達シタル硫黄ハ、胃中ニ於テハ少シモ變化ヲ受クルコトナシト雖、腸ニ下リテ、其一部分ハ始テ硫化「ナトリウム」(NaHS)ニ變ズ、此物質ハ著キ刺激性アルヲ以テ、強ク腸ノ蠕動ヲ亢奮セシメテ、排便ヲ促スコトヲ得ベシ、サレド腸管内ニ生ズル硫化「ナトリウム」ハ、通常極メテ微量ナルヲ以テ、之ガ爲ニ其結果トシテ來ルベキ下痢著カラザルガ故ニ、硫黄内用後ノ排便ハ、多クハ液狀ヲナサズシテ、糜粥狀ヲ爲ス、此理由ニテ、細末硫黄ノ下劑トシテ適用セララル、ハ、

硫黄ハ痔疾患者ノ下劑トナスニ適ス

硫黄ノ内服ヲ持長スレバ慢性腸加答兒ヲ起ス

腸内容物ヲ迅速ニ全然排除セントスルニ非ズシテ、唯糞塊ヲシテ柔軟ナラシメ、直腸、殊ニ肛門ヲ通過シ易カラシメントスル場合ナリ、故ニ痔疾患者ニ硫黄ヲ應用スルトキハ、其硬便排泄時ニ於ケル非常ナル苦痛ヲ輕減セシムルニ足ルベシ、痔疾患者ニ液便ノ排泄ヲ促スベキ下劑ヲ用フルハ、適當ナリ、ソハ、此種ノ下劑ハ、持續シテ用フルトキハ、容易ニ患者ノ榮養ヲ害スルノミナラズ、其用量ヲ斟酌シテ糞便ニ糜粥狀ヲ保タシメントスルコト頗ル困難ニシテ、通常之ヲ用フレバ、液便ヲ排泄スルカ、サラズバ全然無効ニ歸スルカノ二途ニ出デ、其中間ノ作用ヲ現ハサシメ易カラザルヲ以テナリ、然ルニ内用シタル硫黄ノ、腸管内ニ於テ硫化物ニ變化スル量ハ僅微ニシテ、硫黄用量ノ多少ニ關セズ、殆ド同一ノ效力ヲ現ハシ、每常適度ノ下痢ヲ來スモノトス、唯硫黄乳ノ如キ極微細末ヲ比較的少量ニ内服スルトキハ、硫化物ノ發生速ニシテ、吸收分解ノ暇ナク、劇甚ナル下痢ヲ來ス、故ニ藥用ニハ、比較的疎粒ヨリ成レル昇華硫黄ヲ用フ、但硫黄ノ内服ハ、少量ト雖、持長スルトキハ慢性腸加答兒ヲ起ス、注意スベシ、硫黄ハ皮膚ニ外用スルモ、亦其一部ハ硫化「ナトリウム」ニ變ジテ、角質ヲ溶



硫化「アルカリ」  
ハ祛痰劑  
トシテ用フル  
コトアリ

解スルノ效アリ。種々ノ皮膚病ニ硫黃ヲ含有スル外用劑ヲ用フルハ、此理ニヨル。  
少量ノ硫化「アルカリ」ヲ内用スレバ、吸收セラレタル後、肺臟ヨリ呼出セラレテ、祛痰ノ效ヲ奏スルヲ以テ、他ノ祛痰劑ニ伍シテ用ヒシモ、今ハ用ヒラル、コト稀ナリ。

品名、製劑、用量及處方

硫黃華

昇華硫黃(硫黃華) Sulfur sublimatum.

枸櫞黄色微細ノ粉末ニシテ、熱スレバ熔融シ、燃燒スレバ、藍色ノ火焰ヲ放ツ。水及ビ酒精ニ溶解セズ。軟膏トシテ疥癬及其他ノ皮膚病ニ用フ。内用ニハ供セラレズ。

(處方例)

昇華硫黃 木「タール」各三〇〇 「カリ」石鹼六〇〇  
豚脂 羊脂各三〇〇

右混和シテ軟膏ヲ作り、二日間塗布シ、第三日ニ溫湯ニ浴シテ洗去スベシ。

ウヰルキンソ  
ン軟膏

(ヘブラ改方ウヰルキンソン軟膏)

精製硫黃

精製硫黃 Sulfur depuratum.

昇華硫黃ヲ「アムモニア」ニテ洗滌シテ製シタルモノニシテ、黄色微細ノ粉末ナリ。一回〇・五乃至五・〇ヲ單味若クハ酒石英ニ配合シテ用フ、但蜂蜜ヲ以テ舐劑トナス時ハ服用シ易シ。

(處方例)

精製硫黃三〇〇 純精酒石五〇〇  
右一茶匙宛就牀前ニ服用(排便困難)

沈降硫黃

沈降硫黃(硫黃乳) Sulfur praecipitatum.

多硫化「アルカリ」ニ、酸ヲ加ヘテ沈降セシメテ製ス。帶白黄色ノ極テ微細ナル粉末ナリ。用量ハ精製硫黃ノ半量トス。

硫化「カリウム」(硫肝) Kalium sulfuratum.

硫化「カリウ  
ム」

精製硫黃 沈降硫黃 硫化「カリウム」



所謂硫化「カリウム」ハ、三硫化「カリウム」、硫酸「カリウム」、及次亜硫酸「カリウム」等ノ混合物ニシテ、帶褐黄色ノ塊片ナリ。常ニ硫化水素ノ臭氣ヲ放チ、大氣中ニテ容易ニ潮解シ、大約二分ノ水ニ溶解ス。種々ノ皮膚病、水銀中毒、鉛中毒等ニ浴湯劑トシテ用フル他、時トシテハ軟膏トシテ疥癬ニ用フルコトアリ。

硫黄軟膏

硫黄軟膏 Unguentum sulfuratum.

日本藥局方ニ據レバ、昇華硫黄一分、豚脂二分ヨリ成ル。慢性皮疹ニ應用ス。

第六 酸類屬

Gruppe der Säuren.

所謂酸性ハ水素イオンヨリ來ル

物理化學ニ於テハ、凡テ水溶液中ニ於テ水素イオン(H<sup>+</sup>)ヲ生ズル物質ヲ酸ト名ク。所謂酸性反應ナルモノハ、水素イオンヨリ來ルモノトス。藥理學上ノ酸ノ吸收作用ハ、即チ此水素イオンニ由リテ起ルモノナレドモ、酸ノ局所作用ハ、水素イオンノ働ノ他、濃厚ナル酸類ノ、水ヲ得テ解離セントス

ル作用、即チ所謂奪水作用ヨリ起ルモノトス。而シテ凡テノ酸ハ、水素イオント共ニ、酸殘基イオン(タトヘバ硫酸ニテハSO<sub>4</sub><sup>-</sup>、鹽酸ニテハCl<sup>-</sup>、硝酸ニテハNO<sub>3</sub><sup>-</sup>、ノ如シ)ヲ有ス。所謂酸類ノ特異作用ハ、此酸殘基イオンヨリ來ルモノナリ。

所屬ノ酸類

藥理學的ニ眞ノ酸ト稱スベキハ、硫酸及鹽酸ニシテ、之ニ次グヲ磷酸ナリトス。其他ノ酸類ハ、酸作用ノ他ニ、特異ノ作用アリ。即チ「ヨード」水素酸及亞硫酸ハ強キ還元作用アリ。硝酸ハ、蛋白質ヲ化シテ「キサントプロテイン」酸トナス作用アリ。「フルオール」水素酸モ亦強力ナル腐蝕作用ヲ有ス。脂肪體屬ノ有機酸ハ、其局所作用ノ關係ハ、眞ノ酸ニ同ジケレドモ、吸收セラレテ組織ニ達スルヤ、酸自身ハ酸化セラレ、ヲ以テ、栄養品ノ性質ヲ有スルモノトス。其他芳香酸類ハ、酸ノ作用甚ダ僅微ニシテ、却テ酸ト相違セル點多キヲ以テ、コモ亦茲ニ編入セズ。

局所作用

濃厚ナル礦酸ノ爲ニ生ズル腐蝕作用ハ、水分ノ奪却ニ基ヅクモノニシテ、濃厚硫酸ハ此作用特ニ強ク、嘗ニ濕ヒタル有機物中ノ水分子ヲ奪却スルノミ

腐蝕作用

酸類屬 局所作用



ナラズ、組織中ノ水素及酸素ヲ奪ヒテ、水分子ヲ化成セシメテ、ソヲ奪却スルガ故ニ、組織ハ炭化セラルベシ。有機酸ノ水分奪却作用ハ、礦酸ニ比スレバ遙ニ微弱ナリトス。

多數ノ礦酸ハ、適宜ニ稀釋シテ用フレバ、アルカリヲ中和シ、組織ヲ形成スル物質、殊ニ原形質ニ向ヒテ、多少ノ變化ヲ生ゼシム、既ニ説明シタル如ク、酸ノ局所作用ニ由リテ、唯組織ノアルカリ性反應ヲ奪フノミニテモ、炎症及其他ノ症狀ヲ起スニ足ルモノナレドモ、主ナル作用ハ、蛋白質及膠質ノ變化ニ原ヅクモノトス。

濃厚ナル酸類、殊ニ硝酸ハ、溶解セル蛋白質ヲ凝固セシメテ、酸性蛋白質ヲ化成スル作用アリ。現今ニ於テハ、外科的腐蝕劑トシテ酸ヲ用フル場合ナシト雖、獨リトリクロール醋酸ノミハ、其劇烈ニシテ且深部ニ迄侵蝕スル作用ヲ此目的ニ應用スルコトアリ。

結締組織ハ、醋酸及其他ノ脂肪體屬ノ揮發性酸類ノ稀釋セラレタルモノニ由リテ、既ニ常溫ニ於テモ弛緩膨脹ス。故ニ酸ノ作用ヲ受ケタル結締組織ニ水ヲ加ヘテ熱スルトキハ、膠質ヲ生ジ易シ。此理ニヨリ、死後強直後ニ酸性トナ

リタル肉ヲ煮熟スレバ、軟化シ易ク、屠殺後未ダ酸性ヲ呈セザル肉ハ、比較的ニ鞏硬ナリ。故ニ調理法ニテハ、硬キ結締組織ヲ多ク有スル老牛ノ肉ニハ、醋ヲ加ヘテ軟化スルヲ常トス。角質組織モ亦脂肪體屬ノ濃厚ナル揮發性酸類ニ由リテ、軟化溶解セラル、モノニシテ、殊ニ濃厚ナル醋酸及モノクロール醋酸ハ、胼胝若クハ鶏眼ノ如キ肥厚シタル最モ硬固ナル上皮組織ヲモ崩壊セシムルコトヲ得ベシ。

防腐作用

礦酸ハ、微菌ノ發育ヲ妨害シ、腐敗ヲ制止スル作用アリ。酸性ノ胃液モ亦同一ノ作用ヲ有スルヲ以テ、鹽酸ノ内服ニ由リテ、其作用ヲ補助シ、傳染毒ヲ防止セント企ツルコトアリ。

酸類ハ屢、腐蝕劑及刺戟劑トシテ用ヒラルレドモ、未ダ必然ソヲ用ヒザルベカラザル場合ヲ認メズ、發煙硝酸ヲ腐蝕劑トシテ用フル場合ノ如キモ亦然リ。

刺戟作用

稀釋シタル酸類ハ、輕キ皮膚刺戟ノ目的ニテ、浴湯劑、洗滌劑、塗擦劑トシテ用ヒラル。殊ニ脂肪體屬ノ揮發性酸類ハ、此目的ニ適ヘリ。此場合ニハ、凡テ上皮ヲ損傷スルコトナクシテ、併モ其效力ノ稍、深層ニ迄達シ得ルモノヲ用フル



ヲ可トス。而シテ此作用ヲ受ケタル上皮ハ、アルカリヲ用ヒタル場合ノ如クニ軟弱トナラズシテ、却テ少シク硬變スベシ。熱性病ノ經過中ニ、常醋ノ洗滌用若クハ塗擦用ニ供セラル、コトアルモ、亦皮膚ヲ傷害セズシテ、ソヲ刺戟シ、知覺興奮ヲ起サシムル目的ナリトス。

蒸氣トナセル酸類ヲ吸入劑若クハ嗅劑トナシ、鼻粘膜ヲ刺戟シテ、求心的ニ中樞神經系ノ興奮ヲ企ツルコトアレドモ、別ニ他ノ揮發性藥物ニ勝リタル點ナシ。

止血作用

鼻腔、氣管及氣管支等ノ出血ニ、ソヲ止ムル目的ニテ酸ヲ吸入セシムルコトアレドモ、實際血液ヲ凝固セシムル迄ニ、酸性ヲ附與スルハ至難ノ業ナレバ、從テ確實ナル奏效モ亦望ミ難シ。又酸ヲ直接ニ觸レシメ得ベキ部分ノ出血ニ用フルトキハ、其血液ハ容易ニ凝固シ得ベシト雖、之トテモ止血力ノ最も大ナル磷酸スラ、之ヲ酸性反應ヲ有スル金屬鹽類例ヘバ過クロール、鐵ニ比スレバ、其效力遙ニ劣レリ。

有機酸

有機酸類ヲ「リモナーデ」及其他ノ酸性飲料トシテ用フルハ、主トシテ之ニ酸味ヲ附與スル爲ナリ。凡テ有機酸類ハ、多數ノ嗜好品ノ主要成分ヲナセルモ

胃腸ニ於ケル作用

ノニシテ、果實類ノ爽快ナル美味ヲ有スルハ、其中ニ酒石酸、林檎酸、枸櫞酸等ヲ含ムニ依ル。

酸類ノ胃腸ニ於ケル作用中、鹽酸ノ胃ノ消化ニ對スル作用ハ、最も主要ナルモノニシテ、若シ鹽酸ノ分泌不十分ナルトキハ、胃ハ完全ナル消化ヲ遂グルコトヲ得ザルベシ。胃病療法トシテノ鹽酸内用ハ、既ニ久シキ以前ヨリ汎ク世ニ行ハル。而シテ近來ノ研究ニヨレバ、鹽酸ハ單ニ胃液中ノ鹽酸ノ不足ヲ補フノミナラズ、胃及腸分泌素ノ成形ヲ促シ、從テ消化液ノ分泌ヲ亢盛セシムル效アリ。

異常醱酵ニ由リテ生ズル酸

異常醱酵ニ由リテ生ズル胃腸ノ酸類ハ、殊ニ有害ナルモノニシテ、小兒ニ於テハ、之ガ爲ニ下痢ヲ發スベシ。而シテ此際酸性腸内容物ハ、ピリルビンヲ化シテ「ピリベルヂン」トナスヲ以テ、糞便ハ綠色ヲ呈ス。此場合ノ療法ハ、其發生シタル酸ヲ中和シ、且醱酵ヲ來スベキ物質、並ニ醱酵ニ由リテ生ジタル分解産物ヲ速ニ排除スルニアリ。

「アルカリ」中毒ノ際ニ中和シテ酸ヲ用フ

「アルカリ」中毒ニ於テ、其毒物ノ尙ホ未ダ胃中ニ存スル際ニハ、酸ヲ以テソヲ中和スルヲ要スト雖、其用フベキ酸及之ニ由リテ化生シタル鹽類ハ、其ニ有



炭酸ノ作用

害ナラザルヲ要ス。硝酸ヲ除クノ他、凡テノ礦酸ハ、此目的ニ用フルコトヲ得ベシト雖、何レモ其酸性強キヲ以テ、有機酸、殊ニ醋酸、枸橼酸及酒石酸ヲ賞用ス。

炭酸ハ、藥理學上一種特異ノ位置ヲ占ムルモノニシテ、炭酸水ハ、嘗ニ嗜好飲料タルノミナラズ、飲食物ノ不攝生ニ由リテ、屢、發スル胃ノ加答兒及其他ノ輕キ變狀ニ向テ效アリ。而シテ炭酸ノ長所ト認ムベキハ、其刺戟ノ過劇ナラズシテ、適度ノ充血ヲ腸胃ニ起サシメ、之ガ爲ニ、其吸收作用亢進シ、消化管内ニ於ケル水分ノ吸收ヲ促スニアリ。今若シ炭酸瓦斯ヲ含有スル水分ヲ飲用スルトキハ、其水分ハ速ニ腎臟ヲ經テ排泄セラル、ニ依リテ、組織ヲ通過スルコトノ迅速ナルヲ知ルニ足ルベシ。故ニ炭酸水ハ、普通ノ水ニ比スレバ、著シキ利尿作用ヲ有シ、從テ物質交換ヲ亢進スルコトモ亦大ナリ。而シテ炭酸ハ、雷ニ水ノ吸收ヲ早クスルノミナラズ、榮養品ノ消化產物及酒精等ノ吸收ヲモ亢進ス。故ニ胃ノ慢性加答兒等ニ、炭酸水ヲ服用セシムルトキハ、消化不良ヲ治スル效アリ。炭酸ヲ含有スル酒精、即チ三鞭酒ヲ飲ミテ、直ニ酩酊スルモ亦炭酸ノ爲ニ、アルコホル分ノ迅速ニ吸收セラル、ニヨル。

酸類殊ニ有機酸ノ酸性鹽ハ下痢ノ效アリ

血液ニ對スル作用

斯ノ如ク、炭酸水ハ消化器ヲ刺戟シテ充血ヲ起サシムルモノナルヲ以テ、吐血及月經過多ノ患者ニハ、注意シテ用ヒザレバ、却テ害アルコトアルベシ。

胃内容物ノ酸性ナルニ反シテ、腸ハ絶エズ、アルカリ内容物ノ感作ヲ享タルヲ以テ、若シ異常酸酵ノ酸類、若クハ酸性胃液ノ爲ニ、腸内容物ノ酸性反應ヲ呈スルコトアラバ、腸粘膜ハ刺戟セラレテ、其蠕動ヲ亢進シ、下痢ヲ來スベシ。サレド治療上ニ用ヒタル酸類ハ、腸ニ迄達スルコト稀ナリ。ソハ一定量迄ノ酸ハ、中途ニ於テ中和若クハ吸收セラレテ、十二指腸ヲ越ユルコト無ケレバナリ。サレド若シ大量ノ酸ナルトキハ、腸ニ迄達シテ、其腐蝕作用ヲ現ハスニ至ルベシ。有機酸ノ酸性、アルカリ鹽類ノ如キ、吸收セラレ難キモノニアリテハ、前者ニ反シテ遙ニ腸ノ終末部ニ迄達シ、其内容物ヲ酸性ナラシムルコトヲ得ルヲ以テ、比較的少量ニテモ腸ノ蠕動ヲ亢進セシメテ、排便作用ヲ促スニ足ルベシ。多數ノ果汁及果實、エキスニ、下痢ノ效アルハ、斯ノ如キ酸性鹽類ノ效力ニ原ヅクモノトス。

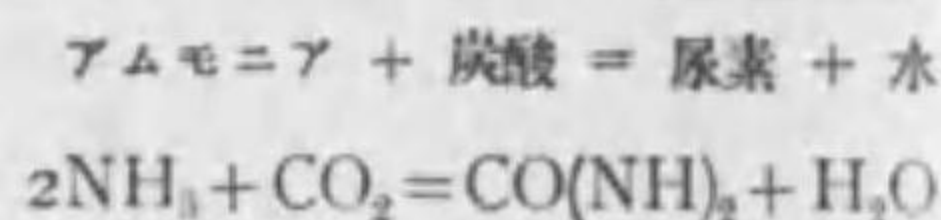
血液中ノ「アルカリ」ニ對スル酸ノ感作ハ、變化ヲ受ケタル血液中ノ炭酸ノ量ニ由リテ、確ニ之ヲ微知シ得ベシ。家兎ノ如キ草食獸ニ鹽酸ヲ與フルトキハ、



草食獸ノ酸中

肉食獸ノ酸中

血液「アルカリ」ノ減少ノ外、別ニ何等ノ副作用ナクシテ、死ニ陥ルヲ見ル。即チ血液ノ「アルカリ」性反應ノ、中性ニ移行セントシテ、其中ニ含まレタル炭酸ノ量ノ二九乃至二五「プロセント」(通常量ノ大約十分ノ一)ニ達シタルトキハ、呼吸中樞及脈管運動神經中樞ノ麻痺ヲ來シテ、必然死ニ陥ル。サレド若シ其瀕死苦悶ノ際ニ當リテ、炭酸「ナトリウム」溶液ヲ注入スルトキハ、家兎ハ更ニ回生スルコトヲ得ベシ。犬竝ニ他ノ肉食獸ニ於テハ、酸ノ腐蝕作用ノ爲ニ、胃ノ疾患ヲ發スルニ至ル程ノ大量ヲ與フルモ、尙且血液「アルカリ」ヲ著ク減少セシムルコトヲ得ズ。而シテ尿中ニハ、多量ノ「アムモニア」鹽類ヲ排泄シ、與ヘタル酸ノ量ノ大約四分ノ三ハ、此形態ニテ體外ニ出ヅルヲ以テ、酸ノ多量ヲ與フレバ與フル程「アムモニア」ノ化生ヲ増加ス。即チ蛋白質ノ燃燒ニ際シテ發生スル「アムモニア」ハ、尿素ニ變ゼズシテ酸ヲ中和シ、從ヒテ血液「アルカリ」ノ量ヲ著ク減少セザルモノトス。人ニ於テモ亦肉食獸ニ於ケル如ク、與ヘラレタル酸ノ大部分ハ「アムモニア」鹽類トナリテ尿中ニ排泄セラレベシ。「アムモニア」ハ、平素ハ組織中ニ於テ炭酸ト結合シテ、容易ニ全ク尿素ニ變化セラレベキモノナレドモ、酸ヲ内用シタル場合ニハ「アムモニア」ハ、酸ト化合シテ鹽



鹽酸

類トナリ、以テ尿素トナルベキ變化ヲ制止スベシ。斯ノ如キ作用ノ行ハルハ、恐クハ内用シタル酸ノ、吸收セラレテ血中ニ入り、門脈ヲ經テ肝臟ニ達シ、此所ニ於テ「アムモニア」ト化合シテ、其鹽類ヲ生ズルモノナルベシ。内用セラレタル酸ノ組織ニ對スル感作ハ、未ダ判明セザルトコロ多ク、從テ酸ヲ學理的ニ應用スベキ場合ヲ指定スルコト困難ナリ。唯急性熱性病ニ、嗜好料及清涼料トシテ酸ヲ用フルハ、確ニ適切ナリ。サレド此場合ト雖、門脈ヲ經來リタル酸ノ「アルカリ」中和作用ノ、組織ニ對シテ如何ナル感作ヲ與フルカト云フコトハ、未ダ知了セラレズ。礦酸、芳香酸、竝ニ體內ニ入りタル後ハ全然燃燒セラレベキ脂肪體屬ノ有機酸等ハ、等シク皆此場合ニ應用スルコトヲ得ベシ。

品名、製劑、用量、處方

鹽酸 Acidum hydrochloricum.

日本藥局方ニ據レバ、澄明無色ノ液ニシテ「クロール」水素 HCl 三十「プロセント」ヲ含有ス。腐蝕劑トシテ稀ニ外用セラレ、ノミ。



稀鹽酸

稀鹽酸 *Acidum hydrochloricum dilutum.*

日本藥局方ニ據レバ、鹽酸一分ニ、蒸餾水二分ヲ加ヘタルモノニシテ、消化  
催進劑トシテ、其〇・五乃至一〇ヲ、多量ノ水ニ稀釋シ、食後一二時間ヲ隔テ  
テ用フ、時トシテハ、ソヲ清涼消渴飲料トシテ用フルコトアリ。

(處方例)

稀鹽酸一〇 苦味丁幾二〇 餛水一〇〇〇  
右每食後一時間、一酒杯宛内用。

硫酸

硫酸(強硫酸) *Acidum sulfuricum.*

日本藥局方ニ據レバ、無色透明油様ノ稠度ヲ有スル液ニシテ、百分中九十  
四乃至九十八分ノ純硫酸  $H_2SO_4$  ヲ含有ス。

稀硫酸

稀硫酸 *Acidum sulfuricum dilutum.*

日本藥局方ニ據レバ、硫酸一分ニ蒸餾水九分ヲ加ヘタルモノニシテ、九・四

乃至九・八「プロセント」ノ  $H_2SO_4$  ヲ含有ス、稀ニ稀鹽酸ニ代用セラル、コト  
アリ。

硝酸

硝酸 *Acidum nitricum.*

日本藥局方ニ據レバ、百分中二十五分ノ純硝酸  $HNO_3$  ヲ含有シ、無色澄明  
ノ液ナリ、一日數回、其〇・一乃至〇・三ヲ、多量ノ水ニ稀釋シ、熱性病、肝臟病、腎  
臟病ニ用フルコトアリ、最モ多ク應用セラル、ハ、其純粹ナルモノヲ腐蝕  
劑トシテ、皮膚新生物ニ塗附スルニアリ。

稀硝酸

稀硝酸 *Acidum nitricum dilutum.*

日本藥局方ニ據レバ、硝酸十分ニ蒸餾水十五分ヲ加ヘタルモノニシテ、百  
分中十分ノ純硝酸ヲ含有ス、硝酸ヲ内用スベキ場合ニ用フ。

磷酸

磷酸 *Acidum phosphoricum.*

無色澄明ノ液ニシテ、日本藥局方ニ據レバ、其百分中ニ二十分ノ純磷酸



H<sub>2</sub>PO<sub>4</sub>ヲ含有ス。一日數回其〇・五乃至一・〇ヲ著ク稀釋シ之ニ果實舍利別ヲ配合シ、清涼消渴飲料トシテ使用ス。

蟻酸 *Acidum formicum.*

無色透明揮發性ノ液體ナリ。赤蟻中ニ存スルヲ以テ此名アリ。醫學上ニハ百分中二十五分ノ純蟻酸 H<sub>2</sub>COOHヲ含有スルモノヲ用フ。

冰醋酸 *Acidum aceticum glaciale.*

日本藥局方ニ據レバ、無色澄明ノ液ニシテ、刺スガ如キ酸臭ヲ有シ、寒冷ニ遇ヘバ、凝固シテ結晶塊トナル。百分中少クトモ九十六分ノ純醋酸 C<sub>2</sub>H<sub>3</sub>O<sub>2</sub>ヲ含ム。其純精ノモノ若クハ稀釋シタルモノヲ、腐蝕劑トシテ外用ス。

醋酸 *Acidum aceticum.*

日本藥局方ニ據レバ、百分中三十六分ノ純醋酸ヲ含有ス。稀ニ清涼消渴飲料トシテ用フ。

「トリクロール」醋酸

「トリクロール」醋酸 *Acidum trichloroaceticum.*

無色菱形ノ結晶ニシテ、大氣中ニテ潮解シ易シ。劇烈ナル腐蝕作用ヲ要スル場合ニ應用ス。

粗製木醋 *Acetum pyrolignosum crudum.*

日本藥局方ニ據レバ、六「プロセント」以上ノ醋酸及種々ノ「テール」成分ヲ含有ス。現今藥用ニ供セラル、コト稀ナリ。

精製木醋 *Acetum pyrolignosum rectificatum.*

少クトモ、五「プロセント」ノ醋酸ヲ含有スルモノニシテ、著ク稀釋シタルモノヲ、防腐的含嗽料トス。

乳酸 *Acidum lacticum.*

醫藥ニ供用スルハ、酸酵乳酸ニシテ、百分中約七十五分ノ純乳酸 C<sub>3</sub>H<sub>5</sub>O<sub>2</sub>ヲ

乳酸

精製木醋

粗製木醋

「トリクロール」醋酸 粗製木醋 精製木醋 乳酸



含有ス。此モノハ無色或ハ微ニ黄色ヲ帶ブル無臭舍利別様ノ濃稠液ニシテ、水、酒精等ニ混和シ易シ。腐蝕劑トシテ外部ヨリ達シ得ベキ粘膜、タトヘバ喉頭結核、チフテリア等ニ用フ。

酒石酸

酒石酸 *Acidum tartaricum.*

無色無臭ノ柱狀結晶若クハ白色ノ結晶性粉末ニシテ、等分ノ冷水及三分ノ酒精ニ溶解ス。酸性ノ清涼飲料トシテ、内用セラル。

(處方例)

酒石酸一〇〇 枸橼油糖一〇〇 白糖一二〇〇  
右混和粉劑トナシ、一茶匙ヲ適宜ノ水ニ溶解シテ内用ス。

枸橼酸

枸橼酸 *Acidum citricum.*

透映無色ノ大ナル菱角結晶ヲナシ、〇六分ノ水及一分ノ酒精ニ溶解ス。用途ハ酒石酸ニ同ジクシテ、味ハ之ヨリモ尙一層快美ナリ。

(處方例)

枸橼酸五〇 アラビアゴム漿四五〇 單舍利別五〇〇  
右半量ヲ一「リートル」ノ水ニ混和シテ、適宜飲用スベシ。

沸騰散

沸騰散 *Pulvis aerophorus.*

日本藥局方ニ據レバ、重碳酸ナトリウム十分、酒石酸九分、白糖十九分ヲ採リテ、各別ニ細末トナシ、低度ノ温ヲ以テ十分ニ乾燥シ、能ク混和シタルモノナリ。

英方沸騰散

英方沸騰散 *Pulvis aerophorus anglicus.*

重碳酸ナトリウム末二〇、酒石酸一五ヲ採リ、各別ニ紙片ニ包ミタルモノニシテ、其包紙トシテ、前者ハ著色紙、後者ハ白紙ヲ用フ。

(附)

礦泉

礦泉 *Mineralwässer.*

礦泉浴

礦泉ノ外用、即チ礦泉浴



「ラザウム」ハ  
 常ニ一種瓦斯  
 體ノモノヲ遊  
 放ス。之ヲ「エ  
 マナチオン」ハ  
 ト云フ。エマ  
 ナチオンハ  
 ナチオンハ  
 エマナチオン  
 ノ放散線ヲ出  
 シ、シテ、種  
 々ノ變化ヲ經  
 ルモノトス。

礦泉飲治法

礦泉浴ノ效用ハ、其溫度ノ理學的作用即チ冷熱ト、其中ニ含有セラル、鹽類ノ局所作用トニ由リテ、皮膚ノ知覺神經及血管ヲ興奮シ、血流ノ變化ト中樞神經系ノ刺戟トヲ起スニアリ。故ニ礦泉浴ハ、諸種ノ神經性疾患、循環系障礙、竝ニ諸種ノ原因ヨリ來レル營養不良ニ效アリトス。礦泉中ニ含有セラル、極テ微量ノ「ヨード」、「ブローム」、「リチウム」、「鹽類」、「鐵鹽」又ハ、「ヘリウム」、「アルゴン」ノ如キ瓦斯體モ亦殆ド皮膚ヨリ吸收セラル、コトナク、タトヒ生殖器等ノ粘膜面ヨリ幾分ガ吸收セラルトモ、極テ微量ニシテ、實際ニハ更ニ效ナシ。礦性中ニ含有セラル、炭酸ハ、浴者ノ皮膚ノ毛孔、殊ニ其末端部ニ遊離シテ、小氣泡ヲ作ル、而シテ其氣泡ハ漸次上騰スルニ當リテ、一種ノ爽快ナル知覺刺戟ヲ皮膚ニ與フルヲ以テ、殊ニ神經性疾患ニ效アルベシ。又「ラヂウム」ノ「エマナチオン」及其變脫物ヲ多量ニ含有シテ、輻射能作ニ富メル礦泉ハ、之ニ溶スルトキハ、痛風、慢性「ロイマチス」、神經痛、關節炎、外傷後ノ疼痛等ニ效アリ。

礦泉ノ内用即チ飲治法

礦泉飲治法ノ效力ハ、浴ト同ジク、其水ノ溫度及其中ニ溶存スル鹽類竝ニ炭酸瓦斯等ノ作用ノ相綜合スルニ由リテ現ル、モノト認メザルベカラズ、而

「カル、ス」泉

シテ礦泉中ニ甚ダ微量ニ存スル成分、タトヘバ「ヨード」化物、「ブローム」化物、「リチウム」鹽類竝ニ石膏ノ如キハ、礦泉ヲ内服スルモ、浴ト同ジク何等ノ效力ヲモ有セズ、更ニ詳ニ云ヘバ、飲治法ノ效用ハ、之ニ溶存スル食鹽、「クロール」カリウム、「炭酸」ナトリウム、「炭酸」マグネシウム、「硫酸」ナトリウム、「硫酸」マグネシウム及炭酸瓦斯若クハ「エマナチオン」及其變脫ニヨリテ生ズル輻射能作物質ニ歸スベキモノトス。故ニ是等ノ成分ノ多クノ種類ヲ含有スル礦泉ハ、多クノ種類ノ疾病ニ對シテ效力アルベシ（下卷百五十六頁食鹽屬、及百八十四頁芒硝屬參照）但シ「エマナチオン」ハ短時間ニ消失スルモノナルヲ以テ、飲治ノ目的ニハ、涌出セル礦泉ヲ直ニ内用スルヲ要ス。

「カル、ス」泉ハ、別ニ特異ノ成分ヲ含有スルニアラズト雖、適當ナル配合ニ於テ、上記ノ各鹽類ヲ含ムヲ以テ、礦泉中最モ效力多キモノト認メラル。其效力ハ、胃腸ノ機能ヲ整理シ、且物質交換作用及腎臟ノ分泌ヲ順適ナラシムルニアリ、而シテ尙茲ニ記憶スベキハ、「カル、ス」泉ノ如キ容易ニ吸收セラル、鹽類ト、便通ヲ催進スベキ鹽類トヲ共有スル物質ヲ使用スルトキハ、此兩種ノ鹽類ハ、互ニ妨害スルコトナクシテ、各自固有ノ作用ヲ完ウスル事ナリ。タト



へバ芒硝ト食鹽トノ混和物ヲ用フルモ、芒硝ハ食鹽ノ組織内ニ吸收セラレ、若クハ組織ヲ通過スルコトヲ妨ゲザルガ如シ。

サレド礦泉療法ノ奏效スル主ナル原因ハ、礦泉其物ヨリモ、其礦泉所在地ノ地勢、風土、氣候、海面ヲ抜ケル高サ、及其俗界ト隔絶セル等、及礦泉療法中ノ諸種ノ攝生法、タトヘバ攝酒、攝煙適當ノ散步等ニアルヲ以テ、唯一片ノ化學的分析表ニ由リテ、直ニ其效力ヲ斷定スルハ、其當ヲ得タルモノニアラズ、從テ人工的ニ天然礦泉ヲ模造シ、之ヲ浴槽中ニ滿タシテ用フトモ、天然礦泉ニ等シキ效力ヲ望ミ難シ。又天然礦泉ト雖、其所在地ニ於テ患者ニ適當ナル療法ヲ行ヒテ、初メテ效ヲ現ハスモノナリトス。

### 第七 造鹽素屬

Gruppe der Halogene.

(「クロール」屬 Gruppe des Chlors.)

所屬物質

此屬ニ編入スベキハ、遊離シタル「クロール」、「ブローム」及「ヨード」ノ他ニ、次亞

腐蝕作用

「クロール」酸鹽、クロール「化」成ノ如キ「クロール」ヲ遊離シ易キ化合物モ亦之ニ屬ス。

造鹽素ハ蛋白質ト直接ニ結合シ、且水素ニ對スル化學的親和力非常ニ強ク、從テ有機質ニ觸ル、トキハ、其水素ヲ奪ヒテ、之ヲ破壞スル作用アルノ外、水素ト造鹽素トノ化合物ハ酸ナルヲ以テ、是等ノ作用相合シテ生體ニ向ヒテ腐蝕作用ヲ呈シ、一定ノ經過ヲ取り、一定ノ結果ヲ現ハスモノトス、造鹽素ノ作用ヲ受ケタル原形質ノ現ハス最初ノ變狀ハ、酸ノ作用ヲ受ケタル場合ニ現ス變化ニ髣髴タリ、而シテ其部分ニ炎症ヲ惹起スカ、若クハ十分ナル腐蝕作用ヲ生ズルカハ、其用ヒラレタル造鹽素ノ量ト、作用ヲ受ケタル時間ノ長短トニ關スルモノトス。但造鹽素中、「ヨード」ハ他ノ造鹽素ニ比スレバ、腐蝕力甚ダ弱シ。

「クロール」  
(鹽素)  
防臭ノ效

「クロール」ハ、防腐消毒劑トシテ、汎ク應用セララル。殊ニ惡臭ヲ放ツ物質、就中腐敗物中ノ硫化水素及硫化「アムモニア」等ヲ分解シテ、無臭ノ物ニ變ゼシムルコトヲ得ルヲ以テ、防腐劑トシテ用ヒラル。「クロール」ノ十分ニ作用シタル場合ニハ、如何ナル傳染毒ニテモ、凡テ撲滅シ得ベキ理ナリト雖、實際ニ於テハ



「防腐劑トシテ  
「クロール」ノ  
短所

其消毒ヲ行フコト屢、困難ナルヲ免レズ。ソハ「クロール」ノ消毒力ハ、石炭酸等ノ如ク、么微生物ノ原形質ニ向ヒテ特異ナル毒性ヲ有スル爲ニ現ハル、ニアラズシテ、原形質ト化合シテ、之ヲ分解スルニ原ヅクモノナルヲ以テ、「クロール」ヲ用ヒテ傳染毒ヲ撲滅セントスレバ、勢ヒ其毒ノ附着セル物體ヲモ共ニ多少破壊セザルヲ得ザル故ナリ。タトヘバ體ノ外表又ハ粘膜炎等ニアル病毒ヲ撲滅セントスルニ用フルトキハ、皮膚及粘膜ノ損傷ヲ來タシ、毛布、衣服及之ニ類スル物品ヲ消毒セントスレバ、同ジクソヲ毀損スルコトヲ免レザルベシ。加之、若シ「クロール」ノ應用不適當ナルトキハ、病毒ノ撲滅セラレ、ニ先チテ、「クロール」ノ全量ハ、既ニ病毒ノ附着セル物質ト化合シ、却テ病毒ヲシテ、生存セシムルコトアルベシ。往時盛ニ行ハレタル「クロール」蒸煙消毒法ノ漸ク其跡ヲ滅スル傾アルハ、之ガ爲ナリトス。サレド或場所ノ消毒ニハ、今モ尙ホ「クロール」ヲ用フ。タトヘバ廁及其他ノ汚物アル場所ノ消毒ニ、「クロール」石灰ヲ用フルガ如シ。但此場合ニハ、先ヅ其汚物ヲ取除キタル後ニ、消毒スルニアラザレバ、其大量ヲ用フルモ、尙ホ奏效不十分ナルヲ免レザルコトアルベシ。此種ノ消毒ニハ、「クロール」石灰ヨリモ苛性石灰ヲ可トスベキガ如シ

ト雖、前者ハ、後者ノ消毒力ノ及バザル部分迄ヲモ、消毒シ得ル長所アリ。而シテ「クロール」石灰ハ、空氣中ノ炭酸ノ爲ニ、漸次「クロール」瓦斯ヲ遊離スト雖、迅速ナル消毒ヲ欲スル場合ニハ、稀薄ナル粗製硫酸、若クハ鹽酸ヲ加ヘテ、「クロール」瓦斯ノ發生ヲ促スヲ要ス。

「クロール」水ハ、往時外科ニ於テ防腐、消毒、竝ニ腐蝕ノ目的ニテ汎ク用ヒラレタルノミナラズ、或傳染病ニ於テハ、内用セシメタルコトアレドモ、其效ナキコト勿論ナリ。故ニ近來ニ至リテハ、全ク内用スルコトナク、外用モ亦大ニ其範圍ヲ狭メタリ。

「ヨード」  
刺戟作用

「ヨード」ノ溶液ヲ皮膚ニ塗布スルトキハ、其附着シタル「ヨード」ノ量ノ多少ニ從テ、其部ノ皮膚ヲ黃色乃至暗褐色ニ染ムベシ。而シテ「ヨード」ノ適當ナル刺戟ヲ持續スルトキハ、其部ニ慢性ニ經過スル炎症ヲ生ジ、或ハ榮養機能ヲ増進シテ、病的產物ノ存スル場合ニハ、ソヲ吸收セシメ得ルコトアリ。「ヨード」ノ他ノ此種ノ藥物ニ勝レル點ハ、其所用局部ニ久シク存留シ得ルコト、揮發性ナルガ爲ニ、望ムトコロノ深部ニ迄效力ヲ及ボシ得ルコト、熟練スレバ所要ノ強サノ刺戟ヲ、反覆持續シ得ルコトナリ。其他尙「ヨード」ノ防腐消毒力ヲ有



「ルゴール」溶  
液  
「ヨード」ノ  
著性炎症

内用

「ヨード」中毒

スト云フコトモ、亦奏效上ニ關係ヲ有ス之ヲ要スルニ「ヨード」ハ適度ノ刺戟作用ヲ有スルヲ以テ、其溶液ヲ塗布スルトキハ、他ノ刺戟劑ヲ用ヒタルヨリモ、迅速且確實ニ、病的ノ滲出物及贅生物ヲ吸收消散セシメ得ベシ、而シテ之ヲ實驗ニ徵スルニ、此目的ニハ、強キ「ヨード」ノ刺戟ヲ持續セザルベカラズ。「ヨード」丁幾「ヨード」ヨードカリウム液（所謂「ルゴール」溶液）等ハ、陰囊水腫、卵巢囊腫、甲狀腺囊腫、竝ニ之ニ類スル腫瘍ノ内容物ヲ排除シタル後ニ注入シテ、癒著性炎症ヲ催起スル爲ニ用ヒラル、コトアリ。此場合ニ於テハ、「ヨード」ニ由リテ生ジタル適度ノ炎症ノ長ク持續スルコト、竝ニ「ヨード」ハ組織ト化合シテ痂皮ヲ形成セザルコトノ長所ヲ利用シ得ルモノトス。「ヨード」ノ内用ハ極テ稀ナリ、往時ハ「ヨード」ノ胃粘膜ニ於ケル局所作用ヲ應用シテ、妊婦ノ嘔吐、船暈等、凡テ頑固ナル嘔吐ニ盛ニ内用シタリ。是稀薄ナル「ヨード」液ハ、局所麻痺ノ效アルガ故ナリ。「ヨード」ハ又「ヨードカリウム」ノ代用トシテ、微毒ニ用ヒシコトアリ、サレド此二様ノ應用ハ今ハ廢セラレタリ。「ヨード」ヲ多量ニ内用シタル場合、及癒著性炎症ヲ起サシムル爲ニ「ヨード」溶液ヲ注射シタル場合ハ勿論、外用ノ場合ト雖、其使用廣部ニ互ルトキハ、其揮

「ヨード」チリ  
ン

「クロール」水

發性アルガ爲ニ、容易ニ吸收セラレテ、中毒ヲ起シ、其徵候トシテ酩酊狀態、顔面蒼白、ツィアノーゼ、脈搏ノ細小頻數、心悸亢盛、胃部疼痛、劇烈ナル嘔吐、下痢、及皮膚ノ發疹、蛋白尿、稀ニ血尿、時トシテ無尿ヲ現ハス、而シテ脈搏ハ往々消失スルニ至ルコトアリ。此皮膚ノ蒼白及寒冷ト同時ニ、心臟作用ノ亢進スル作用ヲ認メテ、ソヲ脈管ノ攣縮ヲ來シタル徵候ナラント説明シタル人アリト雖、動物試驗ニ於テ「ヨード」ヲ「ヨードナトリウム」液ニ溶解シテ之ヲ注入スルモ、血壓ノ昇騰セザルニ由リテ觀レバ、此說ハ正當ナリトハ云ヒ難シ。「ヨード」中毒ノ際ニハ、胃液中ニ遊離ノ「ヨード」又ハ「ヨード」水素酸ヲ混ズ、故ニ嘔吐アルトキハ、吐物中ニ「ヨード」又ハ「ヨード」水素ヲ認ム。甲狀腺中ニ存スル「ヨードチリン」 Jodithyryn「チレオグロブリン」 Thyreoglobulinニ就テハ、後章卷末ニ於テ之ヲ説クベシ。

品名、製劑、用量及處方

「クロール」水 Aqua chlorata.

澄明黃綠色ノ液ニシテ、通常〇・四「プロセント」以上ノ「クロール」ヲ含有ス、等



分若クハ二倍ノ水ヲ以テ稀釋シ、傳染性眼炎並ニ遲鈍性潰瘍等ニ外用スルコトアレドモ、今ハ用フルコト稀ナリ。

「クロール」石灰

「クロール」石灰 Calcaria chlorata.

「クロール」ノ臭氣ヲ有スル白色ノ粉末ナリ。唯一部分ノミ水ニ溶解ス。之ニ鹽酸ヲ加ヘテ發生スベキ「クロール」ハ、日本藥局方ニ據レバ、少クトモ二十五「プロセント」以上ナラザルベカラズ。化學的ニハ、次亞「クロール」酸「カルチウム」 $Ca(ClO)_2$ 「クロール」カルチウム $CaCl_2$ 水酸化「カルチウム」 $Ca(OH)_2$ 等ノ混合物ナリ。其〇・三乃至〇・五「プロセント」ノ溶液ヲ、稀ニ壞疽性創傷、癌潰瘍、慢性痲疾及惡臭性腔分泌等ニ外用スルコトアリ。多クハ消毒用トシテ、屍室、病室、及其他ノ惡臭アル場所ニ扁平ノ皿ニ盛リテ放置シ、或ハ更ニ之ニ礦酸ヲ加ヘテ「クロール」瓦斯ヲ發生セシム。

「ヨード」

「ヨード」 Jodum.

黒褐色金屬様ノ光澤アル菱形ノ板狀結晶ニシテ、常溫ニ於テモ揮發シ、水

ニハ溶解シ難キモ、酒精「エーテル」等ニハ溶解シ易シ。「ヨード」カリウム、「ヨード」ナトリウムノ水溶液中ニハ、單純ノ水ヨリモ溶ケ易シ。往時ハ妊婦ノ嘔吐、微毒等ニモ應用シタレドモ、今ハ「ヨード」ヨードカリウム液トナシ、囊腫内ニ注入シテ、癒著性炎症ヲ發セシメ、或ハ甲状腺腫ニ注入劑トナシ、又時トシテハ惡性ノ肉芽面ヲ改新シテ、肉芽ノ發生ヲ催進スル爲ニ用フルニ過ギズ。故ニ内用ハ極テ稀ナリ。用量一回〇・〇〇五乃至〇・〇〇五、極量日本藥局方一回〇・〇二、一日〇・〇六。

（處方例）

「ヨード」二〇 「ヨード」カリウム四〇 水一〇〇〇

所謂「ルゴール」液ニシテ、外用ニ供ス。

「ヨード」丁幾 Tinctura jodi.

日本藥局方ニ據レバ、「ヨード」一分ヲ酒精十二分ニ溶解シテ製ス。澄明赤褐色ノ液ナリ。内用ニハ稀ニ其二乃至六滴ヲ粘滑劑ニ加ヘテ、妊婦ノ嘔吐ニ用フルコトアルノミ、之ニ反シテ、外用ニハ種々ノ目的ニテ屢、供用セラル。

「ヨード」丁幾

「ヨード」丁幾

二四九



多クハ病的滲出物ヲ吸收セシムル目的ナレドモ、稀ニハ或皮膚病、殊ニ頑癬等ニ塗布シテ、殺菌劑トナスコトアリ、或ハ「ヨード、ヨードカリウム」液ノ如ク、癩著性炎症ヲ催起スル目的ニテ、囊腫内ニ注入スルコトアリ、極量日「本藥局方一回〇・二、一日〇・六、獨逸藥局方ニ據レバ、「ヨード」一分ヲ酒精十分ニ溶解シテ製シ、其極量ハ一回〇・二、一日〇・六ナリ。

### 第八 酸化劑屬

Gruppe der Oxydationsmittel.

(酸素屬 Gruppe des Sauerstoffs.)

酸化劑ノ作用

酸化劑ニ屬スル物質ハ、凡テ容易ニ遊離シ易キ形態ニ於テ酸素ヲ含有シ、從テ酸化セラレ易キ物質、殊ニ有機質ニ觸ル、トキハ、直ニソテ酸化破壊スル働アリ、故ニ其作用ハ造鹽素ノ作用ニ酷似ス、酸化劑ヲ生體ニ使用スルトキハ、其使用ノ局所ニノミ働キテ、腐蝕、破壊等ノ作用ヲ起シ、決シテソテ吸收セシメテ、身體内ノ酸化作用ヲ亢進セシムルコトヲ得ズ、是酸化劑ハ其吸收セ

過「マンガン」酸「カリウム」

ラレザル前ニ、觸接セル組織ニ酸素ヲ附與シ了ルト、生體內ノ生理的酸化作用ハ、血色素ヨリ「オキシダーゼ」ノ媒介ニヨリテ得ルトコロノ酸素ニ依リテノミ行ハル、モノナルトノ爲ナリ、酸化劑ノ應用ハ、酸類及造鹽素ト殆ド相似タリ。

### 品名、醫治效用、用量及處方

過「マンガン」酸「カリウム」, Kalium permanganat-

cum.  $K_2MnO_4$

二十分ノ水ニ溶解シ得ル暗紫色ノ結晶ニシテ、強烈ナル酸化作用ヲ有シ、殊ニ傷害ヲ受ケザル皮膚、創傷、潰瘍及容易ニ到達シ得ベキ體腔ニ於ケル惡臭アル有害ノ分解生成物ヲ破壊スル效力アリ、サレド此場合ニ於テハ、過「マンガン」酸「カリウム」ハ、先ヅ其腐敗生成物ヲ酸化スル爲ニ消費セラレ、微菌ニ迄達シ得ザルヲ以テ、其消毒作用ハ、最モ恰好ノ場合ト雖、唯表層的ニ止マリ、且一時性タルニ過ギズ、故ニ過「マンガン」酸「カリウム」ハ、消毒劑ト稱スルヨリモ、寧ロ防臭劑ト稱スルヲ適當トス、而シテ其腐蝕作用モ亦之

過「マンガン」酸「カリウム」ノ作用ハ、表層ニ止マル

酸化劑屬 品名、醫治效用等 過「マンガン」酸「カリウム」



ト同ジク、組織ノ表層ニ限局ス。其〇・一乃至〇・五「プロセント」ノ溶液ヲ口腔ノ含嗽劑トシ、〇・五乃至一〇「プロセント」ノ溶液ヲ、惡膿性創傷及潰瘍ノ洗滌劑トス。或ハ其〇・一乃至〇・五「プロセント」ノ溶液二五〇〇乃至五〇〇〇ヲ、青酸中毒、磷中毒及「モルヒチ」中毒ニ應用スルコトアリ。但此場合ニハ、胃粘膜ヲ腐蝕スルコト甚シキヲ以テ、反覆使用スルコトヲ戒メザルベカラズ。

〔處方例〕

過「マンガン」酸「カリウム」五〇 餾水一〇〇〇  
右二十乃至五十滴ヲ、一椀ノ水ニ混ジテ含嗽用ニ供ス。

「クロロム」酸 Acidum chromicum.

其固形状態ヲナスモノハ、即チ無水物(CrO<sub>3</sub>)ニシテ、主トシテ酸類ノ作用ヲ現ハスヲ以テ、藥理學上ノ關係ニ於テハ、真正ノ酸化劑中ニ數ヘ難シ。適宜ニ之ヲ用フルトキハ、外科學上腐蝕劑トナスコトヲ得レドモ、其作用ハ限局シ難クシテ、表面及深部ニ蔓延スル性アリ。「クロロム」酸及其鹽類ハ、外用

ト雖、廣キ場所ニ用フルトキハ、吸收セラレタル後、腎臟、腸管等ヨリ排泄セラレテ、其部ニ炎症ヲ起スコトアルヲ以テ、注意ヲ要ス。

「クロロム」酸ノ酸性鹽類、殊ニ重「クロロム」酸「カリウム」、Kalium bichromicumハ、獸醫科ニ於テ皮膚刺戟ノ目的ニ用ヒラル。此藥物ハ微弱ノ腐蝕性アリ。

「オゾオン」 Ozonium O<sub>3</sub>

最モ強烈ナル酸化劑ニ屬スレドモ、其作用ハ唯局所ニ止マル。

過酸化水素 Hydrogenium peroxydatum. H<sub>2</sub>O<sub>2</sub>

過酸化水素ハ殺菌力ヲ有スルノ外、強キ酸化力ヲ有シ、酸化セララルベキ化合物ニ觸ル、トキハ、容易ニ其作用ヲ現ハスモノニシテ、血球、白血球、釀母、細胞ノ如キ種々ノ原形質ニ接スレバ、水ト酸素トニ分解シ、發生期ノ酸素ハ、有機質ヲ破壊ス。痘漿及麻疹ノ排泄物、竝ニ其他ノ潰瘍ノ生産物ニシテ、傳染性原質ヲ有スル者ニモ、亦過酸化水素ハ、細胞體ニ對スルト同一ノ作用ヲ有スルガ故ニ、近來再ビ斯ル場合ノ消毒劑トシテ稱用スルモノアル



ニ至レリ。此藥物ハ三十「プロセント」ノ水溶液トナシ「ペルヒドロール」Perhydrolノ名ニテ販賣セラレ、殊ニ牛乳ニ熱ヲ加ヘズシテ消毒スル爲ニ用ヒラル。

「クロール酸」カリウム「Kaliun chloricum」

「クロール酸」カリウムノ酸化消毒作用ニ就テハ、本卷百七十五頁ニ於テ述べタリ就テ見ルベシ。

亞硫酸 Acidum sulfurosum.

亞硫酸ハ酸化劑ニ非ズシテ、反對ニ還元劑ナレドモ、其強力ナル還元作用ニ由リテ、有機質ヲ破壊スル點ノ、酸化劑ニ一致スルヲ以テ茲ニ舉グベシ。亞硫酸ノ無水物ヲ、二酸化硫黃 $S_2O_3$ ト云ヒ、硫黃ヲ大氣中ニ燃燒スルニ由リテ生ズ。亞硫酸ハ還元作用ノ他、尙ホ酸類トシテノ作用及諸種ノ動植物並ニ其芽胞ニ對シテ甚ダ有毒ナル特性ヲ有ス。而シテ亞硫酸ハ有機物ト化合スルコト鹽素ノ如ク急劇ナラズシテ、之ニ比スレバ寧ロ耐久ノ作用

アルヲ以テ、醱酵、腐敗及疾病ノ原因トナルベキ物質ヲ壞滅スル效力ハ、迥ニ優レリ。室内ヲ消毒スルニハ、室一立方メートル毎ニ、一五〇ノ硫黃ヲ燃燒シ、數時間或ハ尙ホ十分ニ云ヘバ、一二日間之ヲ閉鎖シ置クヲ要ス。凡テ亞硫酸ヲ以テ、消毒セントスル物質ハ、濕氣ヲ帶ビザルベカラズ。亞硫酸瓦斯ハ、漂白ノ目的トシテ、工業上ニ汎ク使用セラル。



### 第三部 重金屬及礬土ノ化合物

#### Die Verbindungen der schweren Metalle und der Thonerde.

此屬ノ化合物  
ハ其局所作用  
ニハ通有ノ性  
質アレド各吸  
作用ハ各自相  
異ナレリ

重金屬ノ化合物中、此章ニ於テ論ズベキハ、水溶液ニ於テ解離シ、金屬自己若クハ其酸素化合物ノ、解離セル「イオン」ノ形態ヲ保有セリト看做スベキモノ、ミナリトス。而シテ此種ノ化合物ノ組織ニ及ボス特異ナル局所作用及吸收作用ハ、何レモ是等ノ「イオン」ヨリ來ルモノトス。局所作用ハ、諸種ノ金屬鹽類何レモ通有ニシテ、其原因及性質相類スルヲ以テ、之ヲ總括シテ論ズルコトヲ得レドモ、吸收後ノ作用ニ至リテハ、各金屬互ニ相同ジカラズシテ、其特殊ノ部屬ニ於テ之ヲ論ゼザルベカラズ。又金屬ノ化合物中ニ於テモ、有機化合物ハ、多クハ「イオン」解離ヲナサザルヲ以テ、有毒ナルモノニテモ、無機鹽類ト異リ、各其金屬ニ特有ナル作用ヲ呈セズシテ、全分子ノ性質ヲ以テ働ク神經及筋肉毒ニ類セリ。而シテ此有機化合物ニシテ金屬ニ固有ナル「イオン」作用ヲ呈スルモノアラバ、ソハ吸收後、體中ニテ分解シテ無機化合物

局所作用

ニ變化シタル爲ナリトス。

### 局所作用

蛋白化金屬

腐蝕作用

重金屬鹽類ノ局所作用ハ、鹽類ノ蛋白質様ニ對スル化學的ノ關係ニ歸スベキモノニシテ、蛋白質及其他生體ノ組織ヲ構成セル物質ハ、金屬酸化物ト化合シテ、溶解シ難キ物質、即チ蛋白化金屬ヲ形成スベシ。

其原因

今單純ナル重金屬鹽類ヲ採リテ、之ヲ中性蛋白溶液ニ加フルトキハ、雪片様ノ不溶性沈澱ヲ生ズルヲ見ル。是即チ蛋白化金屬ナリ。此際重金屬鹽類中ヨリ酸ヲ遊離スルヲ以テ、溶液ハ酸性ニ變ズ。而シテ其酸ハ更ニ單獨ニ、蛋白質ニ向ヒテ働クベシ。斯ノ如キ作用ハ、獨リ蛋白溶液ニ於テ起ルノミナラズシテ、生體ノ組織中ニ存スル蛋白質及産膠物質ニ於テモ亦起ルモノトス。斯ノ如キ變化ノ起ル原因ハ、重金屬鹽類ノ、水中ニ溶解スレバ、解離シテ重金屬「イオン」ト酸殘基、イオン「ト」ヲ構成シ、而シテ此際若シ水溶液中ニ蛋白質若クハ蛋白樣質ノ存在スルトキハ、重金屬「イオン」ハ、先ヅ蛋白質ト化合シテ、蛋白化金屬トナリ、酸殘基「イオン」ハ、蛋白質ヨリ水素「イオン」ヲ得テ酸ニ變ジ、此遊離セル酸ハ、更ニ蛋白質ニ向ヒテ働クヲ以テナリ。故ニ此場合ニ



腐蝕作用ト收斂作用トハ密接ノ關係ヲ有ス

腐蝕作用

收斂作用

於ケル局所作用ハ、一部ハ金屬酸化物ノ爲ニ起リ、一部ハ酸ノ爲ニ起ルモノトス。此局所作用ノ強度及性質ハ、茲ニ生ジタル金屬ノ蛋白化合物ノ性狀ト、之ニ參與スル酸ノ量及性質トニ由リテ各相同ジカラズ。若シ金屬鹽類ノ化學的作用ノ唯表層ニ止マルトキハ、之ヲ收斂 *Astringens* ト稱シ、深部ニ迄達スルトキハ、腐蝕 *Aczung* ト稱ス。故ニ重金屬鹽類ニ由リテ生ズル收斂ト腐蝕トハ、其關係甚ダ親密ナル組織ノ變化ニシテ、唯其作用ノ程度ノ差異ニ他ナラズ。故ニ所謂收斂劑ト雖、或一定ノ濃度ニ達スレバ、腐蝕ノ作用ヲ現シ、所謂腐蝕鹽類ト雖、極テ稀薄ナルトキハ、收斂ノ效アルモノトス。

重金屬鹽類ノ組織ニ對スル作用ハ、其化學的親和力ニ由リテ起ルモノニシテ、試験管内ニ於ケル蛋白質ニ對スル作用ト全ク同一ナリ。但生體ニ於テハ、腐蝕強キトキハ、其周圍ニ反應性炎症ヲ生ジ、之ニ反シテ腐蝕弱ク、且形成セラレタル蛋白金屬ノ、表面ニ於テ一種ノ被膜ヲ作りタルトキハ、之ガ爲ニ外來ノ刺戟ヲ防ギ、分泌ノ過剩ヲ止メテ、組織ノ炎症ヲ減退シ、所謂收斂ノ效ヲ奏スルモノトス。

如上ノ重金屬鹽類ノ局所作用ノ、或ハ表層ニノミ止リテ、所謂收斂ヲ起シ、或

局所作用ノ或ハ腐蝕トナリ或ハ收斂トナリル原因

金屬ニ因スル局所作用ノ強弱

ハ深部ニ迄及ビテ、腐蝕作用ヲ現ハスハ、其鹽類ヲ構成スル金屬及酸ノ化學的性質ニ由ルモノトス。金屬「イオン」ハ、前ニ述ベタル如ク、蛋白質又ハ產膠物質ト化合シテ、蛋白金屬ヲ生ジ、此蛋白金屬若シ不溶解性ニシテ、殊ニ凝固性及粘著性ヲ有スルトキハ、組織ノ表面及細胞間質ニ沈澱シテ、所謂腐蝕痂ヲ生ジ、之ガ爲ニ殘餘ノ金屬鹽ノ、深部ニ其働ヲ及ボスコトヲ防グ。殊ニ此際遊離シタル酸量少ク、且其酸性弱キトキハ、酸ノ爲ニ生ズル腐蝕ハ、極テ僅微ナルベシ。收斂作用トハ、即チ之ヲ云フ。若シ之ニ反シテ、生ジタル蛋白金屬ノ組織液中ニテ膨脹シ、或ハ然ラザルモ、弛緩性ヲ有スルトキハ、生ジタル腐蝕痂ハ、軟粥狀ニシテ脱落シ易ク、從テ殘餘ノ重金屬鹽及之ヨリ遊離シタル酸ノ、深部ニ侵入スルヲ防止スルコト能ハズシテ、強キ腐蝕ヲ生ズ。而シテ此際重金屬鹽類ヨリ遊離シタル酸量多ク、且ツ酸性強キトキハ、其酸ノ腐蝕モ亦之ニ加ハリ、益其腐蝕ヲ強度ナラシム。

斯ノ如ク重金屬鹽類ノ局所作用ハ、之ヲ構成スル金屬及酸ノ性質ニ由リテ異ルモノナリ。先ヅ重金屬ノ方ヨリシテ、其腐蝕力ノ強弱ヲ定ムルトキハ、最も腐蝕力強キハ、水銀鹽類ニシテ、之ニ次グハ、錫鹽、銅鹽、銀鹽、亞鉛鹽ナリ、鐵鹽



金屬鹽類ノ主働作用ノハ、酸トナルモノハ、酸ナリ、弱局所作用ノ強

金屬ノ有機酸鹽ノ腐蝕作用ハ、殆ド其金屬ハ作用ニ歸スベシ

ニ至リテハ、既ニ其腐蝕力大ニ弱ク、鉛鹽ハ最後ニ位シ、所謂收斂作用ヲ呈スルニ過ギズ、即チ其配列ハ左ノ如シ。

腐蝕↓水銀鹽—錫鹽—銅鹽—銀鹽—亞鉛鹽—鐵鹽—鉛鹽↑收斂

重金屬鹽類ノ腐蝕作用ヲ現ハスニ當リテ、其主働ノ一トナルモノハ酸ナルヲ以テ、茲ニ少シク之ニ就テ論ズルトコロアルヲ要ス。

諸種ノ重金屬鹽類中ニ於テハ、クロール化合物ヲ以テ其腐蝕力最モ強大ナリトス。是鹽酸ハ諸種ノ酸類中最モ強力ナルモノナレバナリ。硝酸ハ鹽酸ニ次デ強力ナルヲ以テ、從テ其鹽ノ腐蝕作用ハ、クロール化鹽ニ次ギテ強シ。硫酸鹽ノ腐蝕作用ハ又硝酸鹽ニ次グ。有機酸類ニ至リテハ、以上ノ礦酸ニ比スレバ、其酸性更ニ大ニ弱ク、從テ其腐蝕性モ亦極テ微弱ナリトス。殊ニ有機酸類ハ、重金屬ト化合シテ、屢、所謂鹽基性鹽類ヲ作ルモノニシテ、其中ノ酸ノ含量ハ、中性鹽ノ半ニ過ギズ。從テ其腐蝕力最モ弱シトス。今茲ニ酸類ヲ其腐蝕ノ強弱ニ由リテ配列スレバ左ノ如シ。

鹽酸鹽—硝酸鹽—硫酸鹽—其他礦酸鹽—有機酸鹽、殊ニ其鹽基性鹽

次ニ個々ノ重金屬鹽ノ腐蝕力ヲ比較センニ、金屬中最強ナル水銀ト、酸類中

鹽類ハ其溶解性モ亦腐蝕力ノ強弱ニ大關係アリ

局所作用

最強ナル鹽酸トノ化合物ナル昇汞ハ、此屬ニ於ケル最強ノ腐蝕劑ニシテ、其極テ稀薄ナル溶液ト雖、尙ホ腐蝕ノ效アリ。之ニ次グハ、クロール、錫、クロール、亞鉛、硝酸水銀等ニシテ、更ニ之ニ次グハ、銀鹽中ニテ最モ腐蝕力強キ硝酸銀ナリ。硫酸銅、硫酸亞鉛、クロール、鐵等ニ至リテハ、其作用頗ル弱シ。硝酸鉛ハ鉛鹽中ニテハ、腐蝕力最モ強キモノナレドモ、之ヲ上述ノ他ノ鹽類ニ比スレバ、其作用極テ微弱ナリ。有機酸鉛、即チ醋酸鉛(鉛糖)殊ニ鹽基性醋酸鉛(鉛醋)ハ、所謂收斂劑トシテ用ヒラル、重金屬鹽ノ主ナルモノナリ。

尙ホ茲ニ注意スベキハ、鹽類ノ腐蝕力ノ強弱ハ、獨リ金屬及酸ノミニ由リテ判斷スベカラズシテ、其溶解性ニ注意スルヲ要スルコト是ナリ。即チ不溶解性ノ鹽類ハ、局所作用ヲ呈セザルモノトス。タトヘバ、甘草、クロール、銀、クロール、鉛等ノ如シ。但試驗管中ニ於テハ、水ニ不溶解性ナルモ、組織液中ニテハ、漸次溶解シテ、局所作用ヲ呈スルモノアリ。タトヘバ、ヨード、汞、酸化汞ノ如シ。即チ是等ハ蛋白質ト直接ニ化合スルモノトス。

### 醫治效用

局所作用 單純ナル金屬鹽類ヲ、局所ニ適用スル時ハ、嘗ニ其腐蝕作用若



腐蝕作用ト收斂作用トハ同シ  
メ以テ起サシ  
ナリ

クハ收斂作用ヲ單獨ニ起サシムルニ止マラズ、一ノ製劑ヲ用ヒテ、先ヅ其腐蝕作用ニ由リテ、組織ヲ破壞シテ、炎症ヲ起サシメ、之ニ次デ多少強度ノ收斂作用ヲ續發セシムルコトヲ得ベシ。金屬鹽類中、殊ニ著ク此兩作用ヲ併有スルモノハ、硝酸銀ニシテ、硫酸銅及硫酸亞鉛モ亦實地上甚ダ屢、此目的ヲ以テ使用セラル。

金屬化合物ノ局所作用上ヨリセル分類

局所劑トシテ使用セラル、金屬化合物ハ實地上ノ關係ヨリシテ三屬ニ分類シ得ベシ。今其種類及之ニ屬スル主要ナル化合物ヲ舉グレバ左ノ如シ。

第一屬 單ニ腐蝕性ノミヲ有スル金屬鹽、昇汞、酸化汞、ヨード、汞、クロール、亞鉛、クロール、錫、吐酒石及其他、アンチモンノ化合物。

第二屬 腐蝕及收斂ノ效ヲ併有スル金屬鹽、クロール、鐵、硫酸鐵、硫酸銅、硫酸亞鉛、硝酸銀、醋酸銅、硝酸鉛。

第三屬 收斂性ノ過勝セル金屬鹽、中性及鹽基性醋酸鉛、酸化亞鉛、鹽基性硝酸蒼鉛、白降汞、カリ、明礬其他ノ礬土鹽。

右ノ中、吐酒石ハ「アンチモン」化合物體、カリ「明礬」ハ「アルミニウム」化合物體ニシテ、「アンチモン」ハ類金屬、「アルミニウム」ハ輕金屬ニ屬シ、其ニ重金屬ニ非ズト雖、

收斂及腐蝕ノ作用ノ實地上

其局所及吸收作用共ニ重金屬ニ酷似セルヲ以テ、茲ニ算入シタリ。收斂劑ハ、主トシテ外皮及粘膜ノ慢性炎症ニ用ヒラル。其作用ハ用ヒタル部分ノ表層ヲ稠厚ナラシメテ、一種ノ被膜ヲ作り、毛細管、細血管ノ内皮細胞間質ト不溶解沈澱ヲ作り、血管内ヨリスル漿液ノ滲出、白血球ノ遊走ヲ妨グ、充血、分泌過多、及組織ノ腫脹ヲ減却シ、且炎症ノ原因トナルベキ外來ノ刺戟ニ對シテ、其外皮若クハ粘膜ヲ掩護スルニアリ。又收斂劑ノ爲ニ新生セル蛋白質金屬ハ、微菌ニ對シテ不良ノ培養基タルベシ。實質性出血ニモ、亦止血ノ目的ヲ以テ收斂劑ヲ用フ。是重金屬鹽ノ血漿蛋白質ト化合シテ、速ニ血液ノ凝固ヲ來シ、之ニ由リテ細血管ノ斷端ヲ栓塞スルヲ以テナリ。此目的ニハ、殊ニ鐵鹽ヲ用フ。腐蝕劑ハ現今ニ於テハ、手術ヲ恐怖スル患者ノ膿瘍ヲ破開シ、若クハ小腫瘍ヲ壞滅スル爲ニ用ヒ、或ハ腫瘍若クハ囊腫内ニ注射シ、或ハ創傷ニ存スル動物毒及微菌ヲ破壞スル爲ニ用フルニ過ギズ。金屬鹽類ヲ消毒劑トシテ使用スルハ、此腐蝕作用ニ起因スルモノニシテ、十分ニ其目的ヲ達セシメントスルニハ、多量ニ使用セザルベカラズ。サレド其中唯水銀化合物ノミハ、化學的腐蝕作用ノ他ニ、么微生體ニ對シ、毒性ヲ有スルヲ以テ、猛烈ナル



吸收作用

重金屬ハ腸胃ノ粘膜ヨリ吸收セラル、コト甚ダ少シ

消毒作用ヲ現ハスベシ。  
吸收作用 通常ノ金屬鹽類ハ之ヲ用ヒタル場所ニ於テ、蛋白化金屬ヲ生ジ、之ニ由リテ先ヅ限局セル局所作用ヲ現ハシ、次デ此蛋白化金屬ハ、蛋白ヲ含有スル、アルカリ性組織液ニ溶解シ、然ル後ニ始テ徐々ニ吸收セラレテ、吸收作用ヲ起スモノトス。サレド若シ蛋白ヲ凝固セザル化合物、タトヘバ金屬蛋白化合物、植物性酸ノ鹽類複化合物、若クハ金屬有機化合物ノ如キモノヲ、皮下若クハ血中ニ注入スルトキハ、局所作用ヲ現ハサズシテ、單純ナル吸收作用ヲ現ハスベシ。而シテ其吸收作用ハ一般ニ徐々ニ現ハル、モノトス。胃腸ノ健全ナル粘膜ヨリハ、重金屬ノ吸收セラル、コト甚ダ困難ニシテ、殆ド全ク吸收セラレズト云フモ可ナリ。サレド若シ金屬化合物ノ多量ヲ一度ニ頓ニ胃中ニ送ルトキハ、其腐蝕作用ニ由リテ、消化器ノ急性加答兒ヲ起シテ、粘膜ニ創傷ヲ生ジ、之ヨリシテ、金屬ヲ比較的容易ニ吸收セシムルコトヲ得ベシ。然ルニ之ニ反シテ、若シ最初ニ少量ヲ用ヒ、持續シテ漸次、大量ニ進ムトキハ、消化器ノ粘膜ハ、其腐蝕ニ慣レテ、決シテ斯ノ如キ加答兒ヲ起サズ。從テ吸收セラル、コトモ亦甚ダ少ナシ。

水銀、鉛ノ鹽類ハ能ク消化器ヨリ吸收セラル

重金屬中、獨リ水銀鹽及鉛鹽ハ、内用ニ依リテ能ク吸收作用ヲ起ス。水銀ハ其不溶性ノ化合物ヲ用フルモ、尙數日ナラズシテ、中毒症狀ヲ現ハスコトアリ。鉛ノ吸收ハ之ニ比スレバ甚ダ緩徐ニシテ、多クハ數週、數月乃至數年ノ後ニ至リテ、始メテ慢性中毒ヲ認ム。砒素ノ化合物殊ニ砒酸、亞砒酸ハ、其作用重金屬化合物ニ酷似ス。サレド此物質ハ容易ニ胃腸ヨリ吸收セラレテ、一般作用ヲ起スモノナリ。之ニ反シテ、アソチモン化合物ハ、重金屬化合物ニ類シ、胃腸ヨリ吸收セラル、コト極テ難シ。

重金屬ノ排泄

吸收セラレタル重金屬ノ血中ニ入ルヤ、其大部分ハ赤血球、白血球ニ攝取セラレ、血漿中ニ存スルハ、唯小部分ニ過ギズ。而シテ蛋白樣物質及其他ノ有機質ト複化合物ノ形ヲナシ、門脈ヨリシテ肝臟ニ入りテ、其所ニ抑留セラレ、漸次其大部分ハ胃腸ノ粘膜ヨリ腸内ニ排泄セラレ、糞便ト共ニ體外ニ謝去スルモノトス。而シテ殘餘ノ少部分ハ、腎臟ヨリ尿中ニ、肝臟ヨリ膽汁中ニ來リ、尙ホ他ノ一部分ハ、蛋白質ト複合シテ、永ク肝臟實質中ニ殘留ス。金屬鹽類ノ、多量ニ尿中ニ排泄セラル、場合ニハ、必ズ腎臟ノ疾患ヲ起ス。是



重金屬ノ腎臟ニ對スル作用

重金屬ノ利尿作用

細尿管ノ上皮細胞ハ、徐々ニ崩壊シ、其細胞ノ一部ハ、尙ホ相互ニ連結セル儘ニテ、管狀ヲナシテ驅出セラレ、遂ニ尿管ノ滅絶ヲ來スニ由ル。絲綉ハ、最初ニハ健全ナレドモ、後ニ至レバ、亦同一ノ變化ヲ受クベシ。少量ノ水銀ハ、尿ノ增加ヲ來ス。家兎ニ於ケル實驗ニ由レバ、白金及銀ニモ亦此作用アリ。其他ノ金屬ニモ亦恐クハ其作用ヲ有スルナラン。此尿分泌作用ノ亢進ハ、細尿管ノ上皮細胞ヲ刺戟スルニ由ルモノナリ。サレド大量ノ重金屬ハ、腎臟ヲ刺戟スルコト甚シク、前ニ述ベタル如ク、細尿管細胞ノ壊死ヲ來シ、從テ他ノ腎臟炎ノ如キ變化ヲ來スモノトス。

### 第九 砒素屬

Gruppe des Arsens.

亞砒酸

砒素ハ化學上真正ノ金屬ニアラズシテ、所謂類金屬中ニ數フベキモノナレドモ、藥理的作用ニ就テハ、重金屬ノ部類ニ編入スルヲ適當トス。砒素化合物中ニテ強力ナルモノハ、亞砒酸、砒酸及鹽類ナリ。而シテ其特異作用ヲ起ス解離產物ハ、果シテ單純ノ砒素、イオーンナルカ、將タ其酸素化合

物ノイオーンナルカハ、未ダ確ニ認メラレズ。

### 生理的作用

砒素ノ有機化合物ハ、砒素ノ特異作用ヲ有セズ、體內ニ於テ酸化シテ砒酸又ハ亞砒酸ニ變化シ、茲ニ始テ其特異作用ヲ生ズルモノトス。

局所作用

局所作用 砒素化合物中、主トシテ局所ニ働クモノハ亞砒酸ニシテ、之ヲ用フルトキハ、炎症ヲ誘發シ、壊死ヲ來スベシ。此作用ハ、健全ナル組織ニアリテハ、徐々ニ起リテ微弱ナルモ、病的組織ニアリテハ、急速ニ發シテ強烈ナリ。砒石(無水亞砒酸)ノ消毒作用ハ、アマリ顯著ナラズ。從テ殺菌ノ效力ナシ。昆蟲等ニ對シテ有毒ナルヲ以テ、毛皮製品及剝製鳥ノ保存ニ、ソヲ應用ス。

吸收作用

極少量ノ砒石ノ持續シタル内用ハ、生體ノ榮養ニ利益アリ

吸收作用 砒素ハ生理的ニ身體ノ總テノ組織、殊ニ表皮及表皮組織中ニ存スルモノニシテ、常ニ缺如スルコトナキヲ以テ見レバ、生理的ニ必要ノモノナルコトヲ推察シ得ベシ。砒石ノ極少量、即チ〇〇〇一乃至〇〇〇五ヲ屢、反覆シテ用フルトキハ、生體ノ榮養上ニ利益アリ。即チ同化作用 Assimilation ヲ盛ニシ、窒素ノ滯留ヲ來ス。即チ之ニヨリテ身體諸組織ノ成長増殖スルヲ見ルベシ。其中殊ニ顯著ナルハ、皮下蜂窩組織中ノ脂肪沈著増加ニシテ、之ガ爲



慢性砒石中毒

ニ、皮膚ハ緊張シテ、光澤ヲ呈シ、且赤血球ノ數増加スルヲ以テ、殊ニ、榮養佳良ノ外觀ヲ呈ス。其他幼若ノ動物ニ、持續シテ微量ヲ用フルトキハ、骨格ノ發育非常ニ速ニシテ、其縱徑及橫徑共ニ増大スルヲ認ム。此場合ニ於テハ、骨小體減少シ、ハーベル氏管縮小シ、骨ノ堅緻成分増加スベシ。然ドモ砒石ノ量多キトキ、或ハ長ク持續シテ用フルトキハ、同化作用漸ク衰退シ、反對ニ異化作用 Disimilation 旺盛トナリ、終ニハ身體諸組織ノ退行變性ヲ起ス。是即チ慢性砒石中毒 Arsenicismus chronicus ニシテ、其徵候トシテ現ハル、ハ、胃腸、咽頭、結膜ノ慢性加答兒、竝ニ精神機能ノ沈衰、頭痛、神經痛、諸種ノ知覺及運動障礙、多發性末梢神經炎等ノ種々ナル神經障礙、肝臟、脾臟、心臟、腎臟等ノ脂肪變性、皮膚ノ惡液性色澤等ニシテ、往々發疹、色素ノ沈著、毛髮及爪ノ脱落等ヲ認ムルコトアリ。

急性砒石中毒

砒石ノ大量、即チ一回〇〇五若クハ其以上ヲ用フルトキハ、急性砒石中毒 Arsenicismus acutus ヲ起ス。即チ毛細血管及細動脈ノ痙攣擴張ヲ來シ、殊ニ、著キ下腹臟器ノ血管ノ擴張、竝ニ心臟麻痺ヲ現ハシ、動脈ノ血壓甚シク沈降スベシ。若シ此障礙ノ起ルコト急劇ニシテ、且高度ナルトキハ、往々譫語、昏睡及急

砒石中毒ノ麻痺形態

痙攣發作ヲ以テ、一二時間内ニ死ニ陥リ、其他ノ症狀ヲ認ムルニ暇ナキコトアリ。即チ此場合ニ於ケル直接ノ死因ハ、高度ノ血壓沈降ノ爲ニ起ル腦延髓機能ノ障礙ニシテ、之ヲ名ケテ砒石中毒ノ麻痺形態 Paralytische Formト云フ。サレド多數ノ場合ニ於テハ、一定時ノ後ニ、胃腸ノ炎症、即チ粘膜炎ノ充血、腫脹、出血及粘膜炎上皮細胞ノ脂肪變生、若クハ剝離ヲ認ムルニ至ルモノニシテ、其主ナル症狀トシテ頑固ノ嘔吐、胆汁様ノ下痢、劇甚ナル渴感、腓腸痙攣、無聲、眼窩陷沒、皮膚濕冷、ツァーアノーゼ、無尿等ノ症狀ヲ起ス。之ヲ砒石中毒ノ胃腸形態 Gastrointestinal Formト云フ。此症狀ハ急劇ナル亞細亞コレラノ症狀ニ酷似スレドモ、下痢ニ先チテ嘔吐ノ來ルコト及咽頭抓撥ノ感、竝ニ烈シキ腹痛ヲ伴フコトニ依リテ、之ト區別スルコトヲ得ベシ。腸粘膜炎ニ於ケル充血、其他ノ變化ハ、毛細血管ノ擴張ニ由リテ起ルモノニシテ、毛細管ニ移行セントスル小動脈管モ、亦同ジク其緊張性ヲ失フベシ。此血管麻痺ハ殊ニ著ク內臟神經ノ分佈部位ニ起ルモノトス。而シテ患者ハ半日乃至一二日中ニ死スルヲ常トス。

砒石中毒ノ胃腸形態ニ類似スル點及其區別

亞急性中毒

若シ中毒ノ經過亞急性ニシテ、數日乃至數週ニ亙ルトキハ、榮養障礙ノ爲ニ



砒石ニ對スル習慣性

身體諸部ノ脂肪變性、出血、皮膚ノ發疹等ヲ現ハスベシ。而シテ此際往々生ズルトコロノ一肢若クハ數肢ノ麻痺ハ、末梢神經ノ炎症ニ原ヅク他ニ、一部ハ中樞神經系ノ障礙ノ結果ニ歸スベキガ如シ。

砒石ニ對スル習慣性ハ、實ニ驚クベキホドニシテ、漸次ニ增量スルトキハ、大量ヲ用フルモ別ニ障礙ヲ現ハスコトナシ。スタイエルマルク地方ニ於テハ、却テ健康ヲ保チ、登山ノ際勞働ニ堪フル目的ヲ以テ、幼時ヨリ砒石ヲ常用ス。素ヨリスノ如キ效力ハ、何人ニモ望ムベカラズト雖、實際其地方ニ於テハ、死量ヲ超ユルコト數倍ナル。○四ノ大量ヲ一時ニ服用シテ、異狀ヲ呈セザルモノスラアリト云フ。家畜、殊ニ馬ニ於テモ、亦同一ノ目的ニテ砒素化合物ヲ飼料ニ混ジテ與フルコトアリ。而シテ之ヲ與フルトキハ、動物ハ皮下ノ脂肪ヲ増シ、毛ノ色澤加ハリ、外見上大ニ肥滿ノ觀ヲ呈ス。斯ノ如キ習慣性ヲ生ズル原因ハ、主ニ腸胃粘膜ノ上皮細胞ノ砒石ニ對スル抵抗力ヲ増シ、且之ヲ吸收セザルニ至ル爲ナリトス。吸收セラレタル砒石ハ、腎臟、肝臟、腸、皮腺及乳腺ヨリ排泄セラル。

醫治效用

砒石ノ排泄

砒石應用時ノ注意

亞砒酸ノ醫治效用ハ、其同化作用、異化作用ニ及ボス影響ヨリ起ル榮養及新陳代謝ノ變調及血管ニ對スル作用ニ歸スベキモノトス。殊ニ皮膚毛細管ハ、亞砒酸ノ爲ニ著ク擴張セラレベシ。亞砒酸ノ皮膚病ニ效アルハ、此作用ニ原ヅクモノナルベシ。而シテ皮膚ノ表皮、毛髮及爪ハ、尠ナカラザル量ノ砒素ヲ含有ス。

砒石ハ、孰レノ方法ニテ應用セラル、場合ニモ、常ニ必ズ中毒症狀ヲ發スル虞アルコトヲ念頭ニ措カザルベカラズ。而シテ胃障礙、結膜炎、皮膚ノ色素沈著、竝ニ中毒ト疑ハル、其他ノ症狀ノ、極テ僅ニ現ハレタルトキハ、即時ニ其應用ヲ廢スルヲ要ス。其他砒石內用ニ際シテ注意スベキハ、其局所作用ヲ防グ爲ニ胃ノ充實セル場合、即チ食後ニ於テ用フベキコト、竝ニソヲ徐々ニ增量スベキコトナリ。

病的ノ組織ハ、健康ノ組織ニ比シテ其安定性少キガ故ニ、亞砒酸ヲ用フルトキハ、健康ノ組織ノ同化作用ヲ増進スルト同時ニ、病的組織ノ異化破壞ヲ來ス。種々ノ疾病ニ亞砒酸及砒素化合物ノ用ヒラル、ハ、砒素ノ此作用アル爲ナリ。



間歇熱ニ砒石ヲ用フ

頑固ノ「マラリア」竝ニ其繼發症ニシテ、榮養不良ヲ來セルモノニハ、亞砒酸ハ「キニーチ」ヨリモ甚ダ屢、有效ナルコトアリ。サレド新タニ發シタル「マラリア」ニハ、亞砒酸ハ「キニーチ」ノ如ク奇效ヲ奏スルコトヲ得ズ。唯徐々ニ增量シテ、持續シタル後ニ、始テソヲ輕快セシメ得ベキノミ。近時ニ至リ、亞砒酸ハ「マラリア」地方ニ旅行シ、若クハ住居スル者ノ、其傳染ヲ豫防スル目的トシテ、最モ稱用セラル。是等ノ效力ハ「マラリア」原蟲ニ對スル殺蟲作用及新陳代謝ノ變調ニ歸スベキモノナラン。

鱗屑疹及紅色苔癬ニ用フ

鱗屑疹 Psoriasis 竝ニ紅色苔癬 Lichen ruber ニモ、亦亞砒酸ヲ數週若クハ數月間持續シテ用フルトキハ、著キ效ヲ奏スベシ。殊ニ後者ニアリテハ、亞砒酸ハ唯一ノ治療劑ナリトス。其他ノ種々ナル皮膚病ニ於テモ、亞砒酸ハ缺クベカラザルコト多シ。是砒素ハ特ニ皮膚ニ集マルガ故ニ、其病的組織ヲ破壞シ、健康組織ノ發生ヲ促ス效アルガ故ナリ。

惡性淋巴腺腫ニ用フ

亞砒酸ハ、惡液質ニ「ヨードカリウム」ト同一ノ意味ニテ用ヒラル。殊ニ惡性淋巴腺腫ニハ、特效藥ニシテ、其内用若クハ實質内注射ニ由リテ之ヲ輕快セシムルノミナラズ、往々全治セシメ得ルコトアリ。是腫瘍細胞ノ異化ヲ盛ニシ

諸種ノ榮養障礙ニ用フ

之ヲ破壞スルニヨル。肺癆、糖尿病ニ因スル惡液質狀態、諸種ノ貧血、假性白血病、白血病、竝ニ其他ノ榮養障礙ニモ、亦屢、亞砒酸ヲ用フルコトアリ。但是等ノ場合ニハ、多少榮養ヲ良好トナスコトアレドモ、其效果ノ持續スルコト稀ナリ。官能的神經病、例ヘバ神經痛、喘息、舞蹈病等ノ如キ確實ナル治療劑ニ乏シキ疾患ニ、屢、亞砒酸ヲ使用シタルコトアレドモ、比較的ニ奏效スルコト少ナシ。

神經性疾患ニ用フ

亞砒酸ハ亦腐蝕劑トシテ、齒科治療ノ場合ニ、齒髓神經ヲ滅殺スル目的ニテ用ヒラル、コトアリ。其他往時狼瘡ニ用ヒタルコトアレドモ、今ハ用フルコト稀ナリ。

腐蝕劑トシテ亞砒酸ノ應用

品名、製劑、用量、極量及處方

亞砒酸 Acidum arsenicosum. Arsenige Säure.

亞砒酸(砒石)

此名稱ハ、無水亞砒酸ト名ヅクルヲ正シトス。或ハ白砒石又ハ單ニ砒石トモ稱ス。磁器様若クハ透明ナル固形體ニシテ、十五分ノ熱湯ニ徐々ニ溶解ス。用量一回〇.〇〇〇五乃至〇.〇〇〇五。一日〇.〇〇一乃至〇.〇〇二。極量日本藥

砒素屬 品名、製劑等 亞砒酸

二七一



局方一回〇〇〇五、一日〇〇一五腐蝕劑トシテ用フル場合ニハ三四分ノ  
獸炭若クハ他ノ粉末狀物質ヲ混ジ「ゴム」溶液ヲ以テ煉劑トス。

(處方例)

(一) 亞砒酸〇二五 黒椒五〇 「アラビアゴム」適宜  
右混和シ、法ニ依リテ百粒ノ丸劑ヲ製シ、一回一粒、一日二回宛内用シ、漸次  
増量スベシ。

(二) 亞砒酸〇五 昇汞二〇 「アラビアゴム」一〇〇  
右法ニ依リ、「バスタ」トナシテ外用ニ供ス。

亞砒酸「カリウム」液(「ホール」水) Liquor Kalii

arsenicosi. (Liquor arsenicalis Fowleri.)

亞砒酸「カリウム」ニ、「ラベンデル」精ヲ加ヘタル水溶液ニシテ、「プロセント」  
ノ亞砒酸ヲ含有ス。用量一回〇〇五乃至〇五、一日一〇乃至二〇、極量日本  
藥局方亞砒酸極量ノ百倍、即チ一回〇五、一日一五ナリ。

亞砒酸「カリ  
ウム」液(「ホー  
ル」水)

「アトキシール」 Atoxyl.

「アトキシール」ハ、化學的ニハ「パラアミドフェニールアルシン」酸「ナトリウム」  
ニシテ、其砒素含量ニ比シ、毒量大ニ弱シ、從テ大量ニ用フルコトヲ得ベシ。  
近來之ヲ「トリバノゾマ」病、「マラリア」微毒、諸種ノ皮膚病ニ稱用ス。用量一回  
〇〇五乃至〇五ヲ皮下ニ注射ス。往々中毒ヲ起シ、殊ニ視力障礙ヲ來スコ  
トアルヲ以テ、注意シテ用フルヲ要ス。殊ニ水溶液ハ、時ヲ經ルニ從ヒテ分  
解シテ、其毒性ヲ増加ス。故ニ其溶液ハ、每常用ニ臨ミテ新ニ作ルヲ要ス。

鹽酸「チオキシ、チア」ミド、アルゼノベンツ  
ール」(「サルヴルサン」) Dioxo-diamido-  
arsenobenzolum hydrochloricum (Salvarsan)

エールリヒ、秦 *Fischer-Hata* ノ研究ニヨレバ、「サルヴルサン」即チ「チオキシ、チア  
ミド、アルゼノベンツォール」ナル三價砒素化合物體ノ鹽酸鹽ハ、其毒性比較的  
弱クシテ、併モ螺旋狀原蟲(スピロヘーター)ニ對シテ、強力ナル殺菌力ヲ有

鹽酸「チオキ  
シ、チアミド、  
アルゼノベン  
ツォール」

「アトキシ  
ール」

「アトキシール」 鹽酸「チオキシ、チア」ミド、アルゼノベンツォール



シ、從テ是等ノ病原菌ヨリ起ル疾病即チ再歸熱微毒ニ對シテ偉效アリ。殊ニ微毒ニ對シテハ、一回ノ注射ヲ施ストキハ、能ク其症狀ヲ輕快シ、同時ニ榮養ヲ佳良ナラシムルコトヲ得ベシ。然レドモ一回ノ注射ニテ根治ノ效ヲ奏スルハ寧ロ例外ニ屬ス。用量ハ皮下注射又ハ臀部筋肉内注射ニハ、體重一キログラムニ對シテ〇・〇一ナルヲ以テ、體重六十キログラム即約十六貫ノ人ニハ、一回〇・六ニシテ、之ヲ約五十倍ノ生理食鹽水ニ溶解シ、且強酸性ナルヲ以テ、ナトロン鹼液ニテ中和シテ用フ。又靜脈内注射ニハ、皮下注射ノ四分ノ三量、即チ體重一キログラムニ對シ、〇・〇七五ノ割合ニテ約五百倍ノ生理食鹽水ニ溶カシ、ナトロン鹼液ノ過剩ヲ加ヘ、中和ノ際生シタル沈澱ヲ溶解セシメテ用フ。皮下及筋肉内注射ハ、局所ニ炎症膿瘍ヲ作ルノ虞多シ。故ニ今日ニ於テハ靜脈内注射ヲ稱用ス。

### 第一〇 「アンチモン」屬

#### Gruppe des Antimons.

「アンチモン」ト砒素トハ、其作用ノ一致シタル點アリ。即チ「アンチモン」ノ複鹽、

「アンチモン」ト砒素トハ、其作用ノ一致シタル點アリ。即チ「アンチモン」ノ複鹽、

タトヘバ吐酒石ヲ動物ニ注射シタル後ニ、其血液中若クハ皮下ニ起ル作用ハ、亞砒酸化合物ヲ用ヒテ起ル作用ト殆ド全ク相同ジ。

### 生理的作用

局所作用

局所作用 單純ナル「アンチモン」鹽類、殊ニ鹽化物ハ、強キ腐蝕劑ナリ。吐酒石ハ別ニ腐蝕作用ヲ有セズト雖、若シ外皮ニ塗布スル吐酒石ノ、一タビ毛根臙胞又ハ汗腺ニ達スルトキハ、其酸性内容物ニ由リテ、腐蝕性ノ單純鹽ニ變化スベシ。吐酒石軟膏ヲ外皮ニ塗擦スルニ、汎發性炎症ヲ起サズシテ、痘瘡ニ似タル膿疱ヲ生ズルハ、之ガ爲ナリトス。

「アンチモン」化合物ハ、胃中ニ於テ、其特殊ノ局所作用ニ由リテ、胃ノ求心性神經ノ末梢ヲ刺戟シテ、嘔吐中樞ヲ興奮シ、反射作用ニ由リテ、嘔吐ヲ起ス。其他血液中又ハ皮下ニ吐酒石ヲ注入スルモ、亦嘔吐ヲ起スベシ。然レドモ、コハ延髓ノ嘔吐中樞ニ對シテ、直接ニ刺戟作用ヲ現ハスニアラズシテ、其血液中ニ入リタル「アンチモン」化合物ハ、先ヅ胃粘膜炎ニ分泌セラレ、然ル後ニ胃中ニ用ヒラレタルト同一ノ局所作用ニ由リテ、始テ嘔吐ヲ發スルモノナルガ故ニ、之ヲ胃中ニ用フルニ比スレバ、遙ニ多量ヲ要スルノミナラズ、其奏效モ亦頗

「アンチモン」化合物ノ嘔吐作用ハ、局所作用ナリ



吸收作用

砒素ト一致セ  
ル點

砒素ト相違セ  
ル點  
「アンチモン」  
化合物ハ胃ヨ  
リ吐出セラレ  
テ吸收作用ヲ  
現スコトナシ

ル緩慢ナルコトヲ免レズ。

### 吸收作用

血液内ニ吸收セラレタル「アンチモン」ハ、主トシテ血管、殊ニ毛細管ニ其作用ヲ及ボスガ如シ。而シテ此作用ハ、恐クハ「アンチモン」ノ酸化化合物ニ由リテ起ルモノナラン。今哺乳動物ノ血液内若クハ皮下ニ「カリウム」吐酒石又ハ「ナトリウム」吐酒石ヲ注入スルトキハ、全ク砒石ノ急性中毒ト同ジク、麻痺症狀又ハ「コレラ」様症狀ヲ起シ。而シテ此際血管擴張ノ爲ニ、動脈内ノ血壓ノ著ク沈降スルヲ見ルベシ。其原因ハ血管神經ノ麻痺ナリ。サレド此場合ニ至リテモ、心臟ノ機能ハ依然トシテ變ズルコトナク、強盛ニ搏動ス。

砒素化合物ト「アンチモン」化合物トノ吸收作用ハ、斯ノ如ク酷似スレドモ、之ヲ内服セシムレバ、明ニ其間ニ區別アルヲ認メ得ベシ。即チ「アンチモン」化合物ヲ内服セシムルトキハ、少量ナレバ單ニ嘔吐ヲ起シ、大量ナレバ同時ニ胃、稀ニハ腸ニ及ブトコロノ腐蝕作用ヲ現ハスト雖、其製劑ハ、常ニ嘔吐ノ爲ニ吐出セラレ、胃腸ヨリ吸收セラレテ、吸收作用ヲ起スコト極テ少シ。之ニ反シテ砒素製劑ニハ、此局所作用ヲ現ハサズシテ能ク吸收セラレ、其作用トシテ嘔吐ノ他ニ、須臾ニシテ現ハル、腸症狀ノ併發ヲ認ムベシ。其他砒素化合物

「アンチモン」  
化合物ハ胃腸  
ヨリ吸收セラ  
レズ

「アンチモン」  
慢性中毒

「アンチモン」  
化合物ノ長短  
並ニ「アボモ  
ルヒチ」吐根  
トノ比較

ハ、其最少量ヲ内用スルモ、吸收セラレテ全身ニ汎布スレドモ、「アンチモン」化合物ハ、久シク胃中ニ滯留スル場合ト雖、容易ニ吸收セラル、コトナシ。  
「アンチモン」ノ慢性中毒ハ、慢性砒素中毒ニ類シ、臟器蛋白ノ分解増加ヲ起シ、從テ身體諸部ニ脂肪變性ヲ生ズ。

### 醫治效用

「アンチモン」化合物、殊ニ吐酒石ハ、軟膏トシテ、内臟ノ炎症ノ際ニ、誘導ノ目的ヲ以テ、皮膚ニ炎症ヲ喚起スル爲ニ用フルコトアリ。  
「アンチモン」化合物ノ主ナル應用ハ、其催吐作用ニシテ、「アボモルヒチ」及「エメチン」(若クハ吐根)ト同ジク、吐劑及祛痰劑トシテ用ヒラル。「アンチモン」化合物、即チ吐酒石、金硫黃ハ、内服スレバ、惡心ノ時期永クシテ、嘔吐ヲ起スコト遅ク、且胃腸ノ粘膜炎ヲ刺戟シテ、炎症ヲ起スヲ以テ、之ヲ吐劑トシテ使用スルニ當リ、老人及虛弱者ハ、惡心期ニ虛脱ヲ來ス恐アリ。加之小兒ニ於テハ、其鋭敏ナル胃腸ニ炎症ヲ來ス危險アリ。故ニ吐劑トシテハ奏效迅速ニシテ、虛脱及胃腸刺戟ノ恐少キ吐根劑ニ及バザルコト遠シ。又中毒等ニテ、極テ迅速ニ嘔吐ヲ望ム場合ニ於テハ、「アンチモン」化合物ハ、嘔吐中樞ヲ直接ニ刺戟スル「アボ



モルヒネノ皮下注射ニ若カザルコト言フ俟タズ之ニ反シテ、祛痰ノ目的ニテ永ク悪心期ヲ繼續セシムルニハ、吐酒石、殊ニ金硫黄ハ、其刺戟ノ輕キト、持續ノ久シキトニ依リテ、吐根等ニ勝ルコト數等ナリトス。  
「アンチモン」化合物ノ祛痰作用ハ、所謂搔撥性祛痰劑ニ屬ス、之ト溶解性祛痰劑トノ區別ハ、上卷百二十九頁「アムモニア」化合物屬及同二百四十頁「エメチン」屬ヲ參照スベシ。  
「アンチモン」化合物ハ、又近來砒素化合物ノ如ク、内用トシテ稀ニ皮膚病ニ稱用セラル。

名稱、製劑、用量、極量及處方

吐酒石(酒石酸「アンチモニール、カリウム」)

*Stibio-kali tartaricum* (Tartarus stibiatus.)

*Brechwstein*, (Weinsaures Antimonyl-Kalium.)

十七分ノ水ニ溶解ス。吐劑トシテハ、一回ノ用量〇・一乃至〇・二、極量日本藥局方一回〇・二、一日〇・六、祛痰劑トシテハ〇・〇〇五乃至〇・〇二ヲ溶液トシ

吐酒石(酒石酸「アンチモニール、カリウム」)

テ用フ之ヲ内用スル場合ニハ、同時ニ強酸及鹽基、鞣質、膠質、硫化金屬等ヲ用ヒザルヲ可トス。

(處方例)

(一) 吐酒石〇・三 白糖二・〇

右散劑三包トシ、各十分時毎ニ内用シ、吐ヲ得テ止ム。

(二) 吐酒石〇・〇五 礞砂五・〇 甘草羔一・〇〇 餾水二〇〇・〇

右混和シテ水劑トナシ、毎二時間ニ半酒杯宛内用(祛痰ノ目的)

吐酒石酒 *Vinum stibiatum*.

吐酒石一分ヲ、セリ酒二百五十分ニ溶解シテ製ス。吐劑トシテハ、小兒ニ十分乃至十五分時毎ニ、一茶匙宛奏效スル迄與ヘ、祛痰劑トシテハ十分乃至十四滴ヲ用フ。

金硫黄(五硫化「アンチモニウム」) *Stibium sulfuratum*

*aurantiacum. Goldschwefel.*

金硫黄

吐酒石酒



散劑トシテ用フ、用量一回〇・〇三乃至〇・二、一日一〇、極量日本藥局方一回〇・二、一日〇六、獨逸藥局方ニハ極量ノ記載ナシ。

(處方例)

甘汞 金硫黃各〇・〇五 白糖〇・五

右散劑トシテ十包ニ分チ、一日二三回一包宛內用(小兒氣管支炎)

第一一 水銀屬

Gruppe des Quecksilbers.

生理的作用

水銀化合物ハ、其不溶解性ノモノト雖、組織液ニ觸ル、トキハ、多少之ニ溶解シテ、水銀、イオンヲ生ジ、特異ナル局所及吸收作用ヲ起ス。斯ノ如キ水銀化合物ノ生體ニ對スル作用ハ、水銀、イオンノ作用ニ原ヅクモノナルヲ以テ、唯其溶解性ト解離ノ多少トニ由リテ、作用ニ強弱アルノミニシテ、其作用ノ性質ニ於テハ、相違アルコトナシ。

局所作用 溶解シタル水銀化合物ノ局所作用ハ、一部ハ其化學的親和力

用制腐及消毒作

ニ因リ、一部ハ其脂油溶解性アルガ爲ニ、細胞膜ヲ滲透通過シ、各種ノ生活セル原形質ニ對シテ、猛烈ナル毒性ヲ有スルニ因ル。故ニ水銀化合物ハ、蛋白質ト化學的結合ヲナシテ、ソヲ適用シタル局所ニ一定ノ腐蝕ヲ起スノミナラズ、其毒性ノ爲ニ、組織ノ炎性刺激及壞死ヲ來スニ足ルベシ。水銀劑ノ細菌及其芽胞ヲ死滅セシムルハ、全ク此作用ニ基ヅクモノニシテ、現時強力ナル制腐及消毒劑トシテ多ク使用セラル。而シテ、此制腐消毒ノ作用ハ、水溶液中ノ水銀、イオンノ數ニ正比例スルモノナリ。

大量ノ可溶性水銀鹽、タトヘバ昇汞ヲ內用シテ起ル急性胃腸炎ハ、局所ノ腐蝕ニ由ルモノトス。

不溶解性ノ水銀劑、例ヘバ甘汞ハ、之ヲ內服スレバ、腸ニ至リテ其神經節ニ働キテ下痢ヲ起ス。此働ハ全ク局所作用ニシテ、甘汞ハ便通ト同時ニ排泄セラレ、吸收作用ヲ起スコト稀ナリ。

吸收作用 生體ニ吸收セラルベキ水銀ハ、蛋白樣質若クハ其他ノ含窒素物ト化合シテ、可溶性ノ形態ヲナシタルモノナラザルベカラズ、而シテ斯ノ如キ化合物ハ、其用ヒラレタル局所ニ於テ生成スルモノナルガ故ニ、若シ成

用水銀ノ吸收作



甘汞ノ吸收  
水銀軟膏ノ吸  
收

ルベク水銀ノ局所作用ヲ避ケントスルニハ、初メヨリシテ、其化合物ノ形態ヲナシタルモノヲ使用スルヲ可トス。  
既ニ重金屬ノ一般作用ノ條下ニ於テ記述シタル如ク、酸化水銀ハ蛋白樣質ニ對シテ、特異ノ親和性ヲ有スルヲ以テ、全ク不溶解性ノ水銀化合物ニテモ、尙ホ吸收セラレ、コトヲ得ベシ。故ニ甘汞ノ如キ不溶解性ノモノト雖、其少部分ハ胃中ニ於テ、蛋白質又ハ「ペプトー」ノ爲ニ溶解スルコトヲ得ベシ。其他皮下蜂窩織中ニ於テスラ、甘汞ノ溶解吸收セラレ、ヲ認メ得ベシ。  
水銀ハ、所謂灰白軟膏ノ形ヲ以テ、皮膚ニ塗擦スルトキニモ、亦其特有ノ作用ヲ呈ス。此場合ニ於テハ、水銀ハ一部ハ呼吸道ヨリ吸入セラレ、一部ハ皮膚自己ヨリ吸收セラレテ、血中ニ達スルモノニシテ、水銀ハ常溫ニ於テモ既ニ揮發スルモノナルニ、此場合ノ如ク非常ニ微細ニ分離セラレタル状態ニ於テハ、頗ル其揮發性ヲ増スヲ以テ、體溫ノ爲ニ揮發シテ呼吸器ヨリ吸入セラレ、且其微細トナレル水銀滴ハ、皮膚ノ深部即チ毛囊、汗腺及皮脂腺ノ導管内ニ壓入セラレ、玆ニ存スル脂肪酸ニ溶解シテ、漸次局部ヨリ吸收セラレ得ルモノトス。其他灰白軟膏ハ、其最モ新鮮ナルモノト雖、脂肪酸亞酸化汞ノ著明ナ

少量ノ水銀劑  
ハ榮養ヲ亢進  
ス

水銀中毒

汞毒性口腔炎

ル量ヲ含有シ、而シテ此化合物ハ溶解性ナルヲ以テ、能ク皮膚ヨリ吸收セラレ、モノトス。  
少量ノ水銀劑ヲ持續シテ用フルトキハ、赤血球ノ増加、體重ノ増加等、外觀上榮養ノ佳良トナルコトハ、臨牀上及動物試驗上確實ナル事實ナリ。是恐クハ砒素劑ト同ジク、僅量ナル毒物ノ、身體細胞ニ輕微ノ榮養刺戟ヲ與ヘ、同化ヲ亢進スル爲ナルベシ。但水銀劑ニ由リテ起ル物質交換ノ状態ハ、未ダ十分ナル研究ヲ經ズサレド窒素ノ排泄ハ増減ナキモノ、如シ。  
大量ノ水銀ノ中毒症狀トシテハ、先ヅ第一ニ消化器、殊ニ生理的ニ腐敗作用ノ行ハル、トコロノ口腔及大腸ヲ犯ス。是此部分ニハ、水銀ノ早ク分泌セラレ、爲ニシテ、分泌セラレタル水銀ノ集積スル組織、殊ニ粘膜ハ、中毒ノ爲ニ遂ニ壞死ヲ來スニ至ルベシ。人體ニ發スル水銀中毒中、最モ急性ナルモノハ胃加答兒、疝痛竝ニ單純ナル下痢若クハ出血性ノ赤痢樣下痢ヲ起シ、而シテ大腸粘膜ニ「チフテリ」性潰瘍ヲ生ズ。故ニ其症狀、赤痢ニ酷似ス。  
水銀劑ノ使用ニ際シテ特ニ屢、現ハル、ハ、口腔炎ニシテ、汞毒性口腔炎 *stomatitis mercurialis* ト稱ス。其主ナル症候ハ、金屬樣ノ味覺、流涎、齒齦ノ潮紅、腫脹



血行器障礙

及口腔ノ惡臭等ナリ。若シ斯ノ如キ症狀ヲ現シタルトキハ、クロール酸カリウム液ヲ以テ含嗽セシメ、且其水銀使用ヲ中止スルニ非ザレバ、發炎部ハ進ミテ潰瘍トナリ、尙ホ之ヲ等閑ニ附スルトキハ、其潰瘍ハ益々蔓延シテ、遂ニ齒牙ノ脱落、顎骨ノ壞死、唾液腺ノ腫脹ヲ招クニ至ルベシ。

腎臟ノ障礙

急性水銀中毒ノ最モ危險ナル障礙ハ、血行器ニ於ケル變化ナリトス。即チ主トシテ心臟麻痺ニ因スル血壓ノ沈降ヲ來シ、而シテ之ト同時ニ發スル血管ノ麻痺ノ爲ニ益々ソヲ増進スベシ。

糖尿

腎臟ハ、著明ナル障礙ヲ蒙ルモノニシテ、獨リ重症ノ中毒ニ於ケルノミナラズ、治療量ノ水銀ニ於テモ亦之ヲ起スコトアリ。注意ヲ要ス。即チ水銀ノ腎臟ヨリ排泄セラル、ニ當リテ、腎臟絲球及尿管ノ上皮細胞ハ、劇烈ナル刺激ヲ受ケテ壞死シ、急性腎臟炎ノ如ク、蛋白尿、血尿、尿管ヲ排泄シ、甚シキハ無尿ニ陥ルコトアリ。而シテ壞死セル尿管上皮細胞ニハ、屢々、磷酸石灰及炭酸石灰ノ沈著スルヲ見ル。

利尿作用

皮膚ノ障礙

脂肪變性

水銀ノ慢性中毒

汞毒震顫

汞毒過敏症

慢性中毒ノ他ノ症狀

水銀ノ排泄

水銀劑殊ニ甘末又ハ亞ブローム水銀ノ少量ヲ内服スルトキハ、腸液ノ分泌ヲ亢盛シ、血液濃厚トナリ、組織ニ水腫アル際ニハ、特ニ組織液ノ血中吸收ヲ起シ、之ガ爲ニ利尿ヲ増ス。此尿量増加ハ下痢ノ起ラザルトキニ殊ニ著シ。其他水銀ノ急性中毒ノ際、皮膚ニ蕁麻疹、濕疹及其他ノ疹ヲ發スルコトアリ。又急性中毒經過後、諸臟器ノ脂肪變性ヲ續發スルコト尠カラズ。

人體ニ於ケル水銀ノ慢性中毒ニ當リテハ、中樞神經系ニ關スル諸症狀群起ス。其中主ナルモノハ汞毒性震顫 Tremor mercurialis ニシテ、甚シキハ個々ノ手足ニ痙攣様ノ運動ヲ發スルコトアリ。甚ダ特異ナルハ、汞毒性過敏症 Tretthismus mercurialis ト稱スル精神ノ變調ニシテ、平素ハ沈鬱ノ状態ニアリテ、屢々、僅微ノ情緒ニ由リテ、精神ノ發揚ヲ喚起シ、且之ト同時ニ幻覺、不眠、頭痛、呼吸困難、心悸亢進等ヲ伴フモノナリ。其他尙ホ神經症狀トシテ、汎發性若クハ體ノ各部ニ限局セル疼痛、即チ關節、顔面、齒牙等ニ疼痛ヲ發スルコトアリ。

其他慢性中毒ニ由リテ、諸臟器ノ脂肪變性、糖尿病及所謂汞毒性惡液質 Chyemia mercurialis 等ヲ起スコトアリ。

一度吸收セラレタル水銀ハ、一部分ハ尿中ニ混ジテ排泄セラレ、大部分ハ腸



粘膜ヨリ排泄セラレ。

### 醫治效用

水銀劑ハ、防腐劑及腐蝕劑トシテ普ク使用セラレ、殊ニ殺菌劑トシテ汎ク應用セラレ、昇汞ハ其一萬倍乃至三十萬倍ノ濃度ニテ、既ニ微菌ノ繁殖ヲ抑制シ得ベク、其千倍乃至五千倍ノ溶液ハ、短時間内ニ微菌若クハ其芽胞ヲ滅殺スルコトヲ得ベシ。

水銀劑ハ、吸收作用ニ由リテ、新陳代謝及榮養ノ状態ヲ變化セシムル目的ヲ以テ、實地上ニ適用セラレ、而シテ微毒、殊ニ其第二期ニ於テ現ル、局所疾患、即チ扁平「コンヂローム」、竝ニ皮膚及粘膜ニ於ケル諸種ノ微毒性疾患ニハ、水銀劑ハ最モ偉效アリ、但其水銀劑ハ、如何ナル作用ニ由リテ微毒ヲ治癒セシムルカト云フニ、新陳代謝機ノ上ニ作用シテ、其局所疾患ヲ除去スル外、「スビロヘーテ」バルリダ「ニ對シテ直接撲滅ノ作用ヲ有スルコト、彼ノ「キニ」子ノ「マラリア」病原ニ對スル如キモノアルトニ由ル。

其他水銀ハ、所謂消炎劑トナシ、主ニ灰白軟膏トシテ塗擦スル方法ニ依リテ、漿膜、腺及皮下蜂窩織ノ炎症ニ用フ。

水銀劑ノ微毒ニ對スル作用

消炎劑トシテノ應用

眼病ニ於ケル甘汞ノ應用

其禁忌

下痢トシテ甘汞ノ應用

甘汞ヲ利尿劑トシテ用フル場合及其禁忌

水銀劑ノ皮下注射

蒸氣甘汞 Dampfkalomel 或ハ沈降製甘汞 Gefälltes Kalomel ハ、角膜滲濁ニ刺戟劑トシテ撒布シ、膿漏眼ニ消毒劑トシテ撒布ス、サレド、「ヨード」カリウム「療法ヲ施セル患者ニハ、之ヲ禁忌セザルベカラズ、ソハ涙液中ニ移行シタル「ヨード」カリウムト甘汞ト相觸ル、トキハ、腐蝕性ノ「ヨード」汞ヲ成生シ、角膜ヲ腐蝕シテ失明セシムル恐アレバナリ。

通常ノ甘汞ヲ内用スレバ、別ニ腹痛、腸粘膜ノ炎症刺戟等ヲ起サズシテ、腸蠕動ヲ亢進セシメ、輕度ノ下痢ヲ起ス、而シテ腸内ニ存スル病原的生體ニ對シテハ、殺菌作用ヲ及ボスコト少ナキヲ以テ、「コレラ」「チフス」、赤痢等ニ之ヲ用フルモ、直接ノ效果ヲ望ムコトヲ得ズト雖能ク腸内ノ異常發酵ヲ制スルコトヲ得ベシ、故ニ異常發酵ニ因スル小兒ノ下痢ニハ、甘汞ヲ用フレバ却テ止瀉ノ效ヲ奏ス。

其他甘汞ハ、近來再ビ心臟若クハ肝臟障礙ニ因スル水腫ニ、利尿劑トシテ用ヒラル、ニ至リタレドモ、腎臟病ニ續發セル水腫ニハ、甘汞ノ吸收セラレテ之ヲ刺戟シ、疾病ヲ増悪スルヲ以テ禁忌セザルベカラズ。

微毒患者ノ皮下注入用トシテハ、酸化水銀ノ含窒素有機化合物、タトヘバ「ア



汞劑ノ皮下注射  
ハ腎臟炎ヲ起  
スベシト注意  
スベシ

昇汞液ヲ用フ  
ル場合ノ注意

ミード體アミド酸及ペプトントノ化合物ヲ以テ適當ナリトス。此化合物ヲ製スルニハ、昇汞溶液ニ加フルニ是等ノ含窒素化合物ヲ以テシ、然ル後ニ炭酸ナトリウムヲ以テ之ヲ中和スルヲ要ス。但斯ノ如キ化合物ハ、腐蝕性ナシト雖、尙ホ組織ノ中毒ヲ來スヲ以テ、局所作用ヲ發スルコトヲ免レズ。其他水銀化合物ノ皮下注射ニ當リテ顧慮セザルベカラザルハ、往々腎臟疾患ヲ誘起スル場合アルコトナリ。

灰白軟膏ハ、塗擦療法トシテ供用セラル、モノニシテ、成ルベク消化器ニ起ル障礙ヲ避ケントスルトキ、若クハ皮下注入ニテハ、腎臟病ヲ喚起スル恐アルトキニ用ヒラル。

昇汞ハ、繃帶材料、手術器械等ヲ消毒スルニハ、最も有效ナレドモ、之ヲ創面若クハ粘膜上ニ用フルトキハ、其部ニ存スル蛋白質ト化合シテ、蛋白化水銀ヲ生ジ、微菌ニ對スル消毒作用ヲ失フベシ。而シテ又其腐蝕作用ニ由リテ、創面ノ分泌ヲ増進シ、尙ホ屢々使用スルトキハ、健康ナル表皮ニモ濕疹ヲ生ジ、且本來猛烈ノ毒性アルヲ以テ、十分注意シテ使用スルニ非ザレバ、中毒ヲ起スニ至ルコトアルベシ。殊ニ漿膜腔竝ニ産褥時ノ子宮ヲ洗滌スル爲ニ昇汞液ヲ

昇汞ト食鹽又  
ハ礬砂トノ複  
合物

用フルハ、最も危險ナリトス。加之外皮上ニ昇汞繃帶ヲ施スニ當リテモ、若シ浸漬作用ニ依リテ皮膚ノ滲透性ヲ得ルニ至リタルトキハ、致死ノ中毒ヲ起スニ至ルベシ。

昇汞ニ食鹽若クハ礬砂ヲ加フルトキハ、一種ノ複化合物  $2\text{HgCl}_2 \cdot \text{Hg}_2\text{Cl}_2$  又ハ  $\text{Hg}_2\text{Cl}_2 \cdot \text{HgCl}_2$  ヲ生ジ、此複化合物ハ水ニ溶解シ易ク、併モ蛋白ニ對シテハ殆ド作用ヲ呈セズ。其他單純ナル昇汞ノ水溶液ハ、容易ニ分解スレドモ、此複鹽ノ水溶液ハ、能ク久シキニ耐フルノ長所アリ。サレド水銀イオン減少ノ爲ニ、其消毒力ハ單純昇汞溶液ニ及バズ。故ニ器物、家屋等ノ消毒ニハ、單純ナル昇汞水ヲ用フルヲ可トス。

其他昇汞溶液ハ、腐蝕劑トシテ皮膚ノ夏日斑ノ場合ニ、次第ニ其部分ヲ剝皮セシムル爲ニ用ヒ、或ハ微毒性潰瘍ノ療法トシテ用フ。

皮膚ノ寄生蟲、殊ニ毛虱ヲ驅除スル爲ニ、水銀劑ヲ使用ス。之ニ用ヒラル、ハ、灰白軟膏又ハ甘汞ナリ。

凡テ水銀劑ヲ用フルニ際シテハ、内用ハ勿論、外用ト雖、其中毒ニ注意シ、口腔ヲ清潔ニ保チ、殊ニクロール酸、カリウムノ含嗽ヲナサシメ、以テ汞毒性口腔



炎ヲ豫防スベシ。

名稱、製劑、用量、極量及處方

水銀

水銀 Hydrargyrum. Quecksilber.

灰白軟膏ノ調劑ニ供ス。

水銀軟膏  
(灰白軟膏)

水銀軟膏(灰白軟膏) Unguentum Hydrargyri  
cinereum. (Graue Quecksilbersalbe.)

日本藥局方ニ從ヘバ、水銀三十分、豚脂十八分、牛脂四十二分ヨリ成ル。  
用量、塗擦療法ニハ、一日二〇乃至五〇ナリ。

(處方例)

灰白軟膏 二〇

右蠟紙一包量トシ、二十包ヲ與ヘ、一日一包宛、左右上腿、下腿、上膊及胸部、腹部ニ交番ニ塗擦シ、其翌日入浴シ、更ニ此順序ニテ塗擦ヲ反覆スベシ(微毒患者)

甘汞

甘汞(亞<sup>ク</sup>ロー<sup>ル</sup>汞) HgCl<sub>2</sub>, Hydrargyrum chloratum.

Quecksilberchlorür. (Kalomel.)

昇華法ニ依リテ製シタルモノニシテ、帶黃白色ノ重キ粉末ナリ。氣中ニ於テ變化セズ。水、酒精及「エーテル」ニ溶解セズ。用量一日二三回、大人ニハ〇・一乃至〇・五、小兒ニハ〇・〇一乃至〇・〇五ヲ散藥トナシ、下劑トシテ使用シ、又異常酸酵ニハ、之ヲ止瀉劑トス。之ヲ用ヒタル場合ニハ、同時ニ「アルカリ」若クハ「ヨードカリウム」<sup>ブ</sup>「プロームカリウム」ヲ用フルコトヲ避クベシ。

(處方例)

甘汞 〇・二 乳糖 五〇

右分十包ノ散劑トナシ、毎三時ニ一包ヲ與フ(小兒下痢)

蒸氣製甘汞 Hydrargyrum chloratum vapore

paratum. (Dampfkalomel.)

甘汞ノ蒸氣ヲ、急ニ冷却シテ得タル粉末ニシテ、近來微毒療法トシテ此藥

蒸氣製甘汞

甘汞 蒸氣製甘汞



物一分ヲ十分ノ油類ニ混ジ、プラワツ注射器ヲ以テ、其二筒(二立方センチメートル)ヲ、皮下若クハ筋質内ニ注入シ、八日乃至十四日毎ニ之ヲ反覆使用セリ。

昇汞(過クロール汞)  $HgCl_2$  Hydrargyrum bichloratum. (Sublimat, Quecksilber chlorid.)

十六分ノ水、三分ノ酒精若クハ四分ノ「エーテル」ニ溶解スル白色透映ノ重キ放線狀ノ結晶塊片、若クハ鍼狀結晶乃至白色結晶性ノ粉末ナリ。消毒劑トシテハ、五百倍乃至一萬倍ノ水溶液、腐蝕劑トシテハ一乃至三「プロセント」ノ溶液ヲ用フ。微毒患者ニ丸劑トシテ内用セシムルコトアルモ、腐蝕性強キヲ以テ不適當ナリ。蛋白質及其他ノ含窒素物ト複合セシメ、驅微療法トシテ、皮下又ハ筋肉内ニ注射ス。用量一回〇・〇〇五乃至〇・〇一、極量日本藥局方一回〇・〇二、一日〇・〇六。

(處方例)

昇汞〇・一 「アスバラギン」〇・五

右炭酸曹達液ニテ中和シテ、弱アルカリ性トナシ、全量ヲ一〇・〇トシ、一日一筒(一〇)背部及臀部筋肉内ニ注射スベシ(微毒患者)

昇汞錠 Pastilli Hydrargyri bichlorati.

日本藥局方ニ據レバ、同量ノ昇汞及食鹽ヨリ成リ、赤色ノ「テール」色素ニテ著色セラル。昇汞水ヲ製スルニ便ナリ、其一個ノ量ハ一瓦ニシテ、即チ〇・五ノ昇汞ヲ含有ス。

赤色「ヨード」汞(過「ヨード」汞) Hydrargyrum bijodaturn.

「ヨードカリウム」ヲ昇汞溶液ニ加ヘテ沈澱セシメタル猩紅色ノ粉末ニシテ、水ニハ殆ド溶解セズ、百三十分ノ酒精ニ溶解ス。極量、日本藥局方一回〇・〇二、一日〇・〇六。往時ハ微毒療法ニ内用トシテ、稱用セシモ、今ハ廢セラレ、唯外用ニ供スルノミ。



赤色酸化汞  
(赤降汞)

赤色酸化汞(赤降汞) Hydrargyrum oxydatum  
rubrum.

橙黄色ノ結晶性粉末ニシテ、極量、日本藥局方一回〇・〇二、一日〇・〇六、内用ニハ供セラレズ、外用ニハ軟膏トシテ、微毒潰瘍ニ塗布ス。

黄色酸化汞  
(黄降汞)

黄色酸化汞(黄降汞) Hydrargyrum oxidatum  
flavum.

昇汞ニ、ナトロン、滴液ヲ加ヘテ沈澱セシメテ製ス、極量ハ赤色酸化汞ニ同ジ、主ニ外用、殊ニ眼科ニ用ヒ、三十倍ノ軟膏トシテ、角膜溷濁ヲ吸收セシムル效アリ。

赤降汞軟膏

赤降汞軟膏 Unguentum Hydrargyri rubrum.

日本藥局方ニ據レバ、極テ微細ニ研磨シタル赤降汞一分ト、ツゼリン九分トヲ研和シテ製ス。

白降汞

白降汞 Hydrargyrum praecipitatum album.

日本藥局方ニ據レバ、昇汞十分ヲ、溫蒸餾水二百分ニ溶解シ、冷後其濾液ニ「アムモニア」水ヲ加ヘテ沈澱セシメテ製ス、白色無晶形ノ粉末ニシテ、水及酒精ニハ殆ド全ク溶解セズ、收斂、腐蝕ノ效アリ、外用ニ供ス。

白降汞軟膏

白降汞軟膏 Unguentum Hydrargyri album.

日本藥局方ニ據レバ、白降汞一分ニ、ツゼリン九分ヲ加ヘ、研和シテ製ス。

「サリツイー  
ル」酸汞

「サリツイー」ル酸汞 Hydrargyrum Salicylicum.

白色、無臭、無味、中性ノ無結晶形粉末ニシテ、水及酒精ニハ殆ド溶解セズ、ナトロン、滴液、及炭酸、ナトリウム、水ニハ、常溫ニテ溶解ス、極量、日本藥局方一回〇・〇二、一日〇・〇六ナリ、微毒患者ニ筋肉内注射又ハ内用ス、其筋肉内注射ニハ、流動「バラフィン」又ハ「オレーフ」油ヲ以テ振盪合劑トシ、多クハ極量以上ヲ用フ、是此合劑ノ極テ緩慢ニ吸收セラル、爲ナリ。



膠様水銀

(處方例)

「サリツィール」酸汞〇・一 (!) 流動「バラフィン」1.0  
右振盪合劑トシテ臀部筋肉内ニ注射ス、毎週一回(驅微療法)

膠様水銀 Hydrargyrum colloidal. (Hyrgol.)

膠様水銀又ハ可溶性水銀ト稱シ、金屬水銀ノ一種ノ變形ニシテ、水ニ溶解シ得ベシ。サレド此溶解ハ眞ノ溶解ニアラズシテ、水銀ハ極テ微細分子ニ分レテ、水中ニ浮游セルモノナルガ故ニ、吸收セラレ易キハ勿論ナレドモ、膠様水銀ノ特別ニ良好ナル效力アリト云フコトハ、之ヲ信ズルヲ得ズ。

「メルコリン」 Merciolint.

九、十「プロセント」ノ水銀ヲ含有スル軟膏ヲ、浸潤セシメタル木綿織物ニシテ、十「グラム」ノ水銀量ヲ含有スル布片ヲ、胸部ニ吊シ置クトキハ、水銀ハ體温ニテ漸次蒸散シ、呼吸道ヨリ血中ニ吸收セラルベシ。驅微療法ニ用ヒラル。

「メルコリン」

「メルクリオール」

「メルクリオール」 Mercuriol.

「アルミニウム」及「マグネシウム」ト水銀ノ「アマルガム」トニ、白堊ヲ混ジタルモノニシテ四十「プロセント」ノ水銀ヲ含有ス。「フラチル」ノ如キ布片ニテ袋ヲ作り、其内面ニ撒布シテ胸部ニ吊スルコト「メルコリン」ニ同ジ。用量ハ一日四〇乃至五〇ナリトス。

第一二 鐵屬

Gruppe des Eisens.

鐵ハ赤血球及筋質ニ存スル「ヘモグロビン」ノ重要ナル成分ニシテ、大人全身中ノ含量ハ、僅ニ三「グラム」ヲ超ユルニ過ギズト雖生理上不可缺ノ物質ニシテ一種ノ榮養品ト看做スベキモノナルコトハ勿論、近來諸種ノ實驗ノ結果ニ依レバ、凡テノ生體即チ動植物共ニ其生活機能ヲ營ムニハ、鐵ノ存在ヲ要シ、鐵ハ即觸媒「Catalysator」トシテ働クモノニシテ、若シ全ク鐵ヲ除クトキハ、其生活ヲ失フベシ。從テ鐵ハ大ニ他ノ金屬ト異リタル特殊ノ地位ヲ、生物學

鐵屬

「メルクリオール」 鐵屬



上ニ占ムルモノトス。サレド其一般藥理的「イオーン」作用ハ、他ノ重金屬ト大ニ符合セリ。

### 生理的作用

**局所作用** 鐵「イオーン」ノ局所ニ於ケル作用ハ、他ノ金屬ト全ク相一致セリ。而シテ鐵鹽類ハ、組織ヲ構成セル蛋白及他ノ成分ト化合シテ、溶解シ難キ化合物ヲ形成スル機能アルヲ以テ、其濃度ニ應ジテ、或ハ收斂作用ヲ呈シ、或ハ腐蝕ニ兼テ防腐作用ヲ呈ス。尙ホ詳細ハ重金屬一般ノ局所作用（二百五十七頁）ニ就テ見ルベシ。

**吸收作用** 鐵鹽ハ、他ノ多クノ金屬ニ於ケル如ク、唯皮下若クハ靜脈内注入ノ際ニノミ、中毒作用ヲ起スモノニシテ、此場合ニハ、蛋白ヲ凝固セザル製劑、即チ酒石酸鐵「ナトリウム」ノ如キ複鹽ヲ選用スルヲ要ス。此方法ニ依リテ適用セラレタル鐵ハ、先ヅ肝臟内ニ抑留セラレ、漸次ニ、其小部分ハ腎臟ヨリ、大部分ハ腸粘膜ヨリ排泄セラル、モノナレドモ、肝臟内ニ沈著スルコト久シキガ故ニ、其排泄作用ハ甚ダ緩徐ナリトス。而シテ鐵ハ、動物體ニ於ケル常規成分ナルニ拘ラズ、「イオーン」形ヲ有スル鐵ハ、顯著ノ毒性ヲ有スルモノニシ

收斂及腐蝕作用

吸收作用

鐵ノ排泄

鐵ノ中毒作用

腸管ヨリスル鐵ノ吸收

人體ニ存スル鐵ハ「イオーン」形ヲ有セズ

テ、靜脈内若クハ皮下注入法ニ由リテ試験スルニ、犬ノ體重一「キログラム」毎ニ、一乃至二「ミリグラム」ノ量ヲ用フルモ、既ニ中毒症狀ヲ發シ、二十乃至五十「ミリグラム」ニ至レバ、之ヲ殺スニ足ル。臨牀上ニモ、往時貧血ニ鐵劑ノ皮下注射ヲ試ミタル爲ニ、中毒ヲ發シタルコトアリ。鐵ノ中毒ニ由リテ起ル症狀ハ、嘔吐、單純性若クハ出血性下痢、中樞神經系ノ麻痺及腎臟實質炎等ニシテ、血壓ハ未ダ腸症狀ノ顯ハレザルニ先チテ、既ニ甚シク沈降セルヲ認ムベシ。鐵劑ヲ數週間持續シテ内服セシメ、若クハ初メヨリ一度ニ大量ヲ與フルモ、尙ホ消化器粘膜ヲ甚シク腐蝕スルニ至ラザルトキハ、是等ノ中毒症狀ヲ現ハササルニ由リテ觀レバ、腸管ヨリ吸收セラル、鐵量ハ僅少ニシテ、決シテ中毒作用ヲ來スニ足ル程ノ大量ニ達セザルコトヲ知ルニ足ル。而シテ鐵ヲ含有スル諸種ノ藥物ヲ内用シテ、鐵劑ノ吸收セラル、ハ、主ニ十二指腸ニシテ、其上皮細胞ノ作用ナルコトハ、顯微鏡下ニ於テ、化學的ニ之ヲ證明シ得ベシ。

**營養品トシテノ鐵** 人體内ニ存スル鐵ハ、鐵「イオーン」作用ト全ク異リ、蛋白質ト一種ノ複合物ヲ爲セルモノニシテ、其主ナルモノヲ、赤血球中ノ「ヘモグロビン」トス。ヘモグロビン以外ニ於テモ、生體ノ原形質ハ、鐵ヲ含有セザ



ルモノナク、其存在ハ生活機能ニ缺クベカラザルガ如シ。斯ノ如ク、鐵ハ動植物共ニ必ズ含有スルモノナルガ故ニ、吾人人類モ亦平素食物ヨリシテ、鐵ノ必要ナル量ヲ攝取スルモノトス。而シテ鐵ハ比較的少量ニ蓄積シ、急性出血等ノ場合ニ、赤血球ヲ新造スベキ材料トシテ豫メ備ヘラル、モノトス。肝臟中ノ鐵ハ、蛋白質ト合シテ複合物トナリテ存ス。

鳥卵中、殊ニ其卵黃中ニハ、鈔カラザル鐵ヲ含有ス。此鐵ハ即チ雛鳥ノ血液及其他ノ臟器ヲ構成スルニ必要ナルモノトス。卵黃中ノ鐵モ、亦蛋白質複合物トシテ存在スルモノナリ。

鐵ト蛋白質トノ複合物ハ、腸内ニ於テ、比較的容易ニ吸收セラレ、且其含有スル鐵ハ、イオン形ニ於テ存在セズシテ、所謂假面形 Maskite Form ナルガ故ニ、前ニ述べタル如キ鐵イオンノ中毒作用ヲ呈セザルコト勿論ナリトス。

通常ノ鐵鹽類ハ、消化器ヨリハ唯少量ノミ吸收セラレ、中毒症狀ヲ起スニ至ラザルコト前ニ述べタル如シ。此吸收セラレタル鐵ハ、其大部分ハ腎臟及腸粘膜ヨリ排泄セララル、モ、一部分ハ體中ニ同化セラレテ、蛋白質複合物トナリ、赤血球新造ノ用ニ供セラレ得ルモノトス。此事ハ動物試驗及臨牀實驗ニ由

通常鐵鹽類ノ吸收

及其同化

リテ證明シ得ベシ

ヘモグロビン及ヘマチンハ、有機性鐵化合物ナルモ、腸管内ニテハ、殆ド吸收セララル、コトナシ。

### 醫治效用

鐵劑ノ止血作用  
外用

胃出血ニ内用  
ス。腸出血ニ  
ハ内用スルモ  
僅ニ效アルカ  
或ハ無効ナリ

鐵ノ鹽類ハ、他ノ重金屬化合物ノ如ク、局所ニ用ヒテ止血ノ效アリ、就中過クロール鐵ハ、其作用最モ強烈ニシテ、殊ニ血管ノ結紮ヲ企テ得ザル表在性出血ニ、溶液トシテ用フルニ適ス。過クロール鐵ノ止血作用ハ、不溶性ノ蛋白質鐵ヲ形成スルト、遊離セル鹽酸ノ血液ヲ凝固セシムル性アルトノ爲ナリ。

此藥物ハ胃出血ニ、内用スレバ效ヲ奏スレドモ、腸殊ニ其終末部ニ於ケル出血ニハ、效力ナシ。ソハ過クロール鐵ハ、腸内ニ於テハ、容易ニ蛋白質化鐵及硫化鐵ニ變化シ、全ク止血ノ作用ヲ失ヘバナリ。

子宮出血、咯血等ニ、鐵劑ヲ内用スルモ、止血ノ效ナキノミナラズ、却テ害アリ。水酸化鐵ハ、亞砒酸、砒酸及其化合物ト化合シテ、溶解シ難キ鹽類ヲ形成スルガ故ニ、急性砒石中毒ニテ、砒石ノ尙ホ消化管内ニ存スル際ニ、之ヲ使用スルトキハ、砒石ヲ不溶解性ノ亞砒酸鐵ニ變ジテ吸收シ難カラシムルコト

砒石解毒劑

鐵屬 醫治效用

三〇一



生理的ニ生體  
内ニ存スル鐵  
ト食物中ニ含  
マル、鐵トノ  
關係

出血後等ニ起  
ル貧血ニ對ス  
ル鐵劑ノ效用

ヲ得ルヲ以テ、解毒ノ效ヲ奏スベシ。  
吾人ノ日常攝取スル食物中ニ存スル鐵ノ量ハ、十分吾人ノ體內ニ於テ、必要ナル量ヲ供給スルニ足ルト云フコトハ、明白ナル事實ニシテ、成人ノ全身中ニ含有セラル、鐵ノ量ハ、殆ド三、グラムニシテ、日々排泄セラル、量ハ、僅ニ〇・〇一五乃至〇・〇二ニ過ギズ、而シテ日々食物ト共ニ攝取セラル、鐵量ハ、〇・〇五乃至〇・一ナルヲ以テ、此量ハ始終排泄セラル、鐵量ヲ償ヒ得テ餘リアルノミナラズ、強壯ナル者ニ於テハ、甚シキ出血後ノ急性貧血ト雖、特ニ鐵劑ヲ服用セシムルニ及バズシテ、復舊スルコト敢テ難キニアラズ、サレド是等ノ場合及急性熱性病ノ持續後ニ起ル慢性貧血ニ、鐵劑ヲ用フルトキハ、速ニ貧血ヲ治スルコトヲ得ベシ、即チ是等ノ場合ニ於テハ、造血臟器ナル骨髓ハ、完全ナル働ヲ有シテ、一時ニ多量ノヘモグロビンヲ産出スルヲ以テ、鐵ノ需用ヲ増加シ、從テ吸收セラルベキ鐵劑ヲ與フレバ、貧血ノ恢復ヲ促シ得ベク、此場合ニハ鐵ハ即チ榮養品トシテ働クモノトス。  
之ニ反シテ、婦人ノ春期發動期ニ多ク發スルトコロノ萎黃病<sup>chlorosis</sup>ニアリテハ、鐵ハ常人ト同様ニ食物ヨリ攝取シ、其供給毫モ減ゼザルニ拘ラズ、貧血ヲ來ス

萎黃病ニ對シ  
テハ鐵劑ハ榮  
養品ニアラズ  
シテ藥物ナリ

惡性貧血及白  
血病  
腸寄生蟲ニ因  
スル貧血

結核患者ノ貧  
血  
咯血アルモノ  
ニハ鐵劑ヲ禁  
ズ

モノニシテ、其原因尙ホ不明ナレドモ、血液産出ノ材料、即チ蛋白質及鐵ノ不足ノ爲ニアラズシテ、血液産出ノ機能ニ障礙ヲ生ジタル爲ナルコト明カナリ、故ニ此疾病ニ對シテハ、少量ノ鐵ヲ内用スルモ、出血後ノ貧血ニ於ケル如キ效ナキコト明ナリ、サレド此患者ニ過量ノ鐵劑ヲ内用シテ、之ヲ吸收セシムルトキ、或ハ少量ヲ皮下ニ注射スルトキハ、一般生活機殊ニ造血臟器即チ骨髓ハ、鐵ノ爲ニ一種ノ刺激ヲ受ケ、其機能ノ亢進ニ由リテ、萎黃病ヲ治セシメ得ルハ、臨牀上實驗スルトコロニシテ、鐵ハ萎黃病ニ對シテ特效藥ナリトサヘ云ハル、程ナリ、而シテ此場合ニハ鐵ハ藥物トシテ働クモノトス。  
惡性貧血、白血病等ニモ、大量ノ鐵劑ハ、幾分カ造血機能ヲ亢進スト雖、萎黃病ニ於ケル如ク、之ニ由リテ貧血ヲ治スルコトヲ得ズ。  
十二指腸蟲病、裂頭織蟲病ニ因スル貧血ハ、是等寄生蟲ノ驅除ト共ニ、鐵劑ヲ投與スレバ、其恢復ヲ速ニスルコトヲ得ベシ。  
鐵劑ハ、又結核患者ノ貧血ニ用ヒラル、サレド次ニ述ブル如キ鐵劑與奮ヲ起スコトアルヲ以テ、咯血セル患者及咯血ノ恐アル患者ニハ用フベカラズ、然ラザレバ咯血ヲ促ス虞アルベシ。



鐵劑服用時ノ  
副作用

鐵劑ノ内用ニ當リテ、種々ノ障礙ヲ起シ易キハ、吾人ノ經驗スルトコロナリ。胃ノ壓感、食慾缺損、便通不調等ハ、屢之ヲ發ス。是等ハ鐵劑ノ局所作用ニ歸スベキコト勿論ナリ。故ニ之ヲ避ケントスルニハ、食事中若クハ食後少時ヲ經テ鐵ヲ服用スルカ、或ハ蛋白質ヲ凝固セザル製劑ヲ選用スルヲ可トス。又鐵ノ不快ナル副作用ヲ匡正スル爲ニ、香料、アルコホル、苦味劑、鹽酸等ヲ添加スルコトアリ。所謂鐵興奮 Eisenaufregung ハ、體温ノ昇騰(一度内外)脈搏増加、血壓亢進、頭部ノ充血、呼吸困難ノ發作、衄血、咯血等ノ粘膜ノ出血等ヲ起ス。是等ハ稀ニ現ル、症狀ニシテ、其原因明カナラザレドモ、臨牀上實驗スルトコロナレバ、醫家タルモノ鐵劑ヲ用フルニ當リテ、豫メ注意スベシ。

**品名、製劑、性狀、用量、極量及處方**

過「クロール」  
鐵液

過「クロール」鐵液 Liquor Ferri sesquichlorati.

日本藥局方ニ據レバ、過「クロール」鐵ヲ取り、大約等分ノ蒸餾水ニ溶解シテ製シタルモノニシテ、其比重一・二八乃至一・二八二ヲ有ス。外用ニハ止血ノ目的ニテ、三十倍乃至五百倍ニ稀釋シテ用ヒ、胃出血等ニハ、五乃至十滴ヲ

粘液劑ニ混ジテ内用セシム

過「クロール」  
鐵

過「クロール」鐵 Ferrum sesquichloratum.

類褐色或ハ橙黄色ノ結晶塊ニシテ、甚ダ濕氣ヲ引キ易シ。

「ヨード」鐵含  
利別

「ヨード」鐵含利別 Sirupus Ferri jodati.

日本藥局方ニ據レバ、五「プロセント」ノ「ヨード」鐵 FeJ<sub>2</sub>ヲ含有ス。以前ハ小兒ノ貧血性瘰癧ニ、一回二三瓦宛内用セシメタレド、今ハ多ク用ヒズ。

硫酸鐵

硫酸鐵 Ferrum sulfuricum.

硫酸鐵ハ、炭酸「カリウム」煖製「マグネシア」、白糖及「グリセリン」ニ配シテ、プロ「ド」丸劑ヲ製スルニ用フ。用量〇・〇五乃至〇・二。

過硫酸鐵液 Liquor Ferri sulfurici oxydati.

日本藥局方ニ據レバ、硫酸鐵八十分、硫酸十五分、硝酸十二分、水四十分ヲ混

過硫酸鐵液



ジテ之ヲ熱シ、硝酸ノ臭氣ヲ感ゼザルニ至リ、更ニ水ヲ加ヘテ百六十分トナス。其百分中ニハ三十六分ノ過硫酸鐵  $Fe_2(SO_8)$  即チ十分ノ鐵ヲ含有ス。

(處方例)

過硫酸鐵液 一〇〇〇 餾水 二五〇〇

右混和(第一液)

煨製「マグネシア」一五〇 餾水 二五〇〇

右振盪合劑(第二液)

第一及第二液ヲ用ニ臨ミテ混加シ、能ク振盪シテ、十分時毎ニ、一酒杯宛内用、急性砒石中毒ニ用フ。(所謂砒石解毒劑)

粗製硫酸鐵(綠礬) *Ferrum sulfuricum crudum.*

(Eisenvirriol.)

消毒防臭劑トシテ使用セラル。

鐵粉 *Ferrum Pulveratum.*

微シク鑛輝アル重キ灰白色ノ粉末ニシテ、胃液ニ溶解ス。其用量ハ〇・一乃至〇・五ナリ。

還元鐵 *Ferrum reductum.*

還元鐵ハ、極テ微細ナル鐵粉ニシテ、其一部分ハ酸性ノ胃液中ニ於テ溶解シ、鐵ノ鹽類ト同一ノ作用ヲ呈ス。用量〇・〇五乃至〇・三。

乳酸鐵 *Ferrum lacticum.*

日本藥局方ニ據レバ、小鍼狀ノ結晶ヨリ成レル帶綠白色ノ塊片若クハ結晶性ノ粉末ニシテ、五十分ノ水ニ溶解ス。用量〇・〇五乃至〇・三。

枸橼酸鐵 *Ferrum citricum oxydatum.*

透映赤褐色酸性ノ小葉片ニシテ、氣中ニテハ變化セズ、水ニハ徐々ニ溶解シ、熱湯ニハ容易ニ溶解ス。酒精ニハ溶解セズ。用量〇・一乃至〇・三。

還元鐵

乳酸鐵

枸橼酸鐵



枸橼酸鐵「アムモニウム」

枸橼酸鐵「アムモニウム」 Ferrum citricum ammoniatum.

透映赤褐色弱酸性ノ小葉片ニシテ、好ミテ濕氣ヲ引キ、水ニハ溶解シ易ク、酒精ニハ溶解セズ。用量〇・二乃至〇・五。

「エーテル」性鐵丁幾

「エーテル」性鐵丁幾 Tinctura Ferri aetherea.

日本藥局方ニ據レバ、過「クロール」鐵液一分、「エーテル」二分、酒精七分ヨリ製シ、百分中一分ノ鐵ヲ含有ス。用量十乃至四十滴。

林檎鐵丁幾

林檎鐵丁幾 Tinctura Ferri Pomati.

日本藥局方ニ據レバ、林檎鐵越幾斯一分、酒精二分、桂皮水七分ヨリ製ス。用量二十乃至五六十滴。

鐵糖

鐵糖 Ferrum oxydatum saccharatum.

過「クロール」鐵ニ、炭酸「ナトリウム」苛性「ナトロン」及白糖ヲ加ヘテ製シタルモノニシテ、「プロセント」ノ鐵ヲ含ム。用量一・五乃至三・〇。日本藥局方ニハ記載セラレズ。

「フェラチン」

「フェラチン」 Ferratinum, (Ferratin.)

水ニ溶解セズ、「アルカリ」ニハ溶解シ易キ褐色ノ粉末ニシテ、ソノ〇・五乃至一・〇ヲ、一日二三回散薬トシテ用フ。日本藥局方ニハ記載セラレズ。吸収セラレ易キ蛋白鐵ナルヲ以テ、貧血患者ニ稱用ス。

「フェラチン」  
「ナトリウム」

「フェラチン」  
「ナトリウム」 Natrium ferratini-cum, (Natrium-Ferratin.)

「フェラチン」ノ「ナトリウム」化合物ニシテ、水ニ溶解スベキ赤褐色ノ粉末ナリ。殊ニ乳汁ニ混和スルニ適セリ。用量其〇・五ヲ一日二三回用ヒ、小兒ニハ、〇・一乃至〇・五ヲ用フ。日本藥局方ニハ記載セラレズ。



蛋白化鐵液

蛋白化鐵液 Liquor Ferri albuminati.

日本藥局方ニ據レバ、褐色ノ強アルカリ性液ニシテ、〇・四「プロセント」ノ鐵ヲ含有ス。用量一〇〇乃至一五〇。食品中鐵含量ノ最モ多キモノハ、果實、獸肉、野菜及卵黃ナルヲ以テ、貧血患者ハ、是等ノ食品ヲ取ルヲ可トス。

「マンガン」

(附) 「マンガン」 Mangan.

「マンガン」ハ、化學及藥理學上鐵ト甚ダ近似ス。此鹽類ヲ皮下若クハ殊ニ靜脈内ニ注入スルトキハ、劇シキ毒性ヲ現ハシ、神經性障礙及腎臟炎ヲ起ス。其排泄ハ、小部分ハ腎臟ヨリシ、大部分ハ腸ヨリス。胃腸ヨリ吸收セラル、ハ、唯痕跡ニ過ギズ。鐵ニ類シテ、造血機能ヲ興奮スル作用アリ。貧血、惡液質等ニ用フ。其製劑トシテハ、炭酸「マンガン」、糖化「マンガン」、「ペプトン」化「マンガン」、蛋白化「マンガン」及鐵ト「マンガン」トノ合劑アリ。

第一三 銀屬

Gruppe des Silbers.

銀化合物ノ治療上ニ適用セラル、ハ、専ラ其局所作用ヲ以テ目的トス。往時ハ之ヲ内用シ、今日ニテモ亦用ヒザルニアラザレドモ、極テ稀ナリトス。

生理的作用

局所作用

局所作用 銀鹽類ハ、蛋白質又ハ蛋白樣質ニ觸ルレバ、不溶性性ノ蛋白化銀ヲ生ジ、組織液ニ觸ルレバ不溶性性ノ「コロイド」銀ヲ生ズルガ故ニ、腐蝕ハ極テ表在性ニシテ、所謂收斂ノ效ヲ奏スト云フコトハ、既ニ重金屬一般ノ作用ノ部ニ於テ之ヲ述ベタリ(本卷二百五十八頁)而シテ、強力ナル酸、即チ硝酸トノ化合物ナル硝酸銀ハ、蛋白質ト化合スレバ、硝酸ヲ遊離シ、之ガ爲ニ先ヅ組織ニ對シテ劇烈ナル表在性ノ腐蝕及破壊ヲ來シ、次デ強度ノ收斂作用ヲ起ス。故ニ表在性ノ慢性炎ニシテ、其部分ノ組織ハ既ニ變化シテ恢復ヲ望ミ難キ場合ニ之ヲ用フルトキハ、能ク其病的組織ヲ破壊脫離セシメ、而シテ殘餘ノ健康ナル組織ニ對シテハ、硝酸銀ハソヲ刺戟シテ榮養機能ヲ鼓舞セシ



銀鹽ハ其化學的作用ノ他ニ別ニ減菌ノ効アリ

吸收作用

メテ、其新生ヲ促スベク、又慢性炎症ニシテ組織ノ増殖アルトキハ、硝酸銀ハ之ヲ收斂シテ、其營養機能ヲ却テ緩和セシムベシ。枸橼酸銀即チ「イトロール」及乳酸銀即チ「アクトール」ノ如キ有機酸ノ銀鹽ハ、酸ノ爲ニ起ル局所腐蝕作用極テ僅微ニシテ、唯銀ノ收斂作用ノミヲ現ハス。

銀鹽ハ、右ニ述ベタル如キ單純ナル化學的作用ノ結果トシテ、腐蝕及收斂ノ效ヲ奏スルノミナラズ、蛋白質ト化合シタル後ニ於テモ、微菌ニ對シテ毒性ヲ有スルヲ以テ、能クソフ撲滅スルコトヲ得ベシ。現今諸種ノ有機銀化合物ヲ、炎症殊ニ痲毒性炎症ニ用フルハ、此理ニ原ヅクモノナリ。

**吸收作用** 銀化合物ヲ血管内ニ注入スルトキハ、主トシテ中樞神經系ノ痲痺ヲ來シ、其痲痺ハ體ノ後半ヨリ始マル。氣管枝粘膜ノ分泌ハ、甚シク増進シ、且時々痲痺ヲ發シ、遂ニ呼吸不全ノ爲ニ斃ル、ニ至ル。今試ニ次亞硫酸ナトリウム液中ニ、コロイド銀ヲ溶解シタルモノヲ取りテ、之ヲ家兔ノ血液ニ注入スルニ、其銀量〇・〇一ニテ、既ニ中樞ノ痲痺ニ由リテ呼吸絶止シ、血壓ハ、最初ハ血管神經中樞ノ興奮ノ爲ニ昂進スルモ、後ニハ其痲痺ノ爲ニ沈降シテ、數分時後ニ死ニ歸スベシ。

急性銀中毒

銀症

銀化合物ノ、胃腸ヨリ吸收セララル、ハ少量ニシテ、人體ニ於テハ、持續シテ硝酸銀ヲ用ヒ、一定量(大約三十グラム)以上ニ達スレバ、漸ク皮膚及内臟ニ微細ニ分離セラレタル銀沈著ヲ生ジ、其部ノ暗色ヲ呈スルヲ見ル。之ヲ銀症(Argyria)ト云フ。此銀沈著ハ、一旦之ヲ生ズレバ、消滅スルコトナキモ、健康ニハ直接ノ害ナシ。而シテ銀ハ胃ヨリ吸收セララル、コト甚ダ徐々ナルヲ以テ、人體ニ於テハ、此適用法ニ依リテ起レル銀症以外ノ中毒作用ヲ明カニスルコトヲ得ズ。サレド之ニ反シテ、動物ノ飼料中ニ次亞硫酸銀、ナトリウム及銀、ペプトンノ少量ヲ加ヘ、ソヲ久シク持續シテ與フルトキハ、其動物ノ後肢ニ痲痺ヲ來スヲ見ル。又此法ニ依リテ、家兔ニ銀化合物ヲ與フルトキハ、痲痺ヲ現ハシテ死シ、諸種ノ臟器ニ脂肪變性ヲ呈シ、腎臟ニハ上皮細胞ノ瀰濁、腫脹、脂肪變性、竝ニ甚シキハ壞死狀ノ變化ヲ呈スベシ。而シテ吸收セラレタル銀ノ尿中ニ排泄セララル、ヤ否ヤハ、未ダ定説ナシ。

銀化合物ヲ内用スルモ、其效力ノ顯著ナラザルハ、主トシテ其化合物ノ大部分ノ、消化管壁ヲ透過シタル後、直ニ不溶性ノ金屬銀或ハ銀化合物ニ還元シテ、組織ニ沈著スルニ因ルナリ。吸收セラレザル銀化合物ノ一部分ハ、既ニ



胃腸壁層ニ於テ還元シ、黒キ顆粒狀ヲナシテ、粘膜ノ上皮層下ニ沈著シ、汎ク消化管内ニ播布シタル銀沈著ヲ現ハス。

**醫治效用**

硝酸銀ノ應用  
收斂  
腐蝕

銀化合物ノ應用セラル、ハ、主トシテ局所作用ニアリ、〇・〇二乃至一・〇、プロセントノ硝酸銀溶液ハ、既ニ急性期ヲ經過シタル咽頭、喉頭、結膜、尿道、腔等ノ加答兒ニ、收斂ノ目的ヲ以テ使用セラル。其他胃加答兒、胃潰瘍及慢性下痢ニ、之ヲ内用スルコトアリ。

硝酸銀ハ、又腐蝕劑トシテ、疣、コンヂローム等ノ小新生物、潰瘍、肉芽發生竝ニ水蛭刺傷等ノ小出血等ニ用ヒラレ、且急性粘膜炎加答兒ノ頓挫療法トシテ用ヒラル。而シテ此目的ニハ、濃厚ナル溶液(少クモ一、プロセント)以上ヲ用ヒ、或ハ其適用セラル、場所ニ依リテハ、硝酸銀小桿トシテ用フルヲ便トスルコトアリ。但シ此小桿ヲ以テ、咽頭ノ塗擦ヲ企ツルトキ、誤テ其破片ヲ嚥下スル如キコトアラバ、直ニ多量ノ食鹽水ヲ飲用セシメテ、之ヲ解毒スルヲ要ス。硝酸銀ヲ内用シ、其吸收作用ヲ目的トシテ、諸種ノ神經疾患、特ニ脊髓癱、癩癩、進行性麻痺等ニ用フル者アレドモ、其效力ナキハ、生理的作用ニ由リテ明カ

銀ノ有機化合物  
ニ用フ

ナリトス。其他「イトロール」及膠様銀ヲ皮下注入法ニ依リ、或ハ軟膏トシテ、塗擦シテ、之ヲ吸收セシメ、敗血性疾患、産褥熱、膿毒症ノ、血中ノ微菌ヲ撲滅セント企テタルモノアレドモ、其效大ニ疑ハシ。「イトロール」<sup>「アクトール」</sup>「プロタルゴール」及其他諸種ノ有機銀化合物ハ、腐蝕ノ働ナク、殊ニ刺激性ナキヲ以テ、收斂、防腐ノ目的ニ稱用セラル。是等ノ物質ハ蛋白質ト化合シテ、沈澱スル性ナク、深ク組織内ニ侵入シテ、微菌ヲ撲滅スルヲ以テ、防腐劑トシテ、其效多シ。故ニ外科ニ於ケル創傷、防腐竝ニ治療、消炎ノ目的ニ用ヒラル。

**名稱、製劑、用量、極量及處方**

結晶硝酸銀 *Argentum nitricum crystallisatum.*

結晶硝酸銀

無色板狀ノ中性ノ結晶ニシテ、〇六分ノ水、十二分ノ酒精ニ溶解ス。用量一回〇・〇〇五乃至〇・〇三、一日〇・二以下トス。極量日本藥局方一回〇・〇三、一日〇・一ナリ。

**(處方例)**



硝酸銀〇・三 白陶土三・〇

右適宜ニ水ヲ加ヘテ三十九子トナシ、一回一粒一日三回空腹時ニ内用(慢性下痢)

溶性硝酸銀 *Argentum nitricum fusum.*

白色或ハ帶灰白色ノ小挺子ニシテ、其破折面ハ放線狀ノ結晶紋理ヲ現ハシ、熱スレバ熔融ス。極量ハ結晶硝酸銀ニ同ジ。

硝酸銀加硝石 *Argentum nitricum cum Kalio*

*nitrico. (Lapis mitigatus.)*

日本藥局方ニ據レバ、結晶硝酸銀一分、硝酸カリウム一分ヲ混和シ、注意シテ熔融シテ、挺子形ニ鑄成ス。

「プロテイン」銀 (「プロタルゴール」) *Argentum*

*proteinatium. (Protargolum.)*

硝酸銀加硝石

溶性硝酸銀

「プロテイン」銀  
「プロタルゴール」

日本藥局方ニ「プロテイン」銀ト記載セルハ、坊間ニ販賣セラル、所謂「プロタルゴール」ト同物ニシテ、八三「プロセント」ノ銀ヲ含ミ、銀ハ蛋白質ト固定性ノ化合物トナリテ存ス。水ニ溶解シ得ル鮮褐色ノ粉末ナリ。此物質ハ、蛋白質ト化合スル性ナキヲ以テ、毫モ刺激性ナシ。其〇・二五乃至一・五「プロセント」ノ溶液ヲ作り、持久注入用トシテ、殊ニ痲毒性尿道炎ニ稱用ス。

(處方例)

「プロタルゴール」一・〇 「グリセリン」〇・五 食鹽一六

餛水二〇〇・〇

右混和シ、黒繩ニ入レテ與フ。一日三回口授ノ如ク尿道ニ注射ス(急性尿道炎痲)

「イトロール」(枸橼酸銀) *Itrolum. (Citronensaures*

*Silber.)*

創傷療法ニハ、粉末トシテ撒布シ、又一乃至二「プロセント」ノ軟膏ヲ用ヒ、尿道痲ニハ、四千倍乃至一萬倍ノ水溶液ヲ用フ。

「イトロール」

「イトロール」



「アクトール」

「アクトール」(乳酸銀) Actolum. (Milchsäures Silber.)

用法「イトロール」ニ同ジ。

「コラールゴール」  
「膠様銀」

「コラールゴール」(膠様銀) Collargolum. (Colloidales Silber.)

膠様銀ハ、金屬銀ヲ水ニ溶解スベキ形態ニ變ゼシメタルモノナリ。サレド其溶解ハ、眞ノ溶解ニアラズシテ、唯水中ニ於テ最微ニ分レタルニ過ギズ。殺菌、消毒ノ力強シ。

軟膏トシテ、十五「プロセント」ノモノヲ用フ。

「アルゲンタミン」

「アルゲンタミン」 Argentaminum.

無色「アルカリ」性ノ液體ニシテ、收斂劑及治麻劑トシテ用ヒラル。

「アルゲントール」

「アルゲントール」 Argentolum.

「アルゴニン」

「アルゴニン」 Argoninum.

其效用前者ニ同ジ。

同ジク治麻劑トシテ用ヒラル。熱湯ニ溶解シ易キ白色ノ粉末ナリ。

「ラルギン」

「ラルギン」 Larginum.

水ニ溶解シ易キ灰白色ノ粉末ニシテ、治麻ノ效アリ。

金

(附) 金 Gold.

其化合物ヨリ還元セラル、性ノ銀ニ比スレバ更ニ甚シキガ故ニ、之ヲ内用スルモ決シテ一般作用ヲ起サズ。局所劑トシテモ亦無意義ノモノナリ。

### 第一四 銅及亞鉛屬

Gruppe des Kupfers und Zinks.

銅ト亞鉛トハ、化學上及藥理學上甚ダ相近似セルモノナリ。



局所作用

吸收作用

銅中毒

### 生理的作用

銅及亞鉛ノ兩金屬鹽類ノ局所作用ハ、其用量ト含有スル酸ノ種類ノ異ナルトニ從ヒテ、或ハ收斂ノ作用ヲ現ハシ、或ハ腐蝕ノ作用ヲ現ハス。若シ腐蝕作用ヲ有セザル複鹽ヲ取リテ、血液若クハ皮下ニ注入スルトキハ、骨筋及心筋ノ麻痺ヲ來タシ、溫血動物ニ於テハ、心臟動作ノ休止ニ由リテ斃ル、ニ至ルベシ。

人體ニ於ケル銅及亞鉛ノ真正ナル慢性中毒ノ有無ハ、尙ホ未ダ明カナラズ。又實驗的ニ、人類若クハ動物ニ就テ、銅作用ヲ起サシムルコトヲ得ズト雖、醋酸銅若クハ脂肪酸銅ノ大量ヲ内服セシムルトキハ、局所作用ヲ起スコト尠クシテ、急性中毒ヲ起シ、動物ハ呼吸障礙ヲ發シ、心臟麻痺ニ陥リテ死スルヲ見ルベシ。是恐クハ消化管粘膜ノ腐蝕ヲ來シ、其吸收ヲ容易ナラシメタル爲ナラン。故ニ銅若クハ眞鍮ノ器具ヲ以テ食物ヲ煮沸シ、或ハ久シク其器内ニ放置シタル食物ヲ食スルトキハ、中毒ヲ來ス恐アリ。戒ムベキコトナリ。又家兎ノ皮下ニ醋酸銅ヲ注入スルトキハ、腎臟炎ヲ起シ、其尿中ニ蛋白質ヲ認ムベシ。

嘔吐作用

嘔吐ヲ起ス原因

局所作用

銅及亞鉛ノ鹽類モ、亦アンチモン化合物ノ如ク、胃粘膜ノ局所刺戟ニ由リテ嘔吐ヲ起ス特異ノ作用アリ。此目的ヲ以テ汎ク應用セラル、ハ、硫酸銅ニシテ、稀ニハ硫酸亞鉛モ亦用ヒラル。之ヲ用フルトキハ、胃中ニ於テ腐蝕作用ヲ現ハスニ先チテ、嘔吐ヲ起シ、其用ヒラレタル鹽類ハ、同時ニ排泄セラル。故ニ之ヲ應用スル場合ニハ、宜シク吐劑トシテ確效ヲ奏スベキ程ノ大量ヲ與フベク、決シテ有害ナル腐蝕作用ノ起ルヲ恐ル、要ナシ而シテ粘膜健康ナラバ、之ヨリ吸收セラレテ、豫想外ノ中毒作用ヲ現ハス如キコトナカルベシ。而シテ銅並ニ亞鉛ノ鹽類ハ、血中又ハ皮下ニ注入スルモ、嘔吐ヲ起スコトナキヲ以テ、アポモルヒチノ如ク、嘔吐中樞ヲ犯スニアラズシテ、吐酒石ノ如ク、胃粘膜ノ局所刺戟ニ由リテ、反射的ニ嘔吐ヲ起スモノナルコトヲ知ルニ足ルベシ。

### 醫治效用

銅及亞鉛ノ種々ナル化合物ハ、局所劑トシテ頗ル汎ク應用セラル。即チ酸化亞鉛ハ、脂肪軟膏ノ形態トナストキハ、輕キ收斂作用アルヲ以テ、濕疹及表皮ノ剝離ニ多ク用ヒラレ、又撒布劑若クハ煉劑トシテモ用ヒラル。又、クロール



腐蝕劑トシテ  
ノ「クロール」  
亞鉛ノ長所

亞鉛ハ、蛋白質ニ觸ルレバ、鹽酸ヲ遊離シ、純粹ナル腐蝕劑ニシテ、軟カキ腐蝕  
痂ヲ生ズルヲ以テ、外科的ニハ、腐蝕作用ノ深部ニ達スルコトヲ欲スル場合  
ニ、等分ノ澱粉又ハ蜀葵末ヲ加ヘタル「バスタ」又ハ三十乃至五十「プロセント」  
ノ水溶液トシテ使用スルニ甚ダ適セリ。又創傷ノ消毒用ニ供スルニ當リテ  
固形痂ヲ生ズル爲ニ、其作用深部ニ達セズシテ、尙ホ傳染性病毒ヲ遺殘スト  
云フ恐アルコトナキヲ以テ、「クロール」亞鉛ハ、諸金屬鹽類中、最モ斯ノ如キ場  
合ノ消毒劑トナスニ適セリ。此目的ニハ、三乃至十「プロセント」ノ水溶液ヲ用  
フ。サレド若シ大膿瘍腔ノ如キ、廣キ表面ニ適用スルトキハ、吸收セラレテ中  
毒ヲ起ス恐アルベキヲ以テ、之ニ用フルニハ、極テ稀薄ナル溶液、タトヘバ○  
二「プロセント」ノ稀溶液ヲ以テスルヲ要ス。

銅及亞鉛ノ硫酸鹽類ハ、最初ニ表層ノ破壞性腐蝕及暫時ノ刺戟作用ヲ現ハ  
シ、次デ收斂作用ニ移ルコトヲ望ム場合ニ外用ニ供ス。硫酸亞鉛ノ百倍ノ水  
溶液ヲ、尿道及腔加答兒ノ注射用トシ、其五百倍溶液ヲ結膜加答兒ニ點眼用  
トシ、若クハ硫酸銅ノ結晶ヲ眼科學上ニ必要品トシテ使用スルハ、之ガ爲ナ  
リ。

吐劑トシテノ  
硫酸銅

硫酸銅ハ、催吐劑トシテ其應用甚ダ汎シ、殊ニ惡心期短ク、從テ虛脱ヲ起スノ  
恐少キヲ以テ、老人、小兒等ノ虛弱者ニ用フルニ適セリ。之ニ反シテ、祛痰劑ト  
ナスニハ、甚ダ不適當ニシテ、吐酒石、金硫黃ニ及バザルコト遠シ。尙ホ上卷二  
百三十九頁(「アボモルヒチ」)同二百四十四頁(吐根劑)下卷二百七十九頁「アンチ  
モン」化合物ニ就テ、諸種ノ吐劑ノ優劣ヲ知ルベシ。

硫酸銅ヲ小兒ノ吐劑トシテ稱用スルハ、其特異ノ效アル爲ニアラズシテ、虛  
脱ノ恐少ナキ爲ナリ。

磷中毒ニ際シ  
硫酸銅ノ作用

硫酸亞鉛モ亦吐劑トシテ内用セララル、コトアレドモ、多クノ場合ニハ、硫酸  
銅ヲ稱用ス。

硫酸銅ハ、又急性磷中毒ニ用ヒラル、是硫酸銅ハ、尙ホ腸胃中ニ存スル磷ヲ酸  
化シテ、無毒ナル磷酸ニ變ゼシメ、且磷ノ表面ニ銅及磷化銅ノ沈澱ヲ生ジテ、  
之ヲ包被シ、其吸收ヲ妨グル働アルト同時ニ、催吐作用ニ依リテ、磷ヲ吐出セ  
シムルヲ以テナリ。但既ニ吸收セラレタル磷ニ對シテハ、硫酸銅ヲ内用セシ  
ムルモ、何等ノ效ヲ奏スルコトナシ。

神經劑トシテ  
ノ亞鉛ハ其效  
ナシ

亞鉛化合物、殊ニ酸化亞鉛及巔草酸亞鉛ハ、所謂神經劑トシテ、諸種ノ神經性



疾患ニ内用セラレタレドモ、其效力ナキコトハ、既ニ生理的作用ニ依リテ明カニシテ、臨牀上ノ實驗モ亦其無效ナルコトヲ證ス。  
**名稱、製劑、用量、極量及處方**

酸化亞鉛(亞鉛華) *Zincum oxydatum.*

白色若クハ微ニ類黃色ヲ帶ブル無晶形ノ粉末ニシテ、水ニ溶解セズ、外用トシテ殊ニ用ヒラル。内用ハ稀ナリ、用量一回〇・〇五乃至〇・三、一日二・〇迄トス。

(處方例)

酸化亞鉛五〇 「リコボヂウム」四五〇  
右粉劑トシテ撒布ス(濕潤性濕疹)

亞鉛華軟膏 *Unguentum Zinci. (Zinksalbe.)*

酸化亞鉛一分、豚脂九分ヨリ成ル。

亞鉛華

亞鉛華軟膏

硫酸亞鉛

硫酸亞鉛(皓礬) *Zincum Sulfuricum. (Zinksulfat.)*

無色ノ結晶ニシテ、〇・六ノ水ニ溶解ス。外用ニハ五百倍乃至百倍ノ溶液ヲ收斂劑トシテ用フ、催吐劑トシテ頓服セシムルニハ、一回ノ極量日本藥局方一・〇トス。

「クロール」亞鉛 *Zincum chloratum. (Zinkchlorid.)*

白色結晶性ノ粉末若クハ小挺子ニシテ、潮解性アリ。水及酒精ニ容易ニ溶解ス。腐蝕、消毒ノ目的ニテ外用ニ供ス。

(處方例)

「クロール」亞鉛一〇・〇 澱粉一〇・〇  
右混和シテ「バスタ」トシテ、腐蝕ノ目的ニ用フ。

硫酸銅(膽礬) *Cuprum sulfuricum. (Kupfersulfat.)*

透映藍色三斜系ノ結晶ニシテ、三五分ノ水ニ溶解ス。催吐劑トシテ頓服ス

硫酸銅

「クロール」亞鉛

硫酸亞鉛 「クロール」亞鉛 硫酸銅



ル一回ノ極量ハ、日本藥局方一〇ナリ。

(處方例)

硫酸銅一〇 水五〇〇

右溶液トナシ、毎五分時ニ半酒杯宛内用(磷中毒)

銅鑿(神效石) Cuprum aluminatum. (Lapis divinus.)

日本藥局方ニ據レバ、各等分ノ硫酸銅、硝酸、カリウム、明鑿ヨリ成ル。腐蝕收斂ノ目的ニテ眼科ニ用フ。

第一五 鉛屬

Gruppe des Bleis.

生理的作用

局所作用 鉛鹽類ハ、重金属中、所謂收斂劑トシテ最モ著明ナルモノナルコトハ、既ニ重金属一般ノ條下(二百六十二頁)ニ於テ之ヲ述ベタリ。此作用ハ醋酸鉛ノ如キ有機酸トノ化合物ニ於テ、殊ニ顯著ナリトス。サレド其濃厚ナ

局所作用

銅鑿

吸收作用  
鉛ノ急性中毒

ル液ハ、組織ニ働クコト強クシテ、反應炎症ヲ起シ、殊ニ醋酸鉛ハ、蛋白鉛ヲ溶解スルヲ以テ、多少腐蝕ノ作用ヲ呈スベシ。就中硝酸鉛ハ、蛋白質ト化合シテ硝酸ヲ遊離スルヲ以テ、鉛鹽中最モ腐蝕力強シ。鉛鹽ノ大量ヲ内服シテ起ル急性腸胃炎ハ、局所ノ腐蝕作用ニ由ルモノトス。

吸收作用

吸收後ニ於ケル鉛ノ作用ハ、區々ナリ。其最急性ノ中毒ハ、鉛ノ有機化合物ヲ直接ニ血中又ハ皮下ニ注射シテ、之ヲ喚起スルコトヲ得ベシ。而シテ蛙及家兎ニ於テハ、特ニ著シク、横紋筋麻痺ヲ現ハスモノニシテ、獨リ骨髄筋ノミナラズ、心筋モ亦麻痺ニ陥リテ、心動絶止ヲ來シ、之ガ爲ニ斃ル、ニ至ル。人體ニ起ル鉛中毒ニ因スル運動麻痺ハ、鉛ノ横紋筋ニ對スル直接ノ作用ナルコト、殆ド疑ヲ容レズ。而シテ最初ハ、唯單純ナル中毒作用ノミナレドモ、後ニハ漸次筋質退行變性ノ之ニ加ハリ來ルヲ見ル。犬及猫ノ腸ハ、急性中毒ニ當リテ、其蠕動強盛トナリ、劇甚ナル痙攣竝ニ痙攣様收縮ヲ來シ、家兎ノ腸ハ單ニ下痢ヲ起スニ過ギズ、而シテ此場合ニ、アトロピンヲ使用スルトキハ、腸ノ再ビ安靜ニ復スルニ由リテ見レバ、是等ノ腸症狀ハ、腸ノ運動神經ノ興奮ニ由リテ發シタルモノナル事ヲ知ルニ足ルベシ。急性中毒ニ起ル腸

鉛屬 生理的作用



症狀ハ、犬、猫及鳩等ニ於テハ、容易ニ之ヲ認メ得ベク、其症狀トシテ舞蹈病様ノ運動若クハ更ニ進ミテ真正ノ痙攣ヲ現ハシ、遂ニハ中樞神経系ニ於ケル運動ヲ主宰スル部分ノ麻痺ニ由リテ斃ル。人體ニ於ケル鉛ノ急性中毒ハ、概シテ稀ナリ、誤テ醋酸鉛等ヲ内服セル場合ニハ、局所作用ヨリ起ル急性腸胃炎ニ伴ヒテ、吸收作用ニ因スル中毒ヲ起ス。其症狀ハ、動物試験ノ成績ニ一致シ、知覺運動麻痺、心臟衰弱、頭痛、眩暈、痙攣、腸痛等ヲ起シ、且多クハ腎臟炎ヲ併發ス。

鉛ノ慢性中毒

職業上若クハ日常ノ操作上、鉛ヲ取扱フ者ハ、皮膚、呼吸器及消化器ヨリ極テ微量ニ鉛ヲ受容シ、其鉛ハ漸次體內ニ沈著スルヲ以テ、鉛ノ慢性中毒 Saturnismus chronicus ハ、急性中毒ニ比スレバ、非常ニ屢、遭遇スベシ、而シテ此場合ニ於ケル主要ノ症狀ハ、齒齦ニ於ケル鉛線、萎縮腎ヲ合併セル惡液質、痛痛、關節神經痛、腦症狀、筋麻痺、皮膚知覺麻痺、痛風、血管硬化等ナリトス。鉛線 Bleisaum ハ、吸收セラレタル鉛ノ、再ビ排泄セラル、ニ當リ、口腔内ニ散蔓セル硫化水素ト化合シテ、硫化鉛ヲ生ズルニ由リテ現ハル、モノナリ。人體ニ發スル鉛毒腦症狀 Bleiencephalopathie 中ノ一部分、即チ昏睡ヲ伴ヘル癲癇様痙攣ノ如キハ、

鉛毒腦症狀

鉛線

鉛毒麻痺

鉛毒關節痛

鉛毒痙攣

鉛ノ吸收

直接ノ鉛作用ナルコト疑ヲ容レズト雖、他ノ一部ノ症狀、特ニ精神ノ興奮若クハ鬱憂狀態、頭痛及黒内障ノ如キハ、恰モ慢性アルコール中毒ニ於ケル如ク、永續シタル原發作用ノ繼發狀態ト認ムベキナリ。鉛毒麻痺 Bleihämung ハ、橈骨神經ノ配下ニ屬スル諸筋ヨリ始ルヲ常トス、而シテ筋ハ電流ニ對シテ變性反應ヲ呈ス。其他鉛毒性關節神經痛 Bleinrthralgie ハ、人體ノ慢性鉛中毒ニ於テ屢、發スル症狀ニシテ、關節竝ニ其附近ニ存スル筋ノ劇痛及筋ノ痙攣性收縮ヲ發ス。此筋收縮ハ、屢、四肢ニ於テハ屈筋、軀幹ニ於テハ背部ノ伸筋、胸部ニ於テハ其諸筋ヲ犯スモノトス。鉛毒痙攣 Bleikolik モ亦甚ダ屢、現ハル、モノニシテ、其主ナル徵候ハ、發作性ニ來ル腸收縮ナレドモ、他ノ下腹臟器モ亦直接ノ鉛作用ニ因スル痙攣狀態ヲ存スルコトアルガ如シ。此場合ニ於ケル脈搏ノ緩徐、充實、強硬ハ、恐クハ腸血管ノ壓迫セララル、爲ニ、其他ノ臟器ノ血壓ノ亢進スルニ由ルモノナラントノ推測ハ、慢性鉛中毒ノ動物試験ニ由リテ、之ヲ證スルコトヲ得ベシ。

凡テノ鉛劑ハ、硫酸鉛又ハ金屬鉛ノ如キ、全ク水ニ不溶解性ノモノニテモ、之ヲ人體若クハ動物ノ胃或ハ皮下ニ適用スルトキハ、慢性中毒ヲ起スベシ。消



吸收セラレタ  
ル鉛ノ排泄

化管内ニ適用セラレタル鉛ハ、其吸收セラレ、コト緩徐ナレドモ、排泄セラ  
ル、コトモ、亦更ニ緩徐ナルガ故ニ、体内ニ蓄積スル量ハ、頗ル多キモノナリ。  
吸収セラレタル鉛ハ、尿ヨリ排泄セラレ、又恐クハ腸内ニモ排泄セラレ、ナ  
ラン、胆汁中ニ鉛ノ存スルハ、唯其多量ヲ與ヘタル場合ノミ、ヨードカリウム  
ハ、鉛ノ尿中ニ移行スルヲ促スモノトス。

### 醫治效用

鉛化合物ノ作用ハ、毒物學上ニハ、要用ナル問題ナレドモ、治療上ノ目的トシ  
テハ、利スルトコロ極テ少ナク、殆ド局所ノ收斂作用ノ應用セラレ、ノミニ  
過ギズ。

鉛鹽ヲ含メル液體、或ニ軟膏、硬膏ヲ、表皮ノ剝離、濕疹、火傷、褥瘡、過度ノ分泌、或  
ニ治療ノ不良ナル創傷等ニ外用スルトキハ、蛋白化鉛ノ被膜ヲ生ジ、創面ヲ  
乾固セシムルヲ以テ、甚シク濕潤シ若クハ化膿シタル皮膚ヲモ、尙ホ能ク速  
ニ治癒セシムルコトヲ得ベシ。

鉛鹽ハ、出血時ニ局所ニ用ヒテ止血ノ效アリ、是不溶性ノ蛋白鉛ヲ作り、且  
同時ニ遊離セル酸ニ由リテ、血液ノ凝固ヲ促スヲ以テナリ、腸胃ノ出血ニハ

外用

止血劑トシテ  
鉛ノ内用

空腹時(鹽酸ノ存在セザルトキ)ニ内用スレバ效アリ、殊ニ腸出血ニハ、腸管ヲ  
收縮セシムルヲ以テ、止血ノ效甚ダ著ルシサレド、持長シテ内用スレバ、慢性  
鉛中毒ヲ起ス恐アルヲ以テ、今日ニテハ多ク用ヒラレズ、止瀉ノ目的ニテ内  
用スル場合モ亦稀ナリ。

咯血等ニ醋酸鉛ヲ内用スルモ效ナキコトハ、生理的作用ニ由リテ明カナリ。  
鉛水即チ鹽基性醋酸鉛水ハ、弱アルカリ性ニシテ、容易ニ空中ニ存スル炭酸  
瓦斯ヲ吸收シテ混濁シ、其有效成分ハ炭酸鉛トナリテ沈澱シ、皮膚ヲ刺戟ス  
ベキ醋酸ヲ遊離シテ、其溶液酸性ニ變ズルニ至ルベキヲ以テ、之ヲ洗滌用又  
ハ罨法トシテ使用スルニハ、新鮮ナルモノヲ用ヒ、且常ニ能ク其容器ヲ栓塞  
セザルベカラズ。

### 名稱、製劑、用量、極量及處方

醋酸鉛(鉛糖) Plumbum aceticum. (Meizucker)

無色透映ノ結晶若クハ白色結晶性ノ塊ニシテ、大約二分ノ水ニ溶解ス。主  
ニ外用ニ供シ、内用スルコト稀ナリ。極量日本藥局方一回〇・一、一日〇・三、外

醋酸鉛  
(鉛糖)



鉛醋

用ニハ收斂劑トシテ、二百倍乃至二十倍ノ水溶液ヲ用フ。

鉛醋(次醋酸鉛) *Liquor Plumbi subacetici.*

(Bleissig.)

日本藥局方ニ據レバ、一定ノ法則ニ從ヒ、醋酸鉛三分、酸化鉛一分ニ水ヲ加ヘ、比重一・二三乃至一・二四ノ液トナセルモノニシテ、無色透明ナレドモ、空氣中ノ炭酸ニ遇ヘバ、白キ濁濁ヲ生ズ、栓塞シテ貯フベシ。

稀鉛醋(グラルド水) *Liquor Plumbi subacetici*

*dilutus.* (*Aqua Goulardi.*)

日本藥局方ニ據レバ、鉛醋二分及蒸餾水九十八分ヨリ製ス。獨逸藥局方ニ揭ゲタル鉛水 *Aqua Plumbi.* (Bleiwasser) ト全ク同一ノ製劑ナリ。

鉛軟膏 *Unguentum Plumbi.* (Bleisalbe.)

鉛醋二分、パラフィン軟膏十九分ヨリ製ス。日本藥局方ニハ記載セラレズ。

稀鉛醋  
「グラルド」水

鉛軟膏

鉛硬膏

鉛硬膏 *Emplastrum Lithargyri.* (Bleipflaster.)

等分ノ樹油、豚脂及酸化鉛ニ、少量ノ水ヲ加ヘ熱シテ製ス。

(處方例)

鉛硬膏二〇〇 「オレーフ」油二〇〇

右混和シテ軟膏ヲ作ル(ヘブラ軟膏、慢性濕潤性濕疹ニ用フ)

### 第一六 蒼鉛屬

*Gruppe des Wismuths.*

### 生理的作用

局所作用 蒼鉛製劑ハ、收斂劑トシテ胃腸並ニ皮膚ノ疾患ニ用ヒ、防腐劑

トシテ創傷療法ニ用フ。是等ノ製劑ハ、多クハ水ニ溶解セザレドモ、組織液又ハ胃液中ニハ、少シク溶解シテ、收斂及防腐ノ作用ヲ現ハスベシ。

吸收作用 蒼鉛ノ吸收作用ハ、動物ノ皮下若クハ血液中ニ、酒石酸酸化蒼鉛、ナトリウムノ如キ蛋白質ヲ沈澱セザル化合物ヲ注入スルニ由リテ、之ヲ

ヘブラ軟膏

局所作用

吸收作用



急性中毒

現ハサシメ得ベシ。而シテ其急性中毒ニハ、發作性ニ現ハル、搐搦性及強直性痙攣ヲ起シ、且同時ニ血管神經ノ中樞麻痺及心臟運動神經節ノ麻痺様状態ニ因スル心臟動作ノ衰弱ヲ來シ、血壓ハ沈降シ、遂ニ呼吸遏止ニ由リテ死ニ歸スベシ。

慢性中毒

蒼鉛ノ慢性中毒ハ、食慾缺損、嘔吐、下痢、口腔炎、齒齦潰瘍、羸瘦、體溫ノ降下等ヲ起シ、之ニ加フルニ、運動ノ不確實、痙攣發作、蛋白尿等ノ症狀ヲ以テシ、遂ニ心力ノ沈降、麻痺ノ増進ニ由リテ斃ル、ニ至ル。解剖上ニハ、大腸殊ニ盲腸及蟲様突起ニ於ケル粘膜ノ全層ハ、硫化蒼鉛ノ爲ニ黑色ヲ呈シ、且同時ニ潰瘍ヲ生ズルヲ見ル。又腎臟ニハ實質性炎ヲ見ルベシ。人體ニ於テモ、次硝酸蒼鉛ヲ綑帶用劑トシテ使用シタル場合ニ、創面ヨリシテ蒼鉛ノ吸收セラル、爲ニ之ニ類似シタル症狀ヲ發スルコトアリ。其症狀中、殊ニ主要ナルハ、口腔粘膜ノ腫脹、甚シキハ、義膜形成ニ伴フニ、齒齦ノ邊緣ノ黑變、消化機能ノ障礙、惡心、嘔吐、腹痛、下痢、顆粒圓筒ヲ混ズル蛋白尿等ニシテ、此中毒ノ爲ニ死シタル者ノ大腸ニハ、黒キ著色アルヲ認ムベシ。

蒼鉛ノ創面ヨリ吸收セラレテ起ル中毒ニ、大腸ノ黑變及潰瘍ヲ生ズル所以

蒼鉛屬ヲ外用シテ中毒ヲ起スコトアリ

蒼鉛ハ消化器ヨリ吸收セラレズ

蒼鉛ノ排泄

次硝酸蒼鉛ノ應用 胃潰瘍

ハ、腸壁ノ血管及淋巴管ノ毛細管内ヲ循環セル蒼鉛ノ、大腸内ニ於テ腐敗ノニヨリテ發生スルトコロノ硫化水素ノ爲ニ沈澱セラル、ニ由ルモノニシテ、之ガ爲ニ、粘膜ノ黑變並ニ鬱血及壞疽様崩壞組織ノ缺損ヲ來ス。而シテ此際同時ニ蒼鉛鹽類、例ヘバ次硝酸蒼鉛ヲ動物ニ内服セシムルトキハ、斯ノ如キ中毒ヲ呈セズ、是次硝酸蒼鉛ヲ内服セシムルトキハ、腸内ノ硫化水素ト結合シテ、此瓦斯ノ腸壁ニ及ボス有害ナル結果ヲ制止スル働アルヲ以テナリ。蒼鉛劑ヲ止瀉劑トシテ下痢ニ用フレバ、腸内ノ腐敗ニ由リテ生ズル硫化水素ト化合シ、其刺戟ヲ除クト、器械的ニ腸粘膜ヲ保底スルトニ由リテ奏效アルモノトス。

醫治效用

胃潰瘍ニハ、次硝酸蒼鉛ノ大量、即チ一〇〇乃至二〇〇ヲ水中ニ投ジ、早朝空腹時ニ乗ジテ之ヲ服セシメ、而シテ其後三十分間、蒼鉛ノ大部分ノ患部ニ沈著シ得ベキヤウナル體ノ位置ヲ取ラシムベシ。斯ノ如クスルコト二三週日

蒼鉛屬 醫治效用



慢性下痢

蒼鉛鹽ハ創傷  
火傷等ニ用ヒ  
又尿道炎ニ注  
射ス

ナルトキハ多クハ著ク其病症ヲ輕快セシメ得ベシ又加答兒性若クハ潰瘍  
性ノ慢性下痢ニ、次硝酸蒼鉛ヲ、毎日數回一〇宛與ヘテ效ヲ奏スルコト少カ  
ラズ。次沒食子酸蒼鉛及次「サリツール」酸蒼鉛モ亦慢性下痢ニ稱用セラル。  
其他蒼鉛鹽類ハ、外用トシテ創傷療法ニ、「ヨードフォルム」ニ代用シ、又火傷及  
表在性皮膚炎ニ用ヒ、振盪合劑トシテ麻毒性尿道炎ニ注射ス。但前ニ述ベタ  
ル如ク中毒ノ恐アルヲ以テ、注意ヲ要ス。

蒼鉛化合物ハ、又胃腸ノ「レンシエン」輻射線検査ノ際、黑影ヲ與フル爲ニ、大量ニ  
内服セシム。但此際次硝酸蒼鉛ノ如キモノヲ用フルトキハ、亞硝酸ノ中毒、即  
チ血中ニ「メトヘモグロビン」ヲ作ルコトアルヲ以テ、注意セザルベカラズ。此  
目的ニ、炭酸蒼鉛ヲ用フルトキハ危險ナシ。

名稱、用量、處方

次硝酸蒼鉛

次硝酸蒼鉛(鹽基性硝酸蒼鉛) Bismuthum

subnitricum. Magisterium Bismuthi. (Basisches  
Wismuthnitrat.)

細微ナル結晶性ノ重キ白色粉末ニシテ、酸性ノ反應ヲ有シ、水ニハ不溶解  
性ナリ。用量一回〇・二乃至一・〇、一日四・〇以上、更ニ大量ヲ用フルコトアリ。  
外用ニハ粉末ノ儘ニテ撒布シ、火傷ニハ沸騰セル水ヲ以テ泥劑ヲ作りテ、  
之ヲ塗擦ス。

(處方例)

次硝酸蒼鉛三〇 水一〇〇〇

右振盪合劑トス、使用前必ズ振盪スベシ(尿道注入用)

次沒食子酸蒼鉛(デルマトール) Bismuthum

subgallicum. (Dermatolum.)

黄色無晶形ノ粉末ニシテ、臭味共ニ無ク、水、酒精、「エーテル」ニ溶解セズ、内用  
ニハ一日一・〇乃至六・〇ヲ用ヒ、外用ニハ火傷、創傷ニ撒布ス。

次「サリツール」酸蒼鉛 Bismuthum subsalicy-

licum. (Basisches Wismuthsalicylat.)

次沒食子酸蒼  
鉛「デルマト  
ール」

次「サリツイ  
ール」酸蒼鉛



白色結晶性、無臭、無味ノ粉末ニシテ、水及酒精ニ溶解セズ。一日數回〇・二乃至一・〇ヲ、慢性下痢ニ用フ。

次炭酸蒼鉛

次炭酸蒼鉛 Bismuthum Subcarbonicum.

白色ノ粉末ニシテ、次硝酸蒼鉛ニ代用シテ内服ス。用量ハ一回〇・三乃至一・〇宛一日數回。主ニ外用ニ供セラレ、醫藥ノ外、化粧用白粉トシテ、汎ク應用セララル。是鉛中毒ヲ起ス虞ナケレバナリ。

(處方例)

次炭酸蒼鉛一〇〇 滑石末二〇〇 「コロシ」精三〇

薔薇水二〇〇

右混和シテ外用。此沈澱ヲ採リテ酒渣鼻ニ塗附ス。(ヘブラ氏王妃水)

第一七 「アルミニウム」屬

Gruppe des Aluminiums.

生理的作用

局所作用

局所作用 「アルミニウム」ハ輕金屬ナレドモ、水ニ溶解シ得ベキ「アルミニウム」鹽類ノ局所作用ハ、全ク他ノ重金屬鹽類ノ作用ト一致セリ。即チ其溶液ノ濃度ニ應ジテ、收斂、消毒及腐蝕作用ヲ呈シ、蛋白ト化合シテ、蛋白化礬土ヲ生ズ。胃腸ヨリ吸收セラレテ中毒ヲ誘起スルコトナキガ故ニ、内服ニ供用シ得ベシ。

吸收作用

吸收作用 健全ナル胃腸ノ粘膜ハ、礬土ヲ吸收スルコトナキガ如シ。其實例ハ、獨逸軍隊ニ於テ、殆ド一箇年半ノ久シキ間、「アルミニウム」製ノ食器ヲ以テ食物ヲ調理シ、又ハ之ニ飲料ヲ盛り、若クハ貯藏シテ之ヲ多數ノ人ニ用ヒシメタルニ拘ハラズ、毫モ健康ニ異常ヲ認メズ、唯一回尿中ニ「アルミニウム」ノ痕跡ヲ認メタルコトアリシノミナリシ事實ニ由リテ、之ヲ知ルニ足ルベシ。而シテ皮下若クハ血液内ニ、酒石酸「アルミニウム」、ナトリウムノ如キ蛋白ヲ沈澱セザル化合物ヲ注入スルトキハ、頗ル徐々ニ組織内ニ流布シ、遂ニハ腸管内ニ排泄セラレテ、腸症狀ヲ發シ、食慾絶止シ、腸ノ排泄秘結シ、嘔吐ヲ發スルヲ見ル。其他「アルミニウム」ノ特異ナル「イオン」作用トシテ、中樞神經系ノ麻痺症狀、即チ無慾狀態、知覺ノ減衰ヲ顯ハシ、且頭部ニ於ケル震顫、搖擗並

「アルミニウム」  
ノ「イオン」  
作用

「アルミニウム」屬 生理的作用



ニ四肢ノ連架様運動 Schleuderbewegungヲ來シ、漸次運動麻痺ニ陥リ、呼吸麻痺ノ爲ニ死ニ歸シ、其症狀ハ急性球麻痺 Akute Bulbärparalyseニ一致ス。

### 醫治效用

「アルミニウム」鹽類中、殊ニ明礬ハ、最モ屢々使用セラル、收斂劑ナリ、而シテ礬土ハ、其鹽基性微弱ナルヲ以テ、明礬ハ重金屬ノ複化合物ト異ナリ、著キ酸性ヲ有ス、故ニ之ヲ過度ニ使用シタル局所ニハ、收斂ニアラズシテ、却テ發炎作用ヲ呈ス、斯ノ如キ性質ハ、凡テ「アルミニウム」鹽類ニ通有ナルモノニシテ、硫酸「アルミニウム」、醋酸「アルミニウム」及明礬ノ代用品トシテ稱用セラル、  
「アルムノール」Alumol ト名クル「ナフトール」硫酸「アルミニウム」等皆然ラズト云フコトナシ。

明礬ノ應用

礬土鹽類ハ酸性アルミヲ以テ過度ニ用フレバ炎性ヲ發ス

明礬ノ内用

明礬ハ下痢、腸胃ノ出血ニ、收斂ノ目的ニテ内用スルコトアリ、但今ハ其用途多カラズ。

明礬ハ汎ク外用ニ供セラル、殊ニ其〇・五乃至一・〇「プロセント」溶液ハ、「アングナ」ノ含嗽劑トシ、慢性咽喉頭及喉頭加答兒ニハ吸入料トシ、麻疾及膀胱加答兒ニハ注入劑トシテ用ヒ、其他含單寧劑ト混ジ、粉末ノ状態ニテ喉頭及鼻腔ニ用ヲ伴フベシ。

礬土鹽ハ、防腐作用強キヲ以テ、厠、下水管等ヲ消毒スルニ適ス、坊間ニ販賣セラル、  
「クロラルム」Chloralum ノ名アル「クロールアルミニウム」ハ、最モ此場合ニ用フルニ適ス。

### 名稱、製劑、用量及處方

明礬 (「カリ」明礬) Alumen. (Kali-Alaun.)

無色透映堅硬ナル結晶ニシテ、一〇・五分ノ水ニ溶解ス、内用量一回〇・一乃至〇・五、一日三・〇迄トス、外用ニハ〇・五乃至五「プロセント」ノ溶液トナシテ種々ノ目的ニ使用ス。

### (處方例)

明礬一・〇 「サルツィア」水一八九〇 精製蜂蜜一〇・〇

明礬



枯礬

右混和シテ含嗽用ニ供ス。

枯礬 *Alumen exsiccatum.* (*Alumen ustum, gebranntes Alum.*)

明礬ヲ煅灼シテ製シタル白色ノ粉末ニシテ、無水明礬ナリ。水ヲ吸收スル力強ク、從テ爾他ノ礬土劑ニ比スレバ、腐蝕及消毒性強シ。

硫酸「アルミニウム」液

硫酸「アルミニウム」液 *Aluminium sulfuricum.*

一二分ノ水ニ溶解シ、酒精ニハ溶解セズ。消毒、收斂ノ力明礬ヨリモ強シ。

醋酸「アルミニウム」液

醋酸「アルミニウム」液 *Liquor Aluminiumi acetic.*

硫酸「アルミニウム」、醋酸及炭酸石灰ヲ混ジ、之ヲ濾過シタル濾液ニシテ、七乃至八「プロセント」ノ鹽基性醋酸「アルミニウム」ヲ含ム。日本藥局方ニハ記載セラレズ。三倍乃至十倍ニ稀釋シ、消毒、收斂ノ目的ニテ外用ニ供ス。刺激性極テ少ナキト、消毒ノ效力多キトニ由リテ稱用セラル。

### 第一八 磷 Der Phosphor.

磷ハ唯一ノ元素形ノ儘ニテ有毒ナル物質ナリ

赤黄磷

磷ハ、單純ニ新陳代謝機ヲ犯ス毒物ニシテ、神經及筋ニ對スル作用ハ顯著ナラズ。磷ハ元素形ノ儘ニテ有毒ナルモノニシテ、元素形ノ儘ニテ生理的榮養品タル酸素ト相對峙シテ、藥理學上ノ特殊ノ位置ヲ占ム（「クロール」瓦斯「フルオル」瓦斯等モ元素ノ儘ニテ、有毒ナルガ如キモ、是等ハ化學的親和力強キ爲ニ、局所ヲ刺戟スルニ過ギズ）。

磷ニ二様ノ形態アリ。其一ハ黄磷又ハ結晶形磷、他ノ一ハ赤磷又ハ無結晶形磷ナリ。兩者共ニ化學的ニハ同一ノ元素ナレドモ、其原子綜合ノ状態ヲ異ニシ、理學的性状及化學的親和力ニ相違アリ。毒物學上ニモ亦兩者ノ間ニ著キ相違アリテ、黄磷ノ劇毒ナルニ對シテ、赤磷ハ毫モ毒性ヲ有セズ。此章ニ於テ論ズル磷トハ、黄磷ヲ指シテ云フ（通常磷寸製造ニ用フル赤磷ハ、多少黄磷ヲ含有シ、從テ有毒ナリ）。

#### 生理的作用

磷ハ局所殊ニ粘膜ニ働カシムルニ、著キ腐蝕作用ヲ現ハスコトナシト雖、久

局所作用

磷 生理的作用



磷ノ吸收

胆汁ハ磷ヲ溶  
解スル性強シ

磷ハ體內ニ於  
テハ酸化スル  
コト少シ

磷ノ排泄

磷ノ營養ニ對  
スル影響

シク之ニ觸ル、トキハ、細胞ノ壞死ヲ來シ、炎症刺戟ヲ起ス。是磷ノ毒性ノ爲ニ、局所ノ細胞ニ中毒死ヲ起スニ因ル。

黃磷ハ揮發性ナルヲ以テ、蒸氣形ニ於テ水及組織液ニ溶解シテ、體內ニ汎布ス。磷ノ内用ニ當リテハ、胆汁ハ其溶劑トナル。是常水一「リール」ハ、磷ヲ溶解スルコト唯一「ミリグラム」ニ過ギザレドモ、胆汁一「リール」ハ、百五十乃至二百五十「ミリグラム」ヲ溶解シ得レバナリ。

吸收セラレタル磷ノ、其毒性ヲ逞ウスルハ、元素形其儘ニシテ、敢テ體內ニ於テ變化ヲ起シテ、初テ有毒トナルニアラズ。故ニ磷中毒ノ際、磷ノ諸臟器中ニ、元素形ニテ其儘存スルコトヲ化學的ニ證明シ得ベシ。磷ハ常溫ニ於テスラ、直ニ酸素ト結合スル性アルモノナルニ、酸化作用ノ殊ニ盛ナル體內ニ於テ、極メテ徐々ニ酸化スルハ、甚ダ不可思議ナリト云ハザルベカラズ。

磷ハ體內ニ於テ、其小部分ハ酸化シテ無毒ナル亞磷酸ニ變ジ、大部分ハ磷ノ儘ニテ呼吸氣及尿中ニ排泄セララル。故ニ磷中毒ニハ、屢、呼吸氣及尿中ニ磷光ヲ見ルコトアリ。

極テ少量ノ磷ヲ頻回使用スルトキハ、全ク砒石ト同ジク、營養上ニ好結果ヲ

急性燻中毒

過急性燻中毒  
ハ心臟麻痺ヲ  
起ス

亞急性燻中毒

窒素ノ排泄

來シ、殊ニ骨ノ發育ニ對シテハ、著キ影響アリテ、海綿質ニ換ヘテ硬質ヲ成生セシムベシ。サレド若シ之ニ反シテ、一時ニ大量ヲ與フルトキハ、急性磷中毒ヲ起シ、若シ其量非常ニ大ナルトキハ、時トシテハ過急性ノ經過ヲ取り、臟器ニ及ボス唯一ノ特異ナル直接作用トシテ、心臟麻痺ヲ起シ、數時間ナラズシテ斃ル、コトアルベシ。

磷中毒ノ經過ハ、通常亞急性ニシテ、心臟ニ及ボス作用ノ如キモ劇甚ナラズシテ、榮養障礙、殊ニ肝臟、腎臟、心臟ノ筋質、血管筋質、橫紋筋及諸種ノ腺ノ脂肪變性ヲ起ス餘裕アリ、之ガ爲ニ肝臟ノ肥大、血管破裂ニ因スル粘膜炎、漿膜及皮膚ノ溢血、黃疸並ニ磷中毒ニ固有ナル胃腺炎等ヲ生ズ。

磷ノ一般新陳代謝機ニ及ボス影響ハ、甚ダ大ナルモノニシテ、尿中ニ排泄スル窒素ノ量ノ頗ル増加スルヲ認ム。此窒素排泄ノ増加ハ、單ニ尿素ノミノ増量ニ非ズシテ、他ノ常規ノ尿成分、タトヘバ「アムモニア」並ニ異常ノ成分、即チ「ロイツイン」、「チロジン」及「ペプトン」様物質等ノ含窒素物ノ排泄ヲ増スコトモ亦其原因ナリトス。但腎臟ノ變性ノ爲ニ、尿中ニ排泄セララル、蛋白質ノ窒素ハ、此中ニハ算入セズ。磷中毒ニ於テ、尿ニ排泄スル無窒素物トシテハ、肉尿酸



黄疸

ヲ認め、又無機成分トシテハ、家兔ニ就テ、磷酸ノ排泄ノ増加スルヲ見ル。磷中毒ノ初期ニハ、胆汁色素ノ生成及其分泌著ク増加シ、後ニハ次第ニ減少ス。此事ハ犬ニ施セル膽囊瘻管ニ依リテ驗スルヲ得ベシ。磷中毒ニ黄疸ヲ起スハ、此胆汁色素ノ過生ニ因スルモノナリ。

磷中毒ニ於テハ、窒素排泄ノ亢進ト同時ニ、酸素ノ攝取量ニ炭酸ノ排泄共ニ減少ス。

解毒劑

磷中毒ノ解毒劑トシテ效アルハ、過マンガン酸、カリウム、硫酸銅並ニ古キ、レビン油ナリ。之ヲ用フル目的ハ、未ダ消化器中ニ殘留スル磷ヲ酸化シテ、無毒ナル亞磷酸又ハ磷酸ニ變化セシメントスルニアリ。(本卷五十九頁、二百五十二頁、三百二十五頁參照)

磷中毒ハ、毒物學上ニハ重要ノ關係アレドモ、本書ニハ詳述スル要ナキヲ以テ、唯以上ノ記載ニ止ムベシ。

**醫治效用**

磷ハ骨病、殊ニ佝僂病及骨軟化病ノ際、其骨硬質ノ生成ヲ促ス爲ニ用ヒラル。而シテ持續シテ用フルトキハ、多少ノ效驗アルモノ、如シ、サレド上ニ説キ

磷ハ佝僂病及  
其他ノ骨軟化  
病ニ用フ

磷

シ如ク、磷ハ猛毒ナルヲ以テ、之ヲ治療上ニ試用スルニ當リテハ、醫家ハ十分細心留意セザルベカラズ。又其使用ニ當リテ、若シ胃ノ障礙ヲ生ジタルトキハ、直ニ之ヲ廢セザルベカラズ。

**品名、用量、極量及處方**

磷 Phosphorus,

透映ナル白色或ハ類黄色ノ塊ニシテ、蠟様ノ光澤ヲ有シ、多クハ圓柱形トナシテ販賣セラル。四十四度ノ水中ニ溶融ス。極量日本藥局方一回〇・〇〇一。一日〇・〇〇三。其用量ハ大人ニアリテハ、一日〇・〇〇〇五ヨリ始メ、漸次一日〇・〇〇二ニ及ブ。小兒ハ其年齢ニ應ジテ之ヲ與フ。(上卷二十頁參照) 其用法ハ、中性油、即チ甘扁桃油ノ如キモノニ溶解シテ、水ヲ加ヘ乳劑トシテ與ヘ、或ハ丸劑トシテ與フ。是等ハ用ニ臨ミテ新ニ調製スルヲ要ス。是磷ハ漸次酸化シテ磷酸ニ變ズル性アルヲ以テナリ。

**(處方例)**

黃磷 〇・〇一 薄荷油 〇・一 肝油 一〇〇〇



右混和シ、黑色瓶ニ入レ、光線ヲ避ケテ貯フ。一日一茶匙ヲ三回ニ分服ス。(佝僂病)

赤色無晶燐

赤色無晶燐 *Der rothe amorphe Phosphor.*

純粹ナル赤燐ハ揮發性ナク、又何レノ液體ニモ不溶解性ナルヲ以テ、全ク無毒ナリ。但シ不純成分トシテ黃燐ヲ混ズルコト多ク、其場合ニハ毒性アルコト勿論ナリ。

#### 第四類 消化醱酵素及滋養品

*Verdauungsfermente und Nahrungsstoffe.*

胃腸ノ官能障礙ニ惱メル患者ノ榮養ヲ圖ルニハ、甚ダ消化シ易キ滋養品若クハ既ニ消化ヲ遂ゲタル滋養品ヲ給與スルカ、或ハ消化醱酵素ヲ應用シテ、消化作用ヲ償フカノ二途ニ出デザルベカラズ。而シテ食品ノ消化シ易キト否ラザルトハ、其調合及料理法ノ如何ニ關スル者ナレバ、醫師タル者ハ、攝養學 *Dietetik* ニ通ズル要アリ。

#### 第一 脂肪及消化醱酵素類

*Fette und Verdauungsenzyme.*

肝油 *Oleum Jecoris Aselli*. (*Lebertran*.)

大口魚屬ノ肝臟中ニ存スル油ニシテ、鮮黃色ヲ呈シ、腺病質、結核症、貧血、佝僂病、糖尿病、羸瘦症等ノ際ニ、屢稱用セラル。大人ハ半酒杯、小兒ハ其三分ノ一ヨリ始メ、漸次増量シテ、遂ニ一乃至二酒杯ニ達セシム。肝油ヲ服用スル

脂肪及消化醱酵素類

肝油



肝油ハ消化シ  
易キ脂肪ナリ

ニハ、食事ト食事トノ中間時ヲ以テ最モ可トス。ソハ肝油ノ爲ニ、他ノ滋養品ノ保底セラル、トキハ、其消化ヲ害セラル、コト少カラザレバナリ。肝油中ニ含有セラル、脂肪ノ一部分ハ、遊離セル脂肪酸トナリテ存スルモノニシテ、畢竟肝油ハ消化シ易キ脂肪ニ他ナラズトス。肝油ノ腸ニ達スルヤ、臍液ノ共働ヲ待タズシテ、一部分石鹼ニ變化シ、他ノ脂肪ヲ乳化シテ、其吸收ヲ容易ナラシムル利アリ。

含糖「ペブシン」 Pepsinum Saccharatum.

含糖「ペブシン」  
「ペブシン」ノ  
應用

白色若クハ微黄色ノ粉末ニシテ、豚ノ胃腸ヨリ製シタル「ペブシン」ニ、乳糖ヲ混和シタルモノナリ。消化不良ノ原因ノ、胃液ノ分泌過少若クハ、其效力微弱ニアリト推測セラル、場合ニハ、通常ノ含蛋白滋養品ノ消化ヲ促ス爲ニ服用セシム。

「ペブシン」酒 Vinum Pepsini. (Pepsinwein.)

含糖「ペブシン」百分、鹽酸五分、グリセリン「五十分、水五十分、白葡萄酒千八百

「パンクレアチン」

分ヨリ成ル、サレド其成分中ニ「グリセリン」及「アルコホル」ヲ含有スルヲ以テ、適當ノ製劑トハ看做シ難シ。

「パンクレアチン」 Pancreatinum.

帶黄白色或ハ類黄色或ハ類灰色ノ粉末ニシテ、多クハ豚ノ臍ヨリ製ス。アルカリ「反應」ノ下ニ、蛋白質ヲ消化スル働アリ。消化不良ニ内用ス。

「パパイン」(「パバヨチン」) Papainum. (Papayotinum.)

「パバヤ」樹ノ果實ヨリ製シタルモノニシテ、中性竝ニ極テ微弱ナル酸性若クハ「アルカリ」性液中ニ於テモ、蛋白ヲ消化スル作用アリト稱シ、内用スレドモ、其效力ハ甚ダ不同ナリ。其他咽喉ニ於ケル義膜ヲ消化シテ、之ヲ消滅セシムル爲ニ、其濃液ヲ用フルコトアリ。

「タカ、ヂアスターゼ」 Taka-Diastase.

米酒ヲ醸造スルニ用フル釀母ヨリ製シタルモノニシテ、強酸性ニ於テモ、

「タカ、ヂアスターゼ」

「パパイン」  
「パバヨチン」



尚ホ澱粉ヲ糖化スル働アリ、即チ之ヲ唾液素ニ比スルニ、胃中ニ於テモ尚糖化力ノ存スル長所アリ。  
「タカジアスターゼ」ノ外、尚之ニ類似スル「ヂアスターゼ」ノ製品尠カラズ、何レモ同一ノ働ヲ有シ、唯效力ニ強弱ノ差アルノミナリ。

### 第二 含水炭素類

Kohlhydrate.

糖類 Saccharum. (Zuckerarten.)

糖類中、殊ニ葡萄糖ハ、含水炭素類ノ口内及腸内消化ノ終末生産物ナリ。故ニ若シ病的状態ノ爲ニ、澱粉ノ消化ノ害セラレタリト推定スベキ根據ヲ有スル場合ニハ、初メヨリシテ蔗糖若クハ葡萄糖ヲ與フルコトアリ。サレド若シ其大量ヲ與フルトキハ、濃厚ナル鹽類溶液ト同一ナル所謂鹽類作用ヲ起シ、胃粘膜殊ニ其病的鋭敏ナルモノヲ害スベシ。其他糖類ハ、往々消化管内ニ於テ、醱酵及分解ヲ來タシ、有害ナル生産物ヲ生ズト云フコトモ亦顧慮セザルベカラズ。又澱粉ノ消化ニハ、一定ノ時間ヲ要シ、其生成セラ

含水炭素類

糖類

糖類ノ應用

其短所

乳糖

澱粉類

馬鈴薯澱粉

矢根粉

レタル糖量ハ、絶エズ漸次ニ吸收セラレテ、生体内ニ於テ分解スルモノナレドモ、純粹ナル糖類ヲ供給スルトキハ、其吸收急速ニシテ、一時ニ大量ノ糖類ノ血中ニ到達シ、時トシテハ糖尿ヲ發スル弊アリ。  
乳糖ハ乳汁中ニ存スル糖ニシテ、醱酵ヲ起シ難シ。多少緩下ノ效ヲ有ス。

澱粉類 Amylum. (Stärke.)

前條ニ説キタル如ク、含水炭素ヲ栄養品トシテ用フルニ當リ、澱粉類ハ糖類ヨリモ、多クノ場合ニ適當ナリトスレバ、次ニ起ルベキ問題ハ、孰レノ種類ノ澱粉ニテモ、其栄養上ノ效力ハ同一ナリヤ否ヤト云フコトニシテ、此疑問ハ、尚ホ十分明カナラザルモ、實際馬鈴薯澱粉ノ如キハ、糖化スルニ當リテ、著ク膠様ノ副産物ヲ生ジ、此膠様物ハ同時ニ生成シタル糖竝ニ他ノ消化産物ノ吸收ヲ妨グルモノトス。  
矢根粉 Arrowroot ハ、種々ノ天南星科及曇華科ノ植物ヨリ製シタル澱粉ニシテ、小兒ノ栄養ニ供セラレ、完全ニ糖化シ得ベシ。



蛋白質類

### 第三 蛋白質類

Eiweissstoffe.

「ペプトリン」

「ペプトリン」 Peptonum.

「ペプトリン」  
應用ノ場合

「ペプトリン」  
劑蓋用ノ弊

近時販賣セラル、諸種ノ「ペプトリン」劑ハ、人工消化ヲ經タルカ或ハ高熱ノ蒸氣ニテ變化セシメラレタル動物性又ハ植物性蛋白質ニシテ「アルブモーン」及「ペプトリン」ノ混合物ナリ。此兩物質ハ、腸壁内ニ於テハ、再ビ蛋白質ニ還生スルモノニシテ、其儘ニテ吸收セラレタル「ペプトリン」ハ、尿中ニ移行スベシ。故ニ疾病ノ際、消化障礙ニ由リテ「ペプトリン」ノ生成ノ絶止スルカ、或ハ制限セラル、モ、其吸收及同化ノ機能ニ障礙ナキ場合ニ於テ、始テ「ペプトリン」劑ヲ服用スルノ要アリ。サレド其如何ナル場合ニ用フルヲ以テ適切トナスベキカト云フコトハ、吾人尙ホ之ヲ判定スルニ苦ム。殊ニ「ペプトリン」劑ハ、一種嘔氣ヲ催スベキ不快ノ苦味ヲ有シ、其大量ヲ内用スレバ、腸胃ノ粘膜ヲ刺戟シ、且一時ニ其大量ノ吸收セララル、トキハ、腸壁ニ於テ蛋白質ニ還生スル暇ナクシテ、「ペプトリン」アルブモーン」ノ儘ニテ、血

中ニ入り、空シク腎臟ヨリ排泄セラル、ノミナラズ、却テ腎臟ヲ刺戟スル恐アリ。凡テ食品ハ最モ消化シ易キモノヲ、最モ消化シ易キ形ニテ與フベキコトハ、醫化學上ノ定則ニシテ、「ペプトリン」劑ハ、特ニ蛋白質消化ノ絶止セル場合ノ他ハ、濫用スベキモノニアラズ。

### 乾酪素劑 Kaseinpräparate.

乾酪素劑ハ、近來「オイカジン」 Eucasin 「ヌトロローゼ」 Nutrose 「サノトゲーン」 Sanotogen 「サノローゼ」 Sausose 等ノ名ヲ以テ、販賣セラル、モノニシテ、殆ド無味ノ白色粉末ナリ。水、殊ニ温湯ニ溶解シ、煮沸スルモ凝固セズ。而シテ乳汁中ノ「カゼイン」ト同ジク、胃酸ニ適ヘバ凝塊トナリテ析出セラル。本品ハ多量ヲ用フルモ、消化管ハ能ク之ニ堪フルコトヲ得ベク、且体内ニ於テ分解スルモ、尿酸ヲ作ラザルヲ以テ、尿酸素質及腎臟炎、腎臟結石ニ使用スルコトヲ得ベシ。

### 植物性粘劑 Kleberpräparate.

植物性粘劑

「オイカジン」  
「ヌトロローゼ」  
「サノトゲーン」  
「サノローゼ」

乾酪素劑 植物性粘劑



「アロイロナ  
ー」  
「ロギラート」

「ドロボン」

「ゾマトーゼ」

或種ノ穀類、即チ裸麥、玉蜀黍、小麥中ニ存スル粘劑ニシテ、澱粉製造ノ副産物トナリテ生ズ。此蛋白質ノ消化シ易キコト、殆ド動物性蛋白質ニ譲ラズ。其價廉ナルヲ以テ、貧民患者ノ榮養品トナスニ適ス。販賣ノ「アロイロナー」ト「Alenonut」ロギラート「Roborat」ハ、皆此粘劑ニ屬スベキモノナリ。

「トロボン」「Tropoon」

種々ノ物質ヨリ成レル製劑ニシテ、其三分ノ一ハ、動物性蛋白質、三分ノ二ハ植物性蛋白質ナリ。而シテ蛋白質ニ隨伴セル色素鹽類、エキス質等ハ、成ルベク除去セラレタルモノトス。

「ゾマトーゼ」Somatose.

肉ヨリ製シタル「アルブモーゼ」ノ混劑ニシテ、八十五「プロセント」ノ「アルブモーゼ」ヲ含有シ、帶黃白色、無味ノ粉末ナリ。サレド腸ニ於テ吸收セラルハ、殆ド其半量ニシテ、且大量ヲ服用スレバ、下痢ヲ起スベシ。

複合滋養製劑

小兒粉

小兒食汁

#### 第四 複合滋養製劑

Zusammengesetzte Nähr-präparate.

子ストレー氏小兒粉 Nestlé'sche Kindermehl.

糖類、乳汁及小麥粉ヨリ成リ、其澱粉ハ高温ノ水蒸氣ニ曝シテ「デキストリン」ニ變化セラレタルモノナリ。

リービヒ小兒食汁 Liebig'sche Kindersuppe.

小麥粉一五〇、大麥芽粉一五〇、重炭酸「カリウム」〇・四ヲ三〇〇ノ水ニテ煉リ、一五〇〇ノ牛乳ヲ加ヘタルモノナリ。



### 第五類 器械的作用ヲ有スル藥物

Mechanisch wirkende Mittel.

#### 第一 諸種ノ器械的藥物、繃帶品

Mechanische Mittel verschiedener

Art, Verbandstoffe.

一部ハ諸種ノ藥形ヲ調製スル爲ニ用フ。タトヘバ丸劑撒布劑等ヲ製スル場合ノ如シ。又一部ハ外科用繃帶ノ製作ニ用ヒ、一部ハ特別ナル目的ニ用フ。

#### 品名、性状、用法

石松子

石松子 *Lycopodium.*

「リコポデアウム」屬植物ノ芽胞ニシテ、淡黄色ノ輕粉末ナリ。丸劑用ノ撒布劑トシ、以前ニハ内服ニモ供シタリ。

白陶土

白陶土 *Bolus alba. (Weisser Thon.)*

滑石

磨碎シ易キ類白色ノ物質ニシテ、硝酸銀ノ如キ、有機物ニ觸ルレバ分解シ易キ藥物ヲ以テ、丸劑或ハ煉劑ヲ製スルトキ、賦形劑トシテ用フ。

滑石(硅酸「マグネシウム」) *Talcum. (Magnesium silicicum.)*

撒布劑、煉劑、磨齒粉トシ、又洋紅ヲ加ヘテ化粧劑トス。

假製硫酸「カルチウム」(燒石膏)

假製硫酸「カルチウム」(燒石膏) *Calcium*

*sulfuricum ustum. (Gypsum ustum.)*

白色無晶形ノ粉末ニシテ、之ニ半量ノ水ヲ和スレバ、五分時間以内ニ固結スベシ。

「グッタペルカ」 *Guttapercha.*

灰色或ハ帶黃褐色ノ塊片ニシテ、沸湯中ニ投ズレバ、極メテ柔軟トナリ、冷却スレバ再ビ硬固トナル。

「グッタペルカ」



硬膏及硬膏成分

### 第二 硬膏及硬膏成分

#### Pfaster und Pfasterbestandteile.

樹脂、獸脂及單鉛硬膏(鉛石鹼)ノ粘稠ナル混劑ニシテ、布片或ハ紙片上ニ塗布シテ使用ス、其使用ノ目的ニ從ヒテ、次ノ三種ニ區別セリ。

絆創膏

(一) 絆創膏 Heftpaster 外科的ニ創縁ノ接合及繃帶ノ固定用ニ供スル絆創膏ハ、十分粘著性ヲ有シ、且容易ニ剝離シ得ベク、加之皮膚ニ強キ刺戟ヲ殘ササルモノナラザルベカラズ、現今汎ク販賣セラル、ハ、麻布ニ塗布シタルモノナリ。

覆護硬膏

(二) 覆護硬膏 Deckpfaster 多クハ單ニ皮膚ヲ保護シ、且庇護スル目的ナルヲ以テ、中性ニシテ全ク作用ナキモノヲ使用ス、サレド又屢、病的組織ノ壞敗若クハ溶化ヲ助クル爲ニ、之ヲ由リテ榮養的刺戟ヲ希望スルコトアリ、斯ノ如キ場合ニハ、樹脂或ハ之ト鉛石鹼トノ混淆ヨリ成レル硬膏ヲ選用スベシ、是此中ニハ「テレピン」油、若クハ他ノ揮發性成分、タトヘバ樟腦ヲ含有シ、刺戟ヲ起スヲ以テナリ、「コロヂウム」モ亦被覆硬膏ノ中ニ數ヘ得ベシ。

藥劑硬膏

(三) 藥劑硬膏 Arzneipfaster 今日尙ホ使用セラル、ハ、「カンタリス」及其他ノ劇シキ刺戟性ノ物質ヲ含ムモノニシテ、之ヲ貼スルトキハ、皮膚ノ炎症ト共ニ發泡ヲ生ジ、甚シキハ化膿スルコトアリ。

#### 甲 硬膏成分 Pfasterbestandteile.

「ダムマル」脂 Resina Dammar.

龍腦科所屬ノ諸植物ヨリ採集セル樹脂ニシテ、體溫ニテ軟化ス。

「コロフオニウム」 Colophonium. (Geigenharz.)

「コロフオニウム」ハ、松屬ノ植物ヨリ採集シタル「テレピンチーナ」ヨリ「テレピン」油ヲ除去シテ製シタル樹脂ナリ。

「アムモニアクム」 Ammoniacum. (Ammoniakgummi.)

「ドレマ、アムモニアクム」 Dorema ammoniacum ト稱スル繖形科植物ヨリ採取シタル乳様汁ヲ乾固シタル樹脂様物質ナリ。苦辛味ト一種ノ香氣トヲ有

硬膏成分

「ダムマル」脂

「コロフオニウム」

「アムモニアクム」

硬膏成分 「ダムマル」脂 「コロフオニウム」 「アムモニアクム」



「ガルバヌム」

ス。刺戟性硬膏ニ加フ。

「ガルバヌム」 Galbanum.

ベルシアノ北部ニ産スル繖形科植物ヨリ採取シタル乳様汁ヲ乾固シタル樹脂様ノ物質ナリ。揮發油ヲ含有ス。刺戟性硬膏ニ加フ。

黄蠟

黄蠟 Cera Flava.

蜜蜂ノ巢ヨリ採取ス。

白蠟

白蠟 Cera alba.

黄蠟ヲ精製晒白シタルモノナリ。

酸化鉛

酸化鉛(密陀僧) Plumbum oxydatum. (Lithargyrum)

類黄色或ハ類黄赤色ノ重キ粉末ナリ。

鉛丹

鉛丹 Ninium. (Mennige.)  $Pb_3O_4$

赤色ノ重キ粉末ナリ。

炭酸鉛

炭酸鉛(鉛白) Plumbum carbonicum (Cerussa.)

白色ノ重キ粉末ナリ。

硬膏

乙 硬膏 Pfaster.

單鉛硬膏

單鉛硬膏 Emplastrum Lithargyri. (Emplastrum

Diachylon simplex.) Bleipfaster.

日本藥局方ニ從ヘバ「オレーフ」油、豚脂、酸化鉛細末ノ等分ニ、少量ノ水ヲ加ヘテ作ル。

複方鉛硬膏(護謨硬膏) Emplastrum Lithargyri

Compositum. (Gummipfaster.)

複方鉛硬膏  
(護謨硬膏)



樟腦黑膏  
(母硬膏)

日本藥局方ニ據レバ、單鉛硬膏二十四分、黃蠟三分、アムモニアクム二分、ガ  
ルバヌム二分、テレピンチーナ二分ヨリ成ル。

樟腦黑膏(母硬膏) *Emplastrum fuscum can-*

*phoratum.* (Mutterpaster.)

獨逸藥局方ニ據レバ、鉛丹三十分、オレーフ油六十分ヲ混ジテ煮沸シタル  
後、黃蠟十五分、樟腦一分ヲ加ヘテ製ス。

水銀硬膏 *Emplastrum Hydrargyri.*

日本藥局方ニ據レバ、水銀三十分、無水ラノリン十五分、單鉛硬膏九十分、黃  
蠟十五分ヨリ成ル。

絆創膏 *Emplastrum adhaesivum.* (Heftpaster.)

獨逸藥局方ニ從ヘバ、單軟膏四十分、固形「バラフィン」二分五分、流動「バラフィン」二  
五分、コロフォニウム三十五分、ダムマル、護謨脂十分、含硫護謨十分、石腦油、ベ

ンツイン、七十五分ヨリ成ル。

「コロヂウム」 *Collodium.*

日本藥局方ニ據レバ、「コロヂウム」綿二分ヲ「エーテル」四十二分、酒精七分ノ  
混液ニ溶解シテ得タル中性ノ液ナリ。

彈力「コロヂウム」 *Collodium elasticum.*

日本藥局方ニ據レバ、「コロヂウム」九十四分、蓖麻子油一分、テレピンチーナ  
五分ヨリ成ル。油ヲ含有スル爲ニ、全ク乾燥セズ、能ク彈力ヲ保ツヲ以テ此  
名アリ。

「コロヂウム」

彈力「コロヂ  
ウム」



## 臟器療法 Organotherapie.

### 總論

人體又ハ動物體ノ臟器ヲ治療ニ應用セル起原ノ極メテ古キコトハ、歴史ノ示ストコロナレドモ、是等ハ皆誤レル臆説又ハ一種ノ迷信的傳説ニ基キテ行ハレタルモノニシテ、毫モ學術上ノ價值アルニアラズ、之ニ反シテ今日ノ所謂臟器療法ナルモノハ、學術上ノ事實及實驗ニ基キタル方法ニシテ、其起原ト認ムベキハ、一千八百六十九年ブローン、セカール Brown-Séguard ノ論述シタル内分泌ノ學說ナリ。

人體並ニ動物體内ノ諸臟器中ニハ、分泌ヲ司ルモノ多シ、之ヲ腺ト名ク、肺、汗腺、唾液腺、胃腺、脾、肝、腎、等皆之ニ屬ス、腺ハ各組織中ニ於テ、新陳代謝ニ由リテ生ジタル毒性產物ヲ排泄シ、或ハ體腔内ニ於テ、食物ノ消化等ノ作用ノ行ハル、ニ必要ナル物質ヲ分泌スルモノニシテ、其機能ノ一日モ缺クベカラザルモノナルコトハ、從來人ノ熟知スルトコロナリ、但是等ノ諸腺ト雖、單ニ分泌ヲ司ルノミニ非ズ、タトヘバ肝臟ノ如キハ、門脈系及動脈ヨリ來ル多量ノ

内分  
外分  
泌

血液ヲ受ケテ、盛ニ榮養素ノ同化機能ヲ營ミ、或ハ「グリコゲン」ヲ作り、或ハ脂肪ヲ貯蓄シ、ソノ同化シタル物質ハ、靜脈及淋巴管ニ依リテ血中ニ送ルモノニシテ、膽汁ノ分泌ノ如キハ、寧ロソノ副機能ニ過ギザルコトハ、既ニ久シク人ノ知ル處ナリ、然ルニ茲ニ是等ノ分泌腺ト異ナル所謂血管腺 Blutgefäßdrüsenト稱スル臟器アリ、其外形及構造ハ、大ニ腺ニ類似シ、殊ニ血管ニ富メリト雖、腺ノ如クニ分泌液ヲ出スベキ輸送管ヲ有セズ、之ヲ數フベキモノハ、甲狀腺、副甲狀腺、副腎、大腦垂體、松果腺等ニシテ、其機能永ク不明ナリシニ、臨牀上ノ實驗及動物試驗ノ結果ハ、漸ク其生活ニ必要ナルモノナルコトヲ明ニシ得ルニ至リ、之ヲ證明スルニ、二様ノ學說ヲ生ジタリ、其一ハブローン、セカールノ内分泌説ヨリ來レルモノニシテ、其説ニ曰ク、諸種ノ臟器殊ニ腺組織ヲ有スル臟器ハ、其輸送管ヲ有スルト有セザルトニ拘ラズ、生體ノ其機能ヲ營ム爲ニ缺クベカラザル特種ノ物質ヲ作り、之ヲ血中ニ逆送スルモノニシテ、之ヲ呼ンデ内分泌 Sécrétion récrémentielle (innere Sekretion) ト云ヒ、之ニ對シテ、普通ノ分泌排泄ヲ、外分泌 Sécrétion excrémentielle (externe Sekretion) ト稱ス、此内分泌ニ由リテ、血中ニ輸送セラル、物質ハ、生體ノ健康ヲ保ツニ必要ナルモノ



腺器療法ノ原

ニシテ、若シ此作用ヲ有スル或臓器ニシテ、其機能ヲ失フコトアラシカ、生體ハ忽チ特種ノ疾病ニ罹ルコトヲ免レザルベシ。而シテ此際ニ其内分泌ニ由リテ生ズル物質ヲ含メル臓器ヲ探リテ、之ヲ與ヘテ缺乏ヲ補フトキハ、其疾病ヲ除キ、或ハ之ヲ輕快セシムルコトヲ得ベシト云ヒ、他ノ一ハ解毒說ニシテ、之ニ從ヘバ、腺殊ニ血管腺ハ、新陳代謝ノ毒性產物ヲ取り、之ヲ化學的變化ニ由リテ無害トナシ、以テ生體ヲシテ自家中毒 Autointoxication ヲ免レシムルモノナリ。故ニ是等ノ腺ノ、其機能ヲ失フトキハ、自家中毒トシテ一種ノ疾病ヲ起スベク、其腺物質ヲ與ヘテ疾病ノ輕快又ハ治愈ヲ見ルハ、腺内ニ含有セラル、一種ノ物質ノ、體内ノ毒物ヲ破壊スル爲ナリト云フ。

今日ニ於テハ、兩說共ニ正シクシテ、諸種ノ臓器ハ、或ハ單ニ内分泌ノミヲ營ミ、或ハ主ニ解毒作用ヲ呈シ、或ハ同一臓器内ニテ解毒、内分泌ノ兩機能ヲ同時ニ行フモノアリト看做サルベカラズ。

### 第一 甲状腺

Glandula Thyroidea.

甲状腺

手術性粘液水腫  
除甲状腺惡液質  
「クレチニス」

甲状腺ノ生體ノ健康ヲ保ツニ就テ、必要ナル機能ヲ有スト云フコトハ、外科臨牀上ノ實驗ニ依リテ、始テ學者ノ注意ヲ惹クニ至リタリ。即チ甲状腺腫竝ニ其他ノ甲状腺ノ疾病ニ際シテ、外科的ニ全ク甲状腺ヲ切除スルトキハ、其患者ノ粘液水腫様惡液質ニ罹ルヲ見ルベシ。之ヲ手術性粘液水腫 Myxoedemic operative 又ハ除甲状腺惡液質 Cachexia Strumipriva ト云フ。其症狀ハ、通常特發性粘液水腫 Myxoedem ト全ク同ジ殊ニ幼年者ノ、手術ニ依リテ之ニ罹ルトキハ、身體竝ニ精神ノ發達ニ顯著ノ障礙ヲ受ケテ、クレチニスムス病 Kretinismus ニ酷似シタル症狀ヲ呈ス。而シテ「クレチニスムス」及粘液水腫ノ兩病ニ於テハ、甲状腺ノ退行變性ヲ認め、之ヲ發スルハ、甲状腺機能ノ缺損ノ結果ナルコトヲ知リ得タリ。動物試驗ニ於テ、猿、羊、驢馬等ノ甲状腺ヲ摘出スルトキハ、人類ニ於ケル如ク、粘液水腫様ノ病症ヲ發シテ斃ル、モノニシテ、若シ其斃ル、ニ先チテ、他ノ同種ノ動物ノ甲状腺ヲ探リテ、之ヲ移植スルトキハ、當ニ其生命ヲ救ヒ得ルノミナラズ、其症狀ノ減退スルヲ認ムベシ。若シ甲状腺ノ移植ノ目的ヲ達スルコトヲ得ズシテ、其甲状腺ノ漸次吸收セラレタル場合ニモ、病症ハ一時大ニ輕快シ、全ク吸收セラレ果ツルニ至リテ、再發スルヲ

甲状腺

三七二



甲狀腺ノ内分  
泌

見ルベシ之ニ由リテ粘液水腫ノ輕快スルハ、甲狀腺ノ生活機能ヲ營ミタル結果ニアラズシテ、腺組織中ニ含マル、特種ノ物質ノ、吸收セラル、爲ナルコトヲ知リ、次テ甲狀腺ノ生理食鹽水浸出液ヲ、皮下ニ注射スルモ、亦甲狀腺ヲ移植シタルト同様ノ效ヲ收メ得ルコトヲ知ルニ至レリ。即チ甲狀腺ハ、特種ノ物質ヲ内分泌スルモノニシテ、此物質缺乏スレバ、人類並ニ動物共ニ粘液水腫ニ罹ルモノトス。

### 有效成分

甲狀腺ノ特殊ノ物質ヲ内分泌スルハ、疑ナキ事實ナルガ、然ラバ其特殊ノ物質トハ如何ナルモノナルカ、藥用ニ供セラル、甲狀腺ノ有效成分ハ何者ナルカト云フニ、之ヲ析出スル爲ニハ、實ニ數多ノ化學者ヲ勞シタリ。就中パウマン *Baumann* ハ、甲狀腺中ニ於テ、「ヨード」ヲ含有スル一種ノ物質アルコトヲ發見シ、之ヲ析出シテ、「ヨードチリン」又ハ「チロヨチン」 *Jodthyrin* s. *Thyrojodin* ト命名シタリ。此物質ニハ、約十「プロセント」ノ「ヨード」ヲ含有ス。サレド、甲狀腺中ノ有效成分ハ、全ク「ヨードチリン」ヲ以テ代表セシムルコトヲ得ズ。少クトモ尙ホ他ニ有效成分アルコト必定ナリト雖、其成分ノ何タルカハ、今日ニ於テ

「ヨードチリン」  
「チロヨチン」

ハ、未ダ不明ニ屬ス。

### 生理的作用

甲狀腺ノ有效成分ハ、消化液ノ爲ニ變化セズ、而シテ消化器粘膜ニ依リテ吸收セラル、ヲ以テ、内服スルモ其效ヲ奏ス。

健康人ニ少量ノ甲狀腺ヲ與フルトキハ、脈搏ノ増加、尿ノ增量、發汗等ノ症狀ヲ發シ、且物質交換ノ亢盛スル爲ニ、皮下脂肪ノ減少、瘦削、體重ノ減少ヲ來スノ外、別ニ異常ヲ呈セザレドモ、大量ヲ用フルトキハ、一種ノ中毒症狀ヲ發シ、發疹、頭痛、惡心、食慾減退、心悸亢進、心臟衰弱、震顫、發熱、視力障礙殊ニ弱視、關節痛等ノ神經症狀ノ外、新陳代謝機ノ異常ノ亢進ノ爲ニ、高度ノ瘦削ヲ來タシ、且蛋白尿、糖尿等ヲ現ハスコトアリ。甚シキ中毒ニ於テハ、神經系ノ障礙強ク、昏睡ニ陥リ、痙攣ヲ起シテ死ニ轉歸スルニ至ル。之ヲ甲狀腺中毒 *Thyroidismus* ト云フ。此中毒症狀ノ「バセド」病ノ症狀ニ似タル所アルハ、學理上多大ノ興味アルコトナリトス。

甲狀腺中毒

### 醫治效用

甲狀腺ノ最モ汎ク用ヒラレ、且最モ效ヲ奏スル場合ハ、除甲狀腺惡液質、粘液



水腫及「クレチニスム」ナリトス。是等ノ疾病ニ甲狀腺ヲ用フルトキハ、數日ヲ出デズシテ、水腫減少シ、皮膚潤澤トナリ、新陳代謝機亢進シ、體溫通常度ニ昇リ、粘液水腫ノ體溫ハ平常以下ニ降ル。尿量増加シ、毛髮ノ脱落、齒牙爪甲ノ萎縮等恢復シ、神經系ノ機能活潑トナリ、知識記憶、動作等凡テ舊ニ復ス。而シテ幼年者ニ於テハ、其身體再ビ發育シ、殊ニ骨格ノ成長シ始ムルヲ認ムベシ。但此恢復ハ一時性ニシテ、時ヲ經レバ、病症更ニ再發スベキヲ以テ、斷エズ甲狀腺ヲ用ヒテ、之ヲ豫防セザルベカラズ。

甲狀腺ハ、新陳代謝機ヲ亢進シテ、瘦削ヲ起ス作用アルヲ以テ、之ヲ肥胖病ニ試ミタルニ、或場合ニハ著效アリキ。殊ニ婦人ニ於テ多ク見ルトコロノ貧血性脂肪肥滿竝ニ萎黃病性脂肪肥滿等ニ、甲狀腺ヲ用フルトキハ、尿量大ニ増加シ、體量著ク減少スベシ。斯ノ如キ效力ヲ現ハス原因ハ、酸化作用ノ亢進ノ爲ニ、組織内ノ脂肪ノ、燃燒ニ由リテ減少スルニアリ。

甲狀腺ハ、甲狀腺腫 Struma ニ内用ス。實質性甲狀腺腫ニハ、度々著效ヲ奏スルコトアレドモ、其他ノモノ、殊ニ囊狀變性ヲ呈セルモノニハ、奏效確實ナラズ。』バセドール病ニ甲狀腺ヲ用ヒテ、甲狀腺腫ノ縮小竝ニ一般症狀ノ輕快ヲ見ル

コトアリ。ザレド時トシテハ、之ガ爲ニ劇烈ナル甲狀腺中毒ヲ起スコトアリ。元來バセドール病ニ於テハ、甲狀腺ノ機能亢進シ、一種ノ甲狀腺中毒ト認ムベキ疾病ナルヲ以テ、之ニ甲狀腺ヲ與ヘテ中毒ヲ起シ易キハ、理ノ當然ナリ。故ニバセドール病ニ甲狀腺ヲ試ミントスル場合ニハ、先ヅ少量ヨリ用ヒ始メテ、其中毒ヲ起スコト無キカト云フコトヲ、常ニ注意セザルベカラズ。其他甲狀腺ヲ鱗屑疹、四肢肥大症ニ用ヒテ奏效スルコトアリト云フ者アレドモ、確實ナラズ。

製劑及用量

甲狀腺 Glandula thyroidea.

藥用ニ供スル甲狀腺ハ、羊劊羊、犢若クハ牛等、凡テ反芻獸ヨリ採取スルモノニシテ、何レノ獸ヨリ採取スルモ、其效力ニ差違ナシ。用法ハ新鮮ナルモノヲ搗碎シテ、之ヲ麵包ニ包ミ、所謂「サンドキッチ」形トナシ、又ハ「オブラート」ニ包ミテ内用シ、或ハ腺ヲ乾燥シテ粉末トナシ、錠劑ノ形トナシテ内用ス。後者ハ保存上、取扱上大ニ便利ナリ。小ナル反芻獸ヨリ採取シタル新鮮ナ

甲狀腺ハ反芻獸ヨリ採取ス



有效成分ハ容易ニ變化セズ

甲状腺錠

「アイオチン」  
「チラデン」

「ヨードチリン」  
「チロヨチン」

「ヨードチリン」

三七六

ル腺ノ量ハ、大約五乃至十グラムアリ。其有效成分ハ煮沸乾燥シ、或ハ消化液等ニ觸レシムルモ、其效力ヲ變ゼズ。且消化器ヨリシテ吸收セラル、モノナルヲ以テ、大ニ使用ニ便ナリ。  
用量ハ、新鮮ナル腺ノ物質〇・五乃至一・五ヲ、一日數回ニ分服ス。販賣ノ甲状腺錠ハ、其一個中ニ、〇・三ノ新鮮腺ニ相當スル有效成分ヲ含ミ、一日ニ二個乃至五個ヲ用フ。又販賣ノ「アイオチン」、Aiothin 一・〇中ニハ、新鮮腺一〇・〇ノ有效成分ヲ含ムヲ以テ、其用量ハ腺ノ十分ノ一ニテ足ル。其他「チラデン」Thyraden ト稱スル製劑アリ。其一〇中ニハ甲状腺二〇ニ相當スル成分ヲ含ミ、其用量ハ新鮮腺ノ二分ノ一ナリ。

「ヨードチリン」(「チロヨチン」) Jodothyrin. (Thyroidin)

販賣ノ「ヨードチリン」ハ、乳糖ヲ混ジタルモノニシテ、其千分中ニ、三分ノ「ヨードチリン」ヲ含ム。而シテ「ヨードチリン」ハ、約十分ノ一ノ「ヨード」ヲ含有スルガ故ニ、「ヨード」ノ含量ハ、一萬分ノ三ナリ。「ヨード」含量ハ、新鮮ナル腺ト略同一ナリトス。用量ハ一〇乃至二〇ヲ、一日ニ分服セシム。甲状腺ニ代用ス

レドモ、多クノ場合ニ於テハ、腺物質ノ有效ナルニ若カズ。

(附)

「アンチチレオイチン」 Antithyreoidin.

「アンチチレ  
オイチン」  
「パセド」病ニ  
用フ

「アンチチレオイチン」ト稱シテ販賣セラル、血清ハ、羊ノ甲状腺ヲ摘出シテ、粘液水腫様惡液質ニ罹ラシメ、其血清ヲ採取シタルモノニシテ、「パセド」病者ノ皮下ニ注射シ、或ハ内用セシム。是甲状腺ハ、生理的ニ一種ノ物質ヲ内分泌シ、其物質ハ、血中ニ於テ、新陳代謝ニ由リテ産出シタル毒性物質ヲ中和スル作用アリトノ臆説ニ原ヅキタルモノニシテ、甲状腺ヲ切除シテ、其毒性産物ヲ血中ニ蓄溜セシメ、其血清ヲ採リテ、「パセド」病ノ如キ甲状腺機能ノ亢進ノ爲ニ、内分泌過多トナリ、却テ一種ノ中毒ヲ起シタリト認メ得ベキ者ニ與ヘテ、之ヲ中和セントスル方法、即チ粘液水腫ニ甲状腺ヲ與フルトハ、全ク反對ノ療法ト看做スベキナリ。サレド其效力ノ有無ハ、未ダ確定セラル、ニ至ラズ。

「アンチチレオイチン」

三七七



## 第二 副甲狀腺 Glandula parathyreoides.

手術的ニ甲狀腺ヲ切除シタルトキニ當リ、前章甲狀腺ノ條下ニ於テ述ベタル如キ、粘液水腫ノ外ニ、痙攣症(テタニー)ヲ起スコトヲ實驗シ、ソヲ除甲狀腺「テタニー」Tetania Strumpfivitaト名ヅケテ、粘液水腫ト同ジク、甲狀腺機能缺損ノ結果ト看做シタリシニ、近來精細ナル検査ヲ遂ゲテ、此症狀ノ甲狀腺切除ノ結果ニアラズシテ、甲狀腺ト共ニ副甲狀腺ノ切除セラレタル爲ナルコトヲ明カニスルコトヲ得タリ、副甲狀腺ハ又上皮小體 Epithelkörperchenトモ稱シ、甲狀腺ニ類似シタル構造ヲ有シ、甲狀腺内ニ存シ、或ハ之ニ附著セル小サキ臓器ナリ。

副甲狀腺ノ生體ニ必要ナル臓器ナルコトハ、外科臨牀上ノ實驗ノミナラズ、動物殊ニ犬ノ如キ肉食獸ニ就テ、巧ニ之ヲ摘出スルトキハ、タトヒ甲狀腺ハ傷ツタルコトナクシテ存スルモ、其動物ノ「テタニー」ニ等シキ痙攣症ヲ發シテ、死スルニ由リテ、之ヲ證スルニ足ルベシ。故ニ副甲狀腺モ亦内分泌ニ由リテ、特殊ノ物質ヲ血中ニ送ル作用若クハ有毒ナル代謝產物ヲ解毒スル働ヲ

「テタニー」ト  
副甲狀腺トノ  
關係

有スルモノニシテ、其生活ニ必要ナル臓器ナルコトハ想像スルニ足ル。而シテ今日迄ノ實驗ノ結果ハ、寧ロ解毒作用アルコトヲ證スルモノニシテ、從テ副甲狀腺ヲ以テ「テタニー」ヲ治セシムベキコトハ學理上困難ナリ。サレド既ニ斯ノ如ク副甲狀腺ト「テタニー」トノ關係明瞭トナリタルヲ以テ、甲狀腺手術後ノ「テタニー」ハ勿論、胃擴張等ニ併發スル「テタニー」<sup>ニカウシツレ</sup>、或ニ子痙等ニモ、副甲狀腺ノ内服又ハ其浸出液ノ皮下注射ヲ試ミ、其治癒ヲ企テ、實際良效ヲ奏シタルコトアリ。サレド又全ク效ナキコトアルガ如シ。サレバ副甲狀腺ノ「テタニー」ニ對スル作用ハ、尙ホ今後ノ實驗ニ依リテ確定スベキモノトス。

## 第三 副腎 Glandula suprarenalis.

アヂソン病ト副腎ノ病變トノ關係ノ、病理解剖ニ於テ發見セラレタル以來、諸種ノ動物ニ就テ、副腎ノ摘出ヲ試ミタルニ、動物ハ多クハ二三十時間ヲ出デズシテ、盡ク人類ノアヂソン病ニ酷似セル衰弱状態ヲ以テ斃ル、ヲ見キ。之ニ由リテ副腎ノ生活上不可缺ノ臓器ナルコトヲ知り、遂ニ副腎髓質中ニハ、一種藥理的有力ノ物質ヲ含ミ、其物質ノ斷エズ副腎靜脈ヲ通ジテ、血中ニ

副腎

アヂソン病ト  
副腎トノ關係



分泌セララル、モノナルコトヲモ明カニスルニ至レリ、然レドモ副腎ハ内分  
 泌ノ外、尙解毒ノ作用ヲモ有スルモノ、如シ、即チ副腎摘出後ニ起ル骨格筋  
 力ノ減弱、瘦衰ハ、副腎ノ有效成分ヲ與フルモ之ヲ除クコトヲ得ズ、且其動物  
 ノ生命ノ之ガ爲ニ多少ノ延長ヲモナスコトナキヲ以テ見レバ、副腎ハ内分  
 泌ノ外新陳代謝ノ毒性産物、殊ニ骨格筋ノ收縮ノ爲ニ生ズル毒物ヲ解毒ス  
 ルノ機能アリト考フルコトヲ得ベシ。

### 有效成分

副腎ノ有效成分ヲ、化學的ニ純粹ニ析出シタルハ高峯ニシテ、氏ハ之ニ「アド  
 レナリン」Adrenalin ナル稱ヲ附シタリ、此物質ハ「ブレンツカテヒン」ノ誘導體  
 ニシテ、類鹽基ノ性質ヲ有シ、酸類ト化合シテ、鹽ヲ作ル、其化學的構造モ亦明  
 ナルヲ以テ、今日ニ於テハ、人工ニ由リテ、合成的ニ之ヲ製出スルコトヲ得テ、  
 既ニ販賣セララル、ニ至レリ。

「アドレナリン」ハ副腎ノ髓質中ニ存シ、皮質中ニハ存セズ而シテ副腎靜脈ハ、  
 「アドレナリン」ヲ比較的多量ニ含有スルヲ以テ、其常ニ髓質ヨリ分泌セララ  
 ルコトヲ知ルニ足ルベシ、副腎中ニハ「アドレナリン」ノ他ニ、尙ホ有效成分ア

「アドレナ  
 リン」

所在

ルベシト推測セララルレドモ、未ダ檢出スルニ至ラズ、但「アドレナリン」ノ副腎  
 内分泌ノ主成分ナルコトハ疑ヲ容レズ。

### 生理的作用

「アドレナリン」ハ、副腎ノ有效成分ヲ代表スルモノナルヲ以テ、茲ニ其生理的  
 作用ヲ述ブベシ。

「アドレナリン」ハ、主トシテ交感神經ノ末梢ニ存スル裝置ニ働キ、從テ心臟及  
 血管竝ニ其滑平筋ヲ有スル臟器及分泌腺ニ働ク作用アリ、而シテ中樞神經  
 系ニハ直接ニ作用セザルガ如シ。

今一ノ動物ニ就テ、之ニ少量ノ「アドレナリン」即チ體量一「キログラム」ニ對シ  
 テ、六百分ノ一乃至百分ノ一「ミリグラム」ノ「アドレナリン」ヲ血中ニ注射スル  
 トキハ、血壓ノ昇騰ヲ來ス、而シテ脈搏ハ、此際少シク其數ヲ減ズベシ、昇騰セ  
 ル血壓ハ、數分時ヲ出デズシテ再ビ下降スレドモ、反覆シテ注射スルトキハ、  
 能クソヲ昇騰セシメタルマ、ニテ保ツコトヲ得ベシ、斯ノ如ク藥效ノ早ク  
 消失スルハ、組織ニ觸ルレバ直ニ酸化セララル、ニ由ル（「アドレナリン」ハ體外  
 ノ試験管内ニ於テモ「アルカリ」性トナセバ、直ニ酸化ス）若シ心臟麻痺等ノ爲

血壓ノ昇騰ヲ  
 來ス



血管收縮ノ原

ニ、血壓ノ著シク下降シタル際ナルトキハ、アドレナリンノソヲ昇騰セシムルコト更ニ一層顯著ナルベシ。

何故ニ「アドレナリン」ハ斯ク血壓ヲ昇騰セシムルカト云フニ、ソハ「アドレナリン」ノ心臟ヲ鼓舞スルト、血管ヲ收縮セシムルトト二作用アルニ由ル。就中後者ノ作用ヲ主トス。

血管ノ收縮ハ、小動脈及毛細管ニ於テ最モ甚シキモ、其他ノ動脈管ニ於テモ、之ヲ現ハスコト勿論ナリトス。此血管收縮ノ原因ハ、血管運動神經ノ中樞ノ興奮スル爲ニアラズシテ、血管壁ニ終ルトコロノ交感神經ノ末梢ノ刺戟ニヨル。而シテ血管ノ收縮ハ「アドレナリン」ノ局所作用トシテ、ソヲ使用シタル場所ニノミ起リ、其部ハ全ク無血ノ状態トナリ、切開スルモ毫モ出血セザルニ至ル。但シ血管ノ收縮ハ、大循環ノ血管ノミニ起ルモノニシテ、小循環即チ肺ノ血管ハ「アドレナリン」ニヨリテ收縮スルコトナシ。加之心臟ノ冠狀動脈ハ「アドレナリン」ノ爲ニ却テ擴張スルモノトス。

心臟ノ鼓舞セラル、ハ「アドレナリン」ノ交感神經ノ末梢タル心内運動神經節ヲ刺戟興奮セシムル爲ニシテ、神經系及血管ト全ク絶縁シタル心臟ニ試

心臟興奮ノ原

ムルモ、尙ホ心臟搏動ノ其數ヲ増シ、且強力トナレルヲ見ル。動物試験ノ際ニ、脈搏ノ其數ヲ減ズルハ、血壓亢進ヲ矯整セントシテ、心臟制止神經中樞ノ反射的ニ興奮スルニ由ル。「アドレナリン」ハ斯ノ如キ作用アルヲ以テ「クロロアル」、「クロロフォルム」等ノ中毒ニ由リテ、心臟ノ静止シタルトキ、即チ所謂「心臟麻酔」ヲ起シタルトキニ、之ヲ用フレバ、能ク心臟ヲシテ再ビ搏動ヲ始メシムルコトヲ得ベシ。此作用ハ臨牀上ニ應用スルニ足ル。

「アドレナリン」ハ、消化器ノ平滑筋ニ對シテハ、交感神經ノ刺戟ト同ジク、一般ニ運動制止ノ作用ヲ有ス。泌尿器ニ於テハ、輸尿管ノ收縮、膀胱ノ弛緩ヲ來シ、生殖器ニ於テハ、兩性トモ總テノ部分、特ニ婦人ニ於テハ子宮ノ收縮ヲ來ス。「アドレナリン」ハ、又唾液腺、涙腺、粘液腺等ノ分泌ヲ増加スル作用アリ。是腺細胞ニ於ケル交感神經末梢ヲ直接ニ刺戟スルニ由ルモノニシテ、「アトロピン」ノ少量ヲ用フルモ、其分泌ヲ制止スルコトヲ得ズ。大量ヲ用ヒテ初テ之ヲ制止スルコトヲ得ベシ。

健康體ニ於テハ「アドレナリン」ハ斷エズ副腎ヨリ血中ニ分泌セラレテ、血管ヲ緊張シ、心臟ヲ鼓舞スルモノナルヲ以テ、若シ一朝副腎ノ機能ニ障礙ヲ生



ジ、其内分泌ノ減少若クハ廢絶スルトキハ、生體ハ心臟ノ衰弱、血壓ノ沈降ヲ來スベシ。アヂソン病ハ即チ其實例ナリ。  
「アドレナリン」ハ組織ニ觸ルレバ、速ニ酸化セラルト雖、血中ニアル間ハ長ク變化セズシテ存ス。

「アドレナリン」ノ急性中毒

「アドレナリン」ノ大量ヲ用フルトキハ、種々ノ副作用ヲ現ハス。即チ急性ノ中毒症トシテ、呼吸困難、無慾狀態、心動不整等ヲ來タシ、尙ホ甚シキハ、呼吸靜止又ハ心臟ノ靜止等ヲ來タシ、之ガ爲ニ死ニ轉歸スルコトアリ。是等ノ症狀ハ「アドレナリン」ノ間接作用ニシテ、中樞神經系ノ症狀ハ、血管ノ收縮ノ爲ニ起ル貧血竝ニ血壓ノ異常亢進ノ結果ト看做スベク、心臟ニ於ケル症狀ハ、デギタリス「中毒」ノ際ノ如ク、心筋ノ收縮性靜止ニ原ヅクト認ムベシ。犬及家兎ハ其體重一「キログラム」ニ就テ、「アドレナリン」〇・一乃至〇・二「ミリグラム」ヲ血中ニ注射スレバ、斯ノ如キ致死ノ中毒ヲ發スベシ。  
人類ニ對シテハ、「アドレナリン」〇・二乃至〇・三「ミリグラム」ヲ血中ニ注射スレバ、既ニ呼吸困難、心悸亢進、胸部苦悶等ノ中毒症狀ヲ起スコトヲ實驗セラレタリ。

「アドレナリン」ノ糖尿

「アドレナリン」使用後ニ、屢、糖尿ヲ見ルコトアリ。此症狀ハ藥用量ニ於テモ現ハル、コト多シ。是臍臟ノ内分泌機能ヲ制止スル爲ナリト信ゼラル。

「アドレナリン」ノ慢性中毒

「アドレナリン」ノ慢性中毒ハ、幸ニシテ未ダ人類ニハ經驗ナシト雖、試驗動物殊ニ家兎ニ於テハ、慢性中毒トシテ、一ツノ危險ナル副作用ヲ發スルヲ見ル。即チ比較的少量ノ「アドレナリン」ヲ持續シテ血中ニ注射スルトキハ、數週若クハ數月後ニ、其動物ヲ剖見スルニ、大動脈壁ニ「アテローム」様變性ヲ生ジ、且所々ニ動脈瘤様ノ隆起竝ニ石灰沈著等ヲ認ムベシ。此變化ハ、大動脈以外ニ於テハ、腎動脈ニ於テ認メタルコトアレドモ、其他ニハ實驗セラレタルコトナシ。斯ノ如キ石灰ノ沈著及隆起ヲ生ズルハ、動脈中膜ノ滑平筋ノ壞死スル爲ニシテ、其壞死ノ起ルハ、恐クハ自家脈管ノ收縮甚シクシテ、脈管壁ノ榮養ノ絶ユル爲ナルベシ。

其原因

「アテローム」様變性及動脈瘤ヲ生ズ

### 醫治效用

「アドレナリン」ノ最モ汎ク應用セラル、ハ、ソヲ用ヒタル局所ノ血管ヲ收縮セシメテ、高度ノ貧血ヲ起ス作用ナリ。之ニ由リテ大ナラザル外科手術ハ、殆ド無血ニ之ヲ行フコトヲ得ベク、殊ニ之ニ伍スルニコカイン、「オイカイン」

副腎 醫治效用



無血・無痛手

「ストヴァイン」等ノ局所知覺麻痺劑ヲ以テスルトキハ、手術ヲシテ、無血且無痛ニ終ラシムルコトヲ得ベシ、殊ニ「アドレナリン」ニ由リテ收縮セル血管ハ、局所ヨリ藥物ヲ吸收スルコトナキヲ以テ、「コカイン」等ハ、其少量ニテ十分ニ效ヲ奏シ、且吸收後ニ起ル副作用ヲ避クルコトヲ得ベシ。

脊髄知覺麻痺ノ目的ニテ、「コカイン」竝ニ其他ノ知覺麻痺劑ヲ應用スト云フコトハ、上卷「コカイン」ノ條下ニ於テ述ベタリ。此場合ニ少量ノ「アドレナリン」ヲ伍シテ用フルトキハ、「コカイン」等ノ奏效確實ニシテ、且其吸收ノ爲ニ起ルベキ副作用モ亦少シト云フ。

出血ニ用フ

「アドレナリン」ハ、亦止血ノ目的ヲ以テ、創傷及其他ノ出血ニ用ヒラル。其他收斂劑トシテ、結膜炎、鼻加答兒、喉頭加答兒等ノ炎症ニ用ヒテ、其血管收縮ノ作用ニ由リ、能ク效ヲ奏ス。

「アドレナリン」ヲアヂソン病ニ内服セシムルコトアレドモ、其奏效著カラズ。但心臟ノ衰弱ト血壓ノ沈降トニ對シテ、一時ノ奏效アルハ疑ナシ。アヂソン病ニハ、「アドレナリン」ヨリモ、副腎、エキス又ハ其錠劑ノ方優レリト云フ。

心臟麻酔

「アドレナリン」ハ前ニ述タルガ如ク、麻酔劑ノ心臟麻酔ノ場合ニ、靜脈内ニ注

喘息

射スレバ效アリ。喘息發作ノ氣管枝粘膜ノ腫脹ニ原因スルモノニ、「アドレナリン」ノ皮下注射ヲ行フトキハ、偉效ヲ收ムルコトアリト云フ。試ムベシ。但シ「アドレナリン」ハ、氣管枝滑平筋ヲ弛緩セシムル働ナキヲ以テ、滑平筋ノ痙攣ニ因スル喘息ニハ效ナシ。

骨軟化症。佝僂病

其他骨軟化症及佝僂病ニハ、副腎ノ變化ヲ伴フト云フコトヨリシテ、是等ノ疾病ニ、副腎製劑ノ内用又ハ、「アドレナリン」ノ皮下注射ヲ行ヒテ效アルコトアリト云フ。

注意

「アドレナリン」ヲ治療ニ應用スルニ當リテハ、前ニ論ジタル如ク、血管壁ノ「アテローム」様變性等ヲ起ス虞アルヲ以テ、其濫用ヲ慎マザルベカラズ。

製劑、用量

鹽化「アドレナリン」 Adrenalinum hydrochloricum.

販賣ノ鹽化「アドレナリン」ハ、一千倍ノ溶液トシテ、生理食鹽水ニ溶解シタ

鹽化「アドレナリン」



ルモノナリ。外用即チ手術、止血、收斂等ノ目的ニハ、一萬倍乃至千倍ノ溶液ヲ用フ。即チ販賣品ヲ其儘又ハ十倍迄ニ稀釋シテ用フ。靜脈内注射ニハ、販賣溶液ヲ更ニ生理食鹽水ニテ十倍ニシ、其四分ノ一乃至二分ノ一箇即チ鹽化「アドレナリン」〇・二五乃至〇・五ミリグラムヲ用ヒ、喘息、骨軟化症、佝僂病等ニハ、販賣溶液其儘ニテ、四分ノ一乃至二分ノ一箇ヲ皮下ニ注射ス。内用量ハ、其五乃至三十滴ナリ。

(處方例)

- (一) 鹽化「アドレナリン」溶液(千倍) 〇・五
- 鹽酸「コカイン」 〇・一
- 滅菌水 一〇〇
- 右局所貧血、知覺麻痺ヲ起ス爲ニ、外用又ハ注射ス。
- (二) 鹽化「アドレナリン」溶液(千倍) 一〇
- 鹽酸「コカイン」 〇・二
- 硫酸亞鉛 〇・二
- 蒸留水 一〇〇

「エビチフリ  
ン」  
「パラチフリ  
ン」  
「ズブラレニ  
ン」

副腎「エキス」  
副腎錠劑

睾丸

去勢ノ動物ニ  
及ボス影響

右結膜腔ニ點眼ス(慢性結膜加答兒)

其他「エビチフリン」Epinephrin「パラチフリン」Paraneprhin「ズブラレニン」Supra-  
renin等ノ名ヲ以テ、或ハ鹽酸鹽トシ、或ハ硼酸鹽トシ、何レモ一千倍ノ生理食  
鹽水ニ溶解シテ販賣スルモノアリ、是等ノ製劑ハ、何レモ結晶セル純精ノモ  
ノヨリ作レルガ如シ、皆「アドレナリン」ト異名同物ニシテ、唯商名登録上別稱  
ヲ用ヒタルニ過ギズ、近來化學的ニ「アドレナリン」ヲ製造シ、人工「ズブラレニ  
ン」Suprareninum Syntheticumノ名ニテ販賣セラル。

副腎「エキス」副腎錠劑等ハ、今ハ用ヒラレズ、唯稀ニアチソン病、佝僂病、骨軟化  
症ニ用ヒテ、「アドレナリン」ヨリモ效アリト稱スル人アルノミ。

#### 第四 睾丸 Testiculus.

雄性動物ノ有スル睾丸ハ、生殖素ヲ含有スル液體ヲ分泌スル腺ニシテ、之ニ  
由リテ繼續者、即チ子孫ヲ造リテ、自己ノ種族ヲ保有スル用アルコトハ、言ヲ  
待タズト雖、尙其他ニ動物ノ發育並ニ新陳代謝等ニ對シテ、重大ナル關係ア  
リ。去勢セル動物及ビ人類ノ、普通健康人ニ比シテ、種々ノ異狀アルコトハ、既



ニ久シク人ノ知レルトコロニシテ、殊ニ著キハ、其男性續發特徵ヲ呈セザルコトナリ、タトヘバ去勢シタル動物ハ、從順ニシテ靜穩ナレドモ、必要アル場合ニ於テ、去勢セザル動物ホドニ大ナル力量ヲ出シ、且久シク其勞ニ耐フルコトヲ得ズ、而シテ有角獸ナラバ、角ノ發育惡シク、鷄等ナラバ、鷄冠小ニシテ、且其新陳代謝機緩慢トナリ、從テ脂肪ノ附著多ク、其外觀性質共ニ、凡テ牝動物ニ近似ス、而シテ是等去勢セル動物ニ睾丸ヲ移植スルトキハ、此場合ニハ切除シタル睾丸ヲ直ニ用フ能ク、雄性續發特徵ヲ現ハスヲ見ルベシ、人類ニ於テ、內宮闖入等ノ既ニ小兒時ニ睾丸ヲ摘去シタル者ヲ見ルニ、一般ニ骨格ノ長徑ノ發育著ク、喉頭ノ如キモ、其形小ニシテ、小兒ノ如キ高調ノ音聲ヲ發シ、鬚髯少ク、皮下ノ脂肪豐富ニシテ、筋肉弛緩シ、外貌凡テ男性特徵ヲ缺ク、且中樞神經系ニ於テモ、知識道義心ノ發達惡シク、殊ニ男子ニ特有ナル精力ト耐忍トヲ缺ク、而シテ其新陳代謝ハ常ニ緩慢ナリ、斯ノ如キ變化ヲ來スハ、何レモ睾丸ノ內分泌ノ缺如シタル結果ナリトス、之ニ反シテ交尾期ニ於ケル牡獸ヲ見ルニ、睾丸ノ機能甚ダ旺盛ニシテ、身體、精神モ亦甚シク亢奮ス、人類ニ於テモ、亦血氣ノ正ニ盛ナル壯者ハ、精力充實、勇猛不撓ノ氣ノ横溢セルヲ

分  
睾丸ノ有效成分

見ルベシ、既ニ老境ニ達スレバ、頭腦冷靜ナレドモ、體力活氣共ニ壯者ニ及バザルハ、全ク睾丸內分泌物ノ減少ヲ以テ、其一原因ト認メザルベカラズ。

**有效成分**

睾丸ノ內分泌ヲ營ムコトハ明ラカナレドモ、其分泌セラレ、物質ノ如何ナルモノナルカハ、未ダ詳カナラズ、ボール(Paul)ハ、睾丸中ヨリ一種ノ鹽基ヲ析出シ、之ヲ「スベルミン」(Spermin)ト名ケ、ソヲ有效成分ナリト稱スレドモ、此物質ハ睾丸ノ外、卵巢、脾臟、甲狀腺其他ノ諸臟器中ニモ含マル、モノナレバ、決シテ睾丸ノ特異有效成分ナリト云フベカラズ。

**生理的作用並ニ醫治效用**

睾丸液ノ動物ニ對スル作用ニ就テハ、ブローン、セカールノ其內分泌ノ學說ヲ立テタル後チ、先ヅソヲ己レノ身體ニ試ミ、其結果ニ由リテ、益自家ノ新學說ヲ確メタリト云フ興味アル來歴アリ、即チ彼ハ家兔ノ睾丸ノ浸出液ヲ作リテ、己レノ身體ニ皮下注射ヲ行ヒタルニ、體力並ニ精神力ノ増加ヲ自覺シ、其筋力ヲ力量計ヲ以テ測定セシニ、注射後ハ注射前ヨリモ著シク増加シタルヲ見キ、而シテ身體、精神共ニ其疲勞性ヲ減シ、內臟殊ニ消化器ノ機能調整

睾丸 有效成分 生理的作用、醫治效用



セラレ、食慾亢進、便通正規トナリ、生殖慾モ亦亢奮シキト云フ、氏ハ此自己ノ實驗ニ由リテ、睾丸液ヲ諸種ノ神經病者、衰弱者、老者等ニ用ヒテ、良效ヲ收メ、其一種強壯亢奮劑トシテ働クモノナルコトヲ世ニ公ニシタリ、是實ニ臟器療法ノ起原ナリ、サレド此睾丸液ノ生理的作用及醫治效用ハ、其後ノ研究者ノ、ブローン、セカールノ説ヲ非認スル者多ク、今日ニ於テハ、殆ド實地ニ應用セラル、コトナシ。

「スベルミン」ハ、其發見者ノ言ニ依レバ、身體精神ニ對シテハ、亢奮強壯ノ效アリ、新陳代謝機ニ對シテハ、酸化ヲ盛ンニシテ、血中ノ白血球ノ數ヲ増シ、且血液ノアルカリ性ヲ増加スル作用アリト云フ、販賣ニハ皮下注射用トシテハ「二、プロセント」生理食鹽水溶液トナシタルモノ、内用トシテハ「四、プロセント」ノ酒精溶液トシテ芳香ヲ附シタルモノアリ、無害ナレドモ、亦無效ナリ。

### 第五 卵巢 Ovarium.

雌性ノ生殖腺タル卵巢モ、亦睾丸ニ等シク、特殊ノ物質ヲ内分泌スルガ如ク、若シ其機能缺損スルトキハ、生殖器及乳腺ノ萎縮ヲ來タスハ勿論、人類ニア

卵巢

卵巢ノ内分泌

卵巢抽出及月經閉止ノ結果

リテハ、顯著ナル神經障礙ヲ起シ、且新陳代謝機緩慢トナリ、脂肪沈著ヲ來タス、卵巢抽出後又ハ月經閉止期ノ婦人ハ、屢、頭痛、逆上、耳鳴、眩暈、心悸亢進、不眠等ノ症狀ヲ起スモノニシテ、卵巢ヲ内用スレバ、此症狀ヲ除クコトヲ得ベク、且同時ニ新陳代謝ヲ盛ンニスルコトヲ得ベシトテ、ソヲ稱用スル人アリ、實際斯ノ如キ場合ニ效ヲ奏スルコトアルガ如シト雖、決シテ特別ナル偉效ヲ望ムコトヲ得ズ、現今販賣セラル、諸種ノ卵巢製劑アレドモ、必要ナキヲ以テ茲ニ掲出セズ。

### 第六 膵 Pankreas.

膵臟ノ食物消化ニ必要ナル諸種ノ酸酵素ヲ分泌スト云フコトハ、既ニ久シク知ラレタルトコロナルガ、ミンコースキー及メーリングノ實驗ニ由リテ、此既知ノ機能ノ外ニ、第二ノ機能即チ内分泌ヲ營ム機能アリテ、其機能ノ有機體ノ生活上極メテ必要ナルモノナルコトヲ證明セラレタリ、即チ膵臟ヲ抽出スレバ、一種ノ疾病ヲ發スルモノニシテ、其疾病ハ臨牀上糖尿病ト稱スルモノト全ク一致シ、尿中ニ多量ノ葡萄糖ヲ出スノ外、尿量ノ増加、煩渴、急速



詳糖尿病

ナル羸瘦、脱毛、皮膚ノ疾患等ノ症狀ヲ發ス之ヲ名ヅケテ「糖尿病」(Pancreas diabetes)ト云フ而シテ其原因ニ就テハ、膵臟ハ體內ニ於ケル含水炭素ノ物質交換ニ必要ナル刺戟素「Insulin」ヲ分泌シ、而シテ其刺戟素ハ平素ハ膵臟ヨリ内分泌セラレ、胸管ヲ通ジテ循環系ニ入り、肝臟ニ於テ糖産出ヲ制止スルモノニシテ(其制止ハ神經ノ末梢裝置ト信ゼラル)膵臟ヲ摘出スレバ、此制止刺戟素缺如シ、從テ肝臟ニ於テ「グリコゲン」ヨリシテ盛ニ糖ヲ製出シ、糖尿病ヲ起スモノト信ゼラル。

實驗的「糖尿病」ハ、膵臟ノ移植、胸管淋巴液ノ注射ニヨリテ、全治又ハ輕快セシムルコトヲ得レドモ、膵臟物質及其「エキス」ノ内用又ハ注射ニ就テハ、其效果ノ報告區々ニシテ信ヲ置クニ足ラズ、故ニ人類ニ於ケル糖尿病ニ對スル膵臟製劑ノ效用ハ、信賴スルコトヲ得ズ、況ンヤ凡テノ糖尿病ハ、未ダ「糖尿病」ト同一ノ本態ナリト速斷スルコトヲ得ザルニ於テオヤ。

大脳垂體

### 第七 大脳垂體(粘液體) Hypophysis cerebri.

(Glandula pituitaria)

四肢肥大症トノ關係

動物體ニ於ケル大脳垂體ノ機能ハ、尙ホ未ダ明瞭ナラザル點多シト雖、四肢肥大症ニ、大脳垂體ノ病的變化ヲ伴フコト極テ多キハ、病理學上實驗スルトコロニシテ、之ニ由リテ大脳垂體ノ内分泌ハ、骨格ノ發育ニ關係アルコトヲ知ルベシ。大脳垂體ヲ摘出スルトキハ、動物ハ必短時日中ニ斃死ス、而シテ垂體ノ後葉ノミヲ摘出スルモ、長ク異狀ヲ來サズト雖モ、前葉ノ摘出ハ必ズ死ヲ來シ、幼動物ニアリテハ比較的長ク生活スレドモ、身體脂肪ノ増殖、生殖腺ノ發育不全、身體ノ發育制止等ノ症狀アリ、是等ノ異常ハ、大脳垂體ノ疾患時ニ、臨牀上人類ニ於テモ實驗セラレタリ、其他大脳垂體殊ニ其前葉ノ機能増進ハ、副腎殊ニ其皮質ノ機能ヲ増進シ、甲状腺ノ機能ヲ沈退シ、且其縮小ヲ來ス。

**有效成分及生理的作用** 大脳垂體ハ其摘出試験ニテハ、前葉ノ内分

泌機能盛ニシテ、後葉ハ然ラザルガ如シト雖、腺體ヨリ作レル「エキス」ノ效力ハ、全ク之ト反對ニテ、前葉ヨリシテハ其有效成分ヲ浸出スルコト能ハズ、後葉ヨリハ著效アル有效成分ヲ採取スルコトヲ得ベシ、其化學的性質ハ未ダ詳ナラズト雖、動物試験ト臨牀實驗トハ、其結果能ク相一致ス、即チ血管ニ於



テハ、其滑平筋ノ直接ノ刺戟(アドレナリン)ハ神經ノ末梢裝置ニヨリテ、其收縮ヲ起シ、且心臟ニ於テモ心筋ヲ直接ニ興奮セシメ、心動ノ緩徐、強盛ヲ來シ、兩作用相合シテ著キ血壓亢進ヲ起ス。血壓亢進ハ「アドレナリン」ノ場合ヨリモ徐々ニ來リ、長ク持續ス。其他滑平筋ヲ有スル臟器、即チ子宮、膀胱、腸等ハ筋質ノ直接ノ刺戟ニヨリテ、其收縮ヲ來スベシ。其腎臟ニ於ケル顯著ナル利尿作用ハ殊ニ特異ニシテ、「カフェイン」屬ノ利尿劑ニ比スレバ、效力更ニ強シ。

大脳垂體ノ前葉中ニ、血壓沈降ヲ來ス有效成分アリト稱セラル、モ、ソハ血壓昇騰ヲ起ス物質ノ副作用ナルカ、將タ第二ノ物質ナルカニ就テハ、未ダ定説ナシ。

### 醫治效用

四肢肥大症ニ大脳垂體物質ヲ用ヒタレドモ、確效ナシ。

大脳垂體物質、殊ニ後葉ノ製劑ハ、強心劑、血壓亢進劑、子宮收縮劑トシテ、臨牀上ニ應用セラレ、或場合ニハ、確效アリトノ報告尠カラズ。

### 製劑及用量

乾燥大脳垂體

乾燥大脳垂體 Hypophysis cerebri sicca.

販賣セラル、乾燥大脳垂體ハ、牛ヨリ採レルモノニシテ、其〇三ヲ一錠劑トナセリ。一回量一乃至三個、一日三回ヲ用量トス。四肢肥大症ニ用ヒ、或ハ強心劑トシテ、急性熱性傳染病ノ經過中ニ起ル心臟麻痺等ニ用フ。

「ピツイトリン」 Pituitrinum.

「ピツイトリン」

「ピツイトリン」ノ名ヲ以テ販賣セラル、ハ、大脳垂體漏斗部ノ有效成分ヲ有スル無色ノ液體ニシテ、其一〇中ニ〇・一ノ新鮮物質ニ相當スル有效成分及〇〇〇五ノ「クロレトシ」ヲ含有ス。注射用ト内服用トアリ。心臟麻痺、子宮出血、殊ニ後産期ノ出血ニ用ヒテ著效アリ。又四肢肥大症ニモ應用セラル。用量皮下又ハ筋肉内注射〇・五乃至二〇、内用一〇乃至二〇ナリ。但シ内用ハ確效ナシ。

## 第八 腎 Ren. (Niere)

腎

乾燥大脳垂體 「ピツイトリン」 腎



腎臟ハ、新陳代謝ノ分解產物ヲ、血中ヨリ收受シ、之ヲ尿トシテ排泄スル機能ノ外、尙ホ一種ノ内分泌ヲ營ムモノナルガ如シ。彼ノ臨牀上竝ニ動物試驗上腎臟ノ機能ノ全ク廢絶シタル場合ニ發スル所謂尿毒症ナルモノハ、單ニ尿成分ノ血中ニ停滯スル爲ニアラズシテ、腎ノ内分泌缺如モ亦之ニ與カルヲ認メ得ベシ。此理ニ基キテ尿毒症ニ腎汁ヲ用ヒタル試驗アリテ、或場合ニハ多少其效ヲ奏シ得ベキガ如シト雖、未ダ確認セラル、ニ至ラズ。

### 第九 肝臟 Hepar. (Leber)

肝臟ハ、膽汁分泌ノ外、其臟器内ニ於テ、複雑ナル化學的作用ノ行ハル、モノニシテ、其内分泌ニ就テハ、尙ホ不明ノ點多シト雖、血中ノ糖分ヲ酸化スルニ必要ナル或物質ヲ分泌スルモノナルガ如シ。此事ハ種々ノ實驗ニ由リテ證明スルコトヲ得ベク、此實驗ニ基ヅキテ、肝臟ヲ糖尿病者ニ試用シ、肝臟肥大又ハ肝臟硬變等、肝臟ノ障礙ニ由リテ、糖尿ヲ起シタル場合ニハ、多少奏效アルガ如シ。

肝臟

### 第一〇 脾臟 Splen. (Milz)

脾臟ハ、人類及動物ニ於テ之ヲ摘出ニルモ、健康ニ障礙ナキコトハ、久シク人ノ知ル所ナリ。サレド脾臟ハ食物消化ニ關係ヲ有シ、脾臟ノ機能缺損スレバ、脾液中ニハ、プロトリブシンヲ有スルモノトトリブシンヲ含マズ、從テ其脾液ハ蛋白消化ノ働ナシ。即チ脾臟ハ、プロトリブシンヲトリブシンニ變ズル作用アル物質ヲ内分泌スルモノ、如シ。脾臟ノ製劑ハ、貧血、白血病、假性白血病、脾腫等ニ應用セラル、モ其效果素ヨリ疑ハシ。

以上ノ諸腺ノ他、胸腺、攝護腺、耳下腺、乳腺、淋巴腺、骨髓、腦脊髓、肺臟等ヲ、其各自ノ障礙ニ由リテ起ル疾病ニ用ヒタル實驗アレドモ、是等ノ諸臟器ハ、其内分泌ノ有無スラ尙ホ確實ナラザルヲ以テ、之ヲ治療ニ應用スルハ、決シテ合理的ノコトニアラズ。

胸腺 攝護腺 耳下腺 乳腺 淋巴腺 骨髓 腦脊髓 肺臟

脾臟



### 血清療法及微菌療法

Serumtherapie und Bacteriotherapie.

#### 總論

#### 第一 免疫質 Immunität.

免疫質  
先天性免疫質  
後天性免疫質

タトヒ傳染病病毒ニ觸ル、モ、之ニ犯サレテ疾病ニ罹ルコトナキ性質ヲ、免疫質ト云フ。其生レナガラニ存スルモノヲ、先天性免疫質 *angeborene Immunität* ト云ヒ、生後一定ノ原因ニ由リテ得タルモノヲ、後天性免疫質 *erworbene Immunität* ト云フ。先天性免疫質ハ、茲ニ論ズル要ナキヲ以テ省略ス。

後天性免疫質 諸種ノ傳染病ハ、一旦之ニ罹リテ、幸ニ治癒シ得タルトキハ、其人ハ概テ再ビ同ジ病ニ罹ルコトナシト云フコトハ、古來ヨリ醫家ハ勿論、一般人民ニ知悉セラレタル事實ニシテ、痘瘡、麻疹、猩紅熱、腸チフス等ハ其例ナリ。サレド此事ハ凡テノ傳染病ニ於テ然ルニアラズシテ、急性肺炎、麻疹等ハ、毫モ免疫質ヲ生セズ、丹毒ノ如キハ、却テ之ニ罹リ易キ傾向ヲ生ズ。而

免疫質ヲ生ズル原因

保護物質

微菌免疫質

毒素免疫質

シテ後天性免疫質ヲ生ジ得ベキ傳染病ニ就テハ、必シモ其重キ病狀ヲ經過スルコトヲ要セズ、極テ輕キ病狀ヲ以テ經過スルモ、尙ホ免疫質ヲ得ルニ足ルト云フコトハ、種痘ノ如キ好例ニ由リテ、之ヲ知ルニ足ルベシ。

斯ノ如ク後天性ニ免疫質ヲ生ズルハ、如何ナル理由ナルカト云フニ、貪喰細胞ノ發生 *Phagozytose* 「アレキシニン」 *Alexin* ノ再生力ノ増加等ノ多少之ヲ助クルナルベシト雖、其主ナル原因ハ、罹病ノ結果トシテ、血中ニ特異ナル保護物質 *Spezifische Schützstoffe* ヲ新生スルニアリ。

免疫質ニ二種アリ。第一ハ或傳染病ニ對スル免疫質ノ、専ラ病原タルベキ微菌ニ働キテ、之ヲ死滅セシメ、之ニ依リテ罹病ノ厄ヲ免カレシムルモ、微菌ノ産出セル毒素ニ對シテハ、少シモ解毒ノ働ナキモノニシテ、之ヲ稱シテ微菌免疫質 *Bakterienimmunität* ト云ヒ、第二ハ或傳染病ニ對スル免疫質ノ、病原菌ニ對シテハ何等ノ働ヲ及ボスコトナキモ、微菌ノ産出シタル毒素ヲ中和解毒シテ、之ガ爲ニ人體ヲシテ、少シモ疾病病狀ヲ呈セザラシムルコトヲ得ルモノニシテ、之ヲ毒素免疫質 *Giftimmunität* ト云フ。

微菌免疫質ニヨリテ新生セル保護物質ニ二種アリ。其微菌ヲ死滅溶解セシ



溶菌素  
オプソニン

ムル作用アルモノヲ溶菌素 Bacteriolysine ト名ヅク。又微菌ニ一種ノ變化ヲ與ヘ、之ヲシテ白血球ノ爲ニ喰滅セシメラル、ニ至ラシムルモノヲ「オプソニン」(Opsonin) ト名ヅク。

抗毒素

毒素免疫質ニアリテハ、保護物質ハ、微菌毒素ヲ中和解毒スル作用アルヲ以テ、之ヲ抗毒素 Antitoxine ト名ヅク。

後天性免疫質  
ハ人工的ニ生  
セシムルコト  
ヲ得ベシ

自働的免疫法

後天性免疫質ハ、自然罹病ノ結果ニ由リテ生ズルノミナラズ、人工的ニ病毒ヲ移植シ、或ハ死滅菌體又ハ微菌毒素ヲ注射スルニ由リテ、之ヲ生ゼシムルコトヲ得ベシ。斯ノ如ク、自然罹病若クハ病毒ノ移植、菌體又ハ菌毒ノ注射ニ由リテ、體中ニ保護物質ヲ生ジ、之ニ由リテ免疫スルヲ、自働的免疫法 Active Immunisation ト云ヒ、他ノ動物(若クハ人)ノ血中ニ發生シタル保護物質ヲ採

他働的免疫法

ルヲ、他働的免疫法 Passive Immunisation ト云フ。後天性免疫質ハ、其微菌免疫質ナルト、毒素免疫質ナルトニ關セズ、之ヲ治療、即チ豫防或ハ療病ニ應用ス。而シテ其免疫質ニハ、或ハ自働的ニ生ゼシムルヲ利アリトスルコトアリ、或ハ他働的ニ生ゼシムルヲ便ナリトスルコトアリ。是等ハ微菌ノ種類、保護物質

ノ性質ニ由リテ異ナルモノトス。其詳細ハ後章ニ於テ説クベシ。

## 第二 抗毒素 Antitoxine.

抗毒素

毒素

破傷風桿菌、チフタリヤ、桿菌等ノ如キ病原菌ハ、其生活機能ニ由リテ、固有ノ有毒代謝産物ヲ菌體外ニ分泌ス。之ヲ毒素 Toxin ト稱ス。毒素ハ病人(若クハ病獸)ノ體内ニ於テ、菌體ヨリ分泌セララル、ノミナラズ、人工培養ニ於テモ、多量ニ産出セラレテ、其培養基中ニ存ス。今適當ナル液狀培養基中ニ於テ、純粹培養ヲ行ヒ、其微菌ノ發生ノ十分ナル時期ヲ待チテ、ジャンベラン装置ヲ以テ之ヲ濾過シ、其微菌ヲ除去スルトキハ、濾液中ニハ、多量ノ毒素ノ含有セララルルヲ認ムベシ。而シテ此毒素ヲ採リテ、一定ノ動物ニ與フルトキハ、固有ノ疾病症狀ヲ呈シ、若シ其毒素ノ量、致死量ニ達セザルトキハ、動物ハ一定ノ時日ノ後ニ、病狀消失シテ恢復ス。更ニ反覆シテ此動物ニ毒素ヲ注射スルニ、動物ハ漸次大量ノ毒素ニ堪ヘ、遂ニハ致死量ニ數百倍セル大量ヲ注射スルモ、毫モ病狀ヲ呈セザルニ至ルベシ。此狀態ハ、即チ前章ニ述べタル毒素免疫質ニシテ、此動物ノ血液ヲ採リ、其血清ヲ分離セシメテ之ヲ檢スルニ、其血清ハ毒

抗毒素ノ發生

抗毒素

四〇一







拮抗素

鎮ト結合スル性質アルモノハ、毒素ト同ジク血中ニ拮抗素 Antikörper ヲ新生スルコトヲ得ベシサレド治療ニ關係ナキモノハ、此書ニ於テハ、全ク之ヲ論ゼザルベシ。

### 抗毒素ト毒素トノ關係

毒素並ニ抗毒素ハ、未ダ之ヲ純粹ニ析出スルコトヲ得ズ從テ兩者相觸ルレバ、如何ナル變化ヲ起スベキカト云フコトハ、之ヲ詳ニシ難シト雖、今日迄ノ學者ノ所說ニテハ、毒素ト抗毒素トハ化學的親和力ヲ有シ、兩者相遇ヘバ、直ニ化合シテ生理的無力ナル一種ノ複合物ヲ形成スルナラント云フニ一致シタリキ。果セル哉、有名ナル物理化學者アーレニウス Arhenius ノ最近ノ研究ハ、之ヲ證明シ得ルニ至レリ。而シテ其言ニ依レバ、毒素ト抗毒素トハ、化學的結合ヲナシテ、彼ノ「アムモニア」ノ如キ弱鹽基ト硼酸ノ如キ弱酸トノ化合スルトキノ状態ニ酷似シ、其際熱ヲ發生スト云フ。

### 抗毒素ノ化學的性質

抗毒素ノ如何ナル物質ナルカハ、今日ニ至ル迄、尙ホ全ク不明ナリ。唯抗毒素ヲ含有スル血清ニ、食鹽、硫酸、マグネシア、又ハ硫酸、アムモニア等ヲ加ヘテ、蛋白質ヲ沈澱セシムルトキハ、抗毒素ハ常ニ「グロ

ブリン」質ノ蛋白ニ附著シテ、之ト共ニ沈澱スルコトヲ知ルノミ。

## 第三 溶菌素 Bacteriolysine.

溶菌素

前章ニ論ジタル抗毒素ハ、生活セル細菌ニ對シテハ、何等ノ働ヲモ有セズ、唯細菌ノ産出シタル毒素ヲ中和スルノミナレドモ、茲ニ論ゼントスル溶菌素ハ、全ク之ニ反シテ、生活菌ヲ死滅セシムル力ヲ有ス。故ニ溶菌素ヲ有スル動物若クハ人ハ、其直接ノ保護ニ由リテ、病毒ノ侵入ヲ避クルコトヲ得ベシ。細菌免疫質ト名ヅケタルハ、即チ此状態ナリ。

自然傳染又ハ人工傳染ニ由リテ、「コレラ」、「チフス」、「ペスト」等ニ罹リテ、之ヲ經過シタル動物ハ、其血中ニ溶菌素ヲ生ズ。

溶菌素ヲ形成スル細菌ハ、抗毒素ヲ形成スル細菌ニ比スレバ、一種特異ノ生活状態ヲ呈スルモノニシテ、後者ハ既ニ述べタル如ク、其繁殖ニ際シテ、生活機ノ代謝產物トシテ、毒性物質即チ毒素ヲ菌體外ニ分泌スレドモ、溶菌素ヲ形成スル細菌ハ、同ジク毒性物質ヲ形成スルモ、主ニソノ菌體內ニ止メテ、菌體外ニ分泌スルコト極テ少ク、其菌ノ死滅シ、菌體ノ破壞溶解スルニ及ビテ、

溶菌素

四〇七



「ハイフェル」  
ノ現象

始メテ毒性物質ヲ遊離ス。故ニ之ヲ人工ニ培養シ、其培養液ヲ濾過シテ、無菌トナラシムルトキハ、其濾液ハ極テ輕度ノ毒性ヲ有スルニ過ギズ。

溶菌素ノ微菌ヲ侵害シテ、ソヲ死滅セシムル状態ヲ知ラントスルニハ、免疫血清ニ微菌ヲ加ヘテ、ソヲ健康ナル動物ノ腹腔ニ注射シ、而シテ時々毛細管ヲ以テ、腹腔ノ滲出液ヲ採取シテ、之ヲ鏡檢スベシ。斯クノ如クシテ檢スルトキハ、微菌ハ注射後直ニ其運動ヲ失ヒ、次デ漸々膨大シ、更ニ小球狀ノ破片ニ崩壊シ、約四十分後ニハ、菌體ハ全ク溶解セラレテ、其痕跡ヲ留メザルニ至ルヲ見ルベシ。單ニ微菌ノミヲ腹腔ニ注射シタルトキハ、此現象ヲ現ハサザルノミナラズ、却テ微菌ノ盛ニ繁殖スルヲ見ルサレド、若シ其動物ノ免疫セラレタル者ナルトキハ、微菌ノミヲ注射スルモ、尙ホ菌體ノ死滅、崩壊、溶解ヲ現ハスベシ。是所謂「ハイフェル」ノ現象 *Yelfer'sches Phänomen* ナリ。

斯ノ如ク溶菌素ハ、微菌ヲ殺シテソヲ溶解スル働アレドモ、菌體中ニ存スル毒質ヲ中和スル力ナキヲ以テ、若シ腹腔内ニ於テ、多數ノ微菌一時ニ溶崩シテ、其毒質ヲ遊離スルトキハ、動物ハ其中毒ノ爲ニ斃ル、ニ至ルベシ。

溶菌素モ亦抗毒素ノ如ク、特殊ノモノニシテ、タトヘバ「コレラ」血清ハ「コレラ」

菌ノミヲ侵シ、チフス「血清」ハ「チフス」菌ノミヲ侵ス。

溶菌素ハ二種  
ノ物質ヨリ成  
ル  
免疫體  
補體

免疫血清ヲ採リテ、之ヲ微菌ニ働カシムルニ、其血清ノ極テ新鮮ナルモノハ微菌ヲ殺シ、之ヲ溶崩スト雖、血清ノ少シク時日ヲ經タルモノ、或ハ攝氏五十五度乃至六十度ノ熱ヲ加ヘタルモノハ、微菌ニ對シテ毫モ其働ヲ有セズ。然ルニ之ニ新鮮ナル通常血清ノ少量ヲ加フルヤ、忽チ故ノ如ク溶菌作用ヲ呈スルヲ見ル。此事實ニ由リテ、溶菌素ハ一種ノ物質ニアラズシテ、其中ニ二種ノ物質ヲ含メルモノナルコトヲ知ルニ足ル。就中甲ハ安定性ニシテ、六十度以下ノ熱又ハ時日ノ經過ノ爲ニ變化セザルモノニシテ、之ヲ免疫體 *Immunkörper* ト云ヒ、免疫ノ際新生シタル特殊ノ保護物質ナリ。又乙ハ不安定性ノ物質ニシテ、六十度ノ温ヲ加フレバ、短時間内ニ分解シ、常温ニテモ亦少シク時日ヲ經レバ分解ス。之ヲ補體 *Komplement* ト云ヒ、血液ノ生理的成分ニシテ、新鮮ナル血清中ニハ、其免疫セラレタルト否トニ關セズ、必ず存在スルモノトス。

溶菌素ハ、微菌ニ對シテ如何ニ働クカト云フニ、エーレルリヒノ側鎖説ニ由レバ左ノ如シ。即チ免疫體ハ、菌體原形質ノ或側鎖ニ對シテ親和力ヲ有スルモ



ノニシテ之ト結合シテ菌體ニ固著スレドモ、菌體ハ之ノミニテハ、毫モ障碍ヲ受クルコトナシ。然ルニ之ニ補體ノ來リ加ハルトキハ、免疫體ハ之ニ對シテモ亦親和力アルヲ以テ、更ニ之ト結合シ、免疫體ハ中間ニ立チテ菌體ト補體トヲ連結スルコト、ナリ。茲ニ於テ補體ハ初メテ菌體ニ働キテ、之ヲ死滅溶解セシムルモノトス。是前ニ述ベタル如ク、補體ハ生理的ニ血中ニ存スルモノナルモ、免疫體ナキトキハ、菌體ニ結合スルコトヲ得ズ、從テ其働ヲ逞ウスルコト能ハザルニ由ル。

免疫體ハ、微菌ヲ以テ動物ヲ免疫セシムル場合ニ、新タニ發生スルモノナリ。サレド此際補體ハ別ニ増加セズ、或ハ却テ減少ス。是血中ノ補體ノ量ハ、饑餓疾病、中毒、疲勞等、凡テ身體ノ衰弱シタル場合ニハ、著ク減少スルモノナレバナリ。シカモ此免疫體ノミニテハ、殺菌ノ效ナク、補體トノ協力ニ由リテ、初メテ溶菌素ノ働ヲナスモノトス。

血清療法

血清療法 Serumtherapie.

抗毒血清  
溶菌血清

抗毒血清ノ奏  
效

一定ノ方法ニ依リテ、自働性免疫質ヲ得セシメタル動物ノ血清中ニハ、保護物質ヲ含ムヲ以テ、此血清ヲ他ノ動物又ハ人ニ注射シテ、之ニ他働性免疫質ヲ生ゼシメ、之ヲ傳染病ノ豫防若クハ其治療ニ應用ス。是即チ血清療法ナリ。既ニ述ベタル如ク、免疫質ノ原因タル保護物質ニハ、二種ノ區別アリテ、其抗毒素ヲ有スル血清ヲ、抗毒血清 Antitoxische Sera ト云ヒ、溶菌素又ハ「オプソニン」ヲ有スルヲ、殺菌血清 bakterizide Sera ト云フ。兩者共ニ治療ニ應用セラレドモ、實際ニ於テ良果ヲ收メ得ルハ、抗毒血清ナリトス。

**抗毒血清** 抗毒血清ハ、主トシテ抗毒素ヲ含有シ、之ヲ病者ニ用フルトキハ、血中ニ入リテ微菌ノ産出シタル毒素ヲ中和シ、其中毒ヲ免レシムルコトヲ得ルヲ以テ、病狀頓ニ輕快シ、體力大ニ加ハリ、遂ニハ微菌ニ打勝チテ之ヲ死滅セシメ、全ク治癒シ得ルニ至ル。抗毒血清ハ、高度ノ免疫性ヲ有スルモノ即チ抗毒素ノ含量多キモノヲ造リ得ルヲ以テ、臨牀上ニ應用スルニハ、殊ニ便ナリ。

**殺菌血清** 殺菌血清ヲ二種ニ區別ス。即チ溶菌素ヲ含ムヲ溶菌血清 Bakteriolytische Sera ト「ヒトオプソニン」ヲ含ムヲ變菌血清 Bakteriotope Sera ト「フ

血清療法



溶菌血清

**溶菌血清** 溶菌血清ハ免疫體ヲ含有シ之ヲ病者ニ注射スレバ血中ニ入リテ其中ニ存スル補體ト結合シテ病原菌ニ働キ病原菌ノ生活ヲ奪ヒ次デソヲ溶解セシム而シテ其溶解スルニ當リテハ菌體內ノ毒物ハ遊離シテ血中ニ入ルモ其血清中ニ抗毒素ヲ有セザルヲ以テ之ヲ中和スルコトヲ得ズ斯ノ如ク溶菌血清ハ病原菌ヲ滅殺スル働アルヲ以テ之ヲ治療ニ應用スレバ偉效ヲ奏シ得ベキガ如シト雖次ニ述ブル諸種ノ理由ニヨリテ其效力極テ不確實ナルコトヲ免レズ第一溶菌血清ハ高度ノ免疫性ヲ有スルモノヲ得ルコト難シ第二溶菌血清中ニハ免疫體ノミ存シ補體ハ之ヲ罹病者ノ體內ニ需メザルベカラズ然ルニ其體內ノ補體ハ同種ノ動物ヨリ得タル血清ノ免疫體ニ對シテハ能ク之ニ適合シテ溶菌ノ働ヲ現ハスコトヲ得レドモ異種ノ動物ノ血清中ノ免疫體ニ對シテハ必シモ常ニ適合スルモノニアラズ而シテ其適合セザル場合ニハ溶菌ノ働ナキコト勿論ナリトス故ニ此短所ヲ除カントスルニハ人血中ノ補體ニ適合スベキ免疫體ヲ作ルベキ動物ヲ實驗上ヨリ定メテ其血清ヲ用ヒザルベカラズ第三タトヒ人血ノ補體ニ適合スベキ免疫體ヲ有スル血清ヲ注射スルモ若シ其患者ノ體力衰弱シタ

溶菌血清ハ奏效少シ  
其理由第一

同第二

同第二

同第四

變菌血清

ルトキハ其血中ノ補體ノ含量著シク減少シ或ハ全ク消失シテ免疫體ノ其働ヲ現ハシ得ザルコトアリ斯ノ如キ場合ニ他ノ健康ナル動物ヨリシテ新鮮ナル血清ヲ採リテ之ヲ免疫血清ニ伍シテ患者ノ補體ヲ補ヒ之ニ由リテ溶菌ノ效ヲ現ハサシメント企テタル實驗アレドモ其動物ノ健康血清ニモ補體ノ含量ノ甚ダ少キト異種ノ動物ノ補體ハ速ニ血中ヨリ消失シ去ルトノ爲ニ其目的ヲ達スルコトヲ得ザリキ第四又若シ假リニ或方法ニ由リテ免疫血清ト共ニ補體ヲ與ヘテ十分ニ溶菌ノ働ヲ起シ微菌ヲ死滅セシメ得タリトスルモ此際菌體溶解シ其中ノ毒物一時ニ遊離シテ血中ニ入ルベク而シテ免疫血清ハ抗毒血清ノ如クニ之ヲ中和スル力少シモ無キヲ以テ病者ハ其中毒ノ爲ニ却テ病狀ノ増悪ヲ來タスベシ

以上ノ理由ニテ溶菌血清ハ治療上多クハ效ヲ奏セズ但人體ノ補體ニ適合スル免疫體ヲ有スル血清ハ之ヲ豫防注射トシテ用フルトキハ多少效アルモノトス唯高度ノ免疫性ヲ有スル血清ヲ製出シ得ザルヲ遺憾トス

**變菌血清** 變菌血清ハ連鎖菌肺炎菌等ノ殺菌血清ニシテ未ダ其高度ノモノヲ作ルコトヲ得ズ從テ尙實際ニ應用セラルニ至ラズ



血清ノ副作用

異種ノ動物ヨリ得タル血清ハ毒性ヲ有ス

「アナフエリヤ」  
「キシー」

免疫血清ヲ治療ニ應用スルニ當リテ、一ツノ大ニ注意ヲ要スルコトアリ。ソハ免疫ニ由リテ生ジタル保護物質ハ、生理的無力ニシテ、別ニ副作用ヲ起スコトナキモ、異種ノ動物ヨリ得タル血清ハ、生理的ニ毒性ヲ有スト云フコトナリ。臨牀上患者ニ用フル血清トシテ、人類ノ血清ヲ用フルコトヲ得レバ、別ニ副作用ナキコトヲ得ベキモ、ソハ實際不可能ノコトニシテ、通常用ヒラルルハ、馬(稀ニハ羊)ノ血清ナルガ故ニ、其生理的毒性ノ爲ニ起ル副作用トシテ熱發、食慾不進、嘔吐、發疹、倦怠、筋痛、關節痛、腋下腺腫脹、病覺、心悸亢進、心悸不整、蛋白尿等ヲ現ハスモノニシテ、其輕度ノ症ハ每常見ルトコロナリ。而シテ一回血清療法ヲ行ヘルモノハ、同種ノ動物ノ血清ニ對スル感受性増加シ、其後再ビ血清注射ヲ施スニ當リテ、劇烈ナル副作用ヲ呈スルコトアリ。此現象ヲ「アナフエリヤキシー」Anaphylaxieト云フ。アナフエリヤキシーハ、第一回注射後二、三週間ニテ生ジ、數月乃至數年ノ後迄モ持續スルコトアルモノ、如シ。

斯ノ如キ副作用ヲ防グニハ、尙ホ保護物質ヲ純粹ニ得ルコト能ハザル今日ニ於テハ、唯一ノ方法トシテ、高度ノ免疫血清、即チ少量ノ血清中ニ、極テ多クノ保護物質ヲ含メルモノヲ造リテ、之ヲ治療ニ應用スルノ一法アルノミ。而

「ヂフテリヤ」  
治療血清

シテ第一注射ニ當リテ多少ノ副作用アリタルモノハ、第二ノ注射ニ際シテ、「アナフエリヤキシー」ノ爲ニ劇甚ノ副作用アルコトヲ顧慮セザルベカラズ。次ニ實際ニ應用セラル、血清ノ主ナルモノニ就テ述ブベシ。

### 第一 「ヂフテリヤ」治療血清 Diphtherieserum.

「ヂフテリヤ」毒素ヲ馬ニ注射シ、之ニ高度ノ毒素免疫質ヲ得セシメテ、其血液ヨリ血清ヲ採取スルトキハ、其血清ハ多量ノ抗毒素ヲ含有スベク、ソヲ治療ニ應用スルニ足ル。血清中ノ抗毒素ノ含量ハ、之ヲ測定シ置クヲ要スレドモ、吾人ハ未ダ毒素並ニ抗毒素共ニ之ヲ純粹ニ析出スルコト能ハザルヲ以テ、動物試験ニ由リテ、其致死量ヲ定メ、之ヲ單位トシテ、測定セザルベカラズ。體重二百五十グラムノ海豚ニ注射シテ、ソヲ四五日内ニ死セシムル「ヂフテリヤ」毒素ノ量ヲ單致死量 Einfach letale Dosisト云ヒ、之ヲ該毒素ノ單位トナス。而シテ百倍ノ單致死量ヲ中和シ得ベキ抗毒素ノ量ヲ、免疫單位 Immunitäts-einheit (I. E.)ト云フ。「ヂフテリヤ」血清ノ免疫度ノ高キモノハ、其一立方センチ

單致死量  
免疫單位

「ヂフテリヤ」治療血清



### 生理的作用及應用

「デフテリア」血清ノ主ナル成分ハ、抗毒素ナルガ故ニ、其作用ハ、體內ニ於ケル「デフテリア」毒素ヲ中和スルニアリ。「デフテリア」患者ニ「デフテリア」血清ヲ注射スルトキハ、其抗毒素ハ血中ニ於ケル「デフテリア」菌ノ産出セル毒素ヲ中和シ、患者ヲシテ中毒ヲ免レシム。然ルトキハ、凡テノ病狀頓ニ輕快シ、體力大ニ加ハリ、且同時ニ局所ノ病變モ亦退行シ、義膜剝離ス。是組織ノ抵抗力増加ノ爲ニ、微菌ノ其繁殖ヲ妨ゲラル、ト「デフテリア」血清中ニハ、抗毒素ノ外ニ少量ナガラモ、溶菌素ノ含有セラル、トニ由ル。斯ノ如ク「デフテリア」血清ノ偉效ヲ奏スルハ、毒素ノ中和セラル、爲ナルヲ以テ、既ニ中樞神經系、心臟、腎臟等ニ「デフテリア」毒素ノ固ク結合シテ、是等ノ臟器ニ顯著ノ病變ヲ呈シタルモノニ對シテハ、抗毒素ハ如何トモスルコトヲ得ズ。故ニ臨牀上ニ「デフテリア」患者ヲ發見シタルトキハ、成ルベク速ニ血清療法ヲ行フコトヲ要スルモノニシテ、病症ノ初期ニ於テハ、其奏效甚ダ著キモ、末期ニ於テハ、更ニ其效ナカルベシ。

### 製品及用量

液體「デフテリア」血清 Serum antidiphthericum liquidum.

日本藥局方ニ據レバ、「デフテリア」毒素ヲ以テ免疫シタル馬ノ血清ニシテ、其一立方センチメートル中ニ、五百免疫單位以上ヲ有シ、無菌無毒ナラザルベカラズ、之ヲ貯藏スル爲ニ、〇・五「プロセント」ノ石炭酸又ハ〇・四「プロセント」ノトリクレゾールヲ加フルコトヲ許セリ。冷所ニ貯フレバ、一年間其效力ヲ保持スルコトヲ得ベシ。吾邦ノ傳染病研究所發賣ノ「デフテリア」血清ハ、其一立方センチメートル中ニ、五百免疫單位ヲ有シ、第一號ハ容量一・二立方センチメートル中ニ、六百單位、第二號ハ二・〇立方センチメートル中ニ、千單位、第三號ハ三・〇立方センチメートル中ニ、千五百單位ヲ有ス。傳染豫防ノ目的ニハ、百乃至二百免疫單位ヲ皮下ニ注射スレバ足ルモ、治療ノ目的ニハ、病症ノ輕重ト、病期ノ始終トニ由リテ、千乃至三千免疫單位ヲ注射ス。其注射部ハ、側胸部、季肋部、上腿、上膊ヲ可トシ、其部ハ嚴重ニ消毒

液體「デフテリア」血清

馬ハ破傷風ニ罹リ易ク其潜伏期中既ニ多量ノ破傷風毒素ヲ血中ニ含有ス。故ニ其毒ナキコトヲ試験スルヲ要ス。

用量



セザルベカラザルコト勿論ナリトス。  
豫防注射ハ其效力永續セザルヲ以テ、常ニ免疫性ヲ保持セントスルニハ、  
二三週間毎ニ一回宛、百乃至二百免疫單位ヲ注射セザル可ラズ。

### 乾燥「デフテリ」血清 Serum antidiphthericum

siccum.

日本藥局方ニ據レバ、デフテリ「ア」血清ヲ乾燥シタルモノニシテ、其一「グラ  
ム」中ニハ、少クトモ五千免疫單位ヲ含有シ、防腐劑並ニ其他ノモノヲ添加  
スルコトヲ許サズ、冷暗所ニ貯フルトキハ、數年間能ク其效ヲ保ツコトヲ  
得ベシ。傳染病研究所發賣ノモノハ、其一「グラム」中ニ、五千免疫單位ヲ含ム。  
乾燥血清ハ、十倍ノ〇・五「プロセント」石炭酸水又ハ滅菌水ニテ溶解シテ用  
フ。用量用法ハ、全ク液體血清ニ同ジ。

破傷風治療血清

## 第二 破傷風治療血清

Tetanusheils serum.

破傷風治療血清免疫單位

破傷風毒素ヲ馬ニ注射シテ、漸次高度ノ免疫質ヲ得セシメ、而シテ其血清ヲ  
採取スレバ、其中ニ破傷風抗毒素ヲ含有スベシ。此血清ノ抗毒素ノ含量モ亦  
直接ニ之ヲ測定スルコトヲ得ザルヲ以テ、デフテリ「ア」血清ト同ジク、動物試  
驗ニ由リテ之ヲ定ム。

破傷風毒素ノ、四千萬「グラム」ノ南京鼠(タトヘバ二十「グラム」ノ鼠二百萬頭)ヲ  
斃シ得ベキ最小量ヲ單位トシ、此毒量ヲ中和シ得ベキ抗毒素ノ量ヲ一免疫  
單位トス。

### 生理的作用及應用

破傷風血清ノ主成分ハ、破傷風抗毒素ニシテ、破傷風毒素ヲ中和シテ、ソヲ無  
害トナラシムル作用アリ。サレド破傷風菌ニ對シテハ、之ヲ死滅セシムル働  
ナキコトハ、既ニ總論ニ於テ述べタルガ如シ。臨牀上破傷風血清ヲ、破傷風患  
者ニ應用スルニ、其奏效スルコト極メテ少キハ、次ノ如キ理由アルニヨル。即  
チ破傷風毒素ノ、微菌ヨリ分泌セラレテ體內ニ吸收セラル、ヤ、先ヅ直チニ  
神經物質、殊ニ軸索ニ固著シ、之ヨリ漸次脊髓及腦ニ向ヒテ上行スルモノニ  
シテ、此間即チ數日乃至十數日間ハ、臨牀上別ニ疾病症狀ヲ呈セズ。是所謂潛



伏期ナリ。既ニ毒素ノ中樞神經系ニ達スルニ至レバ、其神經細胞ニ固著シ、茲ニ始メテ筋肉ノ強直、反射興奮性ノ亢進等ノ破傷風ノ症狀ヲ現ハス。此期ニ於テハ、毒素ハ全ク神經細胞ニ固著シ、其生理的官能ヲ障得シテ、疾病ヲ起スモノナルヲ以テ、臨牀上ニ疾病ノ症狀ノ現ハレタルヲ認メテ、之ニ血清療法ヲ施スモ、唯血中ニ殘存スル毒素ヲ中和シテ、病症ノ増悪ヲ防ギ得ルニ過ギズシテ、既ニ起レル病變ニ對シテハ、如何トモスルコト能ハズ。故ニ破傷風ハ其輕症ノモノニシテ、殊ニ其初期ノ中ニ血清療法ヲ施セバ、效ヲ奏スベキモ、重症ニシテ、シカモ末期ノモノニハ、良結果ヲ得ルコト極テ稀ナリ。之ニ反シテ、挫傷竝ニ其他ノ創傷ニ於テ、土壤、木片、塵埃等ノ不潔物ノ侵入シテ破傷風感染ノ疑アル場合ニ、破傷風血清ヲ豫防注射スルトキハ、能ク其發病ヲ防グニ足ルベシ。

腦室注射  
硬膜腔注射

破傷風患者ノ皮下ニ血清ヲ注射セズシテ、穿顱術ヲ施シテ、腦室内ニ注射シ、或ハ腰部穿刺術ニ依リテ、硬膜腔ニ注射シテ、破傷風ノ治療ヲ企テタル者アレドモ、同ジク良結果ヲ見ルコトヲ得ズ。

### 製品及用量

液體破傷風血清

液體破傷風血清 Serum antitetanicum

liquidum.

日本藥局方ニ據レバ、破傷風毒素ヲ以テ免疫シタル馬ノ血清ニシテ、其一立方センチメートル中ニハ、五免疫單位以上ヲ有セザルベカラズ。此血清ヲ貯藏スルニハ、〇・五「プロセント」ノ石炭酸又ハ〇・四「プロセント」ノトリクレゾールヲ添加スルヲ以テ、微ニ其臭氣ヲ有ス。而シテ其血清ハ無菌無毒ナルベキモノトス。我邦ノ傳染病研究所發賣ノ血清ハ、其一立方センチメートル中ニ、五免疫單位ヲ有ス。本品ハ冷暗所ニ貯藏シ、一年以上ヲ經過セシムベカラズ。用量ハ豫防注射ニハ、二十乃至五十免疫單位ヲ皮下ニ用ヒ、十日ノ後再ビ同量ヲ用フ。破傷風患者ニハ、發病後ノ時日ノ長短、病症ノ輕重ニ由リテ、百乃至二百免疫單位ヲ、一回若クハ數回皮下ニ注射スベシ。其注射部ハ、病竈ト看做スベキ創傷ノ附近ヲ可トスト云フ者アリ。腦室内ニハ、液量十立方センチメートル迄ハ顧慮スルコトナク注射シ得ルヲ以テ、五十免疫單位ヲ用フルコトヲ得ベシ。

用量  
豫防注射



乾燥破傷風血清

乾燥破傷風血清 Serum antitetanicum siccum.

日本藥局方ニ據レバ、破傷風血清ヲ乾燥シタルモノニシテ、其一「グラム」中ニ、五十免疫單位以上ヲ含有シ、防腐劑竝ニ其他ノモノヲ添加スルコトヲ許サズ、而シテ十倍ノ滅菌水ニ溶解シタルモノハ、液體血清ト同ジ試驗法ヲ行フモ、無菌、無毒ナラザルベカラズ、傳染病研究所發賣ノ本血清ハ、「グラム」中ニ、五十免疫單位ヲ有ス、本品ハ冷暗所ニ貯藏スベク、數年間ハ用フルニ足ル、用法ハ十倍ノ滅菌水又ハ〇・五「プロセント」ノ石炭酸水ニ溶解シテ注射スベシ、用量竝ニ其他ノ注意ハ、凡テ液體血清ニ同ジ。

用法

血清中汎ク實用ニ供セラレ、且日本藥局方ニ記載セラレタルハ、以上舉ゲタル「チフテリア」及破傷風血清ノ二種ニシテ、其他ニ治療血清トシテ、製出セラレタルモノ尠カラザレドモ、何レモ其奏效確實ナラズ、從テ未ダ汎用セララルニ至ラザルヲ以テ、茲ニハ唯單簡ニ記載シ置クベシ。

結核血清

第三 結核血清

Antituberculosserum.

結核血清ニ二種アリ、其一ハ「マラリア」ノ *Maringhion* ノ法ニヨリテ、結核菌ト結核毒素トヲ以テ免疫シタル動物ヨリ得タルモノニシテ、抗毒殺菌血清ナレドモ、其保護物質ノ含量極テ僅少ナルヲ以テ、實際ニ於テ奏效ナシ、又他ノ一ハ「マルモレツク」 *Marmorek* ノ法ニヨリテ、肝臟羹汁ヲ以テ作レル結核培養中ニ生ジタル強力ナル結核毒素ニテ免疫質ヲ作りタル動物ノ血清ナリ、此ノ製劑ハ外科的結核性疾患、結核性肋膜炎等ニ奏效スト云フ。

第四 「ペスト」血清

Antipestserum.

「ペスト」血清ニ二種アリ、其一ハ「バストール」研究所ノ法ニ依リテ製シタルモノニシテ、「ペスト」菌及其產出毒素ヲ以テ、馬ヲ免疫シテ得タル血清、他ノ一ハ「ルスチツヒ」及「ガレオッチー」ノ法ニ依リテ製シタルモノニシテ、「ペスト」菌體中ノ

「ペスト」血清

結核血清 「ペスト」血清

四三



「スクレオプロテイン」ヲ以テ免疫シテ得タル血清ナリ。其ニ殺菌、抗毒ノ力ヲ有スレドモ、其力微弱ニシテ、殊ニ抗毒力ハ甚ダ弱シ。動物試験及臨牀實驗共ニ其奏效ノ少キヲ證シ、汎ク用ヒラル、コトナシ。

### 第五 「コレラ」血清

Anticholera serum.

「コレラ」血清ハ、動物ニ死滅シタル「コレラ」菌體ヲ注射シテ免疫トナシテ得タルモノニシテ、溶菌ノ働ヲ有スレドモ、抗毒ノ效殆ドナク、治療上確效ナキヲ以テ汎ク用ヒラレズ。

近時「コレラ」菌體內毒素ニテ免疫シタル動物ヨリ取リタル抗毒血清アリ。動物試験ニテハ有效ナルガ如キモ、臨牀上ノ價值ハ未ダ明ナラズ。

### 第六 「チフス」血清

Antityphus serum.

「チフス」血清ハ、或ハ菌體ヲ以テ免疫シタル動物ヨリ採取シ、或ハ微菌毒素ヲ

「チフス」血清

「コレラ」血清

以テ免疫セシメタル動物ヨリ採取シタルモノニシテ、未ダ汎ク治療ニ應用セラル、ニ至ラズ。

### 第七 赤痢血清

Antidysenterieserum.

赤痢血清ニ二種アリ。其一ハ赤痢菌ノ産出シタル毒素ヲ以テ免疫シタル馬又ハ驢ヨリ得タルモノニシテ、抗毒素ヲ有シ、他ノ一ハ赤痢菌ヲ以テ免疫シタル動物ヨリ得タルモノニシテ、溶菌ノ働アリ。後者ハ志賀及クルーゼノ作ルトコロナリ。殊ニ注意スベキハ、人ノ血清中ニ馬ヨリ得タル赤痢溶菌血清中ノ免疫體ニ適合スル補體ノ存在スルコトニシテ、赤痢血清ニ赤痢菌ヲ加ヘテ、之ニ人血清ノ新鮮ナルモノヲ混ズレバ、赤痢菌ハ直ニ溶解スベシ。抗毒赤痢血清ハ、治療ニ應用シテ、其結果比較的良好ナルモノナレドモ、臨牀上ノ實驗日尙ホ淺キヲ以テ、未ダ其效果ニ就テ斷定ヲ下スコトヲ得ズ、或ハ之ヲ溶菌血清ニ伍シテ實用ニ供スレバ、偉效ヲ收メ得ルコトアラン。

赤痢血清

赤痢抗毒血清

赤痢溶菌血清

赤痢血清

四二五



肉中毒血清

### 第八 肉中毒血清

*Antibotulismusscrum.*

肉中毒桿菌

肉中毒 *Botulismus* ノ原因タル肉中毒桿菌 *Bacillus botulinus* ノ純粹培養基中ニ產生スル一種ノ毒素ヲ採リテ動物ヲ免疫スルトキハ比較的高度ノ免疫性ヲ有スル抗毒血清ヲ製スルコトヲ得ベシ動物試験上此血清ヲ肉中毒桿菌ノ毒素ニ由リテ中毒セル動物ニ用フレバ其中毒ヲ免レシムルコトヲ得ルガ故ニ臨牀上肉中毒ニ用フレバ著效アルベシト雖今日迄未ダ實際ニ應用セラレタル實例ヲ聞カズ。

### 第九 鏈鎖菌血清

*Antistreptokokkenserum.*

鏈鎖菌血清

鏈鎖菌血清ニ三種アリ其一ハマルモレック *Marmorek's* 血清ニシテ家兎ノ體ヲ通過セシメタル極メテ毒性強キ鏈鎖菌純粹培養ヲ以テ免疫シテ得タル血清ナリマルモレックハ人類ヲシテ疾患傳染ヲ起サシムル鏈鎖菌ハ凡テ同一

肺炎菌血清

### 第一〇 肺炎菌血清

種ニシテ唯其中ニ變種ヲ生ズルノミナルガ故ニ己レノ血清ハ凡テノ鏈鎖菌ニ由リテ起ル疾病ニ效アリト云ヘリ第二ノ血清ハターゼル、モーセル及メンツェル *Tavel, Moser und Menzer* 等ノ造リタルモノニシテ系統ヲ異ニシタル諸種ノ鏈鎖菌ヲ動物體ヲ通過セシメズ其儘用ヒテ免疫シタル所ノ血清ナリコノ血清ノ創製者等ハマルモレックニ反シテ異系ノ鏈鎖菌ハ同一種ニ非ズ故ニ各自ニ特異ナル免疫血清ヲ用フルヲ要シ數種ノ異系菌ヲ以テ免疫スルニ非ザレバ實際ニ效ナシトセリ第三ハアロンソン及ルッペル *Aronson und Kuppel* ノ法ニシテ動物體ヲ通過シタル毒性強キ菌種及ビ人體ヨリ得タル原種ノ鏈鎖菌ヲ以テ免疫シタルコロノ血清ナリ三種ノ血清ハ共ニ變菌血清即チ主トシテ喰菌ヲ促ス作用アルモノニシテ鏈鎖菌ヨリ起ル疾病若クハ其混合傳染ヲ來セル疾病即チ丹毒、產褥熱、蜂窩織炎、膿毒症、猩紅熱、チフテリア、アングナ、關節、ロイマチス、氣管枝肺炎、敗血病、淋巴管炎等ニ用ヒ往々效アルガ如シト雖未ダ一般ノ信用ヲ博スルニ至ラズ



## Antipneumokokkenserum.

肺炎菌ヲ以テ免疫シタル動物ノ血清ニシテ、殺菌ノ效アリ。肺炎菌ニ由リテ起ル角膜潰瘍ニ用ヒテ奏效スルコトアリ。肺炎ニハ臨牀上未ダ確效アリト云フ實驗ナシ。

## 第一一 葡萄狀菌血清

## Antistaphylokokkenserum.

葡萄狀菌ヲ以テ免疫シタル動物ヨリ得タル血清ニシテ、葡萄狀菌ノ傳染ニ由リテ起レル化膿炎症等ニ用ヒラレタレドモ、效ナシ。

## 第一二 蛇毒血清

## Antischlangengiftserum.

毒蛇ハ、其耳下腺中ニ毒液ヲ分泌シ、咬嚼ノ際、毒牙ヨリシテ、毒液ヲ射出スルモノニシテ、此毒液ヲ採リテ毒性ヲ減弱セシメ、之ヲ動物ニ注射シテ漸次免

葡萄狀菌血清

蛇毒血清

毒セシメ、遂ニハ大量ノ強力ナル蛇毒ニ耐フルニ至ラシムルトキハ、其動物ノ血清中ニ抗毒素ヲ生ジ、之ヲ採取シテ毒蛇咬嚼ノ際ニ治療ニ用フルコトヲ得ベク、或場合ニハ、多少效アルガ如シ。毒蛇ニハ種類多キモノナルガ、今日迄ノ實驗ニ由レバ、一ノ毒蛇ノ血清ハ、其蛇毒ヲ中和スルコトヲ得レドモ、他ノ蛇毒ヲ全ク中和セズ、或ハ中和スルコト弱シ。我邦ニハ、傳染病研究所製造ノ飯匙蛇血清アリテ、該蛇ノ咬傷ニ用ヒラル。

## 細菌療法 Bakteriotherapie.

血清療法ハ、免疫性ヲ有スル血清ヲ以テ、他働性免疫質ヲ作り、傳染病ノ豫防若クハ治療ニ供スルモノナレトモ、細菌療法ハ之ニ反シテ、細菌菌體若クハ其產生物ヲ以テ、直接ニ自働免疫質ヲ作り、主ニ傳染病ノ豫防ニ用ヒ、稀ニハ其治療ニ用フルモノナリ。之ヲ略言スレバ、細菌療法トハ、自働性免疫法 Aktive Immunisierung ナリ。而シテ前ニ述べタル如ク、血清療法中、抗毒血清ノ良結果ヲ收メ得タルニ反シテ、溶菌血清ハ尙多クハ成功セザルモノナルガ、細菌療法

細菌療法

細菌療法

四九



ハ、恰モ之ヲ補ヒテ、自働性ニ溶菌性保護物質若クハ、オプソニンヲ體內ニ作リ、之ニ由リテ微菌ノ侵入ニ備ヘ、且體內ノ微菌ヲ滅殺スルモノトス。

第一、強力ナル微菌又ハ人工的ニ滅力セシメタル微菌ヲ接種シテ、免疫質ヲ生ゼシム。種痘、狂犬毒接種等、竝ニ獸醫科ニ於テハ、諸種ノ接種法アリ。サレド是等ノ生活セル微菌ヲ用フル療法ハ、藥理學ノ範圍ニ屬セザルガ故ニ、凡テ茲ニ論ゼザルベシ。

第二、適當ナル方法ニテ、滅殺セル菌體ヲ注射シテ、免疫質ヲ得セシム。

第三、微菌體中ニ有效成分ノ「エキス」ヲ作り、之ヲ免疫セシム。

第四、微菌ノ毒素ヲ注射シテ、自働性抗毒免疫質ヲ作ル。此方法ハ他働性免疫法、即チ動物ヨリ得タル免疫血清ヲ用ヒテ、抗毒素ヲ體內ニ送ル法ノ發見セラレタル以來、漸ク廢棄セラレテ、今ハ全ク用ヒラレズ。

滅殺微菌接種法

### 滅殺微菌接種法 Schutzimpfung mit abgetötenen Bakterien.

適當ナル方法ニ依リテ、微菌體中ノ有效成分ヲ破壞セザルヤウニ、微菌ヲ滅殺シ、其菌體ヲ接種スルトキハ、漸次溶解吸收セラレ、其際中毒ノ爲ニ多少發熱竝ニ其他ノ疾病症狀ヲ呈ス。而シテ之ニ由リテ、其體內ニ保護物質ヲ生ジ、免疫質ヲ受得スベシ。但此免疫質ハ、専ラ微菌ニ向ヒテ働キ、ソヲ死滅セシムレドモ、毒素ヲ中和スル力ハ、全ク缺如セルヲ以テ、主トシテ傳染豫防ノ目的ニ用ヒラルルノミニシテ、少クトモ急性傳染病ノ治療ニハ應用スルコトヲ得ズ。是溶菌素ノ體內ニ發生スル迄ニ、一定ノ時日ヲ要スルト、溶菌素ハ微菌ヲ溶解スルモ、菌體中ノ毒素ヲ中和スル力ナク、一時却テ病狀ヲ増悪セシムトニ由ル。

「ベスト」接種素

### 第一 「ベスト」接種素 Pestimpfstoff

滅殺「ベスト」菌接種法ハ、印度地方ニ於テ、汎ク「ベスト」豫防ニ應用セラレ、大ニ效果ヲ收メ得タルモノニシテ、我邦ニ於テモ、「ベスト」流行地ニ於テ盛ニ用ヒラル。此接種素ヲ造ル方法ハ、強力ナル「ベスト」菌ヲ培養シ、一定時ノ後ニ、ソヲ

「ベスト」接種素



一時間攝氏六十五度乃至七十度ニ熱シテ、全ク之ヲ滅殺スルニアリ。此際培養法ヲ行ヒテ、少許タリトモ生活菌ノ殘存スルコトナキヲ證セザルベカラザルコト勿論ナリトス。今日最モ有效ナリト信ゼラル、ハ、獨逸ノ「ベスト」調査委員ノ改良シタル「ハフキン」Haffkin法ニシテ、其法ハ「ベスト」菌ヲ寒天培養基ニ移植シ、攝氏三十度ノ溫ヲ以テ、三日間發育セシメタル後、其「ベスト」菌ヲ採リテ、滅菌セル生理食鹽水又ハ「ブイヨン」ノ一定量(寒天面十平方センチメートル)ノ微菌量、即チ約二十「ミリグラム」ニ對シテ、三立方センチメートル)中ニ攪拌シ、攝氏六十五度ニテ一時間熱シテ殺菌シ、之ニ〇・五「プロセント」ノ割合ヲ以テ石炭酸ヲ加ヘテ、貯藏ニ便ニシタルモノナリ。此接種素二・五乃至三〇立方センチメートル)ヲ上膊又ハ腹部ノ皮下ニ注射スレバ、局所ノ腫脹、疼痛等ニ伴ヒテ、多少ノ發熱(時トシテハ四十度ニ達ス)アレドモ、是等ノ反應ハ一二日間ニシテ消失スベシ。免疫質ハ接種後五日ニシテ始マリ、七日ニシテ完成シ、而シテ少クトモ六箇月間ハ持續ス。

接種ハ一回ニシテ足レドモ、更ニ八乃至十日後ニ、少シク大量ノ接種素ヲ以テ、第二回ノ接種ヲ行ヘバ、免疫質ヲ得ルコト更ニ確實ナルベシ。此豫防接種

ノ結果ハ、著ク罹病者ノ數ヲ減ジ、且罹病者ノ死亡數ヲ減ズルコトヲ得ベク、其效力ハ我邦ノ「ベスト」流行地ニ於ケル經驗ニ由リテモ、之ヲ證スルニ足ル。

## 第二 「コレラ」接種素

### Choleraimpfstoff.

「コレラ」菌ヲ寒天培養基ニ移植シ、十分ニ發育セシメタル後、其試験管斜面寒天培養一個中ニハ、大約二十「ミリグラム」ノ「コレラ」菌ヲ有スルヲ以テ、之ヲ十立方センチメートル)ノ滅菌生理食鹽水中ニテ攪拌シ、攝氏五十六乃至八度ノ熱ヲ加フルコト一時間ニテ殺菌シ、之ニ〇・五「プロセント」ノ割合ニテ石炭酸ヲ加ヘタルモノヲ「コレラ」接種素トナス。是コレレ「Kille」ノ改良シタル「ハフキン」法ナリ。

「コレラ」豫防接種トシテ、接種素一立方センチメートル)ヲ皮下ニ注射スレバ、短時間ヲ經テ、惡寒、熱發等ニ伴ヒテ、局所ノ腫脹、疼痛、浸潤等ヲ發スルモ、一二日ニシテ消失ス。其免疫質ハ接種後五日バカリヨリ始マリ、十二日バカリニテ其極ニ達シ、大約一箇年間持續ス。



豫防接種ノ「コレラ」病數及死亡數ヲ減少セシムルハ、多數ノ實驗ニ徴シテ明カナリ。故ニ「コレラ」流行ノ際、避病院ノ醫師、看護人若クハ流行地ノ住民ニ接種スレバ、效アルベシ。

### 第三 「チフス」接種素

*Typhusimpfstoff.*

バイフル *Yeffler* 及 *Kolle* ノ法ニ由レバ、「チフス」菌ノ寒天培養ヲ行ヒ、大約二十四時間ヲ經テ、其十分ニ發育シタル際ニ之ヲ採取シ、一試験管培養即チ約二十、ミリグラムヲ十立方センチメートルノ食鹽水中ニ攪拌シ、攝氏六十五度ノ熱ニテ一乃至二時間殺菌シ、之ニ〇・五「プロセント」ノ割合ニテ石炭酸ヲ加ヘテ、「チフス」接種素ヲ製ス。豫防接種トシテハ、大人ニハ一回接種素一立方センチメートルヲ皮下ニ注射ス。此際局所ノ腫脹、疼痛ノ外、多少發熱、倦怠、頭痛等ヲ起スモ、是等ノ症狀ハ兩三日ニテ消失シ、十日後ニハ既ニ其血中ニ顯著ノ溶菌力ヲ存スルヲ見ル。更ニ第二回接種ヲ行ヘバ、一層其免疫力ヲ高度ニ達セシムルコトヲ得ベシ。

「チフス」接種素

「チフス」豫防接種ノ效果ハ、戰時ニ軍隊ニ行ヒタル實驗及避病院ノ醫員並ニ看護人ニ行ヒタル實驗ニ依レバ、甚ダ顯著ナリトス。

### 「チフス」接種法 *Schutzimpfung mit Bakteriensextrakte.*

滅殺セル菌體ヲ其儘使用セズシテ、菌體ヨリ免疫質ヲ起スベキ有效成分ヲ抽出シテ、之ヲ自働的ニ用フル方法ヲ、假リニ「チフス」接種法ト名ヅク。サレド此法ハ汎ク行ハレズ。臨牀上ニ必要ナルハ、結核菌製品ノミナルヲ以テ、之ヲ左ニ掲グ。

#### 第一 「ツベルクリン」(舊「ツベルクリン」)

*Tuberkulin (Alt-Tuberkulin)*

人結核菌ヲ、四「プロセント」ノ「グリセリン、ブイヨン」中ニ、四週間培養シ、一時間攝氏百度ニ熱シテ殺菌シタル後、之ヲ蒸發シテ十分ノ一量ニ至ル迄濃稠トナシ、此濃液ヲ濾過シテ菌體ヲ除去シタルモノヲ、「ツベルクリン」トナス。即ツ

「ツベルクリン」

「チフス」接種法 「ツベルクリン」



ベルクリン「ハ、結核菌ノ「グリセリン」浸出液ナリ。「グリセリン」含量ハ、約四十「ブ  
ロセント」ツベルクリン「ハ健康ナル人又ハ動物ニ對シテハ、毒性少キモ、既ニ  
結核ニ罹レル人竝ニ動物ニ對シテハ、劇シキ毒性ヲ有スルモノニシテ、結核  
患者ニ、其〇〇〇一ヲ與フレバ、既ニ顯著ノ發熱ヲ來シ、且結核菌ノ周圍ニ  
劇シキ充血竝ニ炎症ヲ發ス、今日迄ノ實驗ニ由レバ、是等ノ反應ノ爲ニ、ツベ  
ルクリン「ヲ用フルモ、結核ノ病勢ハ輕快セズシテ却テ増悪スルノミナラズ、  
尙ホ其他ニ種々ノ厭フベキ副作用ヲ起スヲ以テ、治療ニ應用セラルルコト  
ナシ、唯結核、殊ニ潜伏結核ノ診斷ニ用ヒラレ、獸醫科ニ於テハ、最モ汎ク畜牛  
結核診斷ノ爲ニ供用セラル。日本藥局方ニハ、「ツベルクリン」Tuberculinumノ規  
定アリ。

## 第二 「ツベルクリン」殘基

### Tuberkulin-Rest (T. R.)

結核菌ノ最モ強毒ナルモノヲ培養シ、其盛ンニ發育スルヲ待チテ、生活セル  
マ、真空内ニテ乾燥セシメ、更ニ一定ノ裝置内ニ入レテ、瑪瑙ノ乳鉢中ニテ

ツベルクリン「殘基」

磨リ潰シ、徐々ニ水ヲ加ヘ、而シテ遠心器ニ容レテ、速ニ回轉セシムルトキハ、  
上部ノ透明ナル液ト、底部ノ沈澱、即チ磨リ潰シタル菌體トニ分離スベシ、其  
上層ノ液、即チ「〇」ハ舊「ツベルクリン」ト同一ノ働ヲ有ス、下層ノ沈澱、即チ菌  
體ハ、再ビ乾燥シテ磨リ潰シ、水ヲ加ヘ更ニ遠心器ニ容レテ回轉シテ、溶液ト  
沈澱トニ別チ、其沈澱ヲ更ニ前ノ如ク所置ス、此所置ヲ反覆スルトキハ、遂ニ  
ハ菌體ハ全ク溶解ス、其菌體ノ水溶液ハ、即チ「ツベルクリン」殘基「」ニシテ、  
定規製品トシテ販賣セラル、モノハ、即一立方センチメートル中ニ、十「ミリ  
グラム」ノ固形分ヲ有ス。

「ツベルクリン」殘基ハ、舊「ツベルクリン」ノ如ク劇烈ナル反應ヲ起サズシテ、免  
疫ヲ來タス效アリト稱セラレタルモ、臨牀上實驗上却テソヲ否定セラレタ  
ルヲ以テ、今ハ用ヒラレズ。

「ツベルクリン」殘基ハ、五百分ノ一「ミリグラム」ヨリ皮下ニ注射シ始メ、漸次二  
十「ミリグラム」ニ至ル。

## 第三 新「ツベルクリン」

新「ツベルクリン」

新「ツベルクリン」







白蠟 「パラチフリス」	384	肉中毒桿菌	426	「ヘルミトール」	33
肺癆	389	保庇作用	3	扁桃油	99
微菌免疫質	201	保庇劑	3	「ペレチエリン」	133
破傷風治療血清	418	菩提樹花	14	「ペプシン」ノ應用	335
同上ノ免疫單位	419	「ボロエルチン」	4	「ペプトリン」酒	353
同上ノ生理的作用及應用	419	「ボドフィロトキン」	9, 13	同上ノ應用	356
同上ノ硬膜腔注射	420	「ボドフィリン」脂ノ下劑トシテノ長所	15	「ペプトリン」劑濫用ノ弊	356
肺炎菌血清	420	「ボドフィルム」脂	15	變菌血清	423
微菌療法	427	硼酸及硼砂ノ「イオーン」作用	17	「ペスト」血清	423
微菌「エキス」接種法	427	硼酸中毒	17	「ペスト」接種法	423
乳糖	2	硼酸ノ醫治效用	17	「トラガカンタ」	7
肉豆蔻	11	硼酸	18	橙皮	3
肉豆蔻子衣油	15	硼酸軟膏	18	橙皮油	3
日本藥局方「カンタリス」	17	硼砂	18	橙皮丁酸	3
乳酸「カルシウム」	18	芒硝屬ノ生理的作用	18	橙皮舍利別	3
肉食獸ノ酸中毒	23	芒硝屬ノ醫治效用	18	豚脂	3
乳酸	23	ホーレル水	27	獨逸藥局方「カンタリス」	7
乳酸鹽	27	母硬膏	36	膽黃	7
乳糖	29	保護物質	40	透明蘆薈	10
乳糖	29	補體	40	「トルメンチルラ」根	13
肉中毒血清	426	「スルペリン」	3	等蜜壓	17

等蜜壓溶液	147	腸内寄生蟲	217	「チラテン」	36
動物體細胞ノ竅透壓	148	同上ノ驅除法	218	「ヤフテリア」治療血清	45
「トリクロール」醋酸	237	「チモール」	219	同上ノ生理的作用及應用	46
吐酒石	240	重晶石酸「カリウム」	219	「チフス」血清	46
吐酒石酒	241	重碳酸「ナトリウム」	222	「チフス」接種素	46
銅及亞鉛屬ノ生理的作用	233	沈降炭酸「カルチウム」	227	〔リ〕	
同上ノ局所作用	233	沈降炭酸「カルチウム」	227	龍膽	29
同上ノ吸收作用	233	沈降硫酸「カルチウム」	228	龍膽感變新	30
銅中毒	233	沈降硫酸	233	龍膽丁酸	30
銅及亞鉛鹽ノ嘔吐作用	233	重「クローム」酸「カリウム」	233	利尿劑	59
同上ノ醫治效用	233	重金屬及毒土ノ化合物	233	理想的驅蟲劑	59
同上ノ局所作用	233	同上ノ局所作用	236	硫酸「ペレチエリン」	118
吐劑トシテノ硫酸銅	235	同上ノ腐蝕作用	237	利尿劑トシテ加里鹽類ノ應用	128
糖類	235	同上ノ收斂作用	237	「リチウム」ノ「イーサン」作用	165
糖類ノ應用	235	同上ノ局所作用ノ強弱	237	「リチウム」鹽ノ主治效用	167
同上ノ短所	235	同上ノ醫治效用	237	硫酸「ナトリウム」	190
「トロホン」	239	同上ノ局所作用	237	硫酸「カリウム」	191
毒素免疫質	240	同上ノ局所作用ヨリセル分類	237	硫酸「マグネシウム」	191
毒素	240	同上ノ吸收作用	237	「リジエン」	197
茶劑ノ效用	240	同上ノ排泄	237	磷酸「ナトリウム」	207
「チオール」	240	同上ノ化合物ノ腎臟ニ對スル作用	237	硫化「アルカリ」屬ノ局所作用	215
		除甲状腺惡液質	237	硫化水素中毒	218
		「チロヨゲン」	237	硫化「カリウム」	219
				硫酸	219



煑酸	二五五	汚臭神經劑ノ效用	一五	高真薑根	二八
硫酸鐵	三〇七	「オレノフ」油	四九	「カスカリヲ」皮	三四
綠礬	三〇八	「オイフォルビン」	六八	「カスカリヲ」蒸餾斯	三五
林糖鐵丁幾	三〇〇	「オツキオン」	二五三	「カスカリヲ」丁幾	三五
燐中毒ニ硫酸銅ノ應用	三三〇	「オイクヤン」	三三七	芥子油屬ノ所在	六四
硫酸亞鉛	三三七	「オプツニン」	四〇三	同上ノ生理的作用	六四
硫酸銅	三三七	〔ワ〕		同上ノ醫治效用	六四
硫酸「アルミニウム」	三四四	黃連	三	香味料	六四
燐	三四五、三四九	黃連越幾斯	三	芥子	六五
同上ノ生理的作用	三四五	「グゼリン」	四八	芥子浴	六六
同上ノ局所作用	三四五	「グツゲン」	四八	芥子泥	六六
同上ノ吸收	三四六	「グソール」	四八	芥子紙	六六
同上ノ排泄	三四六	黃色酸化汞	二九六	芥子精	六六
燐ノ榮養ニ對スル影響	三四六	黃降汞	二九六	芥子油	六七
燐中毒ノ場合ノ窒素ノ排泄	三四七	黃燐	三四五	「カンタリヤン」及「オイフォルビン」	六七
同上ノ場合ノ黃疸	三四八	黃蠟	三四四	屬ノ一般性質	六七
燐解毒劑	五九、三四八	〔カ〕		同上ノ所在	六七
燐ノ醫治效用	三四八	「カラゲイン」	七	「カンタリヤン」	六八
淋巴腺	三九八	寒天	八	「カプザイツイン」	六八
〔ヌ〕		甘草根	二	「カルドール」	六八
「ヌトロローゼ」	三五七	甘草葉	一三	「カンタリヤン」及「オイフォルビン」	六八
〔ル〕		「カミルレ」花	一五	屬ノ局所作用	六九
「ルゴール」溶液	二四六	菘蓎	二六	同上ノ吸收作用	六九
〔ヲ及オ〕		苛味性健胃劑	二七	同上ノ醫治效用	七〇

「カンタリヤン」及「オイフォルビン」	七	細皮	一九七	甲狀腺中毒	三七三
屬ノ外用ニ際スル注意	七	苛性「カリ」ノ作用及其長所	三〇一	同上醫治效用	三七三
「カンタリス」	七二	苛性「カリ」	三〇〇	甲狀腺錠	三六六
「カンタリス」丁幾	七三	「カリ」石鹼	二二五	藥丸	三八九
「カストル」油	八九	製製「マゲチシア」	二二七	同上ノ有效成分	三九二
「カタルチン」酸	九七、九九	「カルルス」尿	二四二	同上ノ生理的作用及醫治效用	三九二
「カスカラサグラダ」皮	九八、一〇三	甘草ノ吸收	二八四	抗毒素	三九八
「ガンホギア」酸	九八、一〇三	同眼病ニ於ケル應用	二八九	抗毒素ノ發生	四〇三
肝狀腺膏	一〇九	同下劑トシテノ應用	二八九	同上ノ形成	四〇四
「カスカラサグラダ」	一一三	同利尿劑トシテノ應用	二八九	乾燥大腸重體	三九七
「カスカラサグラダ」流動感幾斯	一一三	甘草	二九三	抗毒血清	四〇一
「カマラ」	一一三	肝油	三五一	同上ノ奏效	四〇一
「カンベツシユ」木	一一三	含糖「スブシン」	三五一	乾燥「ヤフテリア」血清	四〇一
「カプトール」	一一三	含水炭素類	三五一	乾燥破傷風血清	四〇三
解離	一四三	蝦製硫酸「カルシウム」	三五一	〔ヨ〕	
解離產物	一四五	硬膏及硬膏成分	三六二	浴	
「カチオン」	一四六	「カルバキム」	三六二	「ヨード」ノ「イオン」作用	一五三
海水浴	一五八	硬膏	三六五	同上ノ體內ニ遊離シタルモノノ、	一六九
海水ノ食鹽含量	一五八	甲狀腺	三七〇、三七五	作用	一七〇
湯ノ起ル原因	一六〇	甲狀腺ノ内分泌	三七二	同上ノ排泄	一七〇
「カリウム」鹽ノ「イオン」作用	一六〇	同上ノ有效成分	三七三	「ヨードカリウム」	一七〇、一七九
「カリウム」鹽類ヲ内服シテ中毒セ	一六〇	同上ノ生理的作用	三七三	「ヨードナトリウム」	一七〇、一七九
ザル理由	一六〇			「ヨードカリウム」中毒	一七三
「カルシウム」鹽ノ「イオン」作用	一六八				



孕婦酒石	一四	「ヨード」	二五、二六	「タカシアスターゼ」	三五三
同上ノ刺戟作用	二四八	「ヨード」中毒	二四九	蛋白質類	三五六
同上ノ顯著性炎症	二四九	同上ノ内用	二五〇	「ゲムセル」脂	三五七
同上ノ内用	二五〇	「ヨード」中藥	二五一	炭酸鉛	三五八
「ヨード」中藥	二五一	「ヨード」丁機	二五二	單鉛硬膏	三五九
「ヨード」丁機	二五二	「ヨード」護舍利別	二五三	彈力「コロヤウム」	三六〇
「ヨード」護舍利別	二五三	溶性硝酸銀	二五四	大腸垂體	三六一
溶性硝酸銀	二五四	「ヨード」チリン	二五五	同上ト四肢肥大症トノ關係	三六二
「ヨード」チリン	二五五	溶菌素	二五六	同上ノ有效成分及生理的作用	三六三
溶菌素	二五六	溶菌血清	二五七	同上ノ醫治效用	三六四
溶菌血清	二五七	溶菌血清ノ奏效少ナキ理由、一	二五八	他動的免疫法	三六五
同上、二	二五八	同上、三	二五九	單致死量	三六六
同上、三	二五九	同上、四	二六〇	方量壓溶液	三六七
同上、四	二六〇	〔タ〕	二六一	瓊脂菌血清	三六八
單舍利別	二六一	單舍利別	二六二	〔リ〕	
單軟膏	二六二	打臘劑	二六三	組織洗滌	一五五
打臘劑	二六三	大黃根	二六四	粗製炭酸「カリウム」	一五六
大黃根	二六四	大黃越幾斯	二六五	粗製炭酸「ナトリウム」	一五七
大黃越幾斯	二六五	大黃舍利別	二六六	草食獸ノ酸中毒	一五八
大黃舍利別	二六六		二六七	粗製木糖	一五九
			二六八	造鹽素屬ノ所屬物質	一六〇
			二六九	同上ノ腐蝕作用	一六一
			二七〇	粗製硫酸鐵	一六二
			二七一		
			二七二		
			二七三		
			二七四		
			二七五		
			二七六		
			二七七		
			二七八		
			二七九		
			二八〇		
			二八一		
			二八二		
			二八三		
			二八四		
			二八五		
			二八六		
			二八七		
			二八八		
			二八九		
			二九〇		
			二九一		
			二九二		
			二九三		
			二九四		
			二九五		
			二九六		
			二九七		
			二九八		
			二九九		
			三〇〇		
			三〇一		
			三〇二		
			三〇三		
			三〇四		
			三〇五		
			三〇六		
			三〇七		
			三〇八		

着鉛屬ノ生理的作用	三五	尿結石病者ニ對シテ「アルカリ」液	三〇七	ウキルキンソン軟膏	三三
同上ノ局所作用	三五	用ノ弊	三〇七	〔ノ〕	
同上ノ吸收作用	三五	〔ナ〕		腦脊髄	三九
同上ノ急性中毒	三五	軟膏	三〇七	〔ク〕	
同上ノ慢性中毒	三五	軟下劑	三〇七	緩和劑	四〇
同上ノ排洩	三五	「ナトアロイン」	三〇七	驅風劑	四〇
同上ノ醫治效用	三五	「ナトアロイン」	三〇七	枸橼皮	四〇
「ソマトーゼ」	三五	南瓜種子	三〇七	枸橼油	四〇
臟器療法ノ原理	三五	内分泌	三〇七	枸橼精	四〇
側鎖説	三五	〔ラ〕		茴香	四〇
〔ツ〕		「ラノリン」	三〇七	茴香油	四〇
角叉	八	「ラムノーゼ」	三〇七	茴香水	四〇
「ツエトラリン」	八	「ラタニア」根	三〇七	茴香水	四〇
「ツエンタウリウム」草	八	「ラルギン」	三〇七	茴香水	四〇
「ツメルクリン」	八	卵巢	三〇七	茴香水	四〇
「ツメルクリン」殘基	八	同上ノ内分泌	三〇七	茴香水	四〇
〔子〕		卵巢抽出及月經閉止ノ結果	三〇七	茴香水	四〇
粘藥劑ノ所在	二	〔ム〕		茴香水	四〇
同上ノ一般作用	二	無機化合物ノ作用	三〇七	茴香水	四〇
同上ノ一般應用	二	無血無痛手術	三〇七	茴香水	四〇
同上ノ他ノ物質ノ吸收ヲ遅クスル	二	〔ウ〕		茴香水	四〇
作用	二	「ウガアウルジョー」葉	三〇七	茴香水	四〇
同上ノ他ノ藥劑ノ刺戟ヲ緩和スル	二	「ウルジン」	三〇七	茴香水	四〇
作用	二	「ウロジン」	三〇七	茴香水	四〇
		「ウロトロピン」	三〇七	茴香水	四〇







「コロツインチン」	九二九	「エーテル」性類草丁幾	二七	鉛屬ノ吸收作用	三三九
「コロシント」實	九四	「エラテリン」	七	鉛ノ急性中毒	三三九
「コロシント」感幾斯	九四	英方「エラテリウム」	七	鉛ノ慢性中毒	三三〇
「コロシント」丁幾	九四	鹽類作用	一四九	鉛毒癩瘡	三三〇
「コロシント」ヒヨス丸	九五	鹽類ニヨリテ起ル榮養致ニ機能障礙	一七	鉛毒癩瘡	三三〇
「コソ」花	二四、二九	鹽類浴ノ醫治效用	一七八	鉛毒關節痛	三三〇
「コソトキシシ」	二四	鹽類ノ粘膜ニ於ケル局所作用	一七八	鉛毒腹痛	三三〇
五倍子	二三八	鹽類ノ胃病ニ對スル應用	一七八	鉛ノ吸收	三三一
五倍子丁幾	二三八	鹽類ノ利尿作用	一六二	鉛ノ排泄	三三一
胡桃葉	二四三	鹽類下劑	一八四	鉛屬ノ醫治效用	三三一
汞毒性口腔赤	二八五	同上奏效ノ理	一八五	鉛鹽ノ外用	三三一
汞毒震顫	二八七	同上ノ吸收	一八七	鉛毒	三三二
汞毒過敏症	二八七	同上ノ應用	一八八	鉛軟膏	三三二
膠樣水銀	二九六	同上ト植物性下劑トノ醫治效用ノ區別	一八九	鉛硬膏	三三二
「コラーゴール」	三〇〇	英方沸騰散	二二三	鉛丹	三三二
膠樣銀	三〇〇	鹽酸「ヤオキシ、ヤアミド、アルセノ	二二三	鹽化「アドレナリン」	三三七
枯礬	三〇三	「マンツォール」	二五五	「エヒ子フリン」	三六九
「コロフォニウム」	三〇三	「エーテル」性鐵丁幾	三〇〇	液體「フテリア」血清	四一七
護膜硬膏	三〇五	○鉛屬ノ生理的作用	三三八	同上ノ豫防注射	四二二
「コロザウム」	三〇七	同上ノ局所作用	三三八	澱粉	五
骨髓	三〇九				
後天性免疫質	四〇〇				
「コレラ」血清	四〇〇				
「コレラ」接種素	四〇三				

丁香	二五	鐵劑ノ醫治效用	三〇三	「アチモニン」	六八
丁香油	二五	同上ノ止血作用	三〇三	「アントラロピン」	六八
泥膏	二六	同上ノ外用	三〇三	「アロイ子」	九八
「テレピン」油屬ノ所在	二五	同上ノ胃出血内用	三〇三	「アスピヤン」	一〇〇
同上ノ局所作用	二五	同上ノ萎黃病ニ對スル奏效	三〇五	「アレコリン」	一一一
同上ノ吸收作用	二五	同上禁忌ノ場合	三〇五	「アルプチン」	一一五
同上ノ排泄経路	二五	同上服用時ノ副作用	三〇六	阿仙藥	一一九
同上ノ醫治效用	二五	鐵丸膏	三〇六	阿仙藥丁幾	一二〇
同上ニヨリテ起ル急性腎臟炎	二五	鐵粉	三〇八	「アセチールタンニン」	一二一
同上ニヨリテ起ル嚔胎	二六	鐵糖	三二〇	「アセチールタンニン」	一二四
「テレピンチーナ」	二六	「テルマトール」	三三九	「アニオイン」	一二九
「テレピン」油	二六	澱粉類	三五五	「アルカリ」屬ノ所屬物質	一〇〇
「テレピンチーナ」軟膏	二六	「アラビアゴム」	六	同上ノ局所作用及醫治效用	一〇〇
鐵刀木粉	二六	「アラビアゴム」漿	六	同上ノ消化器ニ對スル作用	一〇一
鐵屬	二九	「アルテア」根	六	同上ノ吸收作用及醫治效用	一〇三
同上生理的作用	二九	「アルテア」舍利別	七	同上ノ利尿作用	一〇八
同上局所作用	二九	阿魏	一六	「アルカリ」瀉泉ノ慢性氣管支炎ニ於ケル效用	二〇九
同上收斂及腐蝕作用	二九	阿魏丁幾	一六	「アルカリ」劑ノ膽石患者ニ於ケル效力	二〇九
同上吸收作用	二九	「アニス」子	二四	亞硫酸	二四四
鐵ノ排泄	二九	「アニス」油	二四	同上ノ消毒作用	二四五
鐵ノ中毒作用	二九	安息香酸脂	四七	亞砒酸	二六六、二七五
鐵ノ腸管ヨリスル吸收	二九	亞麻仁	五〇	亞急性砒石中毒	二六九
鐵鹽類ノ吸收	二九	亞麻仁油	五〇		
同上ノ同化	二九				



亞砒酸「カリウム」液	二七四	「アンモニニアクム」	三六三	催經劑	八三
「アトキシール」	二七五	「アイオザン」	三六六	「サントニン」	一三五、一三一
「アンチモン」屬ノ生理的作用	二七七	「アンチチレノイジン」	三七七	同上中毒症狀	一三五
同上ノ局所作用	二七七	「アドレナリン」	三八〇	同上慢性中毒	一三六
同上ノ吸收作用	二七八	同上ノ所在	三八〇	「サルグイア」葉	一四一
同上ノ砒素ト一致セル點	二七八	同上ニヨレル血壓ノ昇降	三八二	竇透	一四六
同相違セル點	二七八	同上ニヨレル心臓亢奮	三八三	細胞被膜ノ竇透性	一四七
「アンチモン」慢性中毒	二七九	同上急性中毒	三八四	醋酸「カリウム」液	一八二
「アンチモン」屬醫治效用	二七九	同上糖尿	三八五	醋酸「ナトリウム」	一八三
「アンチモン」化合物ノ長短及「ア ボモルフイン」、吐根トノ比較	二七九	同上慢性中毒	三八五	「サリツイール」酸「リチウム」	二〇七、二〇四
「アクトール」	二八〇	同上ニヨレル「アテローム」變性及 脈瘤	三八五	酸類屬ノ所屬物質	二〇五
「アルゲンタミン」	二八〇	同上ノ止血作用	三八六	同上ノ局所作用	二〇五
「アルゲンツール」	二八〇	同上使用ノ注意	三八七	同上ノ腐蝕作用	二〇五
「アルゴニン」	二八二	「アナフヒラキシール」	二八七	同上ノ防腐作用	二〇五
亞鉛華	二八二	「サレツアップ」根	二八八	同上ノ刺戟作用	二〇七
亞鉛華軟膏	二八二	「サレツアップ」結業	二八八	同上ノ止血作用	二〇七
「アルミニウム」屬ノ生理的作用	二八三	「サレツアップ」	二八八	同上ノ胃腸ニ於ケル作用	二〇八
同上ノ局所作用	二八三	「サッカリン」	二八九	同上ノ「アルカリ」中毒ニ於ケル使用	二〇九
「アルミニウム」屬ノ吸收作用	二八三	「サツカリ」ノ害	二九〇	同上ノ通利作用	二一一
「アルミニウム」ノ「イオン」作用	二八三	「サルフィア」葉	二九〇	同上ノ血液ニ對スル作用	二一一
「アルミニウム」屬ノ醫治效用	二八三	「ザルフオルミン」	二九〇	醋酸	二二六
亞急性性中毒	二八三	「サビナ」油	二九〇	酸化劑ノ作用	二五〇
「アロイロナート」	二八三				

酸類ニ因スル局所作用ノ強弱	二六〇	鱈鱗油脂	一四二	優量壓溶液	一四七
「サリツイール」酸系	二九七	局所腐蝕	一四九	有機酸	二三八
醋酸鉛	三三三	「キナ」酸「リチウム」	二〇七	「メツエレイン」	六八
「デノトールゲン」	三三三	稀鹽酸	二三四	綿馬根	一一三、一三六
「デノトール」	三三七	稀硫酸	二三四	綿馬根ノ副作用	一一三
「デノトール」	三三七	稀硝酸	二三五	綿馬根ノ副作	一一三
酸化鉛	三三七	蟻酸	二三五	「メルコリント」	一一七
儀器療法ノ原理	三三〇	急性砒石中毒	二六八	「メルグリオール」	二九八
(キ)		金硫黃	二八二	「メルグリオール」	二九八
局所ノ營養障礙ヲ喚起スル有機化	一	銀屬	二八三	明礬ノ應用	三〇三
合體ノ一般作用	一	同上ノ生理的作用	二八三	同上ノ内用	三〇三
矯味劑	三	同上ノ局所作用	二八三	同上ノ外用	三〇三
同上ノ所在	三	同上ノ吸收作用	二八三	明礬	三〇三
同上ノ效用	九	急性銀中毒	三〇四	免疫質	三〇三
蠟草根	二六	銀症	三〇五	免疫質ヲ生ズル原因	三〇九
蠟草丁幾	二七	銀屬ノ醫治效用	三〇六	免疫體	三〇九
嗅劑ノ一般作用	二七	金	三二二	滅殺微菌接種法	三三〇
嗅劑トシテ用ヒラル、藥物	二七	稀醋酸	三四七		
蠟根	二七	急性性中毒	三六九	(ニ)	
蠟根丁幾	二七	去勢ノ動物ニ及ボス影響	三六九	水ノ内服	一五三
蠟根舍利別	二八	胸腺	三六九	水ノ吸收作用	一五三
基礎軟膏	二八	拮抗素	三六九	水ノ排泄	一五四
強發泡膏	二八	油糖	三六九	水ニヨル發汗	一五四
「キノ」	二八			水ノ吸收ニ因スル新陳代謝ノ變化	一五四







小兒粉	三五九	水銀中毒ノ糖尿	二六六	乙治療索引	
小兒食汁	三五九	水銀ノ利尿作用	二六七	〔イ及井〕	
石松子	三六〇	同上中毒ノ皮膚ノ障礙	二六七	胃無力	一九、一五九
燒石膏	三六一	同上脂肪變性	二六七	胃擴張	一九
攝護腺	三九二	水銀慢性中毒	二六七	胃加答兒	一三六、一五九、二〇一、二一三、三六
先天性免疫質	四〇〇	水銀排泄	二六七	胃慢性加答兒	一五三
赤痢血清	四〇五	水銀劑ノ微毒ニ對スル作用	二六八	胃液分泌不足	一五九
赤痢抗毒血清	四一五	同上ノ消炎劑トシテノ應用	二六八	胃酸過多	一〇一
赤痢溶菌血清	四二五	同上ノ皮下注射	二六九	陰囊水腫	二四六
〔ヌ〕		水銀	二七〇	胃出血	三〇三、三〇六、三〇七
睡菜葉	三	水銀軟膏	二七〇	萎黃病	三〇五
「ブルフォイヒチオール」酸	七	水銀硬膏	二七〇	明頭加答兒	一七五、三六、三三二
ニウム	七	「ズブフレニン」	二七〇	胃潰瘍	三六、三三七
「スカンモニン」	七	尿糖尿病	二七〇	〔ロ〕	
水銀ノ生理的作用及醫治效用	一五二			「ロイマチス」	五三、五七、六五、六九、七八、一五八、一七〇
水銀基「イオン」	二〇〇			〔ハ〕	
水銀屬ノ生理的作用	二八二			膀胱炎	三八
同上ノ局所作用	二八二			肺壞疽	三八
同上ノ制菌及消毒作用	二八三			肺結核	三八
同上ノ吸收作用	二八三			白帶下	一三五
水銀軟膏ノ吸收	二八四			膀胱加答兒	一三六、一四〇、一四三、一四四
水銀中毒	二八五				
同上ニ於ケル血行器障礙	二八六				
同上腎臟ノ障礙	二八六				

發汗過多	一四三	毒蛇咬傷	四一九	〔ワ〕	
膀胱結石	一六三	腸胃加答兒	三	黃癩	七六
微毒	一六九、一七五、一七六、一八八	弛緩性潰瘍	五八、四八	〔カ〕	
反射亢奮	一七三	腸酸酵	七、八、四八、二〇三、二八九	下腹痙攣	一三
白血病	二七三、三〇五	中毒	八〇	假死	一八、六五
敗血病	二七、四二七	梅毒	五八、一三五	咯血	一五九
パセドー病	三七四、三七七	腸加答兒	一三六、一四一	驚口瘡	一七六
破傷風	四一九	重金屬中毒	一三七	甲狀腺腫	一七〇、二四六、三三四
肺炎	四二八	痔疾	三三	疥癬	二三四
〔ニ〕		「ヤフテヤー」	三三八、四二六、四二七、四三七	假性白血病	二七三
肉中毒	四二六	陰炎	三六、三四	角膜炎濁	二八九、三六六
〔ホ〕		腸出血	三三二	夏日疔	二九二
蜂窩織炎	四二七	除甲狀腺惡液質	三七三	角膜炎潰瘍	四二八
〔ヘ〕		「チフス」	四二四、四三四	〔タ〕	
鞭蟲	一三五	〔リ〕		膽石痛痛	五九
表皮剝離	一五三、三三四、三三三	痲疾	三六、三四、三七、三四二	脫毛症	七〇、一四三
〔ト〕		利尿劑	五九、二八九	丹毒	七八、四二七
凍瘡	五八、六八	鱗屑疹	七六、七六、三二二、三二五、三七五	膽石	二〇九、二二三
禿頭病	七〇	淋毒性尿道炎	三三八	創傷	一五三、三三七、三三三、三三六、三三九、三六六
糖尿痢	二二五、二二三、三九八、三九八	淋巴管炎	四二七	〔ツ〕	
銅中毒	三二六	〔ル〕		痛風	五八、六八、一六七、二〇五、二二一、二二三、二二四
「トリバノゾマ」病	二七五	痲癩	一七〇、三〇七	〔子〕	
吐劑	二七九、三三五				



尿道炎	三八、三五、三六、三四	火傷	三七、三三、三六、三九、四九	虹彩炎	八四
尿酸病的素質	二〇五	「クレチニスムス」	三六、三九、四九	喉頭加答兒	三、三五、三六、三九、四六
尿結石	一六七、二〇六、三一一、三三三、三三四	關節「ロイマチス」	四七	口腔炎	一七五、一八四
粘液水腫	三七三	慢性便秘	五	禾毒性口腔炎	一七六
尿毒症	三九八	慢性氣管支炎	五八、七、七二、二〇九	骨軟化症	三三〇、三三八、三三八、三八七
卵巣囊腫	二四六	「マラリア」	二七三、二七五	喉頭結核	二三八
老衰	三九三	慢性下痢	三六、三三八、三四〇	紅色苔癬	二七三
膿腫	五八	月經閉止	八四、一〇五	「コンヤローム」	三六
膿膜炎	七〇、八四	血管硬化	一七	虎列刺	四四、四三
膿出血	八四	下痢	一〇二、八九	炎性疼痛	六五
膿充血	八四	毛虱	二九	炎性滲出液	八四、一六五、一七〇
膿漏眼	二六九	結膜炎	三六、三四、三六	鉛中毒	一七一、三三
膿毒症	三二七、四七	下痢	三三	瘰癧	二四八
嘔吐	三四六、二四九	結核症	五八、五二、四三、四六、四七、四八	炎症	二八八、三二七
「ク」		腹膜炎	七	「テ」	一七三、三六
尙復病	三六、三三〇、三三八、三四八、三五二、三六七	婦人病	一五六	癩癩	三七九
化膿性氣管枝炎	八八	腹水	一六五	「アルカロイド」中毒	一三六
頑癬	七六	不眠症	一七三	惡液質	二七三、三三
蛔蟲	二二五	舞蹈病	二五	惡性淋巴腺腫	二七二
潰瘍	一五三、二四八、二四八、二五五、三六	「コ」		惡性貧血	三〇五
潰瘍性口内炎	一八四	糠批疹	六、三二	「アンギナ」	三四二、四二七

アヤソソ病	三八六	嗜眠	五三	猩紅熱	四二七
瘰癧	六八、三二	神經痛	五三、七、六五、七、七六、七三	「ヒステリー」	一六
酸中毒	三〇一、三〇五	胸瘧	五七、一五五、三二	百日咳	一六
再歸熱	二七六	心囊炎	七〇	鼻加答兒	一三五、三三、三八六
產褥熱	三二七、四二七	濕疹	六八、三二、三三、三三	肥胖病	一五四、二〇五、三三、三七四
「キ」		子宮炎	六	皮疹	一五八、二四
氣管支炎	三、六	習慣性便秘	全	貧血	一八八、二七三、三〇三、三三二、三五二
虛脫	一八、五三、五五	織蟲病	一八、二〇、二二、二二	皮膚病	一〇一、一〇一、二二五、二七五
氣管支膿漏	五八	十二指腸蟲病	一三〇、三三、三三	砒石中毒	二二、二六、三〇、三〇八
寄生性細菌疹	六六	出血	一三五、一六八、二〇三、三三六	皮膚炎	三三八
蟻蟲	一三五	脂漏症	一四三	「モルヒネ」中毒	一五三
氣管支加答兒	一三五	腎臟結石	一六三	「セ」	
胸水	一六五	腎臟炎	一六五	消化不良	一九、一八九、三五四
氣道加答兒	二二三	神經亢奮	一七	腺病	二六、一五八、二八、三五二
急性尿道炎	三九	齒酸中毒	一六	喘息	五八、一七一、二七三、三八七
祛痰劑	二七九、三五	瘵疾	二二	纖維性氣管支炎	一七一
氣管支肺炎	四二七	進行性麻痺	三三	消毒	三二、四三、二八八、三二七、三三三、三四三
「ユ」		酒渣鼻	三六	船暈	二四六
疣	三六	四肢肥大症	三五、三九	青酸中毒	二五三
「メ」		子癩	三七九	小兒下痢	二八九
面皰	三二	心臟麻痺	三六、三九七	脊髓癆	三二六
「シ」		失神	一六、三九	赤痢	四二五



〔又〕

水腫 八四、一六三、一六五、二八九

水血病 一六五

「スコルブート」 一七六

水銀中毒 一七二、二六、三四

衰弱 三五二

藥理學下卷索引終



## II BAND. SACHREGISTER.

<b>A</b>	
Acetum pyrolignosum crudum.. ..	37
Acetum pyrolignosum rectificatum ..	237
Acidum aceticum .. .. .	236
Acidum aceticum glaciale .. ..	236
Acidum arsenicosum .. .. .	266, 273
Acidum boricum .. .. .	183
Acidum chromicum .. .. .	252
Acidum citricum .. .. .	238
Acidum formicum .. .. .	236
Acidum hydrochloricum .. .. .	233
Acidum hydrochloricum dilutum ..	234
Acidum lacticum .. .. .	237
Acidum nitricum .. .. .	235
Acidum nitricum dilutum.. .. .	235
Acidum phosphoricum .. .. .	235
Acidum sulfurosum .. .. .	254
Acidum sulfuricum .. .. .	234
Acidum sulfuricum dilutum .. ..	234
Acidum tannicum .. .. .	137
Acidum tartaricum .. .. .	238
Acidum trichloraceticum .. .. .	237
Active Immunisierung.. .. .	402
Actolum .. .. .	320
Adeps benzoatus .. .. .	47
Adeps suillus .. .. .	47
Adrenalin .. .. .	380
Adrenalinglykosurie .. .. .	385
Adrenalinum hydrochloricum .. ..	387
Adrenalinvergiftung .. .. .	384
Aetzkali .. .. .	210
Aeusere Secretion .. .. .	369
Aetzmittel .. .. .	195
Aetzung .. .. .	196
Agar-agar .. .. .	8
Aiodin .. .. .	376
Akute phosphorvergiftung .. ..	347
Albuminum tannicum .. .. .	142
Aleuronat .. .. .	358
Alkalien .. .. .	200
Aloë .. .. .	98, 102, 109
Aloë hepatica .. .. .	109
Aloë lucida.. .. .	109
Aloin .. .. .	100
Aloine .. .. .	98
Alumen .. .. .	343
Alumen exsiccatum .. .. .	344
Aluminium .. .. .	340
Aluminium sulfuricum .. .. .	344
Ammoniacum .. .. .	363
Ammonium bromatum .. .. .	179
Ammonium sulfoichthyolicum .. ..	77
Amylum .. .. .	5, 355
Analeptica .. .. .	61
Anaphylaxie .. .. .	414
Anemonin .. .. .	68
Angeborene Immunität .. .. .	400
Anion .. .. .	146
Anisotonische Lösung .. .. .	147
Anthrarobin .. .. .	76
Antibotulismusserum.. .. .	426
Anticholeraserum .. .. .	424
Antidotum arsenici .. .. .	303, 308
Antidysenterieserum .. .. .	425
Antikörper .. .. .	406
Antimon .. .. .	276
Antipeptserum .. .. .	423
Antipneumokokkenserum .. .. .	428



Antischlangenserum .. .. .	428
Antistaphylokokkenserum .. .. .	428
Antistreptokokkenserum .. .. .	426
Antithyreoidin .. .. .	377
Antitoxine .. .. .	402, 403
Antitoxische Sera .. .. .	411
Antitubercloseserum .. .. .	423
Antityphuserum .. .. .	424
Aperitiva .. .. .	79
Aqua calcariae .. .. .	217
Aqua chlorata .. .. .	247
Aqua cinnamomi .. .. .	23
Aqua foeniculi .. .. .	24
Aqua Goulardii .. .. .	335
Aqua Menthae .. .. .	12
Aqua rosae .. .. .	12
Arbutin .. .. .	139
Arcolin .. .. .	125
Arcolinum hydrobromicum .. .. .	130
Arger:aminum .. .. .	320
Argentol .. .. .	320
Argentum nitricum .. .. .	316
Argentum nitricum crystallisatum .. .. .	317
Argentum nitricum cum Kalio nitrico .. .. .	318
Argentum nitricum fusum .. .. .	318
Argentum proteinaturn .. .. .	318
Argonin .. .. .	321
Argyrie .. .. .	315
Aromatica .. .. .	20
Arrowroot .. .. .	355
Arsen .. .. .	266
Arsenicismus .. .. .	268
Arsenik .. .. .	267, 273
Arsensäure .. .. .	266
Arzneipflaster .. .. .	363
Asa fetida .. .. .	16
Aspidin .. .. .	121
Atoxyl .. .. .	275

**B**

Bacillus botulismus .. .. .	426
Bacterienimmunität .. .. .	401
Bacteriolysine .. .. .	402, 407
Bacteriolytide Sera .. .. .	411

Bacteriotherapie .. .. .	429
Bäder .. .. .	152
Balsamum Copaivae .. .. .	40
Barbaloin .. .. .	98
Berberin .. .. .	31
Bismuthum subcarbonicum .. .. .	340
Bismuthum subgallicum (Dermatol) .. .. .	339
Bismuthum subnitricum .. .. .	338
Bismuthum subsalicylicum .. .. .	339
Bittere Magenmittel .. .. .	29
Bleiarthralgie .. .. .	331
Bleiencephalopathie .. .. .	330
Bleiessig .. .. .	334
Blei .. .. .	328
Bleikolik .. .. .	331
Bleilähmung .. .. .	331
Bleipflaster .. .. .	335
Bleisalbe .. .. .	334
Bleisaum .. .. .	330
Bleizucker .. .. .	333
Bolus alba .. .. .	360
Borax .. .. .	177, 184
Borsäure .. .. .	177, 183
Borovertinum .. .. .	44
Brechweinstein .. .. .	280
Bromsalze .. .. .	172

**C**

Cachexia Strumipriva .. .. .	371
Calcaria chlorata .. .. .	248
Calcaria usta .. .. .	217
Calcium carbonicum praecipitatum .. .. .	217
Calcium lacticum .. .. .	181
Calcium chloratum .. .. .	180
Calcium phosphoricum praecipitatum .. .. .	218
Calcium salze .. .. .	168
Calcium sulfuricum ustum .. .. .	361
Cantharides .. .. .	71
Cantharidin .. .. .	68
Capsaicin .. .. .	68
Capitol .. .. .	143
Carminativa .. .. .	20
Carragen .. .. .	7
Caryophilli .. .. .	25

Cascara sagrada .. .. .	98, 103, 112
Cataplasmata .. .. .	46
Catechu .. .. .	140
Cera alba .. .. .	364
Cera flava .. .. .	364
Cetrarin .. .. .	8
Charta rubefaciens .. .. .	73
Charta sinapisata .. .. .	66
Chlor .. .. .	243
Chloroform .. .. .	119
Chlorsäuresalze .. .. .	175
Choleraimpfstoff .. .. .	433
Chrysarobin .. .. .	75
Chrysophansäure .. .. .	76, 97, 99
Collargolum .. .. .	320
Collodium .. .. .	367
Collodium elasticum .. .. .	367
Collodium epispasticum .. .. .	73
Cholehydrate .. .. .	354
Cholophonium .. .. .	63, 363
Colocynthin .. .. .	91, 91
Colophonium .. .. .	363
Columbin .. .. .	31
Convolvulin .. .. .	90, 91
Cortex aurantii Fructus .. .. .	21
Cortex Cascariillae .. .. .	34
Cortex Cinnamomi .. .. .	22
Cortex Citri fructus .. .. .	22
Cortex Condurango .. .. .	35
Cortex Frangulae .. .. .	97, 103, 111
Cortex Quercus .. .. .	142
Cortex Radicis Granati .. .. .	123, 127
Croton Tiglium .. .. .	86
Cubebae .. .. .	40
Cuprum aluminatum .. .. .	328
Cuprum sulfuricum .. .. .	327

**D**

Dampfkamel .. .. .	293
Darnparasiten .. .. .	117
Deckpflaster .. .. .	362
Desinfection .. .. .	244
Desinfektionsmittel für die Harnorgane .. .. .	37

Diffusion .. .. .	146
Dioxy-diamido-arsenobenzolum hydrochloricum .. .. .	275
Diphtherieheilserum .. .. .	415
Dissociation .. .. .	145
Dissociationsproducte .. .. .	145
Diuretica .. .. .	59
Drastica .. .. .	79
Durandesches Mittel .. .. .	61

**E**

Einfache letale Dose .. .. .	415
Einhüllende Mittel .. .. .	4
Eisen .. .. .	299
Eisenaufregung .. .. .	306
Eisenvitriol .. .. .	306
Eisessig .. .. .	236
Elaeosaccharo .. .. .	10
Elaterin .. .. .	90, 91
Elaterium anglicum .. .. .	96
Electuarium Sennae compositum .. .. .	105
Emmenagoga .. .. .	83
Emplastrum .. .. .	356
Emplastrum adhaesivum .. .. .	362, 366
Emplastrum Cantharidum ordinarium .. .. .	74
Emplastrum Cantharidum perpetuum .. .. .	74
Emplastrum fuscum Camphoratum .. .. .	366
Emplastrum Hydrargyri .. .. .	366
Emplastrum Lithargyri .. .. .	335, 365
Emplastrum Lithargyri Compositum .. .. .	365
Epicauta Gorhami .. .. .	68
Epilatinsmittel .. .. .	219
Epinephrin .. .. .	389
Erethismus mercurialis .. .. .	278
Erworbene Immunität .. .. .	400
Eucasin .. .. .	357
Euphorbin .. .. .	68
Extractum Absinthii .. .. .	33
Extractum Aloës .. .. .	109
Extractum Casae Sagradae fluidum .. .. .	112
Extractum Cascariillae .. .. .	35
Extractum Colocynthis .. .. .	94
Extractum Colombo .. .. .	31
Extractum Condurango fluidum .. .. .	36



Extractum Coptidis .. .. .	32
Extractum Cubebarum .. .. .	41
Extractum Filicis .. .. .	127
Extractum Frangulae fluidum .. .. .	112
Extractum Gentianae .. .. .	30
Extractum Rhei .. .. .	105

**F**

Ferratin .. .. .	311
Ferrum citricum ammoniatum .. .. .	310
Ferrum citricum oxydatum .. .. .	309
Ferrum lacticum .. .. .	309
Ferrum oxydatum saccharatum .. .. .	310
Ferrum pulveratum .. .. .	308
Ferrum reductum .. .. .	309
Ferrum sesquichloratum .. .. .	307
Ferrum sulfuricum .. .. .	307
Ferrum sulfuricum crudum .. .. .	308
Fette u. Verdauungsenzyme .. .. .	351
Flores Camomillae .. .. .	15
Flores Cinae .. .. .	130
Flores Koso .. .. .	124, 129
Flores Sambuci .. .. .	14
Flores Tiliae .. .. .	14
Folia Juglandis .. .. .	142
Folia menthae piperitae .. .. .	14
Folia Salviae .. .. .	15, 141
Folia Sennae .. .. .	97, 101, 104
Folia Sennae spiritu extracta .. .. .	104
Folia Trifolii fibrini .. .. .	33
Folia Uvae ursi .. .. .	42, 139
Frangulin .. .. .	97, 99
Fructus Anisi .. .. .	24
Fructus Cardamomi .. .. .	27
Fructus Colocynthis .. .. .	94
Fructus foeniculi .. .. .	23

**G**

Galbanum .. .. .	364
Gallae .. .. .	138
Gambogiasäure .. .. .	98, 101
Gelber Phosphor .. .. .	345
Gerbsäuren .. .. .	132

Geschmackscorrigens .. .. .	3
Gewebswäscher .. .. .	155
Gewürze .. .. .	65
Giftimmunität .. .. .	401
Glandula parotis .. .. .	399
Glandula Thyreoidea .. .. .	370, 375
Glaubersalz .. .. .	184
Glandula parathyreoidea .. .. .	378
Glandula suprarenalis .. .. .	379
Glycerinum .. .. .	49
Gospulver .. .. .	75
Gold .. .. .	321
Goldschwefel .. .. .	281
Gummi arabicum .. .. .	6
Gummi Guttii .. .. .	98, 103, 113
Gummipflaster .. .. .	365
Graue Quecksilbersalbe .. .. .	292
Guttapercha .. .. .	361
Gypsum ustum .. .. .	361

**H**

Habituelle Verstopfung .. .. .	82
Hautreizmittel .. .. .	50
Hautsalben .. .. .	74
Hebra'sche Salbe .. .. .	335
Heftpflaster .. .. .	362, 366
Helmitolum .. .. .	43
Hepar (Leber) .. .. .	398
Herba absinthii .. .. .	33
Herba Centaurii .. .. .	34
Hirn u. Rückenmark .. .. .	399
Hydrargyrum .. .. .	292
Hydrargyrum bichloratum .. .. .	294
Hydrargyrum chloratum .. .. .	293
Hydrargyrum chloratum vapore paratum .. .. .	293
Hydrargyrum colloidal .. .. .	298
Hydrargyrum bijodatum .. .. .	295
Hydrargyrum oxydatum flavum .. .. .	296
Hydrargyrum oxydatum rubrum .. .. .	296
Hydrargyrum praecipitatum album .. .. .	297
Hydrargyrum Salicylicum .. .. .	297
Hydrogenium peroxydatum .. .. .	253
Hydroxylon .. .. .	120

Hypertonische Lösung .. .. .	147
Hypophysis cerebri .. .. .	394
Hypophysis cerebri sicca .. .. .	397
Hypotonische Lösung .. .. .	147

**I**

Ichthyol .. .. .	77
Immunkörper .. .. .	409
Immunität .. .. .	400
Immunitätseinheit .. .. .	415
Infusum Rhei compositum .. .. .	107
Infusum Sennae compositum .. .. .	104
Innere Secretion .. .. .	369
Ion .. .. .	145
Ionenwirkung .. .. .	163
Isotonie .. .. .	147
Isotonische Lösungen .. .. .	147
Itrol .. .. .	319

**J**

Jalapin .. .. .	90
Jodium .. .. .	245, 248
Jodsalze .. .. .	167
Jodismus .. .. .	246
Jodthyrin .. .. .	247, 372, 376

**K**

Kalium aceticum .. .. .	182
Kalium bicarbonicum .. .. .	212
Kalium bichromicum .. .. .	253
Kalium bitartaricum .. .. .	192
Kalium bromatum .. .. .	172, 178
Kalium carbonicum .. .. .	210
Kalium carbonicum crudum .. .. .	210
Kalium causticum .. .. .	210
Kalium chloratum .. .. .	164
Kalium chloricum .. .. .	175, 181, 254
Kalium jodatum .. .. .	170, 179
Kalium nitricum .. .. .	180
Kalium permanganicum .. .. .	251
Kaliumsalze .. .. .	164
Kalium sulfuratum .. .. .	223

Kalium sulfuricum .. .. .	191
Kalium tartaricum .. .. .	193
Kalomel .. .. .	293
Kamala .. .. .	124, 129
Kardol .. .. .	68
Karlsbad .. .. .	241
Kathartinsäure .. .. .	97, 99
Kation .. .. .	146
Kindermehl .. .. .	359
Kindersuppe .. .. .	359
Kino .. .. .	141
Knochenmark .. .. .	399
Kochsalz .. .. .	156, 178
Kochsalzquelle .. .. .	158
Kohlehydrate .. .. .	354
Kohlensaures Alkali .. .. .	201
Komplement .. .. .	409
Kosotoxin .. .. .	124
Kretinismus .. .. .	371
Kupfer .. .. .	321
Kupfervergiftung .. .. .	322

**L**

Lanolin .. .. .	48
Largin .. .. .	321
Laxantia .. .. .	79
Lichen irlandicus .. .. .	7
Lichen islandicus .. .. .	8
Lycopodium .. .. .	360
Lignum Campechianum .. .. .	142
Lignum Quassiae .. .. .	32
Linimenta .. .. .	45
Liquor aluminii acetici .. .. .	345
Liquor Ferri albuminati .. .. .	312
Liquor Ferri sesquichlorati .. .. .	305
Liquor Ferri sulfurici oxydati .. .. .	307
Liquor Fowleri .. .. .	274
Liquor Kali acetici .. .. .	182
Liquor Kali arsenicosi .. .. .	274
Liquor Plumbi acetici .. .. .	335
Liquor Plumbi subacetici dilutus .. .. .	335
Lithiumsalze .. .. .	167
Lithium carbonicum .. .. .	206, 213
Lithium chinicum (Urosin) .. .. .	207



Lithium salicylicum .. .. .	207, 214
Lugol'sche Lösung .. .. .	246
Lunge .. .. .	399
Lymphdrüse .. .. .	399
Lysin .. .. .	207
Lytta vesicatoria .. .. .	68

**M**

Magenmittel .. .. .	18
Magnesia usta .. .. .	215
Magnesium carbonicum .. .. .	216
Magnesium citricum effervescescens .. .. .	194
Magnesiumsalze .. .. .	167
Magnesium sulfuricum .. .. .	194
Mangan .. .. .	312
Manna .. .. .	115, 115
Mannit .. .. .	115
Mel .. .. .	12
Mercolint .. .. .	298
Mercularismus .. .. .	285
Mercuriol .. .. .	299
Metalalbuminate .. .. .	257
Mezerein .. .. .	68
Milchdrüse .. .. .	399
Mineralfäuler .. .. .	239
Mineralwasser .. .. .	239
Mucilago Salep .. .. .	6
Mucilago Gummi arabici .. .. .	6
Mutterpflaster .. .. .	366
Myxoedeme operation .. .. .	371

**N**

Nährpräparate .. .. .	359
Nataloin .. .. .	98
Natrio-Kalium tartaricum .. .. .	193
Natrium aceticum .. .. .	183
Natrium bicarbonicum .. .. .	213
Natrium bromatum .. .. .	178
Natrium carbonicum .. .. .	212
Natrium carbonicum crudum .. .. .	212
Natrium chloratum .. .. .	178
Natrium ferratinicum .. .. .	311
Natrium jodatum .. .. .	172, 179

Natrium nitricum .. .. .	180
Natrium phosphoricum .. .. .	215
Natrium sulfuricum .. .. .	190
Nebennierenextrakt .. .. .	389
Nebennierentablette .. .. .	389
Neu-Tuberkulin .. .. .	438
Ninium .. .. .	365
Nutrose .. .. .	357

**O**

Oleum Anisi .. .. .	24
Oleum Amygdalarum .. .. .	49
Oleum auranti corticis .. .. .	21
Oleum Caryophyllorum .. .. .	25
Oleum Castoris .. .. .	89
Oleum cinnamomi .. .. .	23
Oleum Citri .. .. .	22
Oleum Crotonis .. .. .	86, 89
Oleum Foeniculi .. .. .	24
Oleum Jecoris Aselli .. .. .	351
Oleum Lini .. .. .	50
Oleum Macidis .. .. .	25
Oleum Menthae piperitae .. .. .	11
Oleum Olivarum .. .. .	49
Oleum Ricini .. .. .	86, 89
Oleum Rosae .. .. .	12
Oleum Santali .. .. .	41
Oleum Savinae .. .. .	60
Oleum Sinapis aethereum .. .. .	67
Oleum terebinthina .. .. .	55, 61
Oleum terebinthina rectificatum .. .. .	61
Ophelia diluta .. .. .	30
Opsonin .. .. .	402
Organische Säuren .. .. .	228
Organotherapie .. .. .	368
Ovarium .. .. .	392
Oxydationsmittel .. .. .	250
Ozonum .. .. .	253

**P**

Pankreas .. .. .	393
Pankreasdiabetes .. .. .	394
Pankreatin .. .. .	353

Papain .. .. .	353
Papayotin .. .. .	353
Paranephrin .. .. .	389
Passive Immunisierung .. .. .	402
Pastae .. .. .	46
Pastilli Hydrargyri dichlorati .. .. .	295
Pelletierin .. .. .	123
Pelletierinum sulfuricum .. .. .	128
Pelletierinum tannicum .. .. .	128
Pepsinum Saccharatum .. .. .	352
Peptonum .. .. .	356
Pestimpfstoff .. .. .	431
Pestserum .. .. .	423
Pfeiffer's Phänomen .. .. .	408
Pflasterbestandteile .. .. .	363
Phosphor .. .. .	345, 349
Phosphorvergiftung .. .. .	347
Physiologische Kochsalzlösung .. .. .	148
Picropodophyllin .. .. .	91, 92
Pilulae Aloës .. .. .	110
Pilulae Aloës et Ferri .. .. .	110
Pilulae Aloës et Jalapae .. .. .	110
Pilulae Colocythidis et Hyoscyami .. .. .	95
Pilulae Rhei compositae .. .. .	108
Piperazin .. .. .	207
Pituitrium .. .. .	397
Plumbum aceticum .. .. .	333
Plumbum carbonicum .. .. .	365
Plumbum oxydatum .. .. .	364
Pneumococcenserum .. .. .	428
Podophyllin .. .. .	92
Podophyllotoxin .. .. .	91, 92
Prostata .. .. .	399
Protargol .. .. .	318
Pulpa Tamarindoum .. .. .	116
Pulpa Tamarindorum depurata .. .. .	117
Pulvis acrophorus .. .. .	239
Pulvis Goa .. .. .	74
Pulvis acrophorus anglicus .. .. .	239
Pulvis acrophorus laxans .. .. .	193
Pulvis infantum .. .. .	108, 216
Pulvis Magnesiae cum Rheo .. .. .	108, 216
Punicin .. .. .	123
Purgatin .. .. .	113
Purgatol .. .. .	114

Purgen .. .. .	114
Pustulantia .. .. .	51

**Q**

Quecksilber .. .. .	282
---------------------	-----

**R**

Radix Althaeae .. .. .	9
Radix Colombo .. .. .	31
Radix Coptidis .. .. .	32
Radix Gentianae .. .. .	30
Radix Gentianae scabrae .. .. .	29
Radix Liquiritiae .. .. .	12
Radix Ratanhiae .. .. .	141
Radix Rhei .. .. .	97, 102, 106
Radix salep .. .. .	6
Radix Tormentillae .. .. .	142
Radix Valerianae .. .. .	16
Radix Zedoariae .. .. .	26
Radix Zingiberis .. .. .	27
Ren .. .. .	397
Resina Dammar .. .. .	363
Resina Draconis .. .. .	142
Resina Jalapae .. .. .	93
Resina podophylli .. .. .	95
Rhizoma Calami .. .. .	26
Rhizoma Filicis .. .. .	121, 126
Rhizoma Galangae .. .. .	28
Riechmittel .. .. .	17
Roborat .. .. .	358
Roter Phosphor .. .. .	345
Rubefacientia .. .. .	51

**S**

Saccharum .. .. .	10, 354
Saccharinum .. .. .	9
Saccharum Lactis .. .. .	11
Saliforinum .. .. .	43
Salinische Abführmittel .. .. .	184
Sal calolinum factitium .. .. .	191
Salzbad .. .. .	155
Salzwirkung .. .. .	149



Sanose .. .. .	357
Sanotogen .. .. .	357
Santonin .. .. .	125, 131
Sapo medicatus .. .. .	214
Sapo Jalapinus .. .. .	93
Sapo Kalinus .. .. .	215
Säuren .. .. .	224
Saturnismus .. .. .	329
Scammonin .. .. .	90
Scharf schmeckende Magenmittel ..	27
Schleimige Mittel .. .. .	2
Schorf .. .. .	197
Schutzimpfung mit abgetöteten Bakterien .. .. .	430
Schutzimpfung mit Bacterienextracte	435
Schutzstoffe .. .. .	401
Schwefelalkalien .. .. .	218
Schwefelleber .. .. .	223
Schwefelwasserstoffvergiftung .. ..	219
Schweren Metalle .. .. .	256
Seebad .. .. .	158
Seife .. .. .	201
Seitenkettentheorie .. .. .	404
Semen Arecae .. .. .	125, 130
Semen Lini .. .. .	50
Semen Myristicae .. .. .	25
Semen Sinapis .. .. .	65
Senfbal .. .. .	66
Senfteig .. .. .	66
Serum antidiphthericum liquidum ..	417
Serum antidiphthericum siccum ..	418
Serum antitetanicum liquidum ..	421
Serum antitetanicum siccum ..	422
Serumtherapie .. .. .	410
Sidonal .. .. .	207
Silber .. .. .	313
Sirupus Althaeae .. .. .	7
Sirupus Aurantii corticis .. .. .	21
Sirupus Ferri jodati .. .. .	207
Sirupus Mannae .. .. .	116
Sirupus Rhei .. .. .	107
Sirupus Sennae .. .. .	105
Sirupus simplex .. .. .	11
Sirupus Zingiberis .. .. .	28
Somatose .. .. .	358

Spiritus aromaticus .. .. .	29
Spiritus Cinnamoni .. .. .	23
Spiritus Citri .. .. .	22
Spiritus Foeniculi .. .. .	24
Spiritus Menthae piperitae .. .. .	11
Spiritus Saponatus .. .. .	214
Spiritus Sinapis .. .. .	66
Splen .. .. .	399
Stibio-Kali tartaricum .. .. .	250
Stibium sulfuratum aurantiacum ..	281
Stomatitis mercurialis .. .. .	235
Sublimat .. .. .	294
Succus Liquiritiae .. .. .	13
Sulfur depuratum .. .. .	223
Sulfur praecipitatum .. .. .	223
Sulfur sublimatum .. .. .	222
Suprarenin .. .. .	389

**T**

Taka-diastase .. .. .	353
Talcum .. .. .	361
Tamarind .. .. .	115, 116
Tannalbin .. .. .	142
Tannigenum .. .. .	144
Tanninum acethylicum .. .. .	114
Tannoform .. .. .	143
Tannonum .. .. .	143
Tannosal .. .. .	144
Tartarus boraxatus .. .. .	194
Terebinthina .. .. .	60
Terpinum hydratum .. .. .	62
Testiculus .. .. .	389
Tetanusheilserum .. .. .	418
Theespecies .. .. .	13
Thiol .. .. .	79
Thonerde .. .. .	256
Thymol .. .. .	119
Thymus .. .. .	399
Thyraden .. .. .	376
Thyreoklisanus .. .. .	373
Thyrojodin .. .. .	372, 376
Tinctura Absinthii .. .. .	34
Tinctura Aloës .. .. .	111
Tinctura amara .. .. .	35

Tinctura aromatica .. .. .	28
Tinctura Asae foetidae .. .. .	16
Tinctura Aurantii Corticis .. .. .	21
Tinctura Calami .. .. .	26
Tinctura Cantharidum .. .. .	73
Tinctura Capsici .. .. .	74
Tinctura Cascariillae .. .. .	35
Tinctura Catechu .. .. .	141
Tinctura Colocynthidis .. .. .	94
Tinctura Ferri aetherea .. .. .	310
Tinctura Ferri Pomati .. .. .	310
Tinctura Gallartum .. .. .	139
Tinctura Gentianae scabrae .. .. .	30
Tinctura Jodi .. .. .	249
Tinctura Quassiae .. .. .	32
Tinctura Rhei .. .. .	107
Tinctura Valerianae .. .. .	17
Tinctura Valerianae aetherea .. ..	17
Tinctura Zingiberis .. .. .	28
Thiolum .. .. .	78
Toxine .. .. .	403
Tragaantha .. .. .	7
Tremor mercurialis .. .. .	287
Trinkkur .. .. .	153, 240
Trochisci Santonini .. .. .	131
Tropon .. .. .	358
Tuberculin .. .. .	435
Tuberculin-rest .. .. .	436
Typhusimpfstoff .. .. .	434
Typhusserum .. .. .	424

**U**

Uebelriechende Nervenmittel .. ..	15
Ungenta .. .. .	46
Unguentum acidi borici .. .. .	183
Unguentum basilicum .. .. .	63
Unguentum Hydrargyri album ..	297
Unguentum Hydrargyri cinereum ..	292

Unguentum Hydrargyri rubrum ..	296
Unguentum Parafini .. .. .	47
Unguentum Plumbi .. .. .	335
Unguentum simplex .. .. .	47
Unguentum sulfuratum .. .. .	224
Unguentum Terebinthinae .. .. .	62
Unguentum vesicans fortius .. .. .	72
Unguentum vesicans mitius .. .. .	72
Unguentum Zinci .. .. .	326
Unorganische Verbindungen .. ..	145
Urotropinum .. .. .	42, 207
Urosin .. .. .	207
Urson .. .. .	139

**V**

Vaselineum .. .. .	48
Vasogenum .. .. .	48
Vasolum .. .. .	48
Vegetabilische Abfuhrmittel .. ..	79
Verdauende wirkende Mittel .. ..	120
Vesicantia .. .. .	51
Vinum Condrango .. .. .	36
Vinum Pepsini .. .. .	352
Vinum Stibiatum .. .. .	281

**W**

Wasser .. .. .	151
Wilkinson'sche Salbe .. .. .	223
Wismuth .. .. .	335
Wurmmittel .. .. .	117

**Z**

Zincum chloratum .. .. .	327
Zincum oxydatum .. .. .	326
Zincum sulfuricum .. .. .	327
Zink .. .. .	321



## KRANKHEITSREGISTER.

<b>A</b>	
Abcess .. .. .	58
Abführmittel .. .. .	289
Abmagerang .. .. .	351
Acne .. .. .	78, 211
Acne rosacea .. .. .	340
Agrypnie .. .. .	173
Akromegalie .. .. .	375, 397
Akuter Tripper .. .. .	319
Alkaloidevergiftungen .. .. .	136
Alopecia .. .. .	70
Alterschwäche .. .. .	392
Anämie .. .. .	158, 273, 304, 312, 351
Anchylostomiasis .. .. .	120, 121, 123
Angina .. .. .	342, 427
Apoplexie .. .. .	84
Arsenikvergiftung (Arsenismus) .. .. .	203, 216, 303, 308
Arteriosklerose .. .. .	170
Ascaris lumbricoides .. .. .	125
Ascites .. .. .	165
Asphyxie .. .. .	18, 65
Asthma .. .. .	58, 171, 273, 387
Atonische Geschwüre .. .. .	58, 248
<b>B</b>	
Bandwurmkrankheit .. .. .	118, 120, 121, 123, 124, 125, 126
Bewusstlosigkeit .. .. .	18, 52, 65
Blasenkatarrh .. .. .	136, 140, 213, 342
Blausäurevergiftung .. .. .	252
Blasenstein .. .. .	162
Bleivergiftung (Saturnismus) .. .. .	171, 224
Blennorrhoe .. .. .	288
Blutung .. .. .	135, 303, 332, 386
Botulismus .. .. .	425
Bronchialkatarrh .. .. .	135
Bronchitis .. .. .	3, 78
Bronchitis chronica .. .. .	58, 77, 171, 209
Bronchitis fibrinosa .. .. .	171
Bronchitis purulenta .. .. .	58
Bronchopneumonie .. .. .	427
Bronchorrhoe .. .. .	58
<b>C</b>	
Cachexia strumipriva .. .. .	373
Cachexie .. .. .	272, 312
Cholera .. .. .	424, 433
Chlorose .. .. .	305
Chorea .. .. .	273
Chronische Diarrhoe .. .. .	316, 338, 340
Comedones .. .. .	211
Condylom .. .. .	316
Conjunctivitis .. .. .	316, 324, 386
Cystitis .. .. .	38
<b>D</b>	
Darmblutung .. .. .	33
Darngährung .. .. .	84, 188, 202, 289
Darinkatarrh .. .. .	136, 202
Decubitus .. .. .	58, 135, 332
Defluvium capillorum .. .. .	70, 143
Dermatitis .. .. .	338
Desinfection (Sterilisation) .. .. .	201, 217, 241, 324
Diabetes mellitus .. .. .	205, 213, 351, 398
Diarrhoe .. .. .	342
Diphtherie .. .. .	176, 238, 417, 418, 427
Dysenterie .. .. .	425

Dyspepsie .. .. .	19, 189, 354	Harnsäureliathese .. .. .	205
<b>E</b>			
Eclampsie .. .. .	379	Hautkrankheiten .. .. .	201, 201, 224, 275
Eczem .. .. .	78, 211, 322, 332	Hautexantheme .. .. .	158, 224
Eczema marginatum .. .. .	76	Herpes tonsurans .. .. .	76
Emetika .. .. .	279, 325	Herznarkose .. .. .	387
Entzündlicher Schmerz .. .. .	65	Hirnhyperämie .. .. .	84
Entzündung .. .. .	288	Hydrämie .. .. .	165
Epilepsie .. .. .	168, 316	Hydrops (Wassersucht) .. .. .	84, 162, 165, 289
Erbrechen .. .. .	242, 245	Hydrothorax .. .. .	165
Erysipelas .. .. .	78, 427	Hyperchlorhydrie .. .. .	202
Excoriation .. .. .	152, 322, 332	Hyperidrosis .. .. .	143
Expektorantien .. .. .	279, 325	Hyrocele .. .. .	246
Exsudat .. .. .	84, 165	Hysterie .. .. .	16
Exsudative Entzündung .. .. .	170	<b>I</b>	
<b>F</b>			
Frauenkrankheiten .. .. .	158	Iritis .. .. .	84
Favus .. .. .	78	<b>K</b>	
Febris recurrens .. .. .	276	Katarrh der Athemwege .. .. .	213
Frostbeule .. .. .	58, 78	Kehlkopfkatarrh .. .. .	135, 342, 386
<b>G</b>			
Gallenstein .. .. .	213	Kehlkopftuberculose .. .. .	238
Gallensteinkolik .. .. .	59	Keuchhusten .. .. .	58
Gastritis chronica .. .. .	153	Kinderdiarrhoe .. .. .	289
Gastroenteritis .. .. .	3	Klimacterium .. .. .	85, 103
Gelenkrheumatismus .. .. .	427	Kollaps .. .. .	18, 52, 65
Geschwür .. .. .	152, 248, 252, 316	Kretinismus .. .. .	374
Gesteigerte Reflexerregbarkeit .. .. .	173	Kupfervergiftung .. .. .	216
Gicht .. .. .	58, 78, 167, 205, 211, 213, 214	<b>L</b>	
Giftschlangenbiss .. .. .	429	Laryngitis .. .. .	3, 316, 342
Gingivitis .. .. .	176	Leucämie .. .. .	273, 305
Gonorrhoe (Blennorrhoe) .. .. .	38	Leucoma .. .. .	288, 296
<b>H</b>			
Habituelle Verstopfung .. .. .	83	Leucorrhoe .. .. .	135
Hämoptoe .. .. .	159, 168	Lichen ruber .. .. .	272
Hämorrhoid .. .. .	221	Lungenbrand .. .. .	58
<b>M</b>			
Magenatonie .. .. .	19, 159	Lymphangitis .. .. .	427
Magenblutung .. .. .	303, 306, 342	<b>M</b>	
Magendilatatoin .. .. .	19		



Magengeschwür (Ulcus ventriculi) ..	316
337	
Magenkatarrh (Gastritis) .. ..	136, 159
202, 213	
Malaria .. .. .	272, 275
Malignes Lymphom .. .. .	272
Meningitis .. .. .	70, 84
Metritis .. .. .	78
Morbus Addisoni .. .. .	386
Morbus Basedowi .. .. .	374, 377
Morphinvergiftung .. .. .	252
Myxoedem .. .. .	373

**N**

Nasentkatarrh .. .. .	135, 212, 386
Nekrose .. .. .	248
Nephritis .. .. .	166
Nephrolithiasis .. .. .	162
Nervenkrankheiten .. .. .	392
Nervöse Aufregung .. .. .	173
Neuralgie .. .. .	52, 57, 65, 70, 78, 273

**O**

Obesitas (Fettleibigkeit) .. .. .	154
205, 213, 374	
Obstipation .. .. .	93
Osteomalacie .. .. .	210, 218, 348, 317
Ovarialcyste .. .. .	246
Oxalsäurevergiftung .. .. .	203
Oxyuris Vermicularis .. .. .	125

**P**

Parenchymatose .. .. .	135
Pediculus pubis .. .. .	291
Pericarditis .. .. .	70
Peritonitis .. .. .	70
Perniciöse Anämie .. .. .	305
Pest .. .. .	423, 432
Phlegmone .. .. .	427
Phosphorvergiftung .. .. .	59, 252, 325, 348
Phthisis pulmonum .. .. .	58
Pityriasis .. .. .	76, 211

Pleuritis .. .. .	70
Pneumonie .. .. .	428
Progressive Paralyse .. .. .	316
Pseudoleucämie .. .. .	273
Psoriasis .. .. .	76, 78, 211, 215, 272, 375
Puerperalfieber .. .. .	317, 427
Pyämie .. .. .	317, 427

**Q**

Quecksilbervergiftung .. .. .	171, 216, 224
-------------------------------	---------------

**R**

Rhachitis .. .. .	26, 210, 218, 348, 387
Rheumatismus .. .. .	52, 57, 65, 69
78, 158, 170	

**S**

Säurevergiftung .. .. .	202, 205
Seborrhoe .. .. .	143
Scabies .. .. .	224
Schwäche .. .. .	392
Schwermetallvergiftung .. .. .	136
Scrofulose .. .. .	26, 158, 170, 218, 307, 351
Seekrankheit .. .. .	246
Scheidenkatarrh .. .. .	316, 324
Scorbut .. .. .	176
Septicämie .. .. .	317, 427
Sommersprossen .. .. .	291
Somnolenz .. .. .	52
Soor .. .. .	196
Stomatitis .. .. .	175, 184
Stomatitis mercurialis .. .. .	176
Stomatitis ulcerosa .. .. .	184
Struma .. .. .	170, 246, 374
Syphilis .. .. .	170, 275, 276, 288

**T**

Tabes dorsalis .. .. .	317
Tetanie .. .. .	379
Tetanus .. .. .	419
Trichocephalus dispar .. .. .	125

Trypanosomiasis .. .. .	275
Tuberculose .. .. .	351, 423, 436, 437, 438
Typhus .. .. .	425, 434

**V**

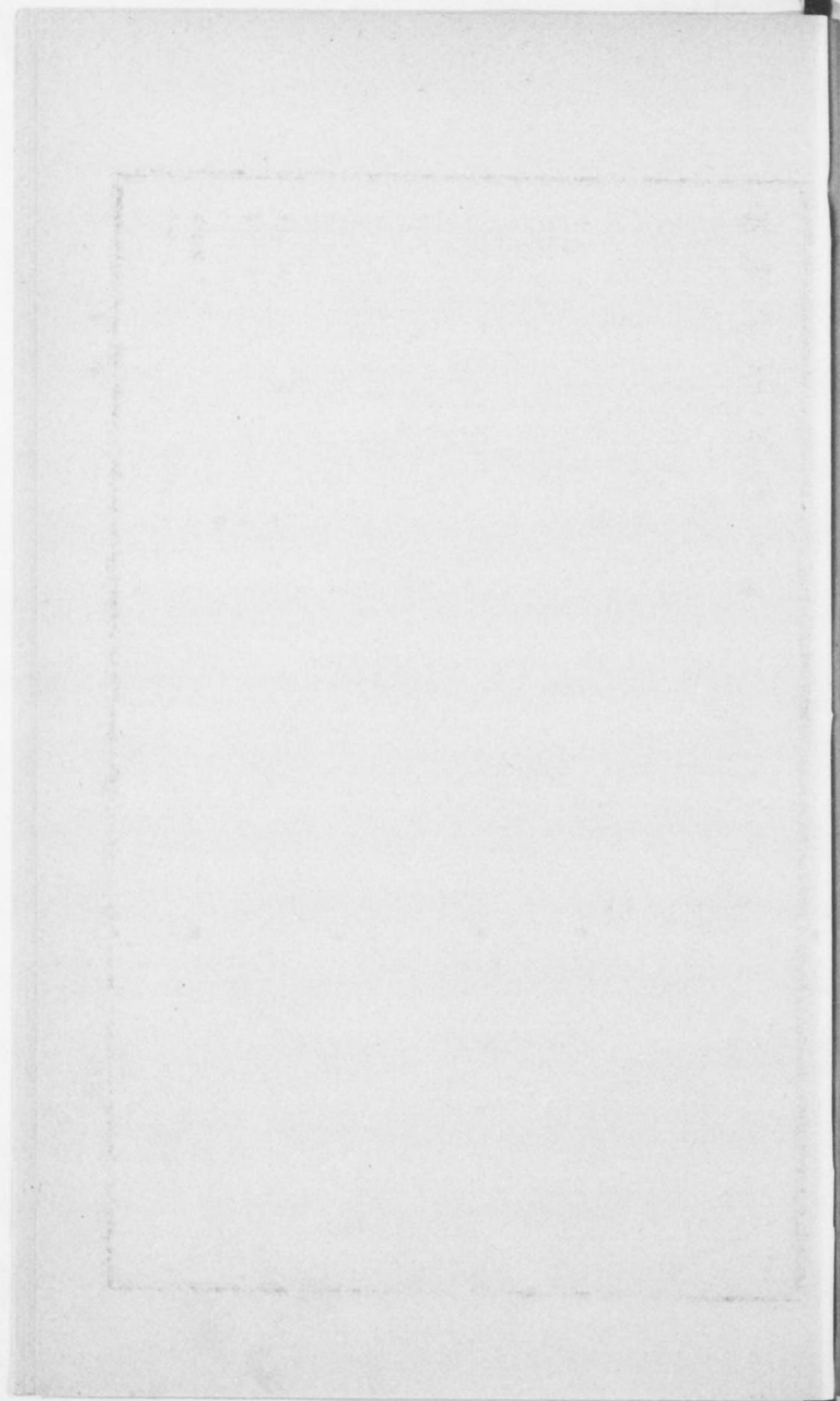
Verbrennung .. .. .	217, 332, 338, 339, 339
Vergiftungen .. .. .	84

**W**

Uratstein .. .. .	17, 205, 213, 214, 214
Ulcus corneae .. .. .	428
Unterleibs Krampf .. .. .	13
Urämie .. .. .	398
Urethritis .. .. .	38, 135, 316

Warze .. .. .	316
Wunde .. .. .	152, 332, 339







發行所

東京市本郷區龍岡町三十四番地  
(振替貯金口座東京四一八番)

吐鳳堂書

〔電話下谷 四一六七二番〕  
四〇七七九番



著者 發行者 印刷者 印刷所

林 春

東京市本郷區龍岡町三十四番地

田 中 增 藏

東京市本郷區駒込林町百七十二番地

今 井 甚 太 郎

東京市本郷區駒込林町百七十二番地

林 杏 舍

(電話下谷 二七四五番)



明明明明明明明明明明  
治治治治治治治治治治  
四四四四四四四四三三三  
十十十十十 十十十  
四四三三二一十 九八五  
年年年年年年年年年年  
九九二二三八 十 八七一十一  
月月月月月月月月月月  
十 十 十 十 十 十 十 十  
三 十四 六 三 七 十三  
日日日日日日日日日日  
第第第第第第第第第第  
十十九八七六五四三二一  
版版版版版版版版版版  
發印發發發發發發發發  
行刷行行行行行行行行

正價金壹圓九拾錢



關西大賣捌所

大阪市南區心齋橋筋一丁目 松村 九兵衛  
 大阪市南區心齋橋筋博勞町 丸善株式會社支社

弘 通 書 林

東京本郷區湯島切通坂町	南江堂書店	名古屋市西區本町	丸善書店
同 同 區春木町三丁目	半田屋書店	京都市三條通寺町	南江堂出張所
同 同 區湯島切通坂町	合名 金原商店	京都市寺町通二條下ル	若林茂一郎
同 神田區鍛冶町	朝香屋書店	京都市三條通鞍屋町	丸善株式會社支社
同 本郷區春木町三丁目	南江堂支店	京都市河原町	大黒屋書舖
同 同 區龍岡町	朝陽堂書店	大阪市中ノ島玉江町	角屋書店
同 同 區本富士町	明文館書店	岡山市上之町	渡邊宗二郎
同 同 同	文光堂書店	熊本市新二丁目	長崎次郎
同 同 同	豐文堂書店	熊本市洗馬町	芹川廣喜
同 同 區龍岡町	南山堂書店	長崎市引地町	安中集榮堂
同 同 區湯島切通坂町	宮澤書店	金澤市片町	宇都宮書店
		仙臺市新傳馬町	金英堂書店



終